

男女平等に関する市民意識調査
報 告 書

平成23年5月
摂津市

はじめに

現在、わが国は、少子高齢社会の進展をはじめとする社会経済情勢の急速な変化に対応するため、既存の仕組や構造の見直しがすすめられております。また、先頃東北地方を襲った未曾有の大震災は、予測を遥かに超えた自然の力に対し、エネルギー資源をはじめ、地域コミュニティのあり方など、私たちの生活基盤そのものを根底から考え直す契機となったといっても過言ではありません。このような中であって、男女が互いにその人権を尊重しつつ、それぞれの責任を分かち合い、性別にとらわれることなく、その個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の形成は、重要な課題であります。

男女共同参画社会は、すそ野が広い課題でもあり、様々な分野における取り組みが求められることから、国、地方公共団体のみならず、国民の理解と協力を得て総合的かつ計画的にすすめる必要があります。

本市におきましては、昭和62年に「せつつ女性プラン」を策定以降、平成7年に見直しを行い、また平成11年の男女共同参画社会基本法の制定を踏まえ、本市の基本計画として、平成14年に「せつつ女性プラン（第1期）」、平成19年に「せつつ女性プラン（第2期）」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて関連施策に取り組んできました。

このたび、平成23年度に「せつつ女性プラン（第2期）」の目標年次を迎えることから、現在、新プランの策定作業をすすめており、その基礎資料として「男女平等に関する市民意識調査報告書」を作成いたしました。今後、新プランの策定において同報告書を参考にさせていただきたいと考えております。

結びに、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

摂津市長 森山 一正

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	2
1. 性別	2
2. 年齢別構成	2
3. 未既婚	3
4. 子どもの状況	4
5. 同居家族構成	6
6. 昨年の年収（税込）	7
7. 居住地域	9
III 調査結果	10
【1】男女の地位に関する意識について	10
1. 男女の地位の平等意識	10
2. 性別役割分担意識	17
（1）「男は仕事、女は家庭」という考え方について	17
（2）性別役割分担意識に対する理由	20
3. 家庭における役割	22
4. 「男はしんどい、つらい」と感じることにについて	26
（1）「男はしんどい、つらい」と感じたこと	26
（2）「男はしんどい、つらい」と感じた理由	27
【2】子どもの教育について	28
1. 子どもに期待する生き方	28
2. 子どもに受けさせたい教育の程度	32
3. 子どもの教育方針について	36
4. 男女平等を進めるために小中学校で重要と思う取り組み	39
【3】働き方について	43
1. 女性が職業を持つことについて	43
2. 実際の働き方	47
3. 就業の状況について	51
（1）就業状況	51
（2）職業（働き方）	52
4. 職場における男女共同意識	54
5. 仕事上の不利益	60
（1）仕事上の不利益	60
（2）不利益の内容	61
6. 今後の育児休業取得希望	63
7. 女性が働き続けるために必要と思うこと	66

8. 仕事（在宅就労含む）時間	70
（1）平日の仕事時間	70
（2）休日の仕事時間	73
（3）平日の家事時間	75
（4）休日の家事時間	78
9. 暮らし方の希望と実際	80
【4】男女の人権について	84
1. 暴力の体験	84
（1）配偶者やパートナー	84
（2）恋人など交際相手（デートDV）	86
2. 打ち明けたり相談したりしたこと	88
3. どこにも相談しなかった理由	92
4. 配偶者等からの暴力についての相談窓口の認知	95
5. セクシュアル・ハラスメントの経験	99
6. メディアにおける性・暴力表現について	102
7. 女性に対する暴力をなくすため必要と思うこと	106
【5】女性政策について	110
1. 言葉や施設等の認知状況	110
2. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等	113
資料／調査票	119

I 調査の概要

【調査目的】

本市では、男女が職場や家庭、地域などのあらゆる場で責任を共に担い、共に方針決定に参画し、生き生きと輝いて暮らすことができる社会形成のための基本方針をまとめた「摂津市男女共同参画計画『せつつ女性プラン（第二期）』」を平成19年（2007年）3月に策定した。

この「摂津市男女共同参画計画『せつつ女性プラン（第二期）』」が、平成23年度（2011年度）で計画期間が終了することから、次期プランの基礎資料とするとともに、今後の施策を検討する上での参考とすることを目的として実施したものである。

【調査対象】

摂津市に居住する20歳以上の市民

【標本抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

平成22年（2010年）11月16日（火）～11月30日（火）

【回収結果】

配布数 ----- 2,000 件

有効回収数 ----- 855 件

有効回収率 ----- 42.8%

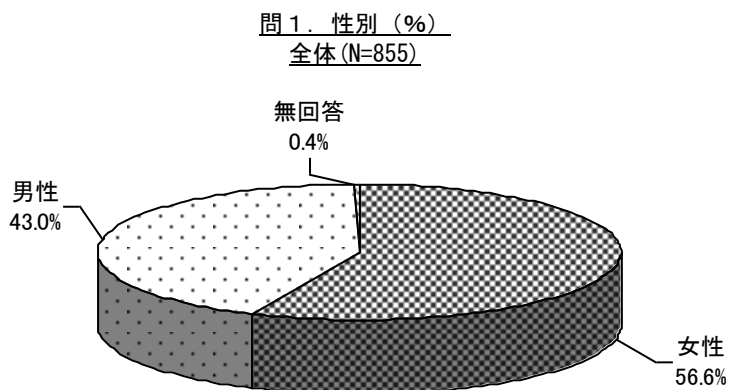
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は図中では表記していない場合がある。
- (6) 内閣府や大阪府との比較においては、設問や選択肢等が一致していない場合があり、図表等に完全な比較を表せない設問もある。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

1. 性別

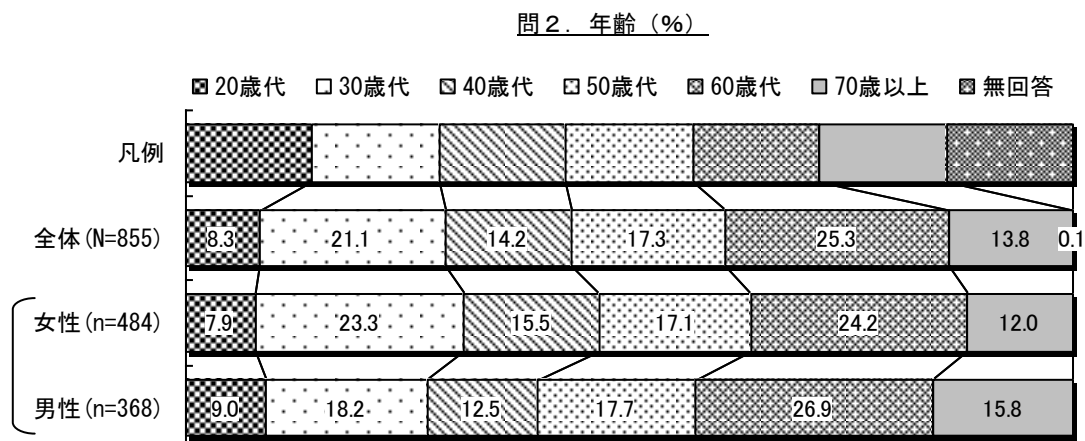
性別構成比は、女性 56.6%、男性 43.0%となっている。



2. 年齢別構成

年齢別構成は、「60歳代」が 25.3%で最も多く、次いで「30歳代」(21.1%)、「50歳代」(17.3%)の順となっている。

性別では、女性に比べて男性で 50歳以上の占める割合が多くなっている。



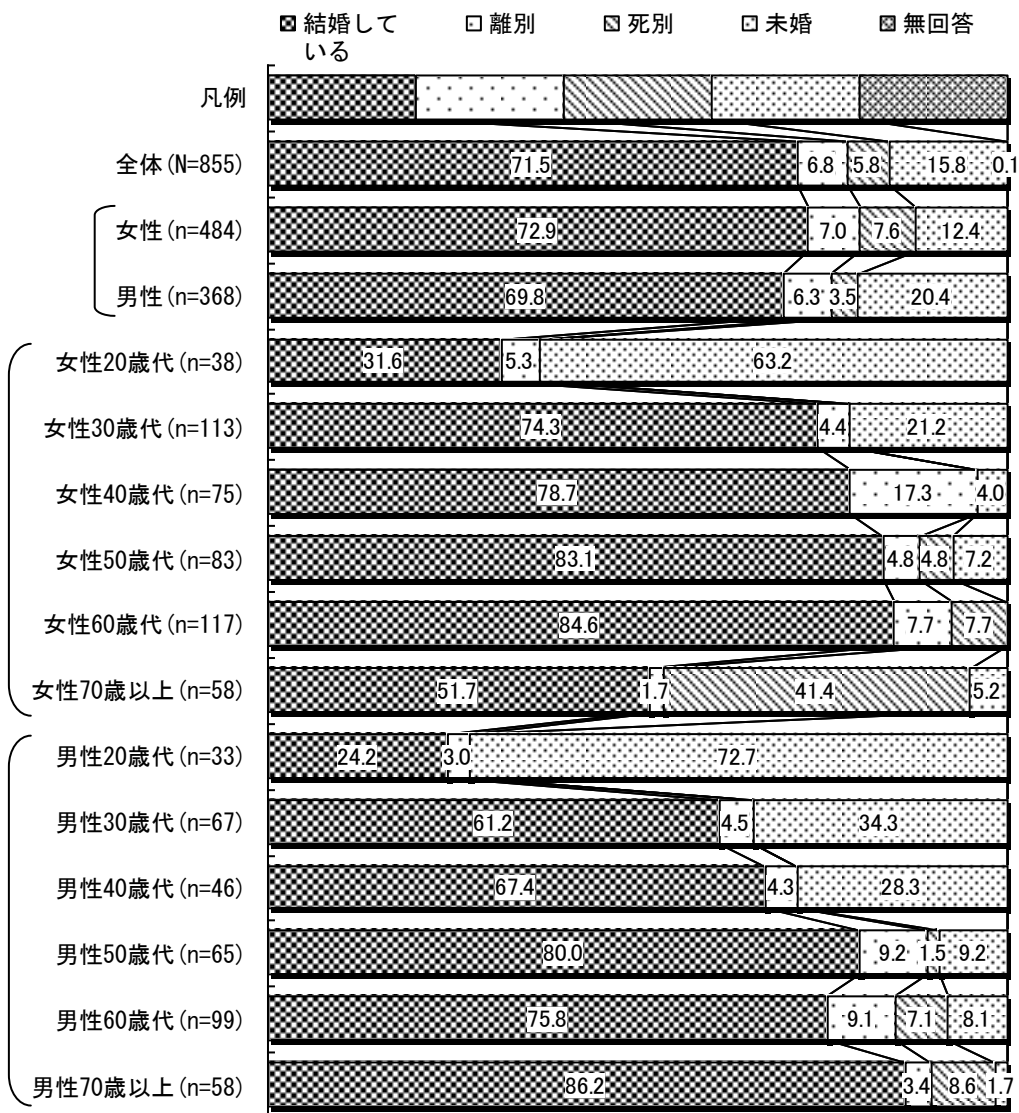
3. 未既婚

未既婚については、「結婚している」が71.5%と最も多く、「離別」(6.8%)、「死別」(5.8%)を合計した『(離死別を含む)既婚者』は全体で84.1%を占めている。「未婚」は15.8%であった。

性別では女性に比べ、男性に「未婚」がやや多い。

性・年齢別では、男女ともに年齢が若い層ほど「未婚」が多い傾向にあり、特に男性で顕著である。20歳代では「未婚」が6～7割を占めている。一方、女性70歳以上では他の年齢層に比べ「死別」が多い。

問3. 未既婚(事実婚を含む) (%)
性別、性・年齢別



4. 子どもの状況

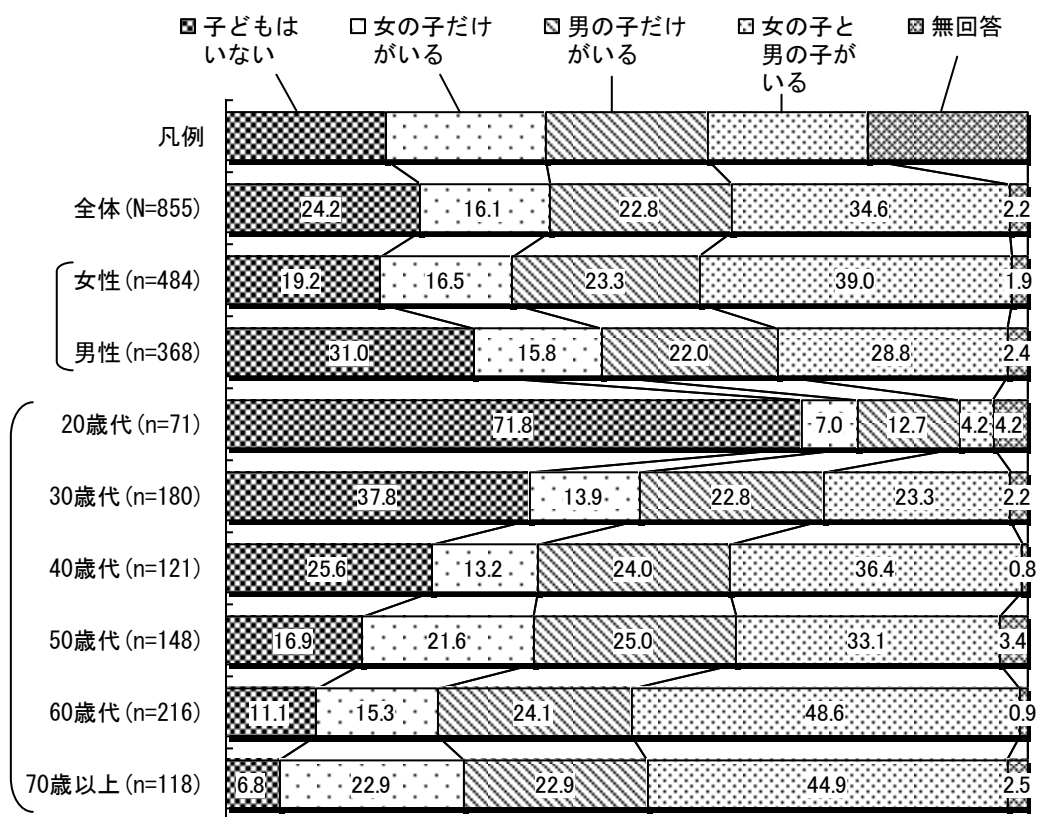
(1) 子どもの有無

子どもの有無については、「子どもはいない」が 24.2%で、子どもがいる家庭では「女の子と男の子がいる」が 34.6%と最も多く、次いで「男の子だけがいる」(22.8%)、「女の子だけがいる」(16.1%)の順となっている。

性別では、未婚者が比較的多かった男性では「子どもはいない」がやや多くなっている。

年齢別では、年齢が上がるにつれ子どもがいる家庭が多くなる傾向にある。30歳以上の子どもがいる家庭では、いずれの年齢層でも「女の子と男の子がいる」が最も多くなっている。

問4. 子どもの有無(別居を含む)(%)
性別、年齢別



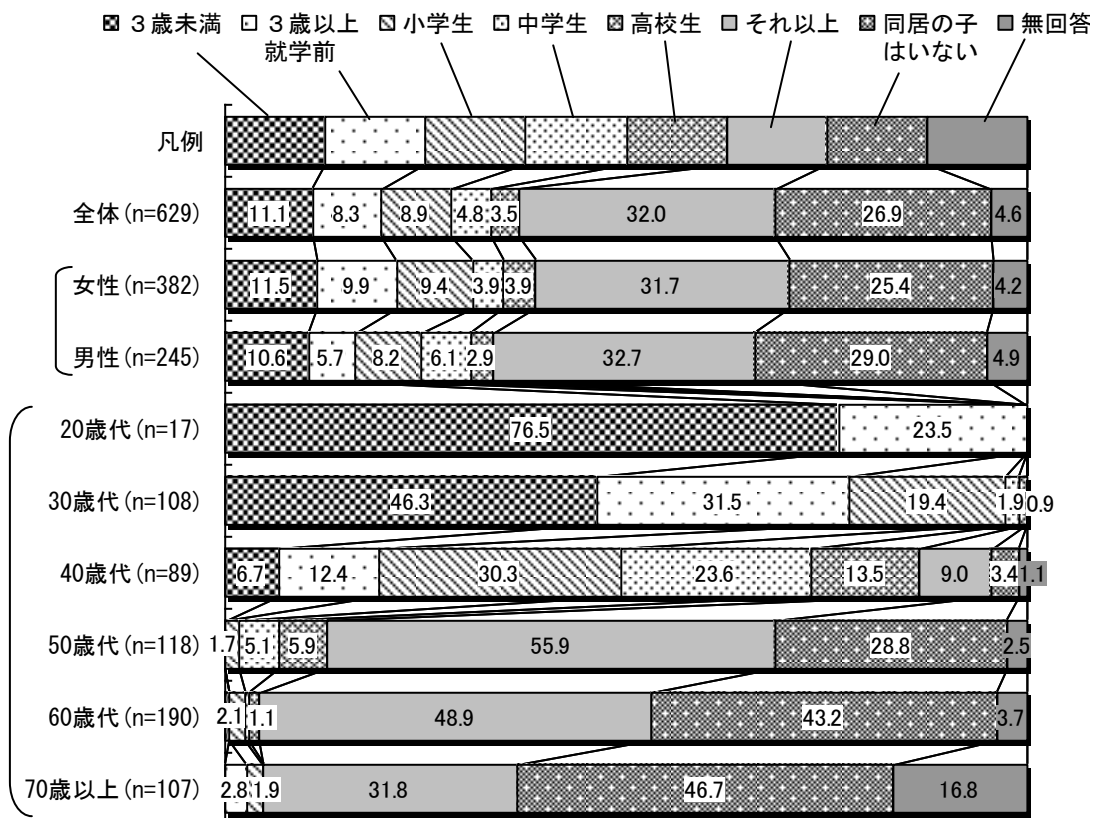
注: 図中の「年齢別」は男女合計値です。

(2) 末子の学齢

末子の学齢については「同居の子はいない」が26.9%を占めているが、同居している家庭では「それ(高校生)以上」が32.0%と最も多く、次いで「3歳未満」(11.1%)、「小学生」(8.9%)、「3歳以上就学前」(8.3%)の順となっている。

性別では大きな差は目立たないが、年齢別では、年齢が上がるにつれ子どもの学齢も上がるが、20歳代では「3歳未満」が7割以上を占めている。また、50歳代を過ぎると、年齢が上がるほど「同居の子はいない」が多くなる傾向にある。

問4-2. 末子の学齢(%)
性別、年齢別



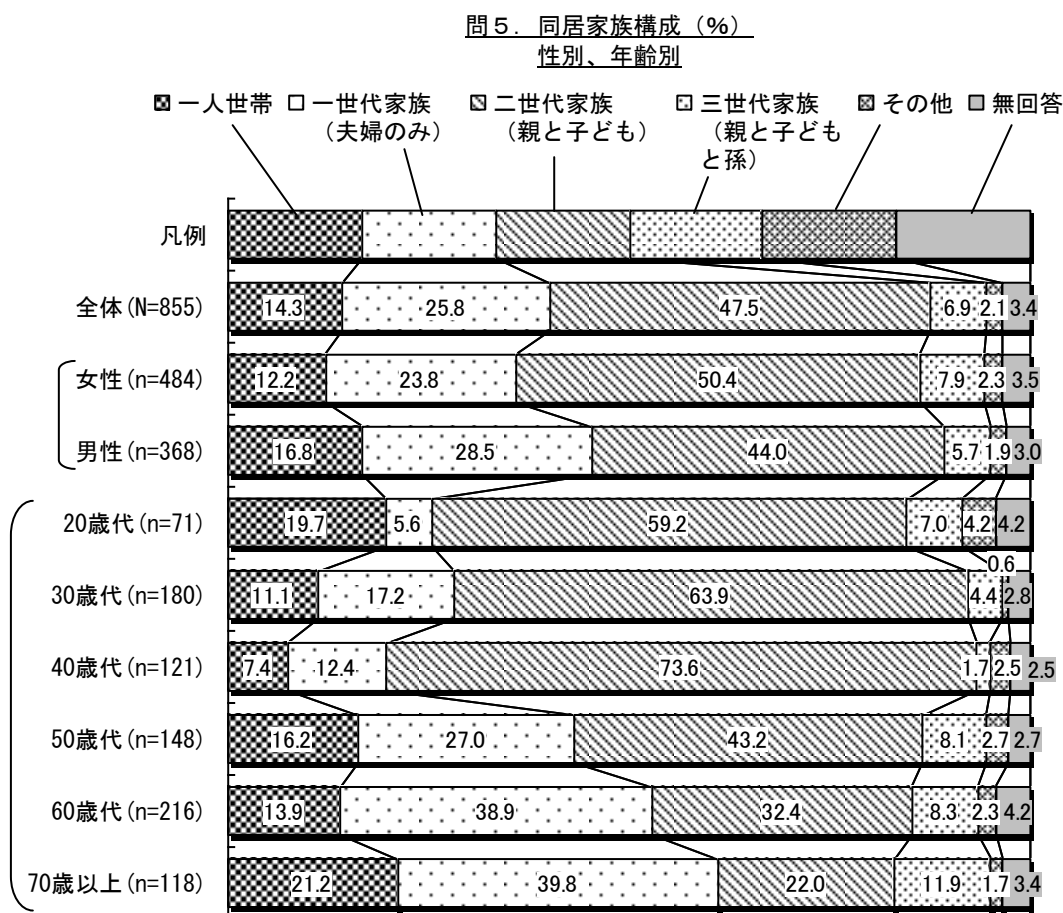
注: 図中の「年齢別」は男女合計値です。

5. 同居家族構成

同居家族構成は、「二世世代家族（親と子ども）」が47.5%と半数近くを占め最も多く、次いで「一世世代家族（夫婦のみ）」（25.8%）、「一人世帯」（14.3%）の順となっている。

性別では、男性で「一人世帯」「一世世代家族（夫婦のみ）」がやや多い。

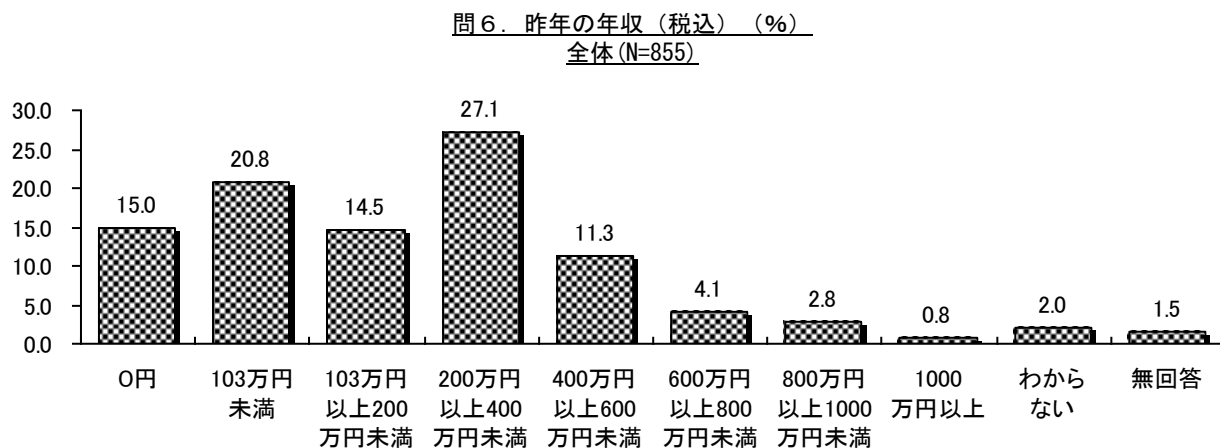
年齢別では、20歳代及び70歳以上では、他の年齢層に比べ「一人世帯」が多く、40歳代では「二世世代家族（親と子ども）」が7割以上を占めている。また、50歳代を過ぎると年齢が上がるにつれ「一世世代家族（夫婦のみ）」が多くなる傾向にある。



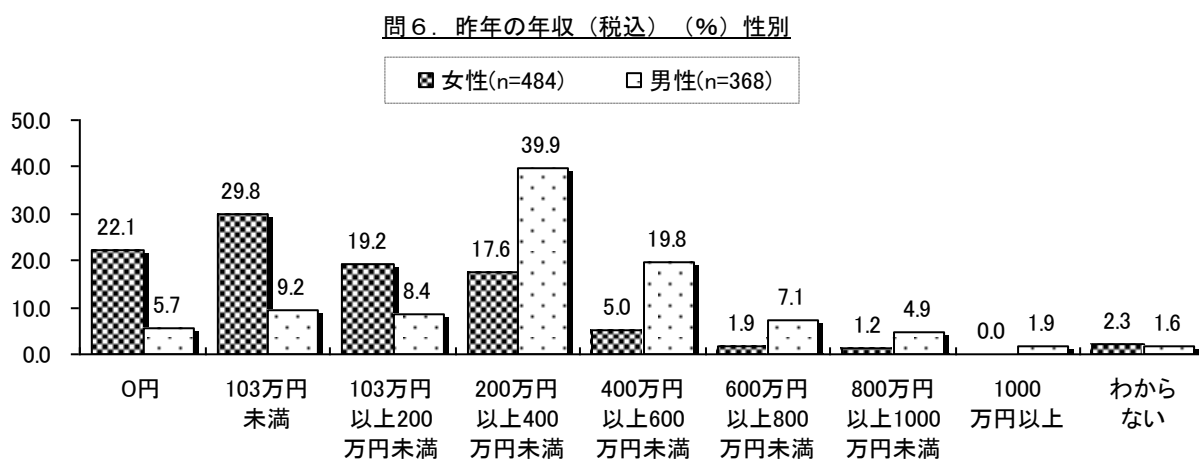
注：図中の「年齢別」は男女合計値です。

6. 昨年の年収（税込）

昨年の年収（税込）は、「200 万円以上 400 万円未満」が 27.1%と最も多く、次いで「103 万円未満」（20.8%）、「0 円」（15.0%）、「103 万円以上 200 万円未満」（14.5%）、「400 万円以上 600 万円未満」（11.3%）の順となっており、「400 万円未満（合計）」で全体の 8 割近く（77.4%）を占めている。



性別では、女性は男性に比べ「0 円」「103 万円未満」「103 万円以上 200 万円未満」が多く、男性は「200 万円以上 400 万円未満」「400 万円以上 600 万円未満」が多い点で男女差が大きい。



注：図中では「無回答」は表記していません。

性・年齢別でみると、女性 20～40 歳代では「200～400 万円未満」が多く、女性 30 歳代では「0 円」、女性 70 歳以上では「103 万円未満」「103～200 万円未満」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

男性は 20 歳代で「0 円」、30 歳代で「400～600 万円未満」、40 歳代では「600～800 万円未満」、50 歳代では「800～1000 万円未満」がそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

性・働き方別では、女性／正社員・正職員で「200～400 万円未満」「400～600 万円未満」、女性／自営業主・経営者で「800～1000 万円未満」、女性／自営手伝い等では「103 万円未満」がそれぞれ他の層に比べ多くなっている。

問 6. 昨年の年収（税込）（％）性・年齢別、性・働き方別

	0円	103万円未満	103～200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上	わからない
全体 (N=855)	15.0	20.8	14.5	27.1	11.3	4.1	2.8	0.8	2.0
女性20歳代 (n=38)	21.1	28.9	10.5	28.9	5.3	0.0	0.0	0.0	2.6
女性30歳代 (n=113)	31.9	20.4	14.2	21.2	8.8	0.9	0.0	0.0	2.7
女性40歳代 (n=75)	21.3	21.3	22.7	24.0	5.3	4.0	1.3	0.0	0.0
女性50歳代 (n=83)	24.1	26.5	18.1	13.3	4.8	4.8	4.8	0.0	3.6
女性60歳代 (n=117)	18.8	40.2	19.7	13.7	2.6	0.9	0.9	0.0	2.6
女性70歳以上 (n=58)	8.6	43.1	31.0	8.6	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7
男性20歳代 (n=33)	12.1	15.2	9.1	42.4	12.1	3.0	0.0	0.0	6.1
男性30歳代 (n=67)	6.0	4.5	0.0	38.8	40.3	7.5	0.0	1.5	0.0
男性40歳代 (n=46)	6.5	4.3	2.2	28.3	23.9	23.9	6.5	4.3	0.0
男性50歳代 (n=65)	3.1	9.2	4.6	29.2	21.5	7.7	16.9	3.1	1.5
男性60歳代 (n=99)	6.1	9.1	16.2	43.4	14.1	3.0	3.0	2.0	2.0
男性70歳以上 (n=58)	3.4	15.5	13.8	55.2	5.2	1.7	1.7	0.0	1.7
女性／正社員・正職員 (n=68)	4.4	1.5	8.8	51.5	23.5	8.8	1.5	0.0	0.0
女性／契約・パート等 (n=142)	2.8	41.5	33.1	17.6	0.0	1.4	1.4	0.0	1.4
女性／自営業主・経営者 (n=11)	0.0	9.1	18.2	36.4	9.1	0.0	27.3	0.0	0.0
女性／自営手伝い等 (n=22)	0.0	77.3	13.6	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0
女性／無職 (n=207)	46.9	24.6	14.0	7.2	1.9	0.5	0.0	0.0	3.4
男性／正社員・正職員 (n=141)	0.7	0.0	0.7	36.2	33.3	14.9	10.6	1.4	0.0
男性／契約・パート等 (n=60)	0.0	13.3	15.0	51.7	10.0	5.0	1.7	0.0	1.7
男性／自営業主・経営者 (n=35)	0.0	8.6	2.9	37.1	25.7	5.7	2.9	11.4	5.7
男性／自営手伝い等 (n=13)	0.0	15.4	7.7	38.5	30.8	0.0	0.0	0.0	7.7
男性／無職 (n=100)	17.0	19.0	17.0	39.0	4.0	0.0	1.0	0.0	2.0

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（性・年齢別など）において最も高い割合を示しています。

（例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。）

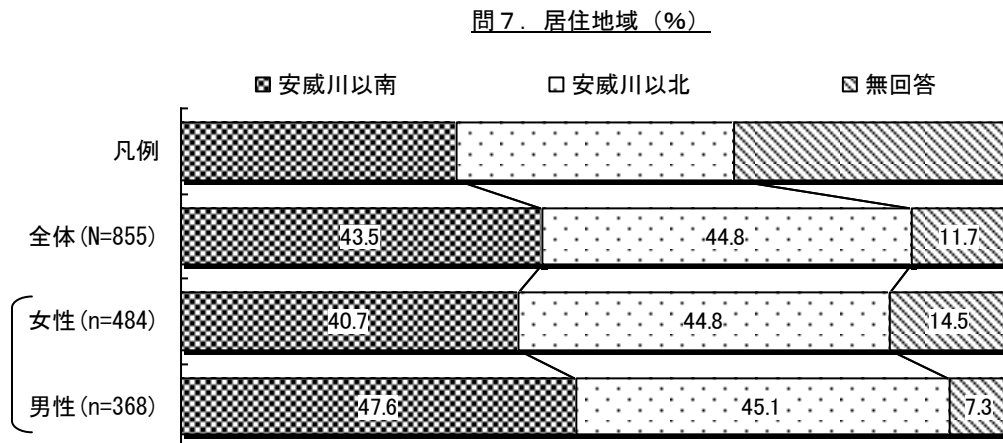
但し、回答割合が10%未満の項目、及びn数が10未満の項目については網掛けは除外しています。

また「無回答」は表記から除外しています。

本報告書においては、以下同様とします。

7. 居住地

居住地は、「安威川以南」が43.5%、「安威川以北」が44.8%で、ほぼ二分している。性別では、男性で「安威川以南」がやや多い。



Ⅲ 調査結果

【1】男女の地位に関する意識について

1. 男女の地位の平等意識

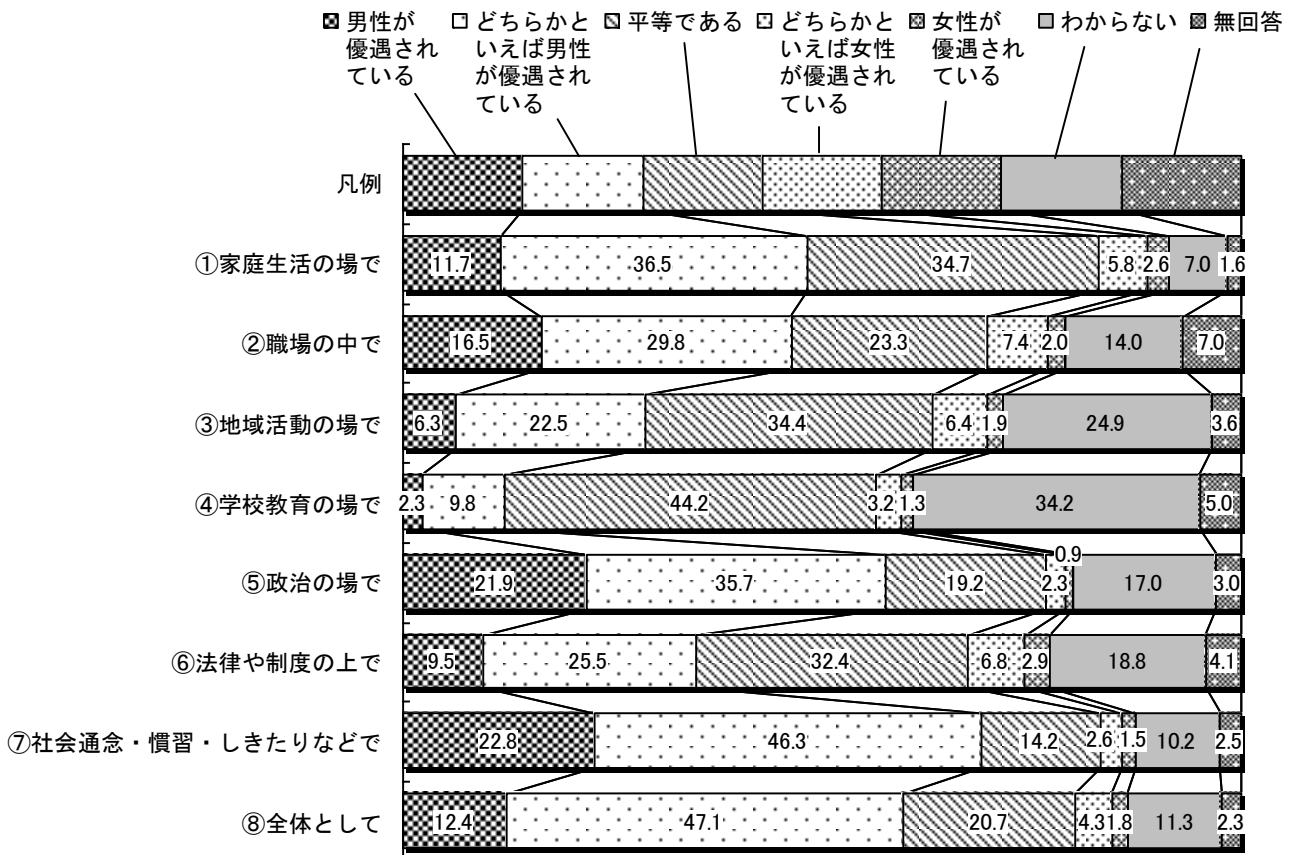
問8. あなたは次にあげる各分野において、男女は平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

男女の地位の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「④学校教育の場で」が44.2%を占め最も多く、次いで「①家庭生活の場で」(34.7%)、「③地域活動の場で」(34.4%)、「⑥法律や制度の上で」(32.4%)と続く。しかし、全体的に男性優遇意識が女性優遇意識を上回っている項目が目立ち、特に「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」「⑤政治の場で」「②職場の中で」といった項目では「男性が優遇されている」が多くなっている。

各項目を性別でみると、全般的に女性の方が「男性優遇」の意識が強く、特に「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」「⑧全体として」などで多くなっている。

年齢別では、女性の若い年齢層ほど「⑤政治の場で」、女性の30歳代において「②職場の中で」、女性の40～50歳代において「④学校教育の場で」、女性50歳代で「①家庭生活の場で」などで「男性優遇」の意識が多くなっている。

問8. 男女の地位の平等意識 (%)
全体(N=855)



問 8. 男女の地位の平等意識 (%) 性別、性・年齢別

①家庭生活の中で	男性優遇 (小計)	男性が優遇されている		平等である	女性優遇 (小計)	女性が優遇されている		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえは			女性が優遇されている	どちらかといえは	
全体 (N=855)	48.2	11.7	36.5	34.7	8.4	5.8	2.6	7.0
女性 (n=484)	54.1	15.1	39.0	29.1	8.3	5.8	2.5	6.8
男性 (n=368)	40.2	7.3	32.9	42.4	8.7	6.0	2.7	7.3
女性20歳代 (n=38)	31.6	13.2	18.4	44.7	7.9	7.9	0.0	15.8
女性30歳代 (n=113)	50.4	9.7	40.7	31.0	13.3	11.5	1.8	4.4
女性40歳代 (n=75)	54.7	14.7	40.0	33.3	5.3	1.3	4.0	6.7
女性50歳代 (n=83)	71.1	20.5	50.6	20.5	2.4	1.2	1.2	4.8
女性60歳代 (n=117)	59.0	18.8	40.2	23.1	10.3	6.0	4.3	5.1
女性70歳以上 (n=58)	41.4	12.1	29.3	34.5	6.9	5.2	1.7	12.1
男性20歳代 (n=33)	27.3	6.1	21.2	69.7	3.0	0.0	3.0	0.0
男性30歳代 (n=67)	37.3	6.0	31.3	43.3	12.0	6.0	6.0	4.5
男性40歳代 (n=46)	41.3	10.9	30.4	41.3	4.3	4.3	0.0	10.9
男性50歳代 (n=65)	36.9	4.6	32.3	33.8	17.0	10.8	6.2	10.8
男性60歳代 (n=99)	43.5	7.1	36.4	43.4	6.1	5.1	1.0	7.1
男性70歳以上 (n=58)	48.2	10.3	37.9	34.5	6.9	6.9	0.0	8.6

②職場の中で	男性優遇 (小計)	男性が優遇されている		平等である	女性優遇 (小計)	女性が優遇されている		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえは			女性が優遇されている	どちらかといえは	
全体 (N=855)	46.3	16.5	29.8	23.3	9.4	7.4	2.0	14.0
女性 (n=484)	49.0	20.7	28.3	18.6	7.6	6.4	1.2	17.1
男性 (n=368)	42.9	11.1	31.8	29.6	11.7	8.7	3.0	9.8
女性20歳代 (n=38)	47.3	28.9	18.4	21.1	15.8	10.5	5.3	13.2
女性30歳代 (n=113)	58.4	18.6	39.8	15.9	9.7	9.7	0.0	15.0
女性40歳代 (n=75)	50.7	24.0	26.7	22.7	12.0	10.7	1.3	10.7
女性50歳代 (n=83)	51.8	26.5	25.3	22.9	3.6	2.4	1.2	13.3
女性60歳代 (n=117)	48.7	20.5	28.2	17.9	2.6	1.7	0.9	19.7
女性70歳以上 (n=58)	25.9	6.9	19.0	12.1	8.6	6.9	1.7	32.8
男性20歳代 (n=33)	30.3	0.0	30.3	42.4	24.2	21.2	3.0	3.0
男性30歳代 (n=67)	38.8	11.9	26.9	35.8	15.0	7.5	7.5	7.5
男性40歳代 (n=46)	36.9	13.0	23.9	41.3	8.6	4.3	4.3	10.9
男性50歳代 (n=65)	47.7	12.3	35.4	33.8	13.9	10.8	3.1	3.1
男性60歳代 (n=99)	48.5	13.1	35.4	24.2	10.1	9.1	1.0	9.1
男性70歳以上 (n=58)	44.8	10.3	34.5	10.3	3.4	3.4	0.0	24.1

③地域活動の場で	男性優遇 (小計)	どちらかといえ ば		平等である	女性優遇 (小計)	どちらかといえ ば		わからない
		男性が優遇 されている	男性が優遇 されている			女性が優遇 されている	女性が優遇 されている	
全体 (N=855)	28.8	6.3	22.5	34.4	8.3	6.4	1.9	24.9
女性 (n=484)	35.1	9.1	26.0	28.5	6.0	4.8	1.2	26.0
男性 (n=368)	20.4	2.7	17.7	42.4	11.1	8.4	2.7	23.6
女性20歳代 (n=38)	23.7	7.9	15.8	34.2	0.0	0.0	0.0	36.8
女性30歳代 (n=113)	22.2	1.8	20.4	38.1	7.1	4.4	2.7	31.0
女性40歳代 (n=75)	38.7	12.0	26.7	33.3	8.0	5.3	2.7	17.3
女性50歳代 (n=83)	55.5	13.3	42.2	16.9	4.8	4.8	0.0	19.3
女性60歳代 (n=117)	44.4	12.8	31.6	17.1	6.0	5.1	0.9	26.5
女性70歳以上 (n=58)	15.5	6.9	8.6	39.7	6.9	6.9	0.0	29.3
男性20歳代 (n=33)	15.2	0.0	15.2	60.6	9.1	6.1	3.0	15.2
男性30歳代 (n=67)	11.9	1.5	10.4	40.3	13.5	9.0	4.5	32.8
男性40歳代 (n=46)	28.2	6.5	21.7	34.8	8.6	4.3	4.3	26.1
男性50歳代 (n=65)	27.7	3.1	24.6	33.8	10.8	6.2	4.6	26.2
男性60歳代 (n=99)	17.2	1.0	16.2	44.4	15.1	14.1	1.0	20.2
男性70歳以上 (n=58)	24.2	5.2	19.0	46.6	5.2	5.2	0.0	19.0

④学校教育の場で	男性優遇 (小計)	どちらかといえ ば		平等である	女性優遇 (小計)	どちらかといえ ば		わからない
		男性が優遇 されている	男性が優遇 されている			女性が優遇 されている	女性が優遇 されている	
全体 (N=855)	12.1	2.3	9.8	44.2	4.5	3.2	1.3	34.2
女性 (n=484)	16.1	3.5	12.6	41.1	3.1	2.5	0.6	34.5
男性 (n=368)	6.8	0.8	6.0	48.6	6.3	4.1	2.2	33.7
女性20歳代 (n=38)	15.8	5.3	10.5	50.0	2.6	2.6	0.0	28.9
女性30歳代 (n=113)	9.8	1.8	8.0	47.8	5.3	4.4	0.9	36.3
女性40歳代 (n=75)	20.0	4.0	16.0	52.0	4.0	4.0	0.0	21.3
女性50歳代 (n=83)	22.9	3.6	19.3	41.0	0.0	0.0	0.0	32.5
女性60歳代 (n=117)	18.0	6.0	12.0	29.9	3.4	1.7	1.7	41.0
女性70歳以上 (n=58)	10.3	0.0	10.3	31.0	1.7	1.7	0.0	41.4
男性20歳代 (n=33)	3.0	0.0	3.0	72.7	6.0	3.0	3.0	18.2
男性30歳代 (n=67)	4.5	0.0	4.5	47.8	7.5	6.0	1.5	38.8
男性40歳代 (n=46)	17.3	4.3	13.0	43.5	6.5	2.2	4.3	30.4
男性50歳代 (n=65)	7.7	0.0	7.7	44.6	6.1	4.6	1.5	40.0
男性60歳代 (n=99)	3.0	0.0	3.0	48.5	6.0	3.0	3.0	36.4
男性70歳以上 (n=58)	8.6	1.7	6.9	44.8	5.2	5.2	0.0	27.6

⑤政治の場で	男性優遇 (小計)	男性優遇		平等である	女性優遇 (小計)	女性優遇		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている			どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	
全体 (N=855)	57.6	21.9	35.7	19.2	3.2	2.3	0.9	17.0
女性 (n=484)	64.7	28.7	36.0	12.6	1.8	1.4	0.4	17.1
男性 (n=368)	48.4	12.8	35.6	28.0	5.1	3.5	1.6	16.6
女性20歳代 (n=38)	81.5	44.7	36.8	0.0	0.0	0.0	0.0	18.4
女性30歳代 (n=113)	77.9	34.5	43.4	8.8	0.0	0.0	0.0	12.4
女性40歳代 (n=75)	62.6	29.3	33.3	14.7	5.3	4.0	1.3	16.0
女性50歳代 (n=83)	66.2	28.9	37.3	14.5	3.6	2.4	1.2	12.0
女性60歳代 (n=117)	57.2	23.9	33.3	12.0	0.9	0.9	0.0	23.9
女性70歳以上 (n=58)	43.1	15.5	27.6	24.1	1.7	1.7	0.0	20.7
男性20歳代 (n=33)	42.4	24.2	18.2	39.4	6.0	3.0	3.0	12.1
男性30歳代 (n=67)	52.2	16.4	35.8	17.9	4.5	3.0	1.5	23.9
男性40歳代 (n=46)	43.5	6.5	37.0	32.6	4.3	0.0	4.3	17.4
男性50歳代 (n=65)	50.8	10.8	40.0	23.1	6.1	4.6	1.5	18.5
男性60歳代 (n=99)	53.5	14.1	39.4	29.3	4.0	4.0	0.0	11.1
男性70歳以上 (n=58)	39.7	6.9	32.8	32.8	6.9	5.2	1.7	17.2

⑥法律や制度の上で	男性優遇 (小計)	男性優遇		平等である	女性優遇 (小計)	女性優遇		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている			どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	
全体 (N=855)	35.0	9.5	25.5	32.4	9.7	6.8	2.9	18.8
女性 (n=484)	42.5	13.2	29.3	23.8	5.8	4.8	1.0	22.9
男性 (n=368)	25.0	4.6	20.4	44.0	14.9	9.5	5.4	13.3
女性20歳代 (n=38)	55.3	21.1	34.2	18.4	7.9	7.9	0.0	15.8
女性30歳代 (n=113)	39.0	13.3	25.7	31.0	8.9	8.0	0.9	19.5
女性40歳代 (n=75)	48.0	14.7	33.3	17.3	9.3	8.0	1.3	22.7
女性50歳代 (n=83)	50.6	15.7	34.9	20.5	3.6	1.2	2.4	20.5
女性60歳代 (n=117)	46.2	13.7	32.5	17.9	2.6	2.6	0.0	27.4
女性70歳以上 (n=58)	15.5	1.7	13.8	37.9	3.4	1.7	1.7	29.3
男性20歳代 (n=33)	24.3	9.1	15.2	39.4	24.2	12.1	12.1	12.1
男性30歳代 (n=67)	22.4	4.5	17.9	44.8	20.9	7.5	13.4	10.4
男性40歳代 (n=46)	19.6	8.7	10.9	39.1	21.7	15.2	6.5	17.4
男性50歳代 (n=65)	26.2	3.1	23.1	52.3	9.3	6.2	3.1	10.8
男性60歳代 (n=99)	27.3	1.0	26.3	42.4	12.1	11.1	1.0	14.1
男性70歳以上 (n=58)	27.6	6.9	20.7	43.1	8.6	6.9	1.7	15.5

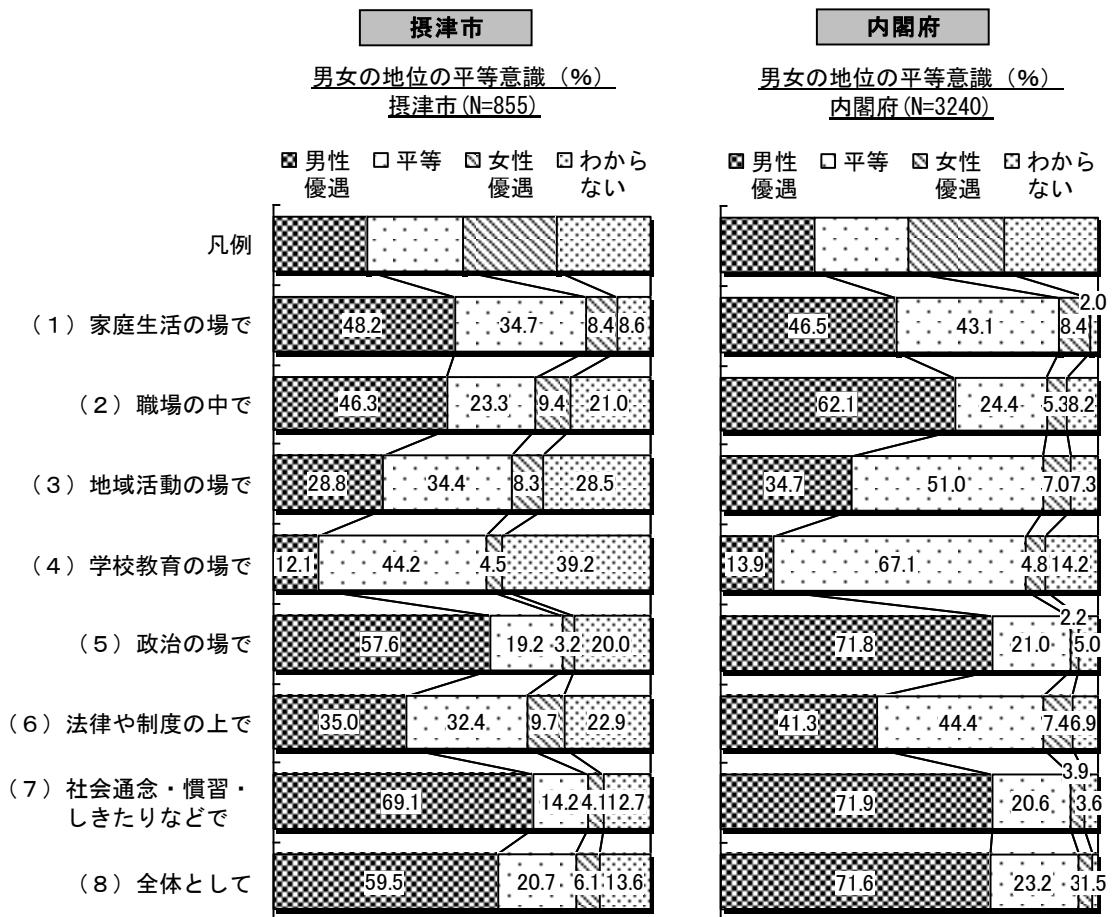
⑦社会通念・慣習・しきたりなどで	男性優遇 (小計)	男性優遇		平等である	女性優遇 (小計)	女性優遇		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえれば			男性が優遇されている	女性が優遇されている	
全体 (N=855)	69.1	22.8	46.3	14.2	4.1	2.6	1.5	10.2
女性 (n=484)	72.5	27.7	44.8	12.0	1.4	1.2	0.2	11.4
男性 (n=368)	65.0	16.6	48.4	17.1	7.6	4.3	3.3	8.4
女性20歳代 (n=38)	71.0	28.9	42.1	15.8	0.0	0.0	0.0	13.2
女性30歳代 (n=113)	79.7	31.0	48.7	11.5	0.0	0.0	0.0	8.0
女性40歳代 (n=75)	77.4	30.7	46.7	8.0	2.6	1.3	1.3	12.0
女性50歳代 (n=83)	77.1	27.7	49.4	8.4	1.2	1.2	0.0	9.6
女性60歳代 (n=117)	72.7	30.8	41.9	9.4	1.7	1.7	0.0	12.0
女性70歳以上 (n=58)	46.5	10.3	36.2	25.9	3.4	3.4	0.0	17.2
男性20歳代 (n=33)	57.6	15.2	42.4	27.3	6.1	6.1	0.0	9.1
男性30歳代 (n=67)	58.2	16.4	41.8	13.4	16.5	9.0	7.5	11.9
男性40歳代 (n=46)	63.0	13.0	50.0	21.7	4.3	0.0	4.3	8.7
男性50歳代 (n=65)	70.7	21.5	49.2	13.8	10.8	3.1	7.7	3.1
男性60歳代 (n=99)	68.7	17.2	51.5	17.2	5.1	5.1	0.0	7.1
男性70歳以上 (n=58)	65.5	13.8	51.7	15.5	1.7	1.7	0.0	12.1

⑧全体として	男性優遇 (小計)	男性優遇		平等である	女性優遇 (小計)	女性優遇		わからない
		男性が優遇されている	どちらかといえれば			男性が優遇されている	女性が優遇されている	
全体 (N=855)	59.5	12.4	47.1	20.7	6.1	4.3	1.8	11.3
女性 (n=484)	67.5	16.3	51.2	14.5	2.9	1.9	1.0	12.6
男性 (n=368)	48.9	7.3	41.6	29.1	10.3	7.6	2.7	9.8
女性20歳代 (n=38)	57.9	18.4	39.5	21.1	2.6	2.6	0.0	18.4
女性30歳代 (n=113)	74.4	13.3	61.1	13.3	0.9	0.9	0.0	10.6
女性40歳代 (n=75)	78.7	14.7	64.0	10.7	5.3	4.0	1.3	5.3
女性50歳代 (n=83)	66.3	20.5	45.8	15.7	2.4	1.2	1.2	10.8
女性60歳代 (n=117)	69.2	20.5	48.7	10.3	3.4	1.7	1.7	13.7
女性70歳以上 (n=58)	44.8	8.6	36.2	24.1	3.4	1.7	1.7	22.4
男性20歳代 (n=33)	33.3	12.1	21.2	45.5	12.1	9.1	3.0	9.1
男性30歳代 (n=67)	41.8	6.0	35.8	29.9	17.9	10.4	7.5	10.4
男性40歳代 (n=46)	54.4	8.7	45.7	28.3	8.6	4.3	4.3	6.5
男性50歳代 (n=65)	53.8	4.6	49.2	24.6	12.3	10.8	1.5	6.2
男性60歳代 (n=99)	50.5	6.1	44.4	29.3	8.1	7.1	1.0	10.1
男性70歳以上 (n=58)	53.4	10.3	43.1	24.1	3.4	3.4	0.0	15.5

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

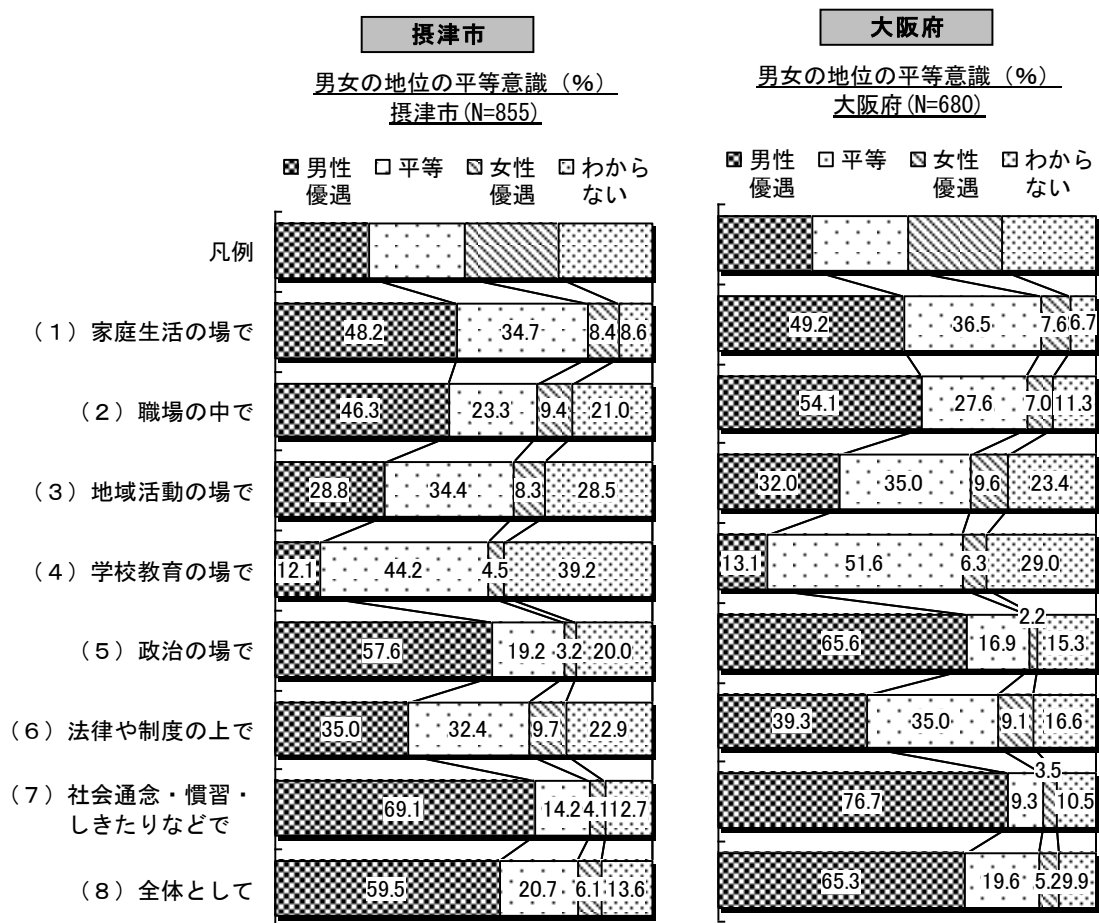
ここでは、参考として平成 21 年（2009 年）に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」（以下「内閣府」と表記）、及び大阪府の「男女共同参画にかかる府民意識調査」（以下「大阪府」と表記）との比較を示している。

内閣府調査との比較では、「平等」については「(1)家庭生活の場で」「(3)地域活動の場で」「(4)学校教育の場で」「(6)法律や制度の上で」で摂津市が内閣府調査を大きく下回っている。また「男性優遇」についても、「(2)職場の中で」「(5)政治の場で」「(8)全体として」で摂津市が内閣府調査を下回っているが、摂津市、内閣府ともに「(5)政治の場で」「(7)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(8)全体として」などで「男性優遇」が多い点では同傾向を示している。



注：「男性優遇」→「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計値。
 「女性優遇」→「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計値。

大阪府との比較では、「平等」については「(4)学校教育の場で」で摂津市が内閣府調査をやや下回っている。また「男性優遇」についても、「(5)政治の場で」「(7)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(8)全体として」で摂津市が大阪府をやや下回っているが、摂津市、大阪府ともに「(5)政治の場で」「(7)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(8)全体として」などで「男性優遇」が多く、「(4)学校教育の場で」で「平等」が多い点では同傾向を示している。



注：「男性優遇」→「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計値。
「女性優遇」→「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計値。

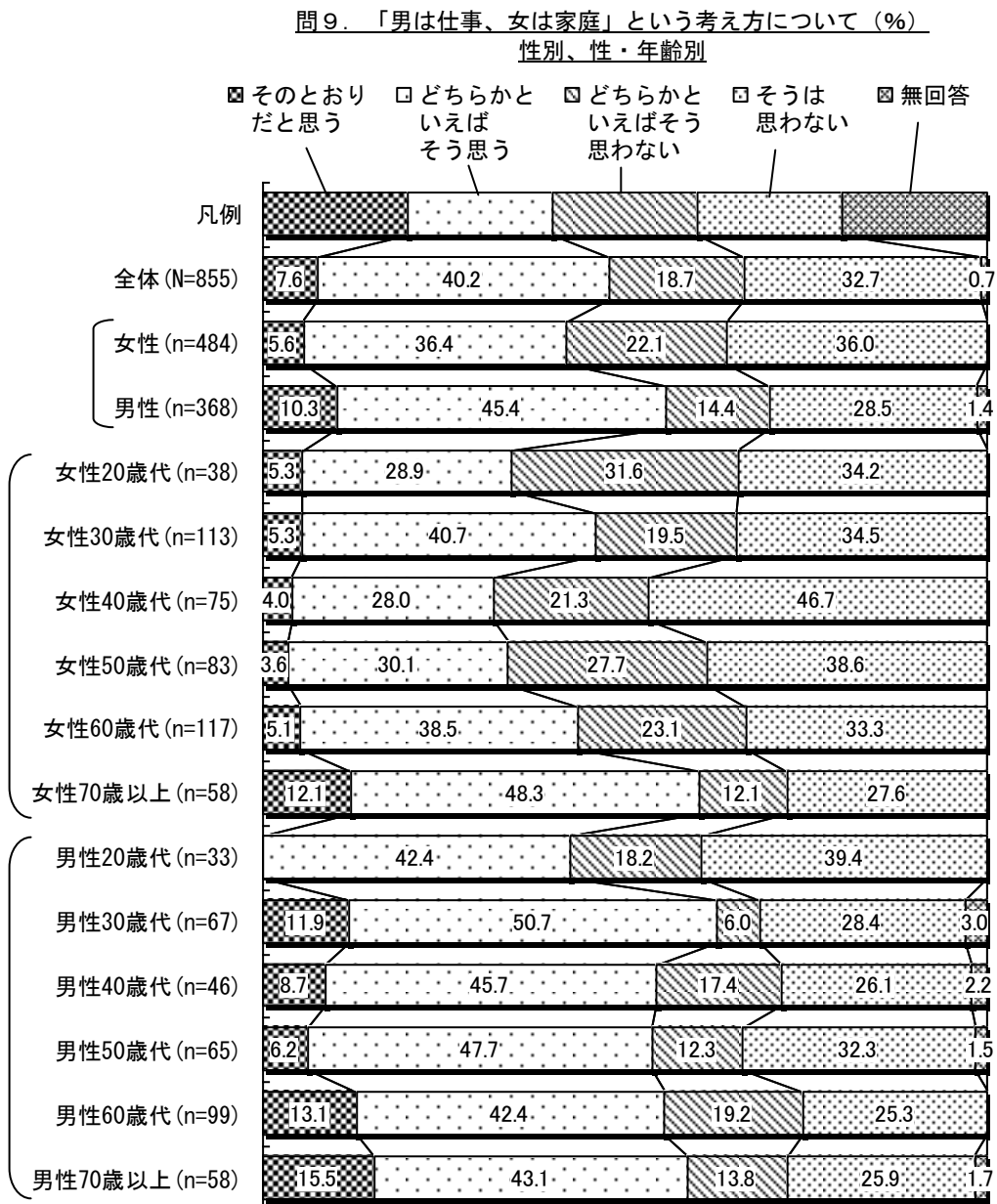
2. 性別役割分担意識

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方）については、「そのとおりだと思う」が7.6%、「どちらかといえばそう思う」が40.2%で、合計47.8%が賛同している。一方、「どちらかといえばそう思わない」は18.7%、「そうは思わない」が32.7%で、合計すると過半数(51.4%)が否定的であり、賛同意識を上回っている。

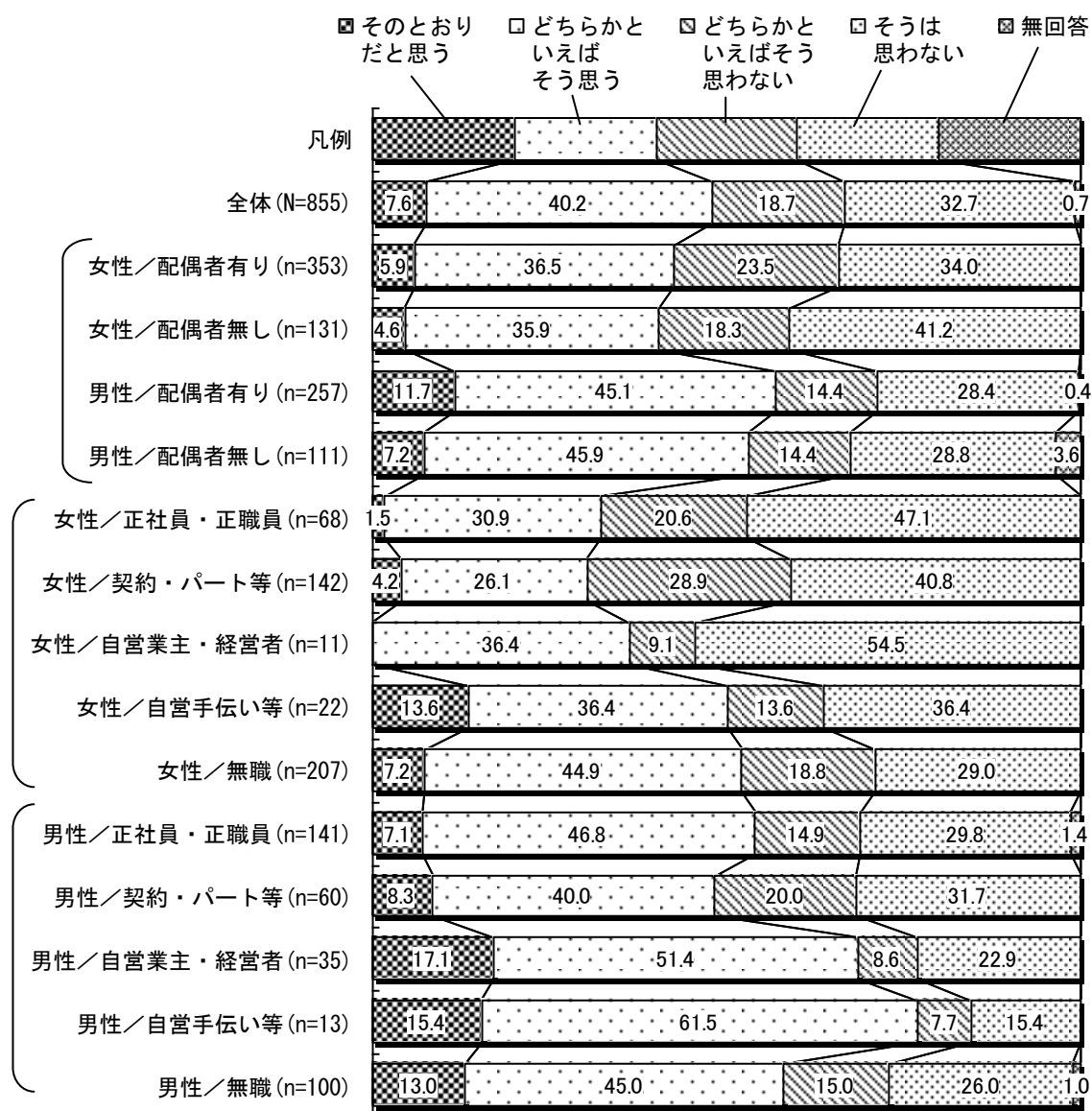
性別では、女性で否定的意識が多く、性・年齢別では、女性の20歳代、及び40～50歳代において否定的意識が多くみられる。男性は30歳代において賛同意識が他の年齢層に比べて多くみられる。



さらに、性・配偶者有無別でみると、女性は配偶者の有無に関わらず否定的意識が過半数を占めるが、男性は賛同意識が特に配偶者有りの層で多くなっている。

性・働き方別では、女性の正社員・正職員、契約・パート等、自営業主・経営者で否定的意識が多く、特に自営業主・経営者では「そうは思わない」だけで過半数を占めている。

問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (%)
性・配偶者有無別、性・働き方別

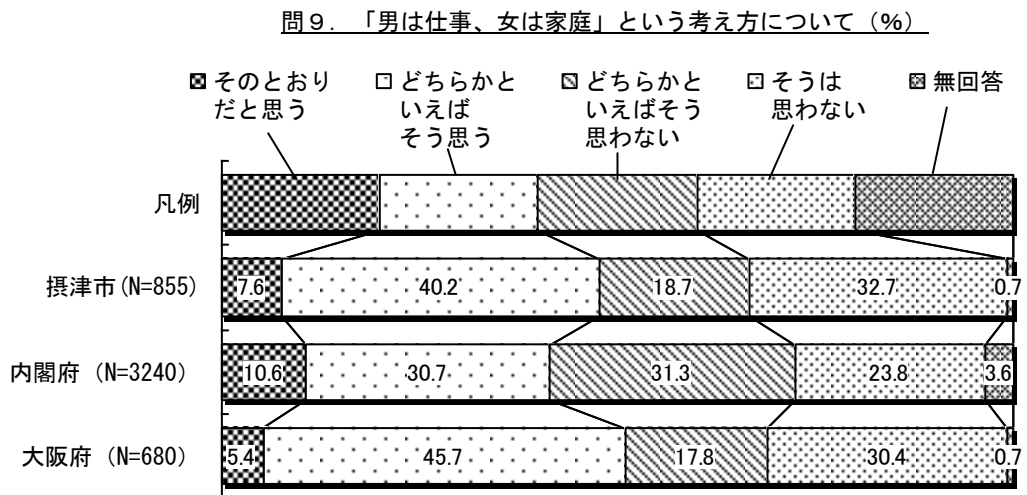


注：働き方別のクロス項目は、選択肢の表現を簡略化したり、一部括ったりしています。元の表現は以下のとおりです。

- ・「正社員・正職員」→「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」（問 17-2=1）
- ・「契約・パート等」→「会社・団体・官公庁などの契約社員や派遣社員」「パートやアルバイト（学生アルバイトを除く）」（問 17-2=2～3）
- ・「自営業主・経営者」→「自営業主・経営者（農林業を含む）」（問 17-2=4）
- ・「自営手伝い等」→「自営業の手伝い、家族従業」「内職など家庭でできる仕事」（問 17-2=5～6）

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

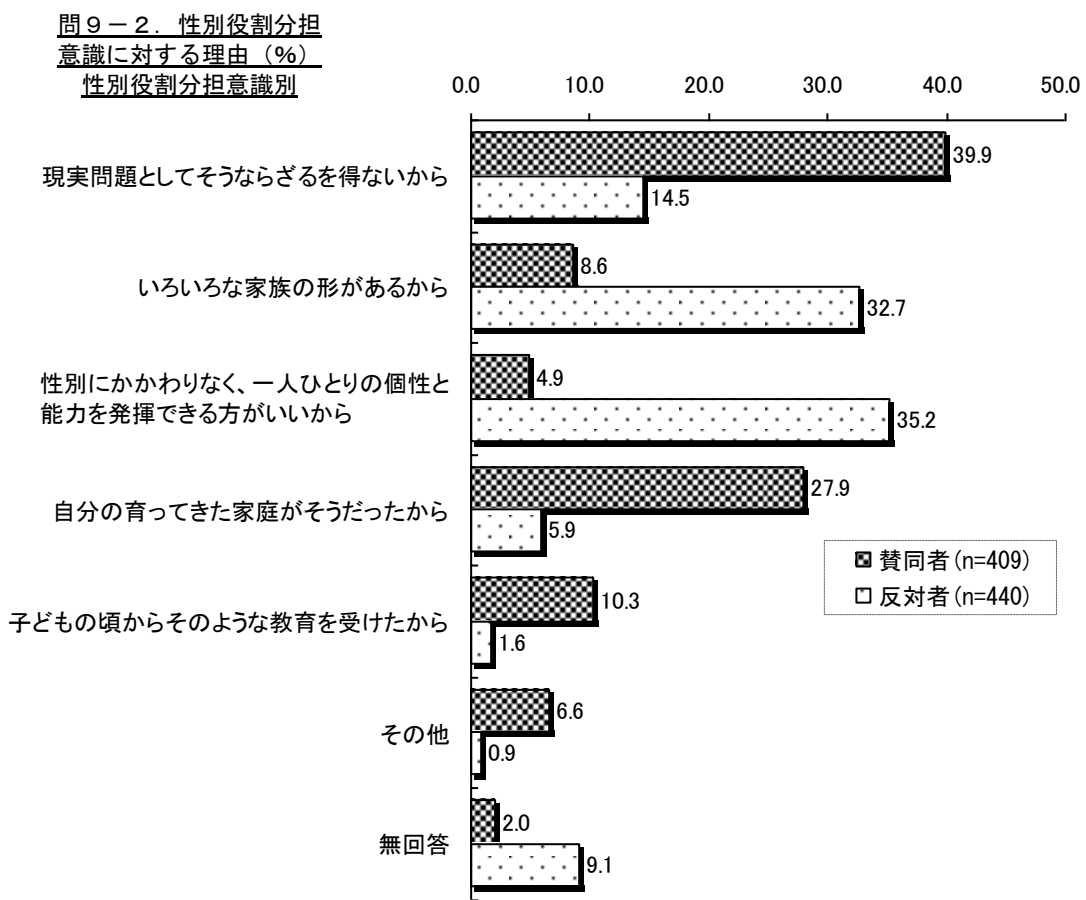
内閣府との比較では、摂津市は肯定派がやや多いが、大阪府との比較ではほぼ同傾向にある。



(2) 性別役割分担意識に対する理由

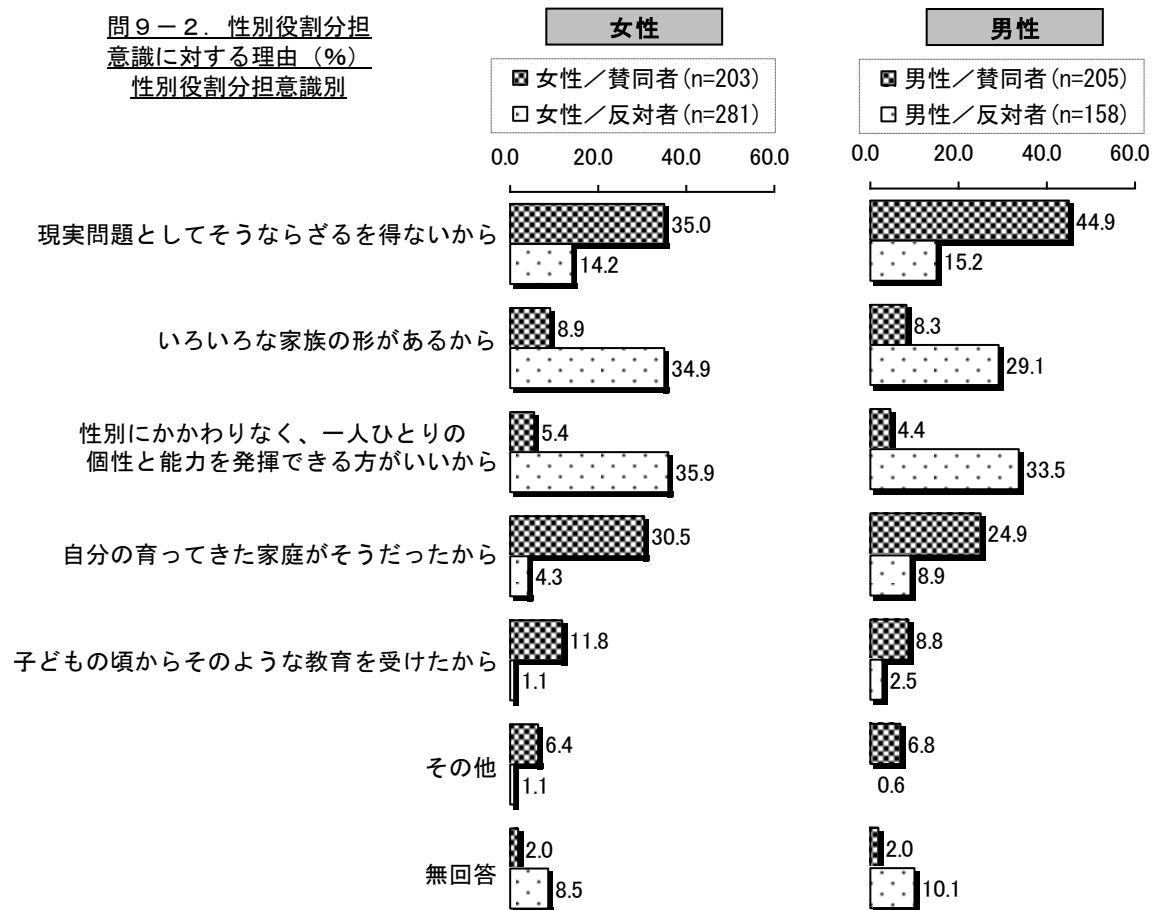
問9-2. 上記を選んだ理由はなぜですか。(○は1つ)

性別役割分担意識に対する理由については、「男は仕事、女は家庭」という考え方への「賛同者」の場合、「現実問題としてそうならざるを得ないから」が 39.9%と最も多く、次いで「自分の育ってきた家庭がそうだったから」(27.9%)、「子どもの頃からそのような教育を受けたから」(10.3%)と続き、反対者との差が大きい。一方、反対者は「性別にかかわらず、一人ひとりの個性と能力を發揮できる方がいいから」が 35.2%と最も多く、次いで「いろいろな家族の形があるから」が 32.7%で続き、賛同者との差が大きい。



※ 賛同者→問9の回答が「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。
反対者→問9の回答が「どちらかといえばそう思わない」「そうは思わない」の合計。

性別でみると、男女ともにおおむね同傾向にあるが、女性の反対者は男性に比べ「いろいろな家族の形があるから」「性別にかかわりなく、一人ひとりの個性と能力を発揮できる方がいいから」が多く、男性の賛同者は女性に比べ「現実問題としてそうならざるを得ないから」が多い点で男女差が大きい。



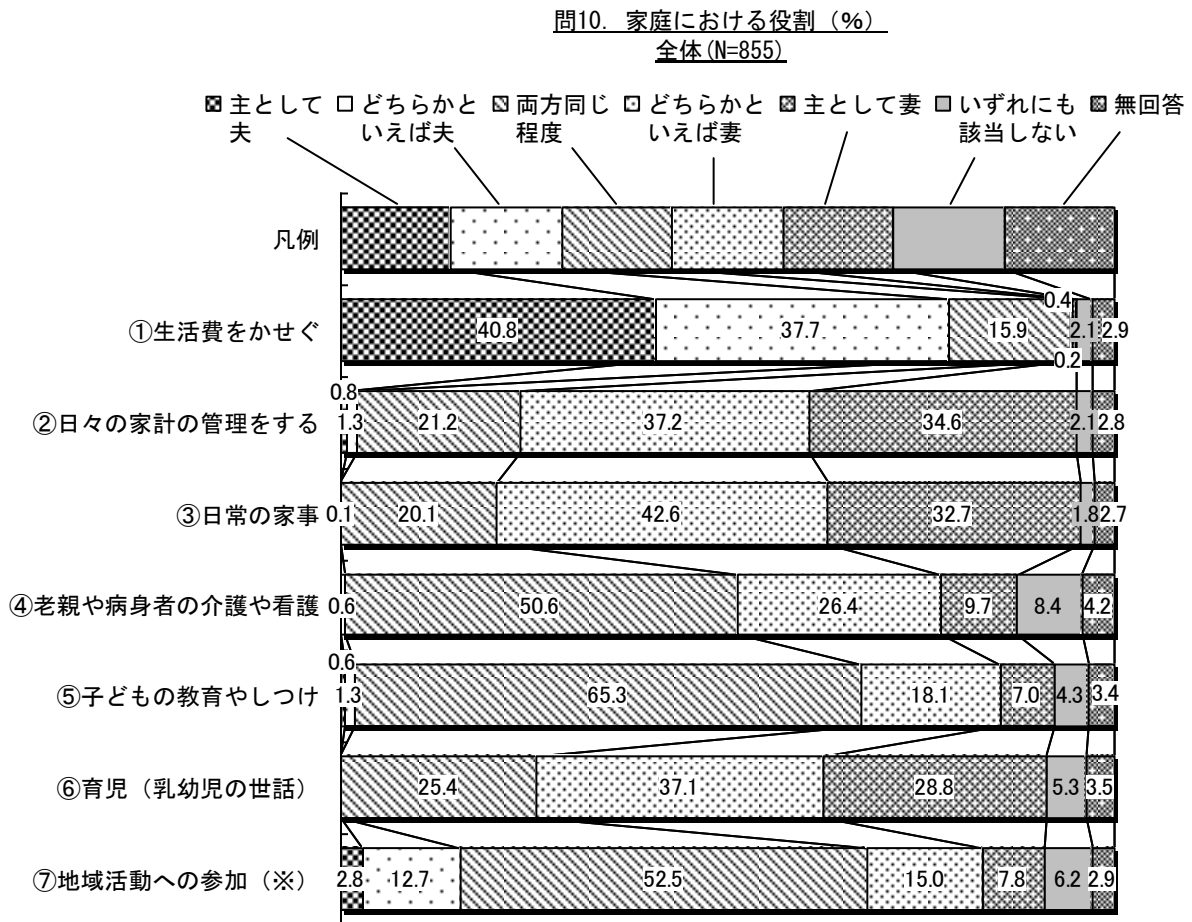
3. 家庭における役割

問 10. 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者がいない方も、仮にいと想定してお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

家庭における役割について「両方同じ程度」をみると、「⑤子どもの教育やしつけ」が 65.3% と最も多く、次いで「⑦地域活動への参加」(52.5%)、「④老親や病身者の介護や看護」(50.6%) の順で、それぞれ過半数を占めている。

一方、「どちらかといえば妻」「主として妻」の合計割合をみると、「③日常の家事」が 75.3% と最も多く、次いで「②日々の家計の管理をする」(71.8%)、「⑥育児(乳幼児の世話)」(65.9%) の順となっている。また、「主として夫」「どちらかといえば夫」の合計割合では、「①生活費をかせぐ」で 78.5% と多くなっている。

性別では、女性の方が男性よりも「妻中心」と考える項目が多い。「①生活費をかせぐ」については男性で「夫中心」という回答が多い。年齢別では、女性で年齢が上がるほど多くなる項目として「③日常の家事」「⑥育児(乳幼児の世話)」などがあげられる。また、女性の 40~60 歳代、及び男性の 70 歳代では他の年齢層に比べ「④老親や病身者の介護や看護」が多くなっている。



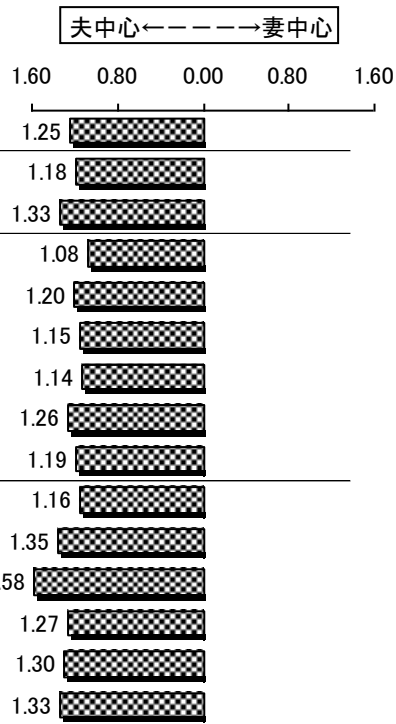
※ 自治会、町内会など地域活動への参加

注: 選択肢は一部省略しています(例「主として夫の役割」→「主として夫」)

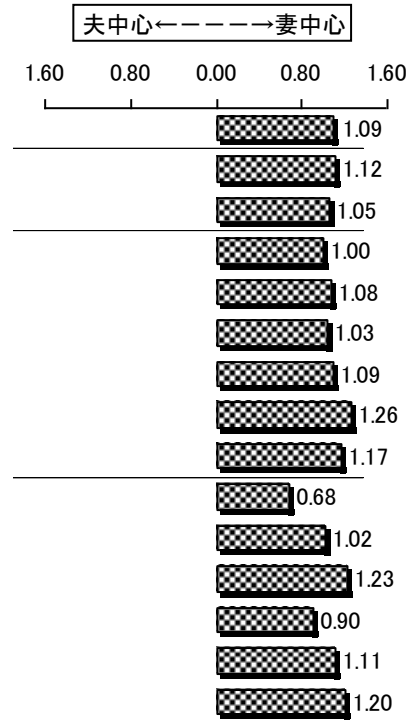
※以下の属性別グラフの数値は「加重平均値」です。「加重平均値」とは「主として夫」の回答件数に「-2点」、「どちらかといえば夫」に「-1点」、「両方同じ程度」に「0点」、「どちらかといえば妻」に「+1点」、「主として妻」に「2点」のウエイトを乗じ、加重平均して算出したもので、図表中左側に近いほど「夫中心」、右側に近いほど「妻中心」、中心に近いほど「同じ程度」を示す「分析用の便宜的な指標」です。

問10. 家庭における役割

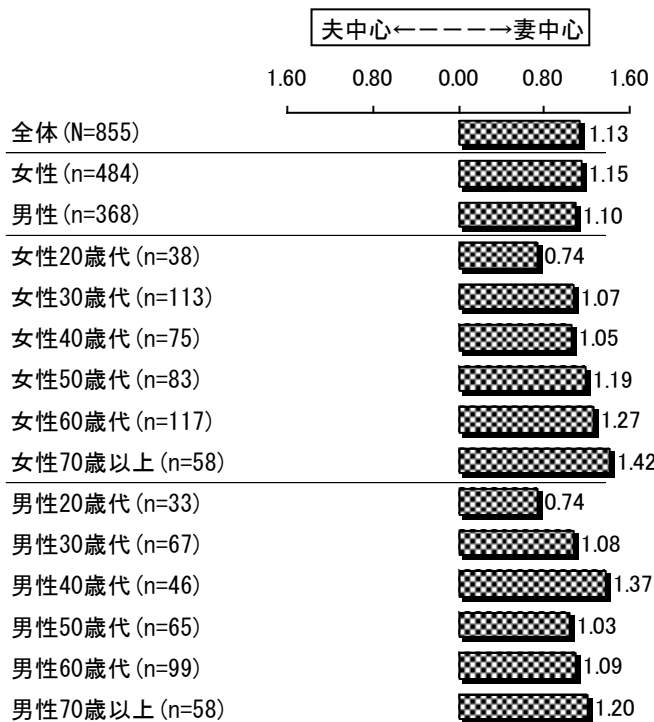
(1) 生活費をかせぐ



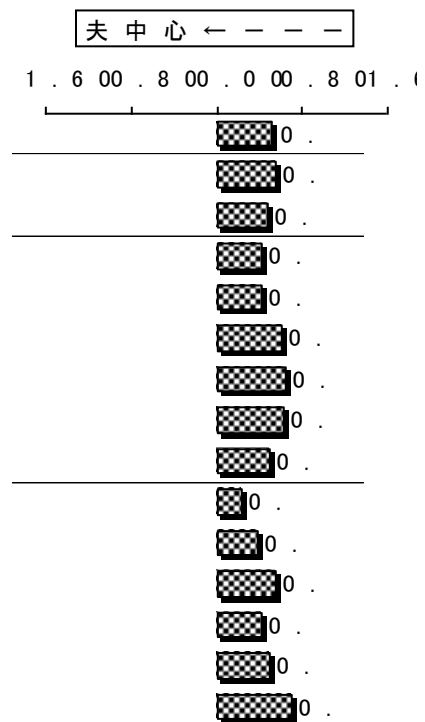
(2) 日々の家計の管理をする



(3) 日常の家事

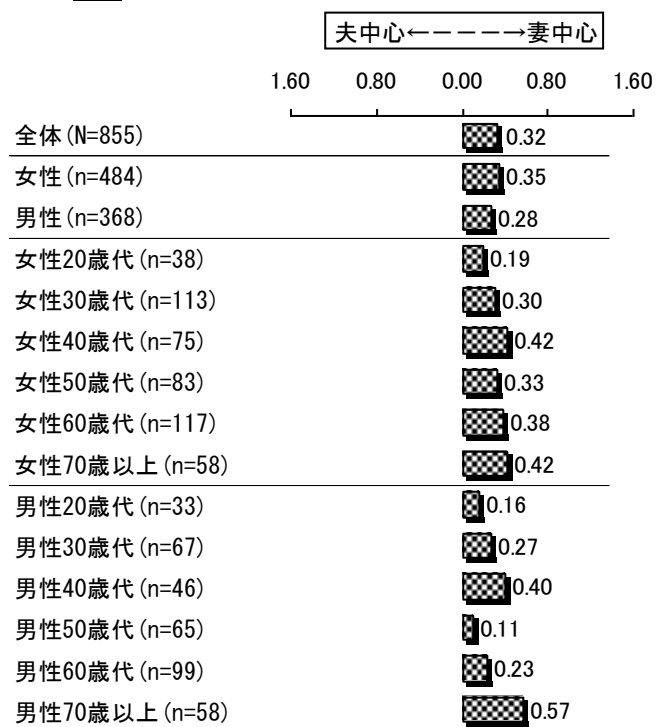


(4) 老親や病身者の

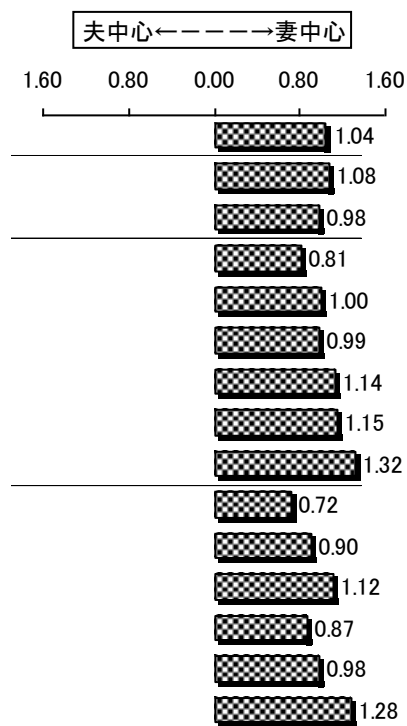


問10. 家庭における
役割

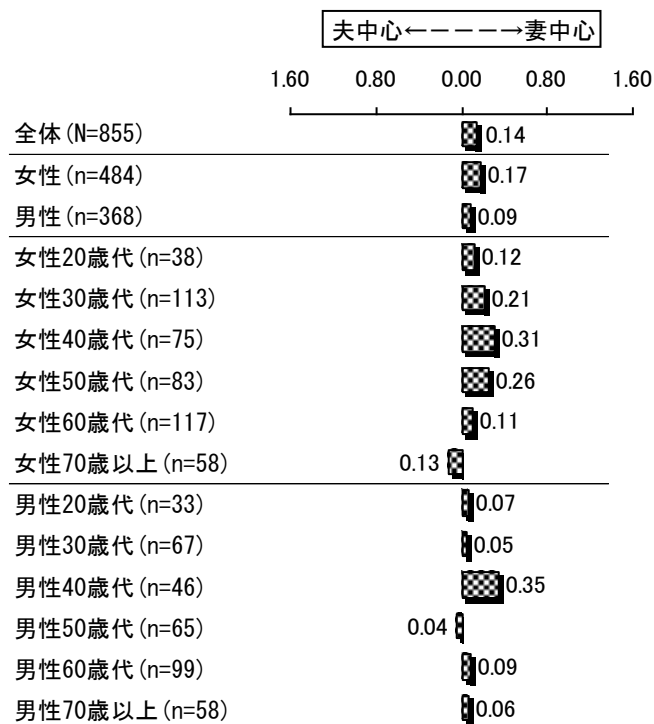
(5) 子どもの教育やしつけ



(6) 育児（乳幼児の世話）

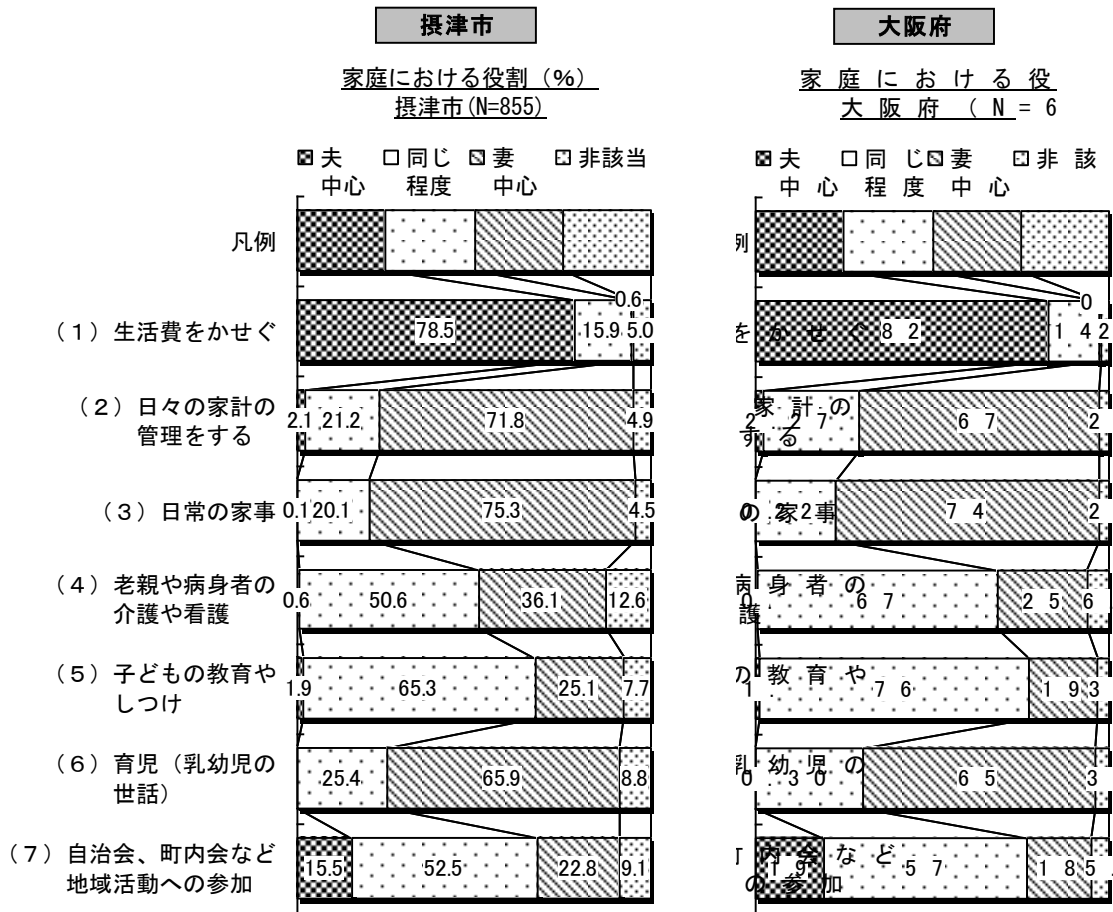


(7) 自治会、町内会など
地域活動への参加



【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、「(4)老親や病身者の介護や看護」「(5)子どもの教育やしつけ」で、摂津市の方が「妻中心」の回答が多くなっている。



注：図中では以下のとおり選択肢を括ったり、表現を省略したりしています。
 「夫中心」→「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」の合計
 「同じ程度」→「両方同じ程度の役割」
 「妻中心」→「どちらかといえば妻の役割」「主として妻の役割」の合計
 「非該当」→「いずれにも該当しない」「無回答」の合計

4. 「男はしんどい、つらい」と感じることにについて

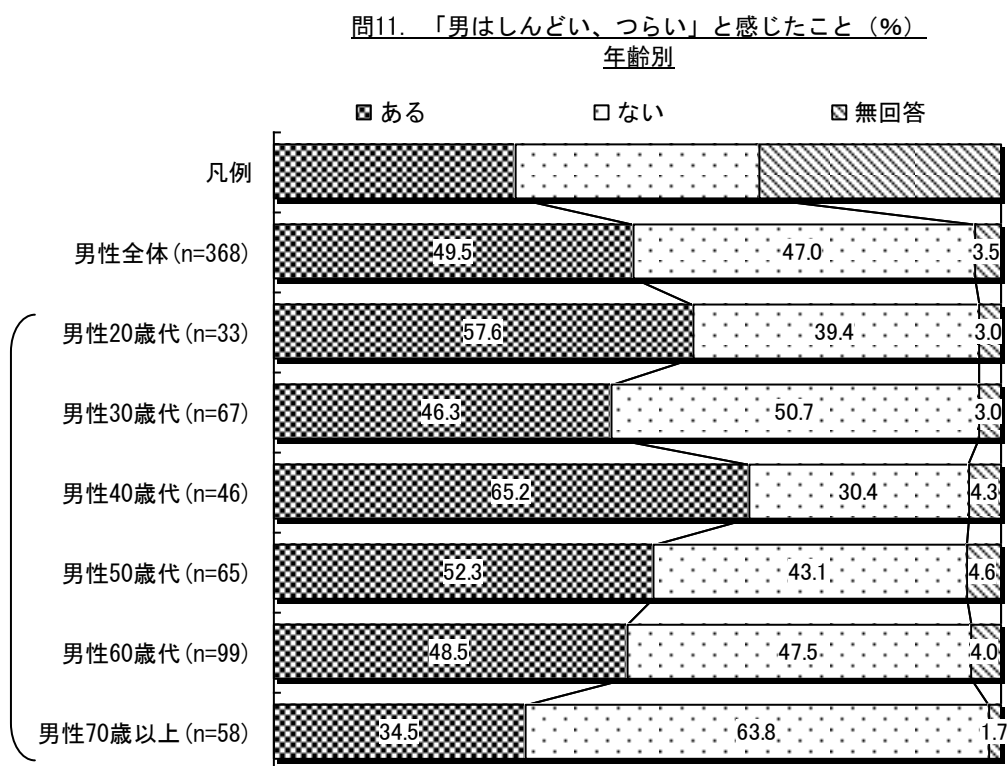
(1) 「男はしんどい、つらい」と感じたこと

男性の方のみにかがいます。女性の方は、次は問 12. へ

問 11. あなたは「男はしんどい、つらい」と感じたことはありますか。(○は1つ)

「男はしんどい、つらい」と感じたことについては、「ある」が 49.5%、「ない」が 47.0%で、男性全体としてはおおむね二分している。

年齢別で「ある」への回答をみると、20 歳代、40 歳代で特に多く、70 歳以上では「ない」の方が他の年齢層に比べ最も多くを占めている。

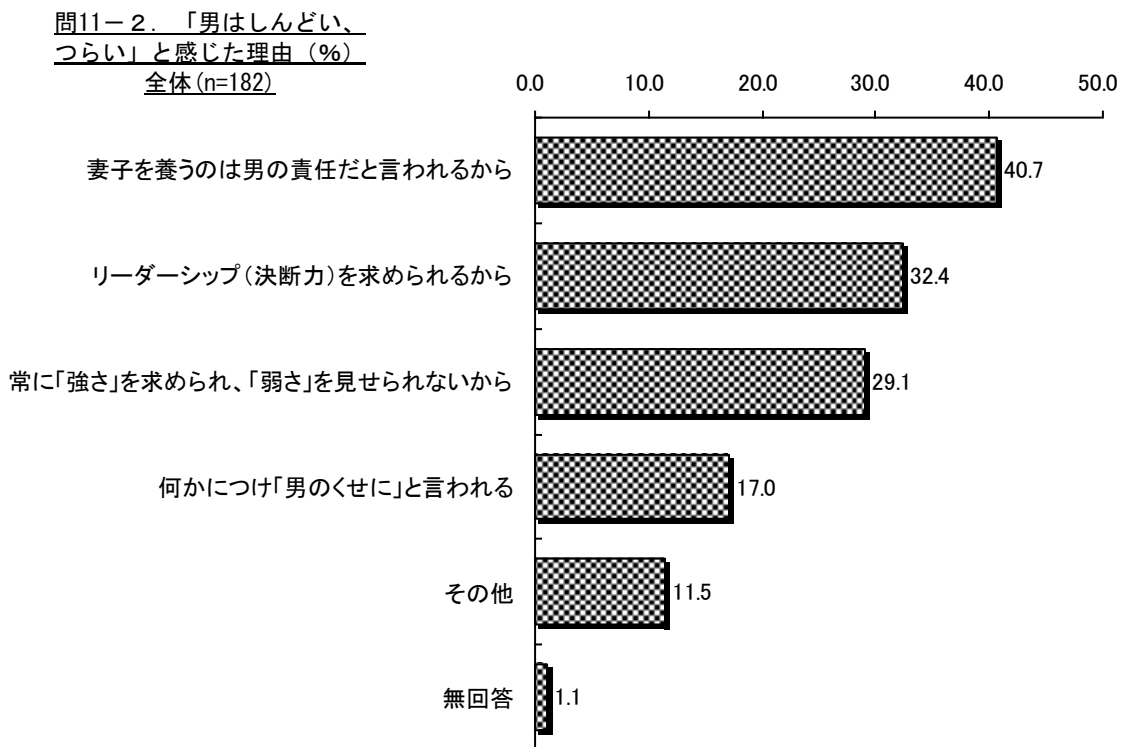


(2) 「男はしんどい、つらい」と感じた理由

問 11 で「1. ある」と答えた方にうかがいます
 問 11-2. それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

「男はしんどい、つらい」と感じた理由については、「妻子を養うのは男の責任だと言われるから」が 40.7%と最も多く、次いで「リーダーシップ（決断力）を求められるから」（32.4%）、「常に「強さ」を求められ、「弱さ」を見せられないから」（29.1%）の順となっている。

年齢別では、40 歳代で「妻子を養うのは男の責任だと言われるから」、50 歳代で「リーダーシップ（決断力）を求められるから」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。



問11-2. 「男はしんどい、つらい」理由 (%) 年齢別

	何かにつけ「男のくせに」と言われる	妻子を養うのは男の責任だと言われるから	リーダーシップ(決断力)を求められるから	常に「強さ」を求められ、「弱さ」を見せられないから	その他
男性 (n=182)	17.0	40.7	32.4	29.1	11.5
男性20歳代 (n=19)	26.3	47.4	36.8	36.8	10.5
男性30歳代 (n=31)	32.3	32.3	25.8	32.3	25.8
男性40歳代 (n=30)	23.3	53.3	16.7	26.7	6.7
男性50歳代 (n=34)	2.9	26.5	52.9	29.4	11.8
男性60歳代 (n=48)	6.3	41.7	33.3	31.3	6.3
男性70歳以上 (n=20)	25.0	50.0	25.0	15.0	10.0

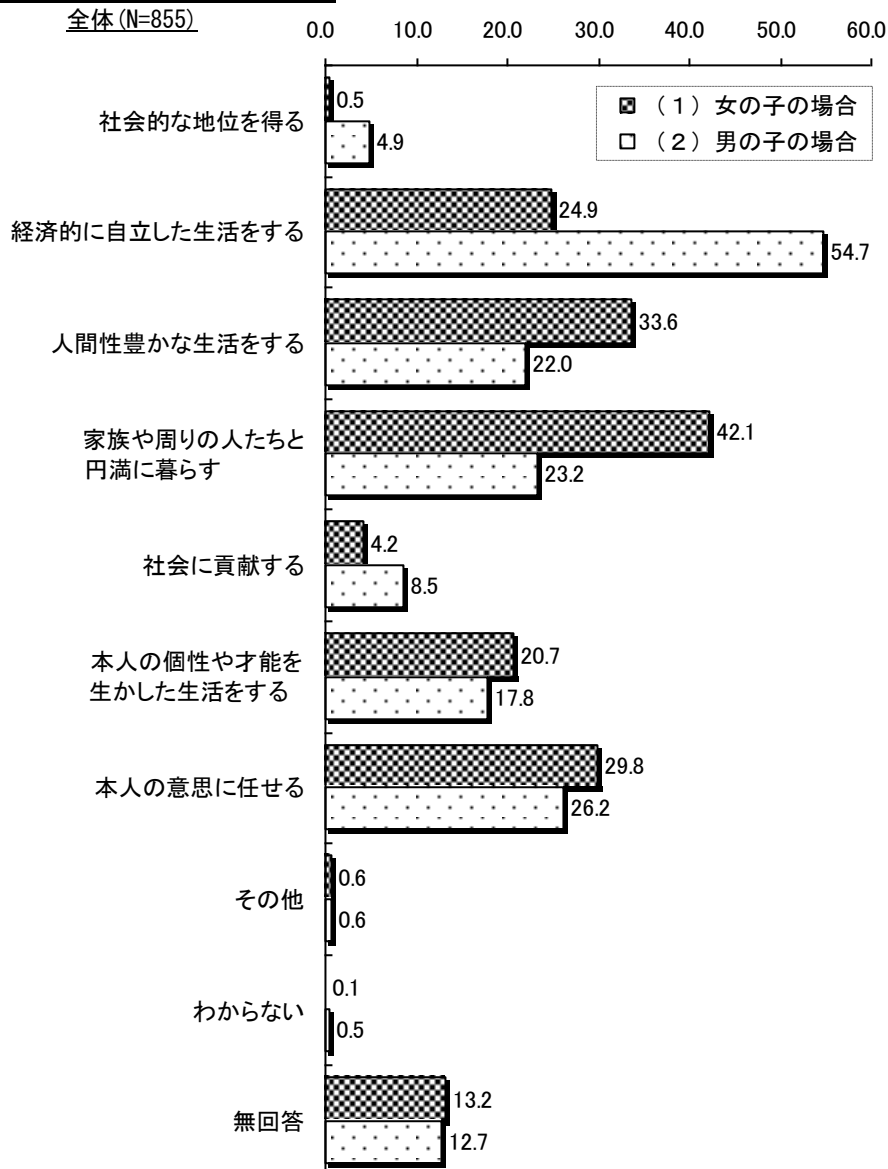
【2】子どもの教育について

1. 子どもに期待する生き方

問 12. あなたは自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。子供がいない方も、仮に子どもがいると想定してお答えください。(〇はそれぞれ2つずつ)

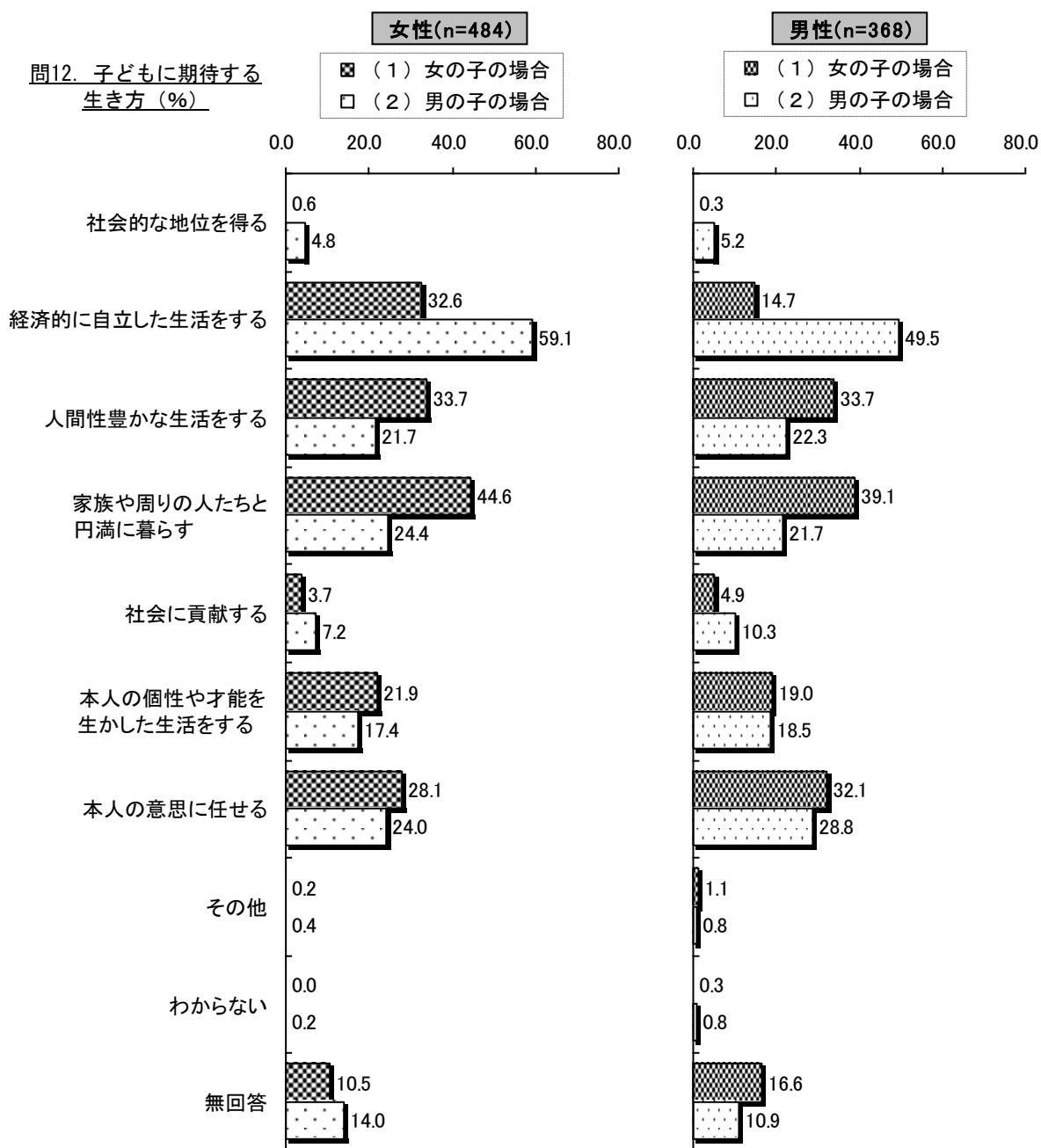
子どもに期待する生き方について、女の子の場合への回答をみると「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が 42.1%と最も多く、次いで「人間性豊かな生活をする」(33.6%)、「本人の意思に任せる」(29.8%) の順となっている。男の子の場合への回答をみると「経済的に自立した生活をする」が 54.7%と最も多く、次いで「本人の意思に任せる」(26.2%)、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」(23.2%) の順となっている。女の子と男の子の差が大きい項目として「経済的に自立した生活をする」で男の子が女の子を大きく上回り、「人間性豊かな生活をする」「家族や周りの人たちと円満に暮らす」では女の子が男の子を大きく上回っていることがあげられる。

問12. 子どもに期待する生き方 (%)



性別でみると、男女ともに女の子、男の子に期待する生き方は同傾向であるが、女性の場合「経済的に自立した生活をする」について男性の回答を大きく上回っていることが特徴的である。

性・年齢別では、女の子に対して女性の20～30歳代の年齢の若い層ほど「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「人間性豊かな生活をする」「本人の個性や才能を生かした生活をする」などへの回答が多く、女性50歳代では「経済的に自立した生活をする」が他の年齢層に比べ多くなっている。男の子に対しては女性の40～60歳代において「経済的に自立した生活をする」、女性の年齢の若い層ほど「人間性豊かな生活をする」「本人の個性や才能を生かした生活をする」などへの回答が多くなっている。



問12（1）女の子の場合（％）性・年齢別

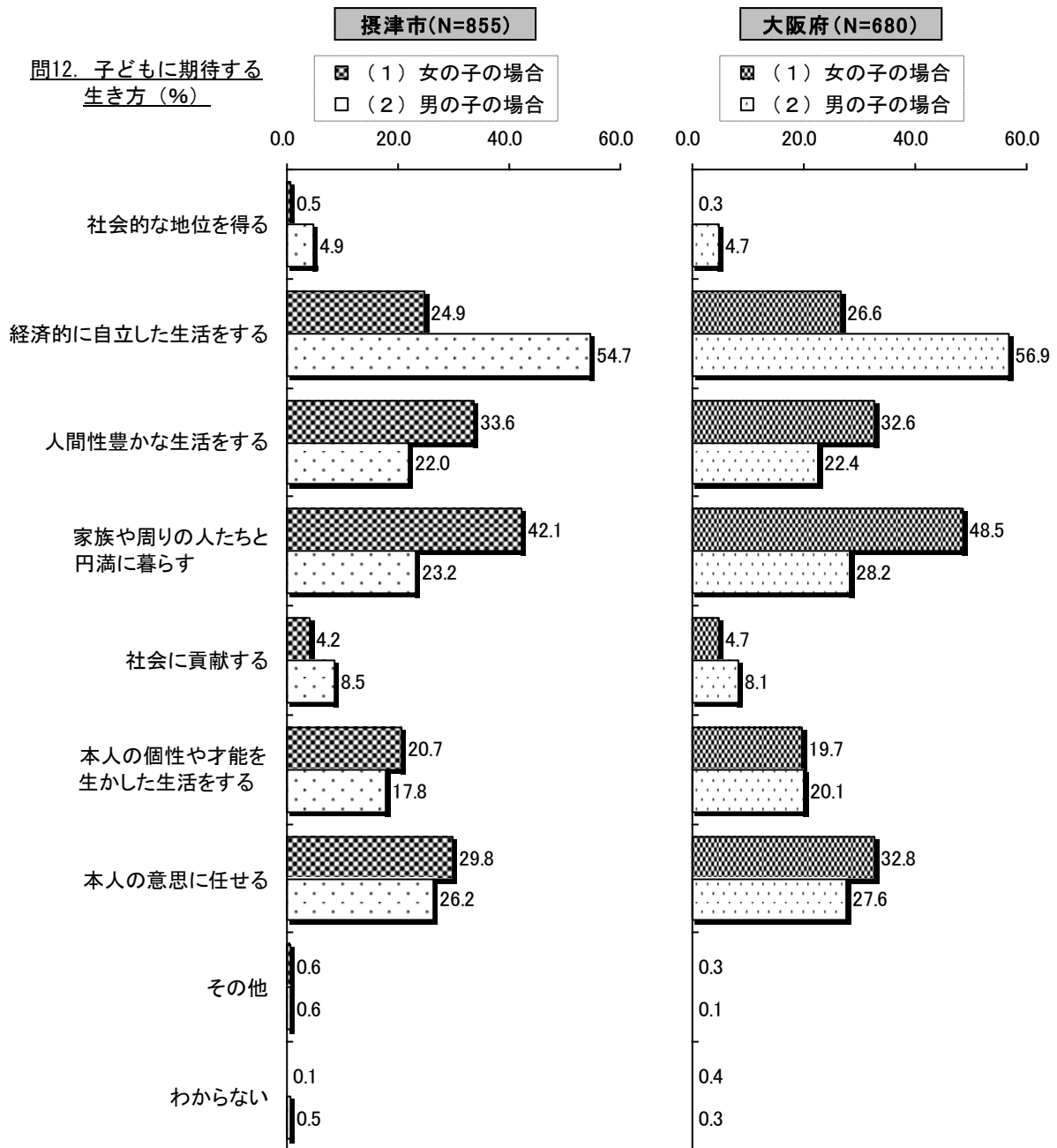
	社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人々と円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる	その他	わからない
全体 (N=855)	0.5	24.9	33.6	42.1	4.2	20.7	29.8	0.6	0.1
女性20歳代 (n=38)	2.6	21.1	39.5	50.0	2.6	36.8	31.6	0.0	0.0
女性30歳代 (n=113)	0.9	32.7	39.8	46.0	4.4	25.7	28.3	0.9	0.0
女性40歳代 (n=75)	0.0	37.3	30.7	42.7	5.3	18.7	26.7	0.0	0.0
女性50歳代 (n=83)	0.0	45.8	33.7	32.5	2.4	19.3	25.3	0.0	0.0
女性60歳代 (n=117)	0.9	30.8	29.9	48.7	3.4	21.4	26.5	0.0	0.0
女性70歳以上 (n=58)	0.0	19.0	29.3	50.0	3.4	13.8	34.5	0.0	0.0
男性20歳代 (n=33)	0.0	15.2	27.3	39.4	6.1	27.3	33.3	0.0	0.0
男性30歳代 (n=67)	0.0	11.9	38.8	38.8	6.0	22.4	32.8	3.0	0.0
男性40歳代 (n=46)	0.0	10.9	37.0	47.8	4.3	17.4	26.1	0.0	0.0
男性50歳代 (n=65)	0.0	13.8	33.8	26.2	10.8	21.5	36.9	0.0	0.0
男性60歳代 (n=99)	0.0	15.2	35.4	39.4	3.0	19.2	30.3	1.0	1.0
男性70歳以上 (n=58)	1.7	20.7	25.9	46.6	0.0	8.6	32.8	1.7	0.0

問12（2）男の子の場合（％）性・年齢別

	社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人々と円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる	その他	わからない
全体 (N=855)	4.9	54.7	22.0	23.2	8.5	17.8	26.2	0.6	0.5
女性20歳代 (n=38)	5.3	47.4	31.6	26.3	5.3	23.7	31.6	0.0	0.0
女性30歳代 (n=113)	7.1	54.0	27.4	32.7	7.1	22.1	18.6	1.8	0.0
女性40歳代 (n=75)	2.7	68.0	24.0	30.7	9.3	16.0	18.7	0.0	0.0
女性50歳代 (n=83)	4.8	66.3	24.1	15.7	8.4	22.9	19.3	0.0	0.0
女性60歳代 (n=117)	3.4	65.0	13.7	20.5	4.3	12.0	33.3	0.0	0.0
女性70歳以上 (n=58)	5.2	43.1	13.8	19.0	10.3	8.6	24.1	0.0	1.7
男性20歳代 (n=33)	12.1	33.3	18.2	30.3	18.2	21.2	39.4	0.0	0.0
男性30歳代 (n=67)	7.5	43.3	32.8	17.9	10.4	16.4	29.9	3.0	1.5
男性40歳代 (n=46)	2.2	50.0	23.9	28.3	4.3	17.4	28.3	0.0	0.0
男性50歳代 (n=65)	6.2	43.1	15.4	15.4	9.2	24.6	38.5	0.0	1.5
男性60歳代 (n=99)	3.0	57.6	21.2	23.2	14.1	16.2	20.2	0.0	0.0
男性70歳以上 (n=58)	3.4	58.6	20.7	20.7	5.2	17.2	25.9	1.7	1.7

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「家族や周りの人たちと円満に暮らす」がやや少ないが、男の子、女の子に対する意識面ではほぼ同傾向にある。

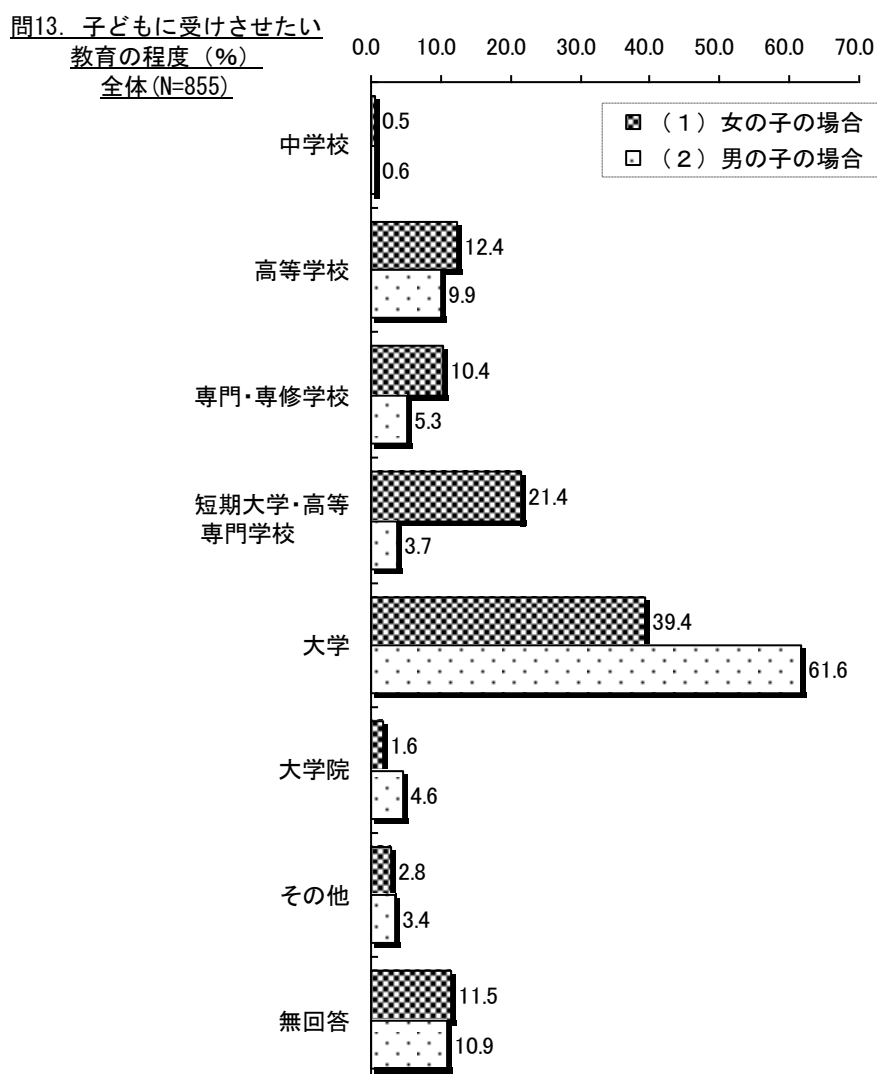


2. 子どもに受けさせたい教育の程度

問 13. あなたの子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方も、仮にいと想定してお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

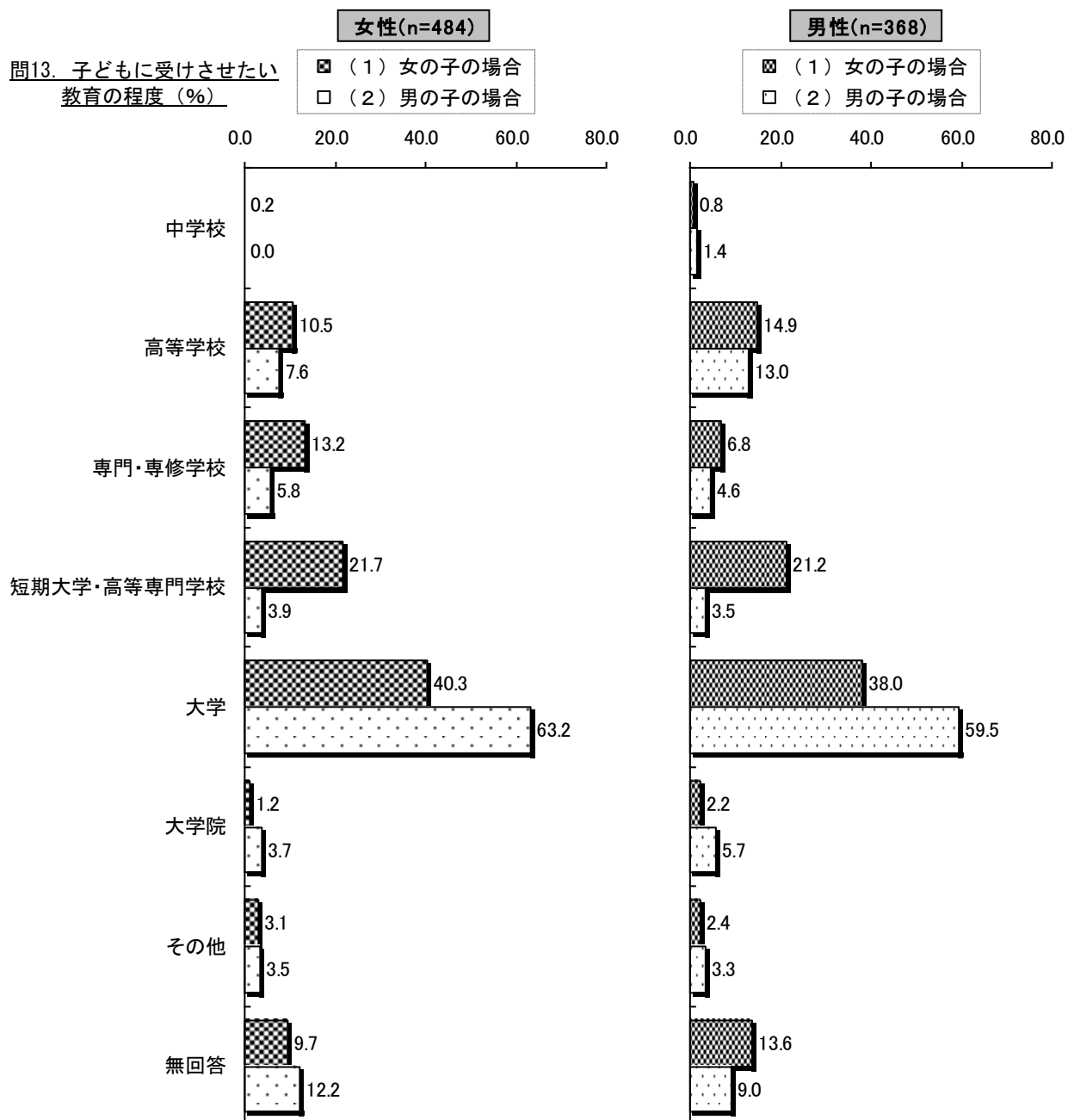
子どもに受けさせたい教育の程度について、女の子の場合への回答をみると「大学」が 39.4%と最も多く、次いで「短期大学・高等専門学校」(21.4%)、「高等学校」(12.4%)、「専門・専修学校」(10.4%)の順となっている。男の子の場合への回答をみると「大学」(61.6%)にほぼ特化している。

女の子と男の子の差が大きい項目として「大学」で男の子が女の子を大きく上回り、「短期大学・高等専門学校」では女の子が男の子を大きく上回っていることがあげられる。



性別でみると、男女ともに子供に受けさせたい教育の程度はほぼ同傾向を示しており、大きな男女差は目立たない。

性・年齢別では、男女ともに年齢の若い層ほど女の子に「大学」を期待しており、60歳代～70歳以上では「短期大学・高等専門学校」「専門・専修学校」などが他の年齢層に比べ多くなっている。男の子に対しては、特に女性20歳代で「大学」、男性20歳代で「高等学校」が多くなっている。



問13 (1) 女の子の場合 (%) 性・年齢別

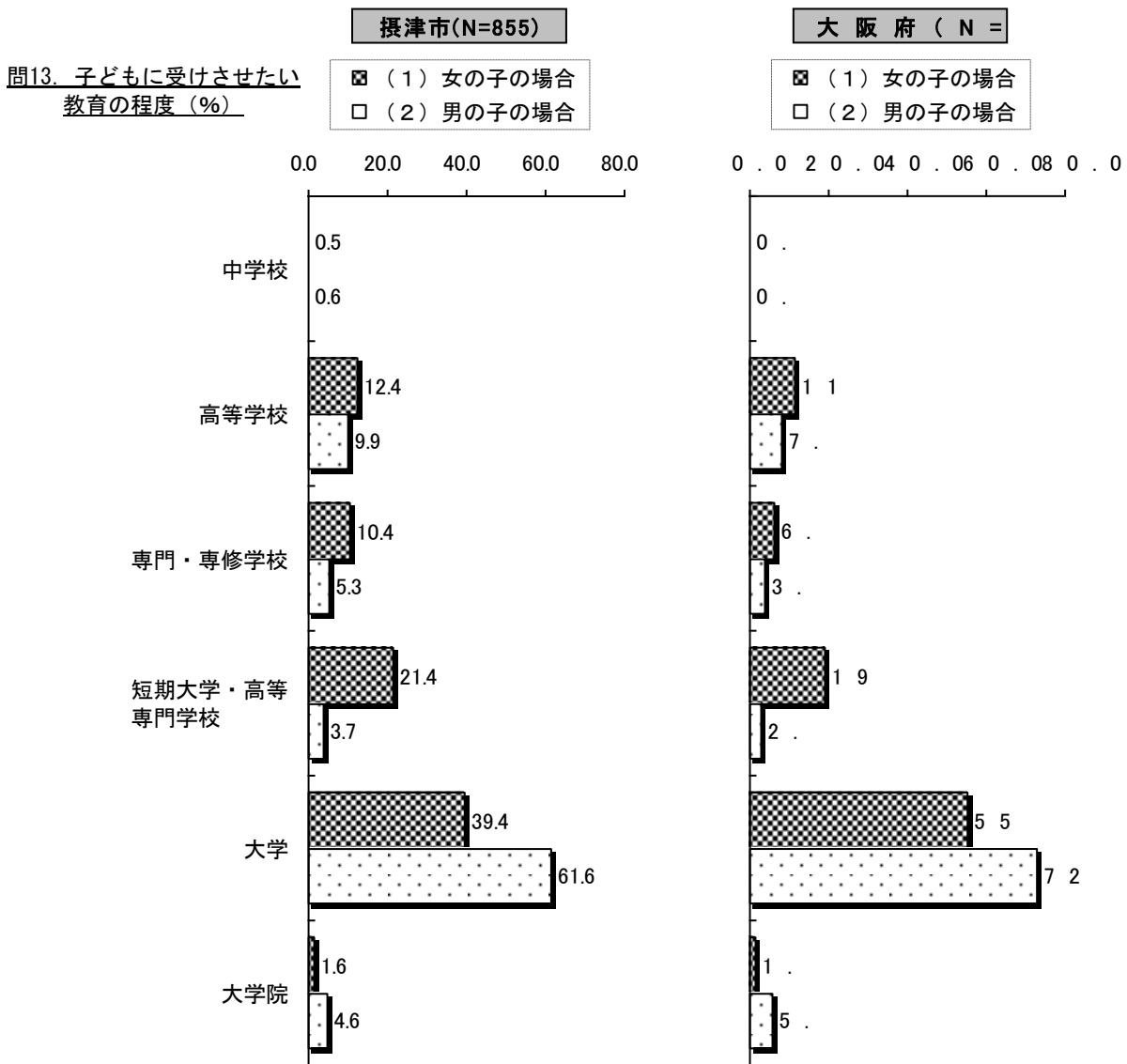
	中学校	高等学校	専門・専修学校	学短期 校期大 学学 ・高 等専 門	大学	大学院	その他
全体 (N=855)	0.5	12.4	10.4	21.4	39.4	1.6	2.8
女性20歳代 (n=38)	0.0	15.8	2.6	23.7	52.6	0.0	2.6
女性30歳代 (n=113)	0.0	12.4	12.4	13.3	46.0	1.8	3.5
女性40歳代 (n=75)	0.0	12.0	12.0	17.3	37.3	1.3	6.7
女性50歳代 (n=83)	1.2	3.6	8.4	22.9	42.2	3.6	3.6
女性60歳代 (n=117)	0.0	12.0	17.1	29.9	33.3	0.0	1.7
女性70歳以上 (n=58)	0.0	8.6	22.4	24.1	36.2	0.0	0.0
男性20歳代 (n=33)	0.0	15.2	0.0	6.1	51.5	6.1	6.1
男性30歳代 (n=67)	1.5	10.4	4.5	22.4	46.3	3.0	0.0
男性40歳代 (n=46)	0.0	17.4	6.5	6.5	41.3	2.2	4.3
男性50歳代 (n=65)	1.5	15.4	4.6	15.4	41.5	1.5	6.2
男性60歳代 (n=99)	1.0	16.2	8.1	30.3	31.3	2.0	0.0
男性70歳以上 (n=58)	0.0	15.5	13.8	31.0	25.9	0.0	1.7

問13 (2) 男の子の場合 (%) 性・年齢別

	中学校	高等学校	専門・専修学校	学短期 校期大 学学 ・高 等専 門	大学	大学院	その他
全体 (N=855)	0.6	9.9	5.3	3.7	61.6	4.6	3.4
女性20歳代 (n=38)	0.0	10.5	2.6	2.6	71.1	0.0	2.6
女性30歳代 (n=113)	0.0	11.5	5.3	5.3	55.8	3.5	4.4
女性40歳代 (n=75)	0.0	12.0	4.0	0.0	66.7	4.0	5.3
女性50歳代 (n=83)	0.0	7.2	7.2	3.6	57.8	6.0	3.6
女性60歳代 (n=117)	0.0	2.6	5.1	6.8	67.5	3.4	3.4
女性70歳以上 (n=58)	0.0	3.4	10.3	1.7	67.2	3.4	0.0
男性20歳代 (n=33)	0.0	24.2	0.0	0.0	54.5	9.1	6.1
男性30歳代 (n=67)	3.0	11.9	4.5	1.5	64.2	6.0	3.0
男性40歳代 (n=46)	0.0	13.0	6.5	0.0	58.7	0.0	4.3
男性50歳代 (n=65)	3.1	12.3	4.6	4.6	53.8	7.7	6.2
男性60歳代 (n=99)	1.0	13.1	6.1	7.1	56.6	8.1	1.0
男性70歳以上 (n=58)	0.0	8.6	3.4	3.4	69.0	1.7	1.7

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「大学」が男の子、女の子ともにやや少なく、「専門・専修学校」「短期大学・高等専門学校」が男の子、女の子ともにやや多くなっているが、全体的には、ほぼ同傾向にある。

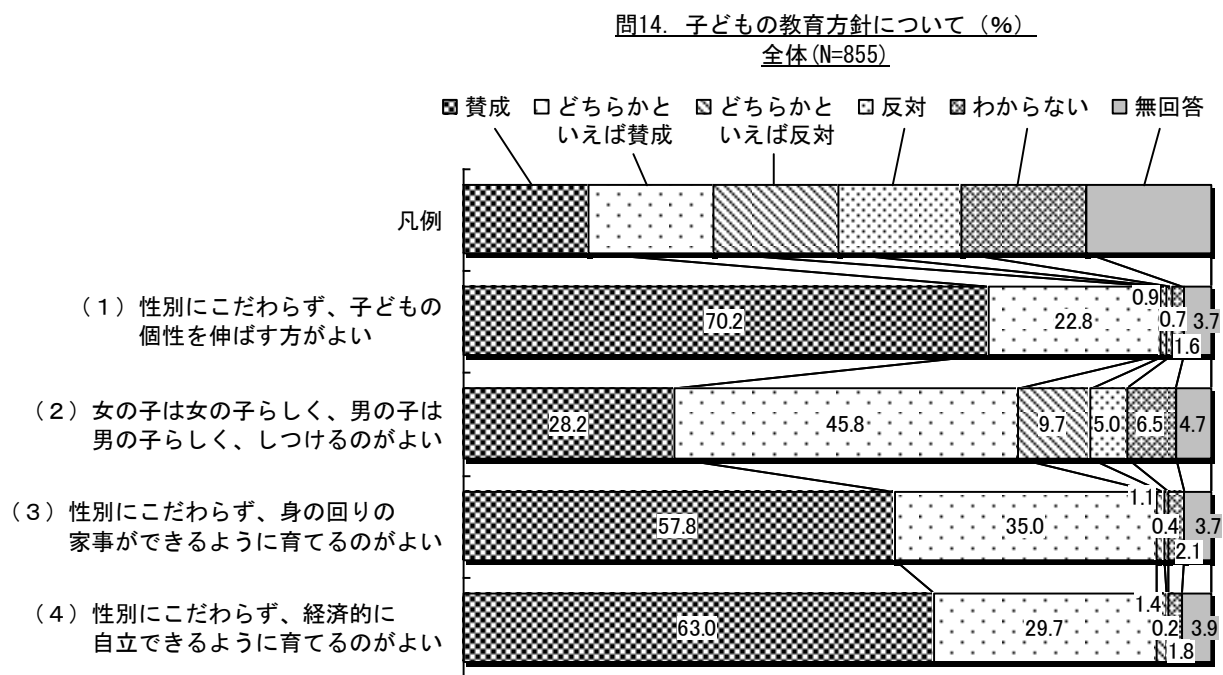


注：「その他」「無回答」は

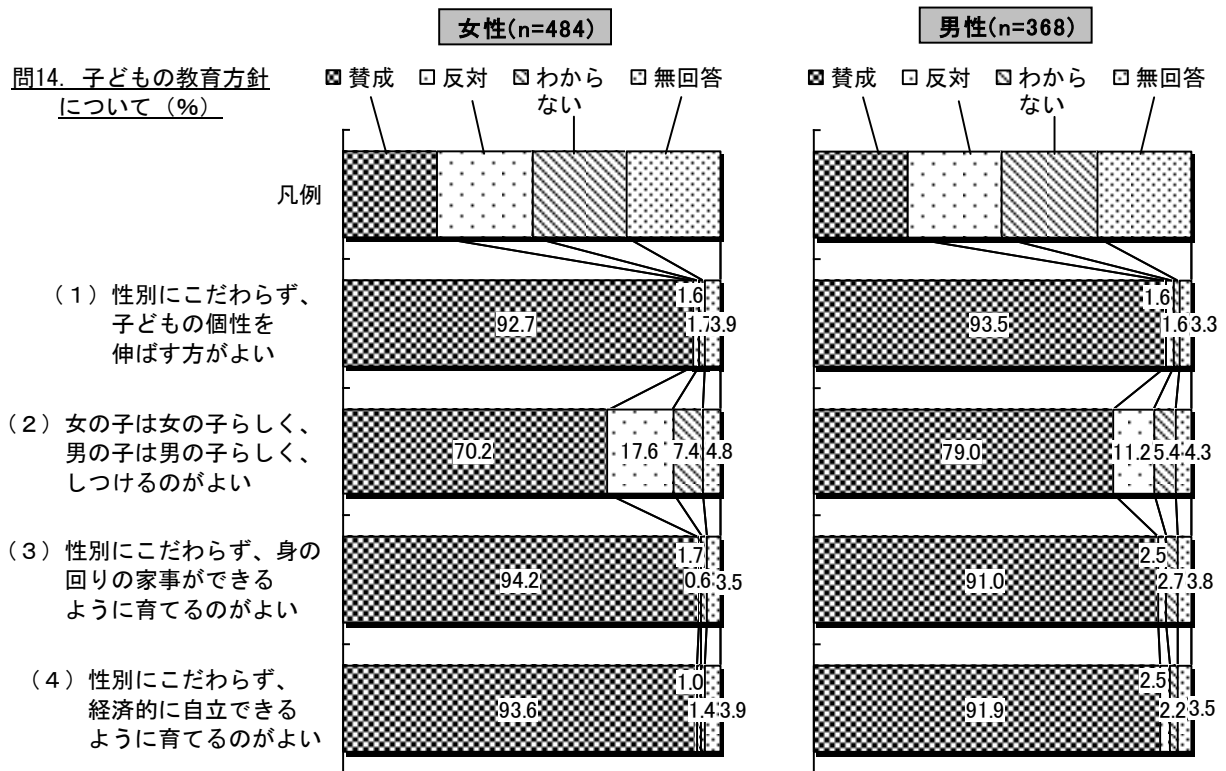
3. 子どもの教育方針について

問 14. 家庭における子どもの教育方針について、あなたのご意見をおたずねします。次の各項目について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

子どもの教育方針について、「賛成」への回答をみると「(1) 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい」が 70.2%と最も多く、次いで「(4) 性別にこだわらず、経済的に自立できるように育てるのがよい」(63.0%)、「(3) 性別にこだわらず、身の回りの家事ができるように育てるのがよい」(57.8%) の順となっており、「(2) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのがよい」については、「どちらかといえば賛成」の方が 45.8%と、「賛成」(28.2%) に比べ多くなっている。いずれの項目も「どちらかといえば反対」「反対」は少数派であるが、「(2) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのがよい」については、他の項目に比べ、その回答割合がやや多くなっている。



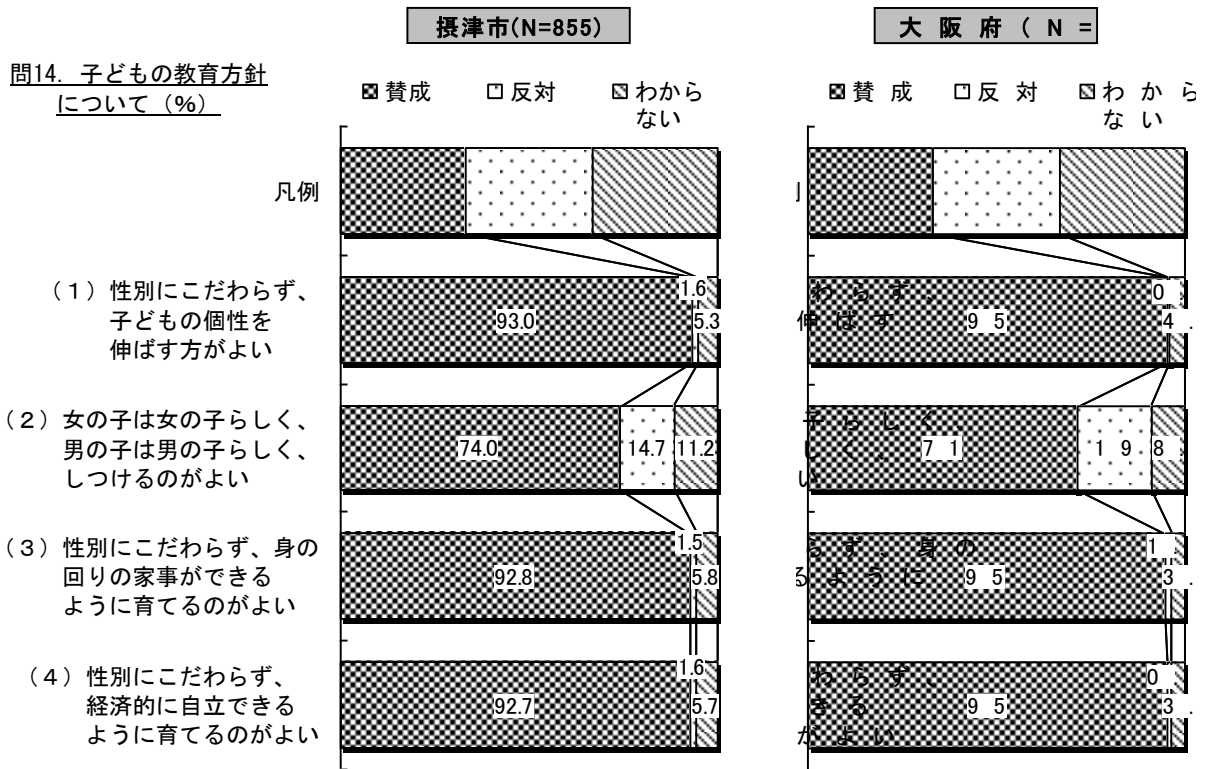
性別でみると、男女ともに子どもの教育方針については同傾向を示しているが、男性において「(2)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのがよい」への「賛成」が多くなっている。



注: 「賛成」→「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計値。
「反対」→「反対」「どちらかといえば反対」の合計値。

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「(2)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのがよい」で「反対」がやや多いが、大きな差は目立たず、大阪府とほぼ同傾向である。



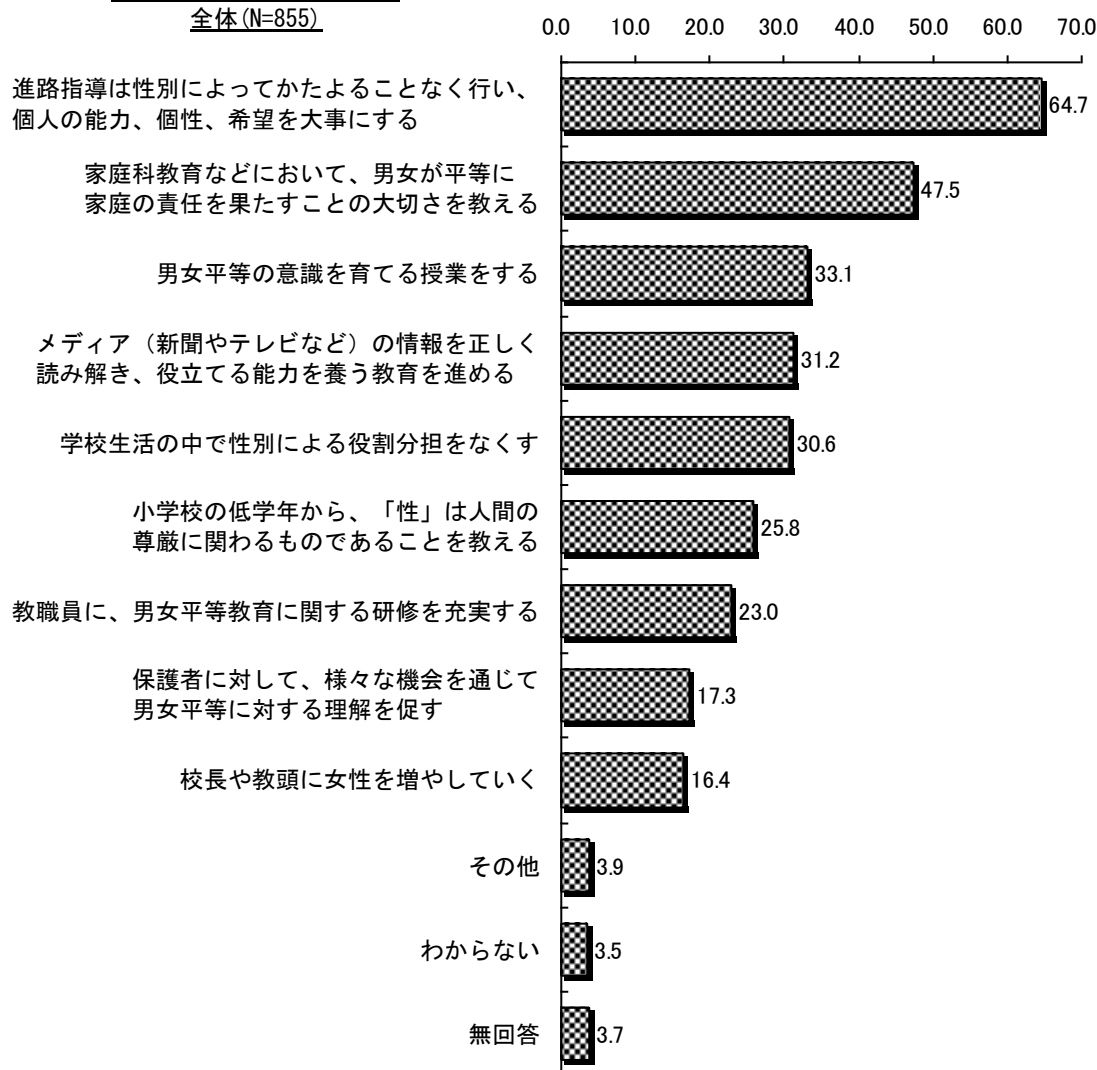
注:「わからない」には「無回答」を含めています。
 「賛成」→「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計
 「反対」→「反対」「どちらかといえば反対」の合計

4. 男女平等を進めるために小中学校で重要と思う取り組み

問 15. 男女平等を進めるために、小中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

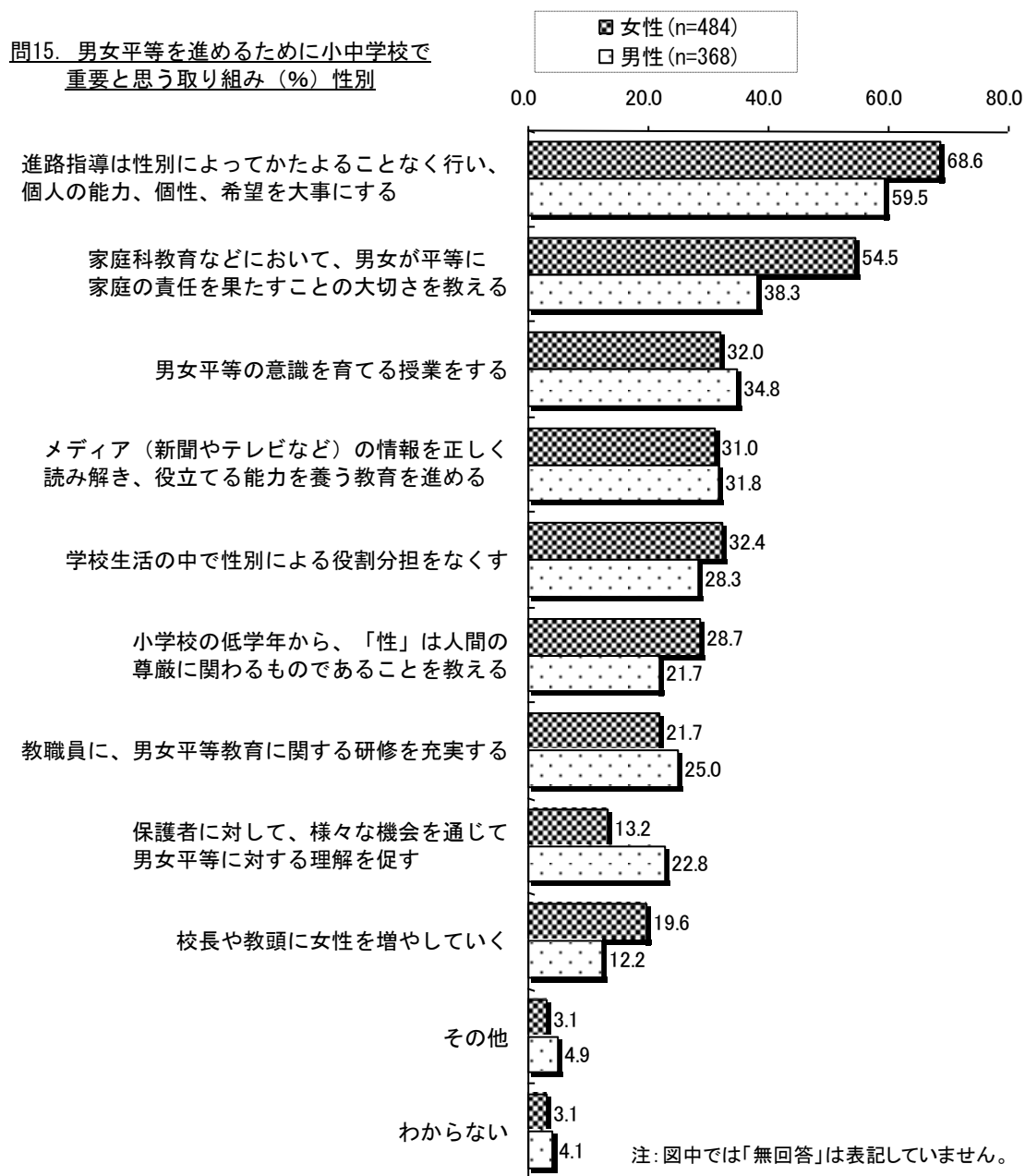
男女平等を進めるために小中学校で重要と思う取り組みについては、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」が 64.7%と 6 割以上で最も多く、次いで「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(47.5%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(33.1%)、「メディア（新聞やテレビなど）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」(31.2%)、「学校生活の中で性別による役割分担をなくす」(30.6%) の順となっている。

問15. 男女平等を進めるために小中学校で
重要と思う取り組み (%)
全体 (N=855)



性別でみると、女性は男性に比べ「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」「小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える」「校長や教頭に女性を増やしていく」などで男性を上回っているのが目立つ。

性・年齢別では、女性 20 歳代において「教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する」「校長や教頭に女性を増やしていく」、女性 70 歳以上で「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」「男女平等の意識を育てる授業をする」「小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。



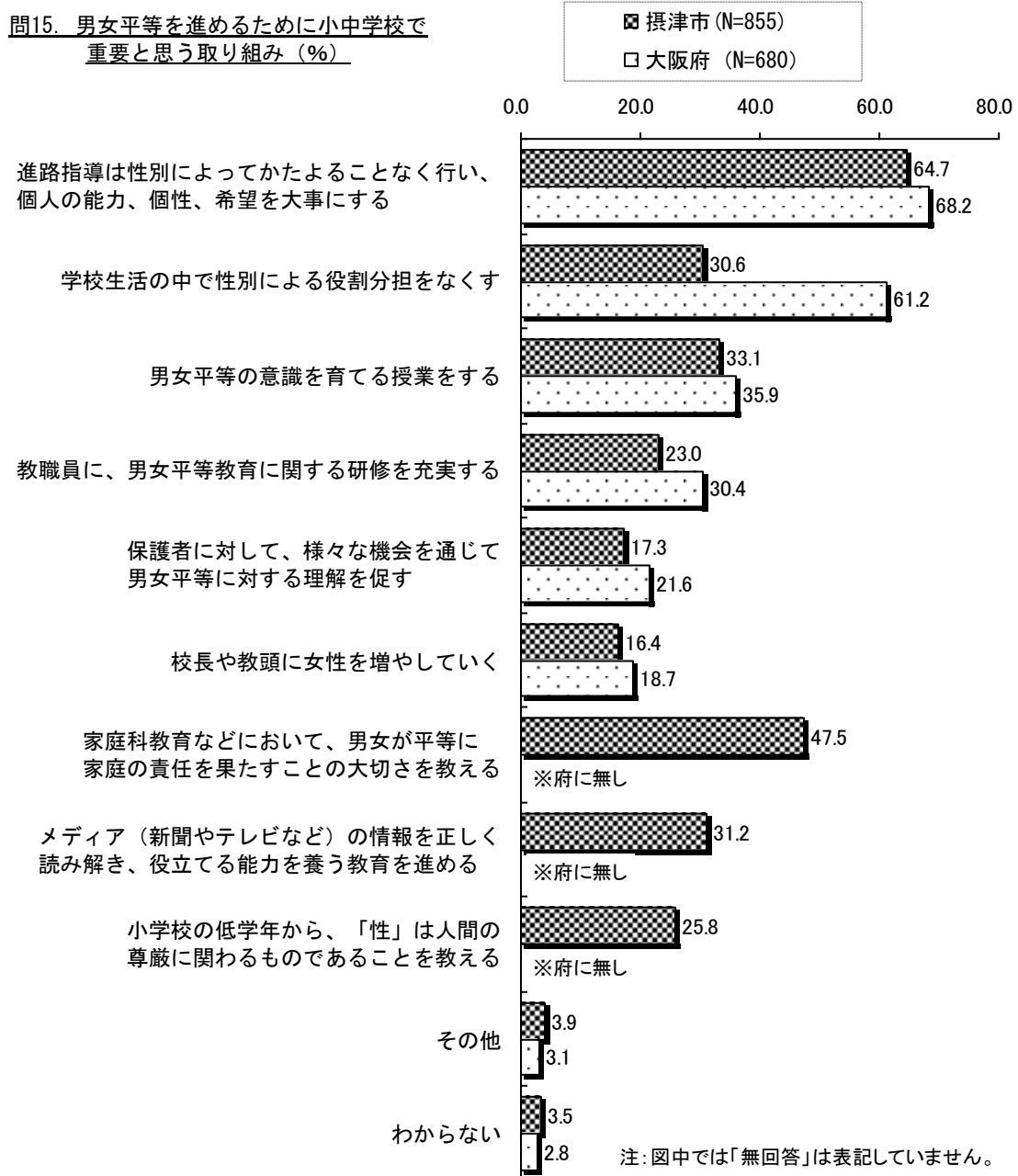
問15. 男女平等を進めるために小中学校で重要と思う取り組み（％）性・年齢別

	く学校すよる生活の役割分担を性別	て男する女授業等の意識を育	事力なよ進に、くつ路す個性いか導、たは希望人のことを大能	あ尊ら小充教教増校 る厳、学実育職員に、 こと一校に関する男 をわー校の低は学 えも人年か るの間のの	23.0	16.4
全体 (N=855)	30.6	33.1	64.7	25.8	23.0	16.4
女性20歳代 (n=38)	39.5	39.5	68.4	13.2	39.5	34.2
女性30歳代 (n=113)	31.9	29.2	65.5	19.5	23.9	26.5
女性40歳代 (n=75)	36.0	32.0	66.7	22.7	17.3	12.0
女性50歳代 (n=83)	34.9	30.1	73.5	34.9	18.1	14.5
女性60歳代 (n=117)	29.9	24.8	74.4	35.9	19.7	18.8
女性70歳以上 (n=58)	25.9	50.0	58.6	41.4	20.7	15.5
男性20歳代 (n=33)	27.3	30.3	60.6	12.1	18.2	18.2
男性30歳代 (n=67)	32.8	25.4	56.7	13.4	29.9	19.4
男性40歳代 (n=46)	37.0	34.8	56.5	8.7	17.4	10.9
男性50歳代 (n=65)	23.1	33.8	47.7	27.7	16.9	4.6
男性60歳代 (n=99)	30.3	39.4	71.7	29.3	29.3	14.1
男性70歳以上 (n=58)	19.0	41.4	56.9	27.6	31.0	6.9

	るこ家い家 と庭の、科 大責男教 切任女育 さを果平 教た等 えすにお	育立正レメ をてしくビ 進るくなイ め能読どア 力をみ)の を解の新 養き情聞 う、報や 教役をテ	解男様保 を女々護 促平な者 す等機に に会を対 対する通 するじ、 理て	そ 他	わ か ら な い
全体 (N=855)	47.5	31.2	17.3	3.9	3.5
女性20歳代 (n=38)	36.8	21.1	10.5	2.6	0.0
女性30歳代 (n=113)	54.9	26.5	12.4	3.5	4.4
女性40歳代 (n=75)	53.3	32.0	5.3	1.3	5.3
女性50歳代 (n=83)	53.0	39.8	20.5	3.6	1.2
女性60歳代 (n=117)	57.3	29.9	10.3	2.6	3.4
女性70歳以上 (n=58)	63.8	34.5	22.4	5.2	1.7
男性20歳代 (n=33)	42.4	45.5	27.3	3.0	3.0
男性30歳代 (n=67)	26.9	26.9	14.9	11.9	7.5
男性40歳代 (n=46)	32.6	32.6	10.9	4.3	2.2
男性50歳代 (n=65)	35.4	30.8	23.1	6.2	3.1
男性60歳代 (n=99)	43.4	31.3	30.3	1.0	2.0
男性70歳以上 (n=58)	48.3	31.0	25.9	3.4	6.9

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、「学校生活の中で性別による役割分担をなくす」で大阪府との差が大きいが、学校生活に関する選択肢が全く同一ではないため、ここでは参考にとどめる



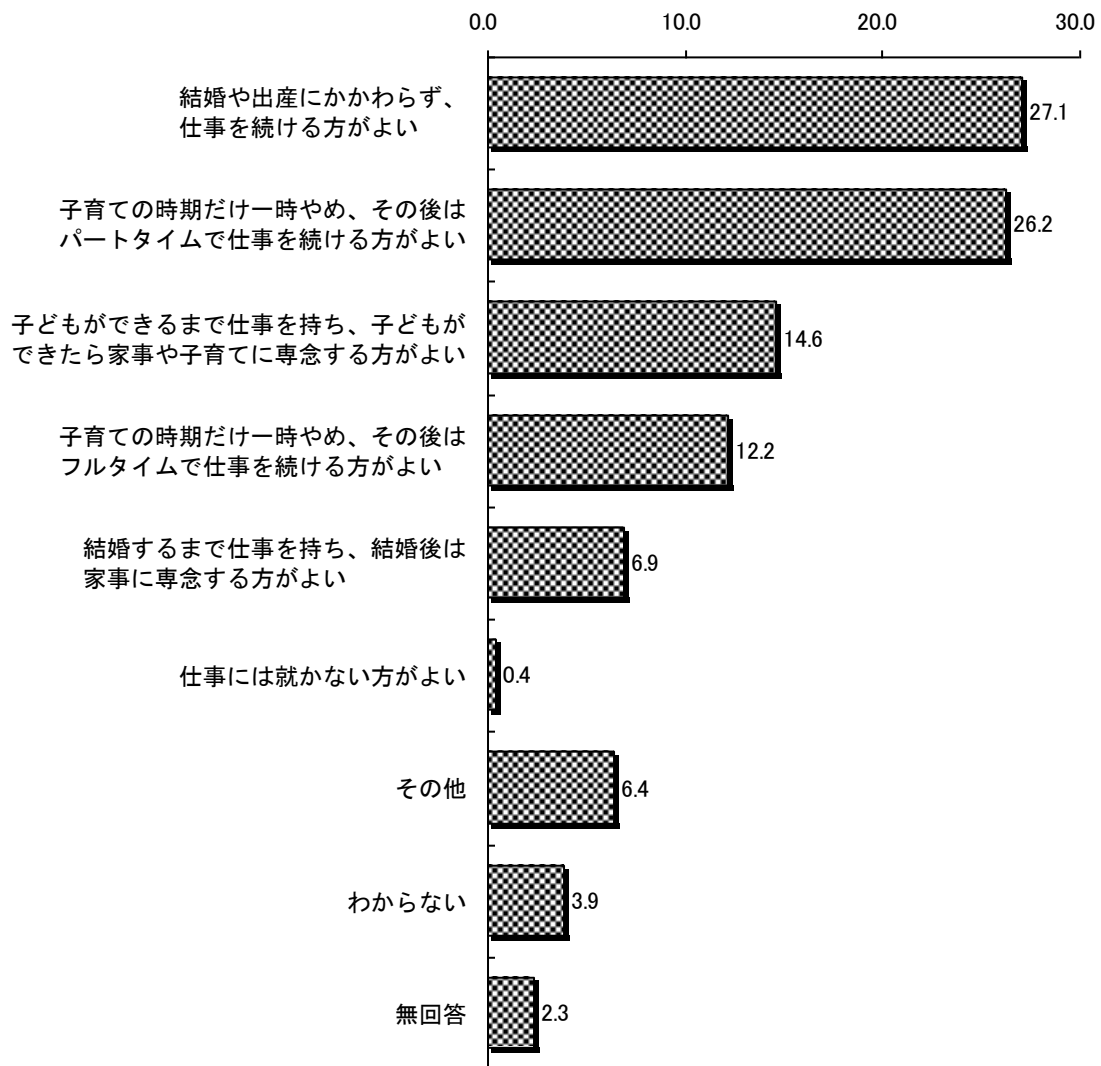
【3】働き方について

1. 女性が職業を持つことについて

問 16. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(〇は1つ)

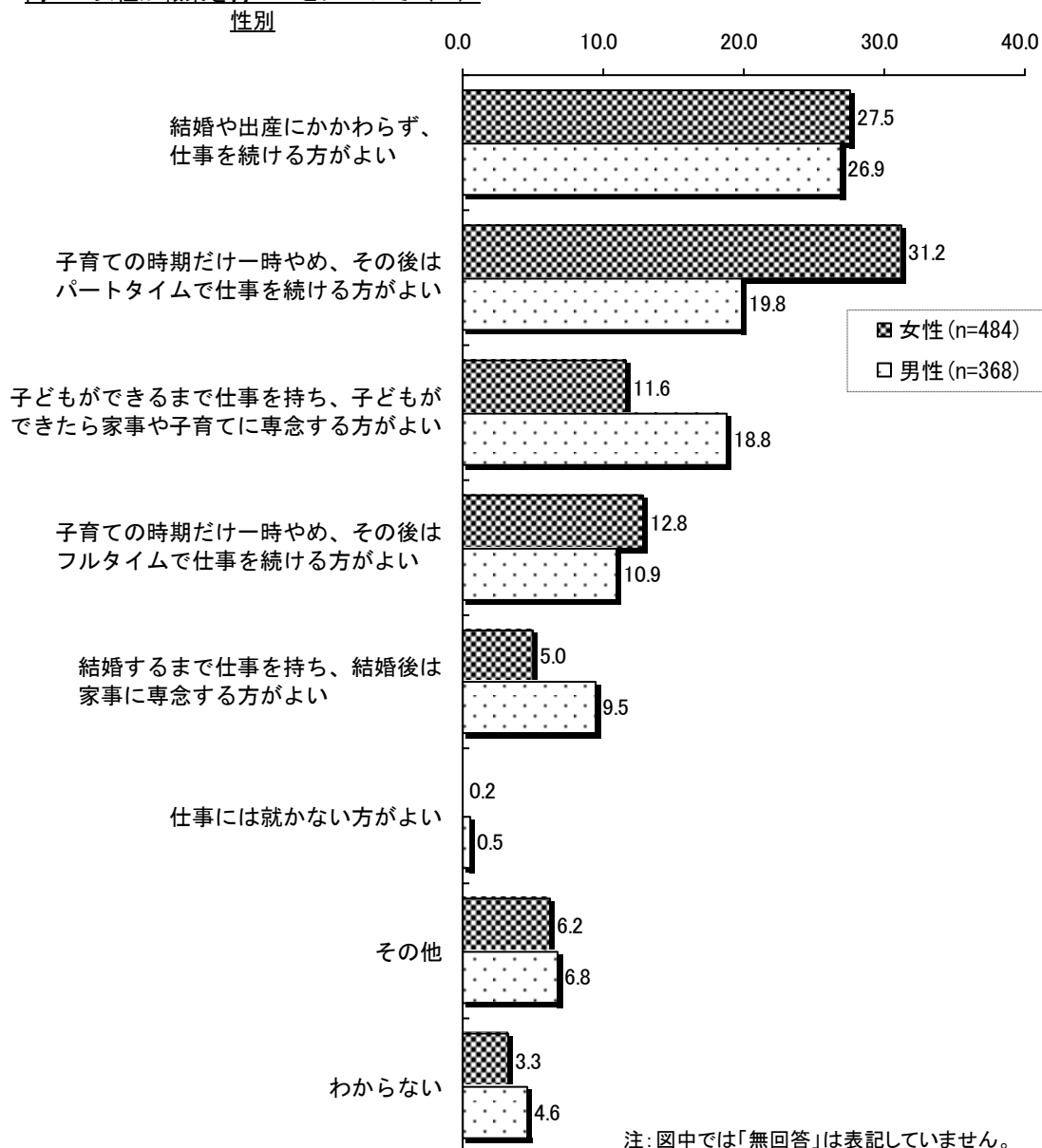
女性が職業を持つことについては、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が27.1%で最も多く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」(26.2%)、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい」(14.6%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」(12.2%)の順となっている。

問16. 女性が職業を持つことについて (%)
全体(N=855)



性別でみると、女性は男性に比べ「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」、男性は「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい」「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する方がよい」がそれぞれ多い点で、男女差がみられる。

問16. 女性が職業を持つことについて (%)



性・年齢別で見ると、女性 20 歳代で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」、女性 70 歳以上で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」、男性 20 歳代では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」、男性 60 歳代で「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

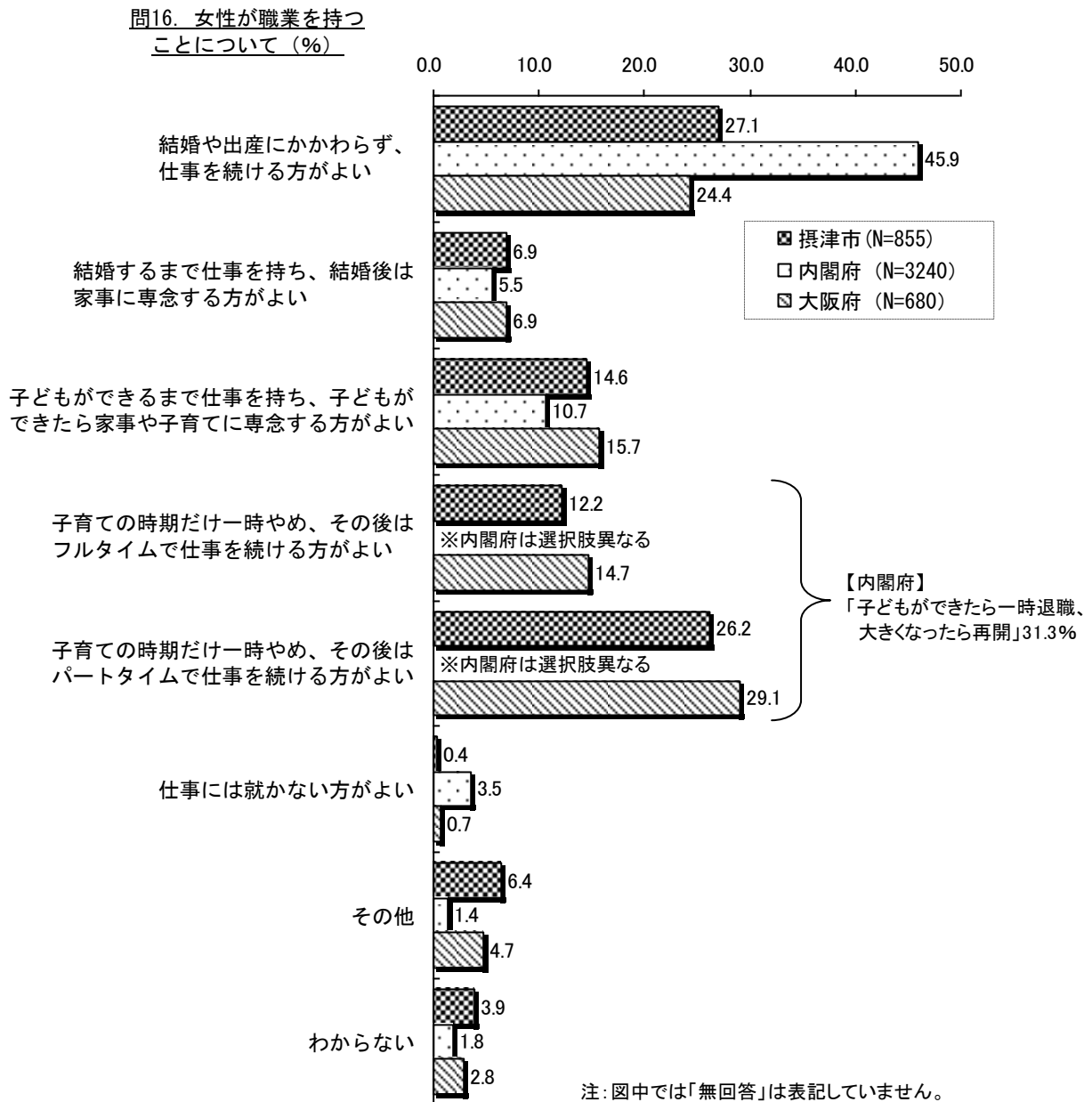
性・収入別で見ると、女性では年収が低い層ほど「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」、年収が高い層ほど「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」などがそれぞれ多いことが特徴的である。

問16. 女性が職業を持つことについて (%) 性・年齢別、性・収入別

	方 が 結 婚 し 、 子 育 て の 期 間 に は 専 念 す る 方 が よ い	を パ ー ト タ イ ム で し づ く と し て し る 方 が よ い	子 育 て の 期 間 に は 専 念 す る 方 が よ い	よ う に し て し る 方 が よ い	が し づ く と し て し る 方 が よ い	子 育 て の 期 間 に は 専 念 す る 方 が よ い	け る タ イ ム で し づ く と し て し る 方 が よ い	に 持 続 し て し る 方 が よ い	結 婚 し 、 子 育 て の 期 間 に は 専 念 す る 方 が よ い	が し づ く と し て し る 方 が よ い	そ の 他	わ か ら な い
全体 (N=855)	27.1	26.2	14.6	12.2	6.9	0.4	6.4	3.9				
女性20歳代 (n=38)	28.9	36.8	5.3	5.3	7.9	0.0	13.2	2.6				
女性30歳代 (n=113)	35.4	32.7	6.2	12.4	1.8	0.0	5.3	3.5				
女性40歳代 (n=75)	25.3	30.7	16.0	8.0	4.0	0.0	10.7	5.3				
女性50歳代 (n=83)	34.9	20.5	16.9	12.0	2.4	1.2	4.8	3.6				
女性60歳代 (n=117)	22.2	34.2	10.3	15.4	8.5	0.0	5.1	0.9				
女性70歳以上 (n=58)	13.8	34.5	15.5	20.7	6.9	0.0	1.7	5.2				
男性20歳代 (n=33)	39.4	18.2	12.1	9.1	3.0	0.0	15.2	3.0				
男性30歳代 (n=67)	31.3	16.4	14.9	9.0	4.5	0.0	10.4	10.4				
男性40歳代 (n=46)	28.3	21.7	17.4	8.7	8.7	2.2	8.7	2.2				
男性50歳代 (n=65)	30.8	18.5	12.3	15.4	10.8	0.0	6.2	4.6				
男性60歳代 (n=99)	20.2	21.2	27.3	11.1	12.1	0.0	4.0	1.0				
男性70歳以上 (n=58)	20.7	22.4	20.7	10.3	13.8	1.7	1.7	6.9				
女性 / 0円 (n=107)	18.7	39.3	15.0	8.4	6.5	0.9	4.7	4.7				
女性 / 103万円未満 (n=144)	23.6	38.2	9.7	13.2	3.5	0.0	6.3	2.8				
女性 / 103~200万円未満 (n=93)	29.0	29.0	15.1	12.9	4.3	0.0	4.3	2.2				
女性 / 200~400万円未満 (n=85)	34.1	23.5	11.8	14.1	4.7	0.0	8.2	2.4				
女性 / 400~600万円未満 (n=24)	50.0	8.3	0.0	20.8	0.0	0.0	8.3	8.3				
女性 / 600万円以上 (n=15)	53.3	6.7	6.7	20.0	0.0	0.0	13.3	0.0				
男性 / 0円 (n=21)	14.3	14.3	14.3	0.0	9.5	4.8	14.3	14.3				
男性 / 103万円未満 (n=34)	20.6	20.6	17.6	14.7	8.8	0.0	8.8	8.8				
男性 / 103~200万円未満 (n=31)	29.0	22.6	22.6	6.5	12.9	0.0	0.0	3.2				
男性 / 200~400万円未満 (n=147)	28.6	19.7	17.7	12.2	9.5	0.7	6.8	3.4				
男性 / 400~600万円未満 (n=73)	26.0	20.5	23.3	11.0	6.8	0.0	6.8	4.1				
男性 / 600万円以上 (n=51)	33.3	17.6	17.6	13.7	7.8	0.0	7.8	0.0				

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

内閣府との比較では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」で差が大きいですが、大阪府との比較ではほぼ同傾向となっている。



2. 実際の働き方

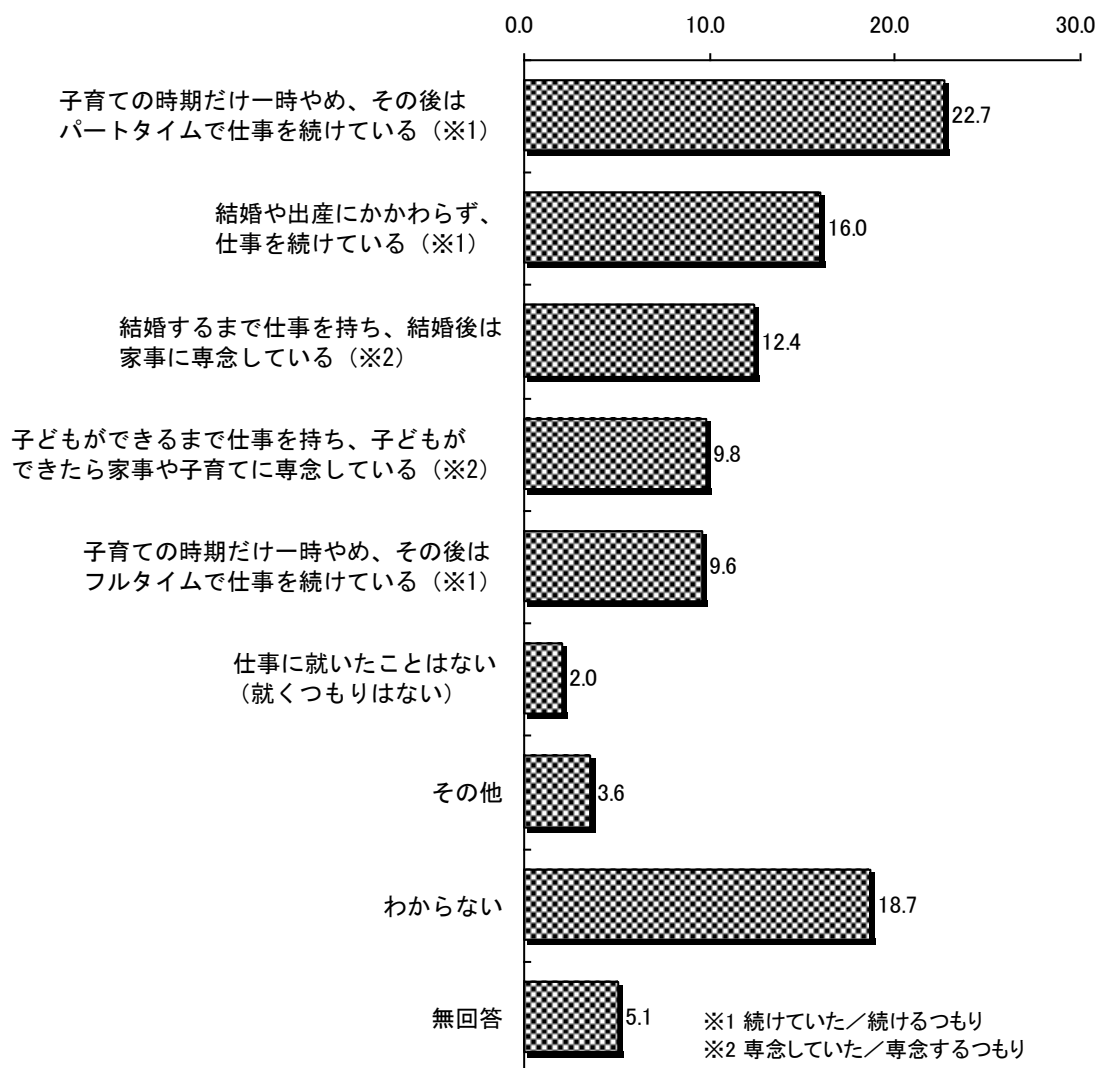
問 16-2. 女性の方 → あなたの場合、実際には、どれにあたりますか。又はどのようにされるつもりですか。(○は1つ)

男性の方 → あなたの配偶者の場合、実際には、どれにあたりますか。またはどのようにされると思いますか。(○は1つ)

* 未婚の方は8をお選びください。

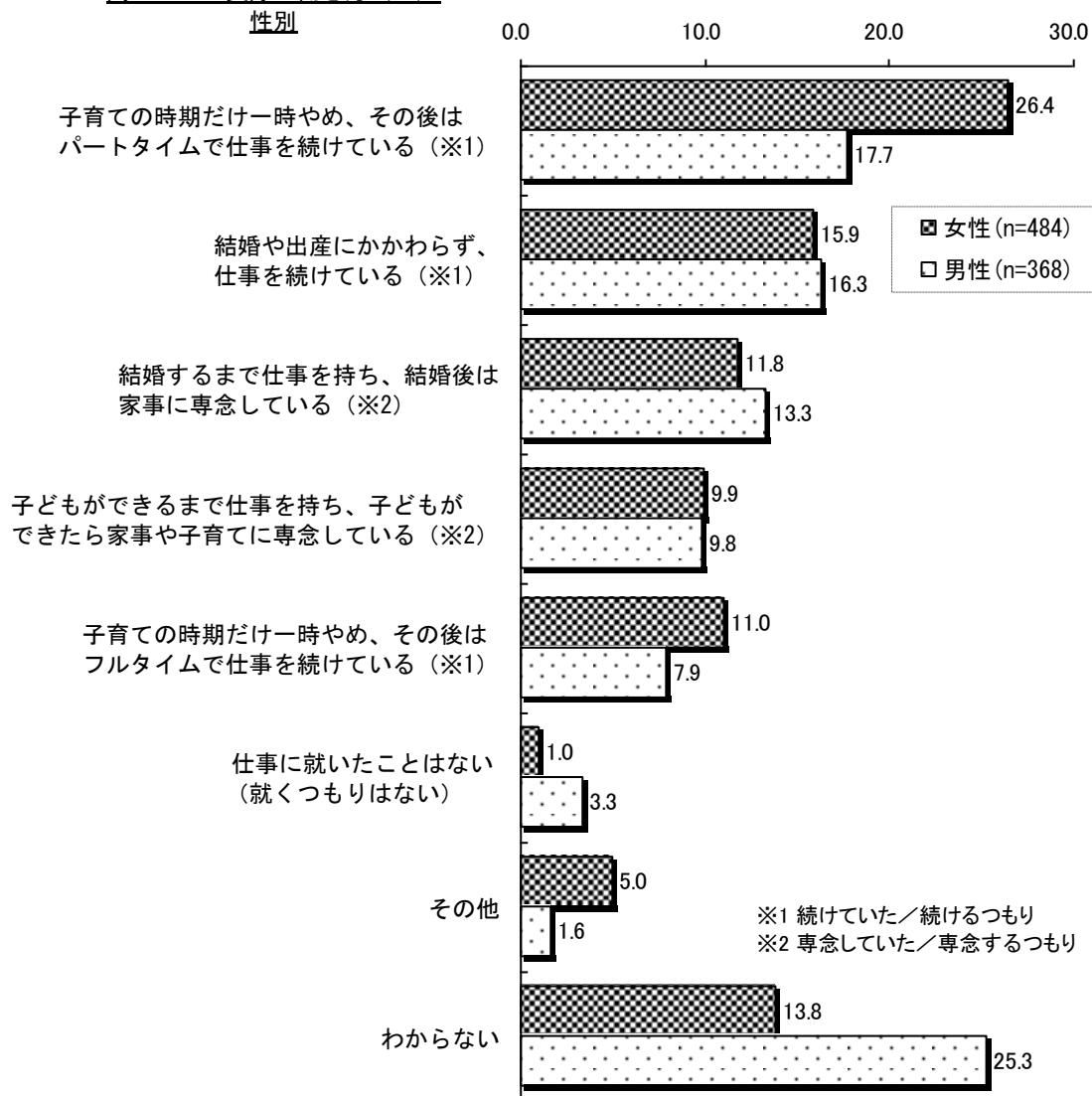
実際の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(※1)」が22.7%と最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(※1)」(16.0%)、「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(※2)」(12.4%)、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念している(※2)」(9.8%)の順となっているが、「わからない」も18.7%みられた。

問16-2. 実際の働き方 (%)
全体(N=855)



性別でみると、女性は男性に比べ「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（※1）」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（※1）」が多くなっている。また、男性は「（配偶者が）仕事に就いたことはない（就くつもりはない）」で女性をやや上回っている。

問16-2. 実際の働き方 (%)



性・年齢別では、男女ともに30歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念している（専念していた／専念するつもり）」が他の年齢層に比べ多くなっている。女性50歳代では「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）」、男女ともに年齢が上がるほど「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」などが多くなっている。

さらに、性・働き方でみると、女性／契約・パート等において「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」、女性／自営業主・経営者で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」、男性／自営手伝い等で「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念している（専念していた／専念するつもり）」などがそれぞれ他の層より多くなっている。

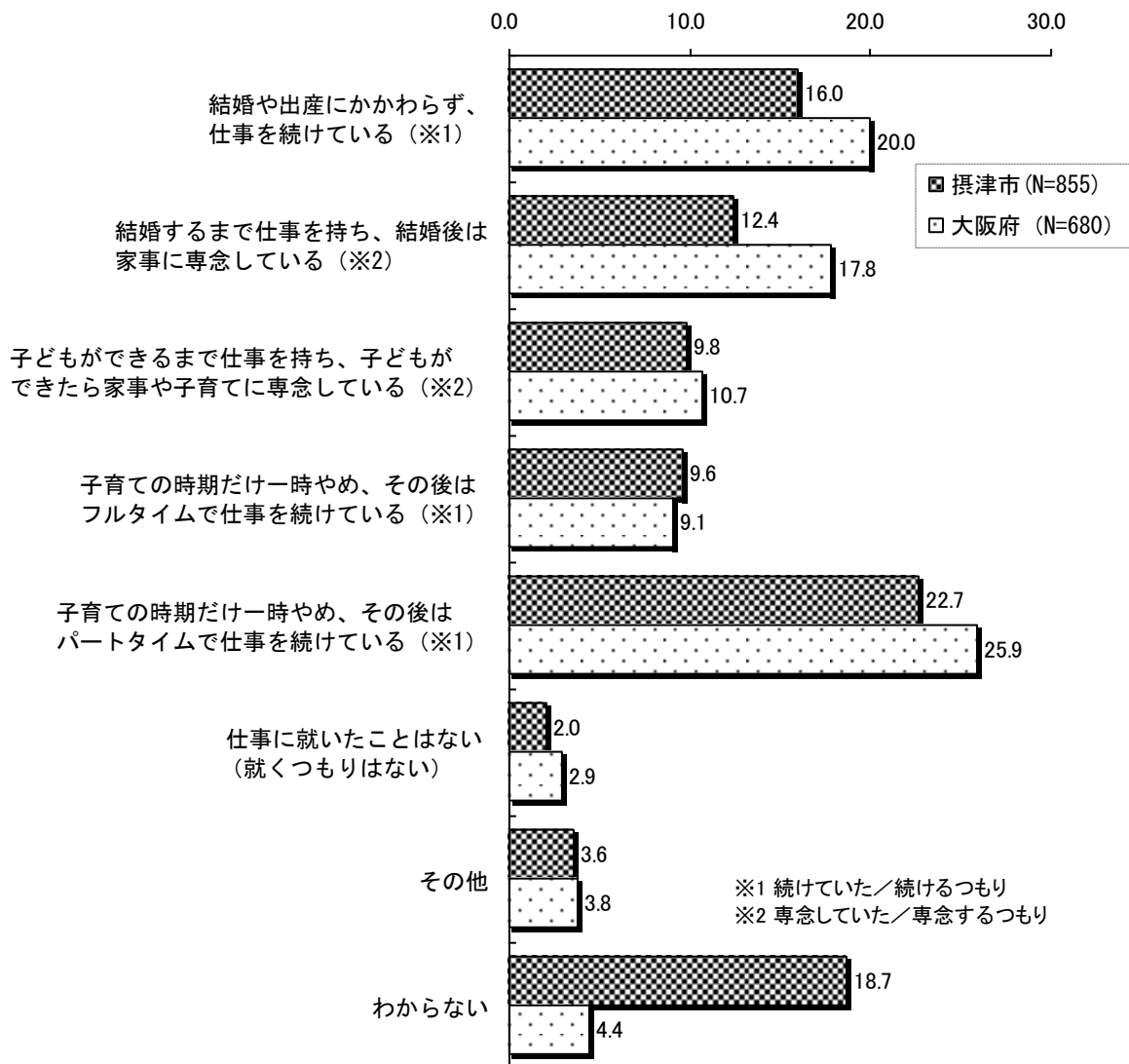
問16-2. 実際の働き方(%) 性・年齢別、性・働き方別

	子を育てるつもり(継続)	結婚後、専念する(継続)	結婚後、専念する(継続)	子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する(継続)	子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(継続)	仕事に就いたくない(継続)	その他	わからない
全体(N=855)	22.7	16.0	12.4	9.8	9.6	2.0	3.6	18.7
女性20歳代(n=38)	10.5	10.5	5.3	2.6	5.3	0.0	2.6	63.2
女性30歳代(n=113)	23.0	20.4	8.0	15.0	6.2	0.0	3.5	21.2
女性40歳代(n=75)	33.3	14.7	13.3	9.3	10.7	0.0	9.3	5.3
女性50歳代(n=83)	32.5	13.3	24.1	6.0	12.0	0.0	1.2	8.4
女性60歳代(n=117)	30.8	17.1	9.4	11.1	14.5	2.6	6.8	3.4
女性70歳以上(n=58)	17.2	13.8	8.6	8.6	15.5	3.4	5.2	6.9
男性20歳代(n=33)	6.1	12.1	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0	72.7
男性30歳代(n=67)	11.9	20.9	10.4	11.9	3.0	3.0	1.5	37.3
男性40歳代(n=46)	23.9	13.0	21.7	4.3	2.2	0.0	0.0	32.6
男性50歳代(n=65)	13.8	18.5	13.8	10.8	9.2	10.8	6.2	12.3
男性60歳代(n=99)	21.2	13.1	16.2	11.1	13.1	1.0	1.0	15.2
男性70歳以上(n=58)	24.1	19.0	12.1	10.3	12.1	1.7	0.0	10.3
女性／正社員・正職員(n=68)	2.9	33.8	1.5	0.0	14.7	0.0	2.9	41.2
女性／契約・パート等(n=142)	51.4	16.9	6.3	3.5	7.7	0.0	3.5	9.2
女性／自営業主・経営者(n=11)	9.1	45.5	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1
女性／自営手伝い等(n=22)	31.8	13.6	22.7	9.1	13.6	0.0	4.5	0.0
女性／無職(n=207)	20.8	8.2	18.4	18.4	11.1	2.4	5.8	10.1
男性／正社員・正職員(n=141)	19.1	19.9	12.8	9.9	5.0	4.3	2.1	26.2
男性／契約・パート等(n=60)	25.0	11.7	10.0	5.0	11.7	1.7	0.0	33.3
男性／自営業主・経営者(n=35)	14.3	22.9	25.7	11.4	5.7	5.7	2.9	8.6
男性／自営手伝い等(n=13)	7.7	7.7	7.7	38.5	7.7	7.7	0.0	23.1
男性／無職(n=100)	14.0	14.0	13.0	10.0	10.0	2.0	1.0	25.0

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている（続けていた／続けるつもり）」「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している（専念していた／専念するつもり）」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている（※1）」などで大阪府の割合を下回り、「わからない」が多いが、全体的にはおおむね同傾向である。

問16-2. 実際の働き方 (%)



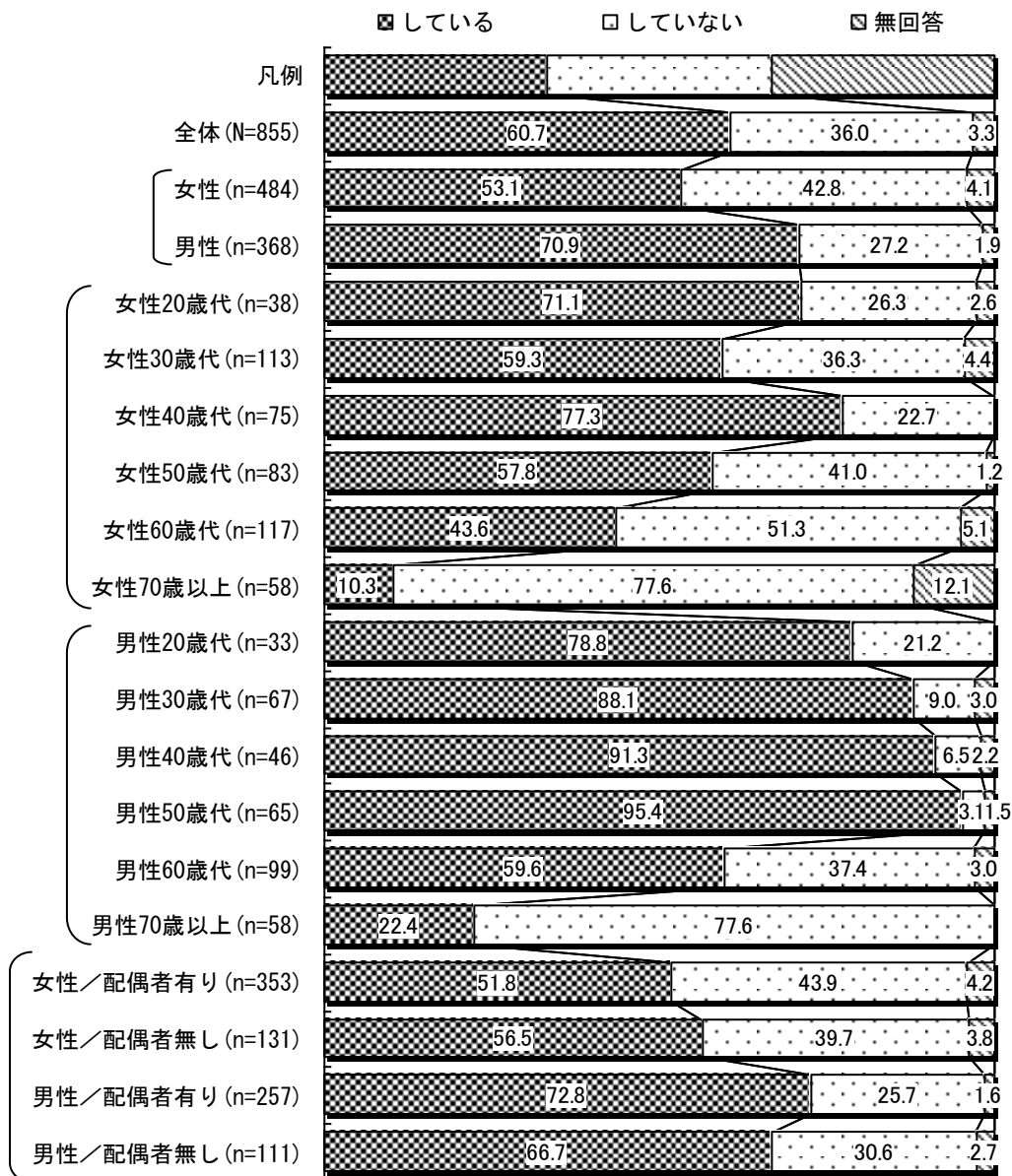
3. 就業の状況について

(1) 就業状況

問 17. あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか (○は1つ)

就業状況については、「(就業) している」が 60.7%、「していない」が 36.0%となっている。
 就業者(「している」)は、性別では女性 53.1%に対して男性が 70.9%、性・年齢別では女性は 20 歳代及び 40 歳代で 7 割以上を占めるが、50 歳を超えると年齢が上がるにつれ少なくなる傾向にある。男性の場合は 40~50 歳代で大半を就業者(「している」)で占めている。
 女性は配偶者の有無による大きな差は目立たないが、男性は配偶者有りで就業者(「している」)が多くなっている。

問17. 就業状況 (%)
 性別、性・年齢別、性・配偶者関係別

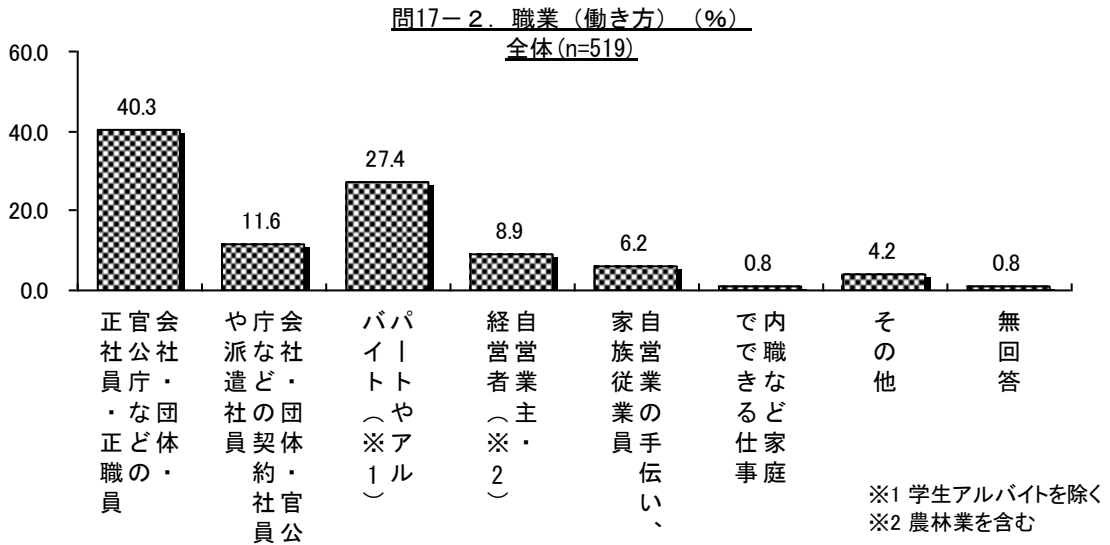


(2) 職業（働き方）

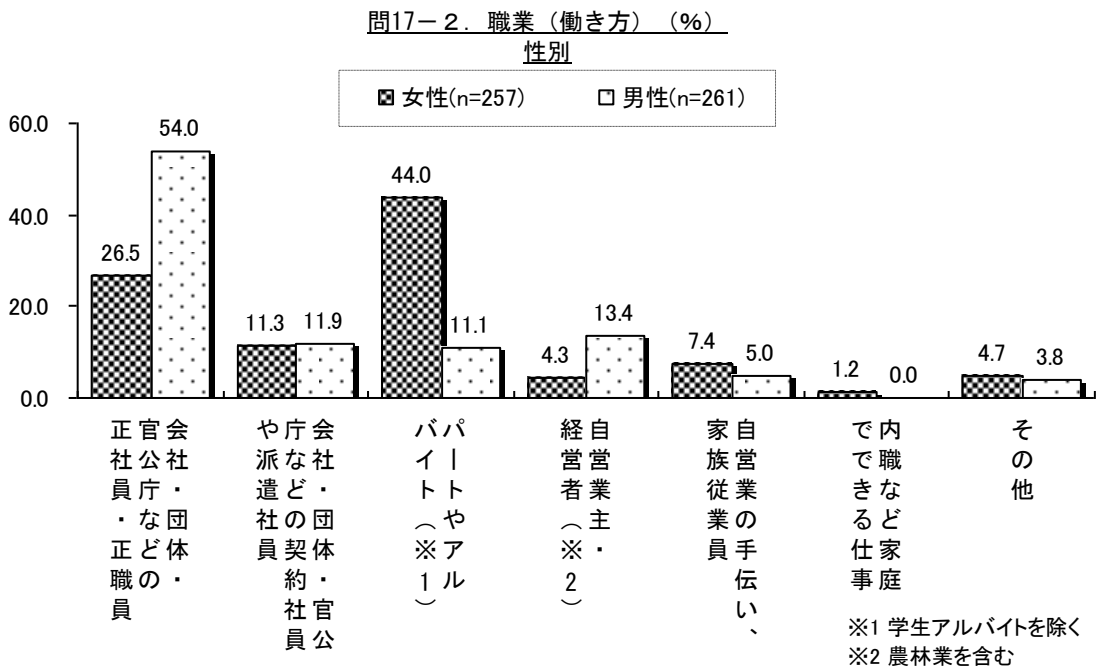
問17で「1. している」と答えた方にうかがいます

問17-2. どのような働き方をしていますか。（○は1つ）

職業（働き方）については、「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が40.3%と最も多く、次いで「パートやアルバイト（※1）」（27.4%）、「会社・団体・官公庁などの契約社員や派遣社員」（11.6%）の順となっている。



性別でみると、女性は男性に比べ「パートやアルバイト（※1）」が多く、男性は「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が多い点で男女差が大きい。



注：図中では「無回答」は表記していません。

性・年齢別でみると、女性は年齢が若い層ほど、男性は 30 歳代で「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が多くなっている。男女ともに 70 歳以上で「パートやアルバイト（学生アルバイトを除く）」、女性 30 歳代及び男性 60 歳代では「会社・団体・官公庁などの契約社員や派遣社員」が他の年齢層に比べ多くなっている。

また、女性／配偶者有りでは「パートやアルバイト（学生アルバイトを除く）」、女性／配偶者無しでは「会社・団体・官公庁などの正社員・正職員」が多い。

問17-2. 職業（働き方）（%）性・年齢別、性・配偶関係別

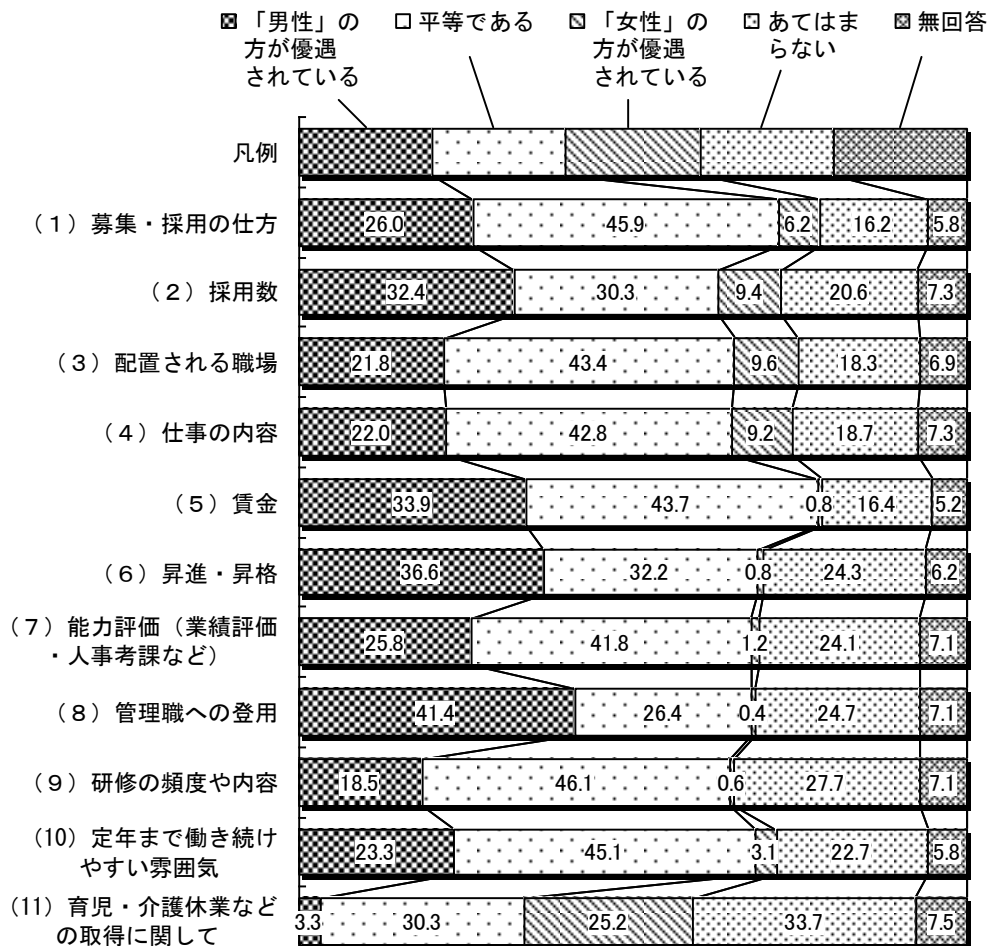
	員な会 社 の 正 社 員 ・ 官 正 職 庁	遣な会 社 の 契 約 社 員 や 派 遣 社 員	除（パ ー ト や ア ル バ イ ト を ト ク ）	（自 営 業 主 ・ 経 営 者 を 含 む ）	族 自 営 業 の 手 伝 い 、 家 族 従 業 員	る 内 職 な ど 家 庭 で で き る 仕 事	そ の 他
全体 (n=519)	40.3	11.6	27.4	8.9	6.2	0.8	4.2
女性20歳代 (n=27)	59.3	7.4	25.9	0.0	0.0	0.0	7.4
女性30歳代 (n=67)	38.8	17.9	28.4	3.0	7.5	1.5	3.0
女性40歳代 (n=58)	22.4	13.8	48.3	1.7	12.1	0.0	0.0
女性50歳代 (n=48)	18.8	10.4	50.0	6.3	8.3	2.1	2.1
女性60歳代 (n=51)	7.8	3.9	58.8	7.8	5.9	2.0	13.7
女性70歳以上 (n=6)	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
男性20歳代 (n=26)	69.2	3.8	15.4	3.8	3.8	0.0	3.8
男性30歳代 (n=59)	79.7	6.8	1.7	3.4	5.1	0.0	1.7
男性40歳代 (n=42)	64.3	4.8	7.1	16.7	7.1	0.0	0.0
男性50歳代 (n=62)	53.2	12.9	8.1	14.5	4.8	0.0	4.8
男性60歳代 (n=59)	27.1	23.7	16.9	23.7	3.4	0.0	5.1
男性70歳以上 (n=13)	0.0	15.4	46.2	15.4	7.7	0.0	15.4
女性／配偶者有り (n=183)	19.1	9.8	50.3	4.9	9.8	1.6	4.4
女性／配偶者無し (n=74)	44.6	14.9	28.4	2.7	1.4	0.0	5.4
男性／配偶者有り (n=187)	54.0	10.7	9.1	16.6	5.3	0.0	3.7
男性／配偶者無し (n=74)	54.1	14.9	16.2	5.4	4.1	0.0	4.1

4. 職場における男女共同意識

問 18. あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

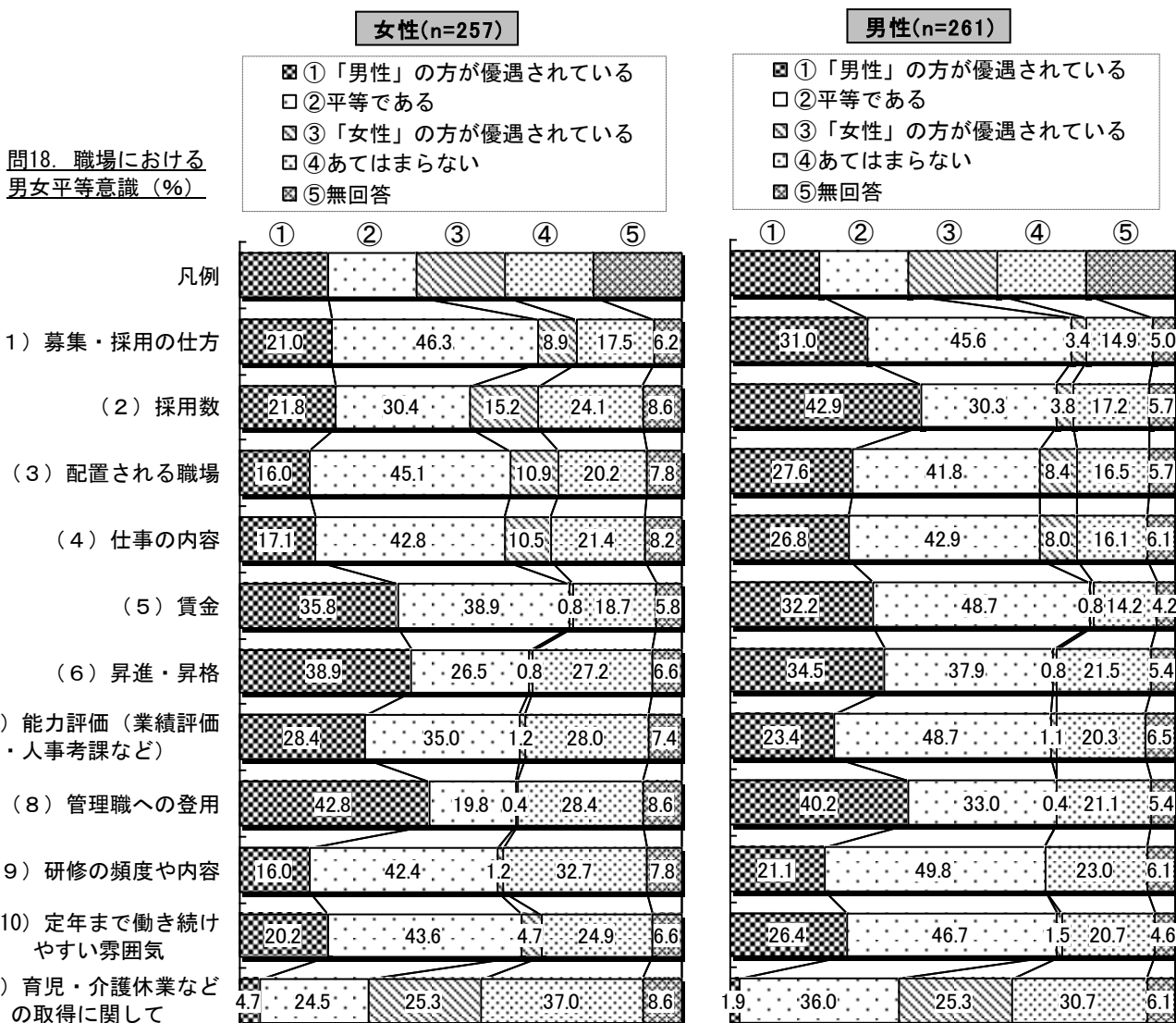
職場における男女共同意識について、「平等である」への回答をみると、「(9) 研修の頻度や内容」が 46.1%と最も多く、次いで「(1) 募集・採用の仕方」(45.9%)、「(10) 定年まで働き続けやすい雰囲気」(45.1%)、「(5) 賃金」(43.7%)、「(3) 配置される職場」(43.4%)の順となっている。「男性の方が優遇されている」への回答では、多い順に「(8) 管理職への登用」(41.4%)、「(6) 昇進・昇格」(36.6%)、「(5) 賃金」(33.9%)、「(2) 採用数」(32.4%)となっており、「女性の方が優遇されている」については「(11) 育児・介護休業などの取得に関して」(25.2%)があげられる。

問18. 職場における男女共同意識 (%)
全体(N=855)



性別でみると、まず「平等である」について、男性の方が女性よりも回答が多い項目として「(6) 昇進・昇格」「(7) 能力評価（業績評価・人事考課など）」「(8) 管理職への登用」「(11) 育児・介護休業などの取得に関して」があげられる。「男性の方が優遇されている」については「(1) 募集・採用の仕方」「(2) 採用数」「(3) 配置される職場」などにおいて男性で回答が多くなっている。「女性の方が優遇されている」については「(2) 採用数」などにおいて女性で回答が多くなっている。

性・年齢別でみると、男性 60 歳代で「男性優遇」を意識する項目が比較的多く、特に「(1) 募集・採用の仕方」「(2) 採用数」「(6) 昇進・昇格」「(7) 能力評価（業績評価・人事考課など）」などがあげられる。また、女性は 20～30 歳代で「(2) 採用数」、女性 30～40 歳代で「(3) 配置される職場」などにおいて平等意識がみられる。

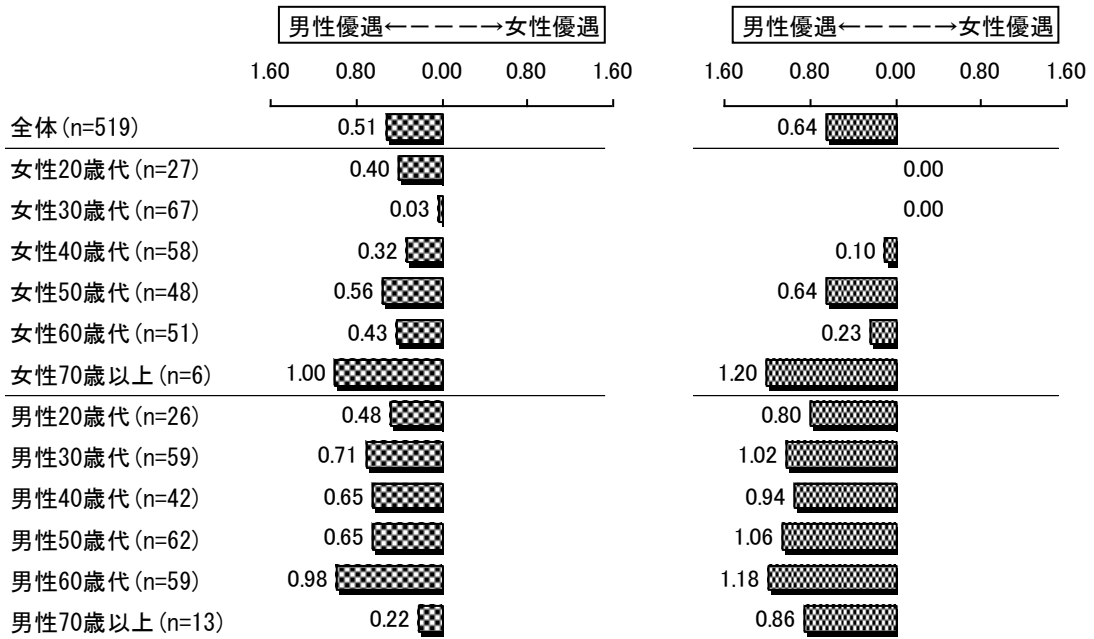


※数値は加重平均値です。

問18. 職場における
男女共同意識

(1) 募集・採用の仕方

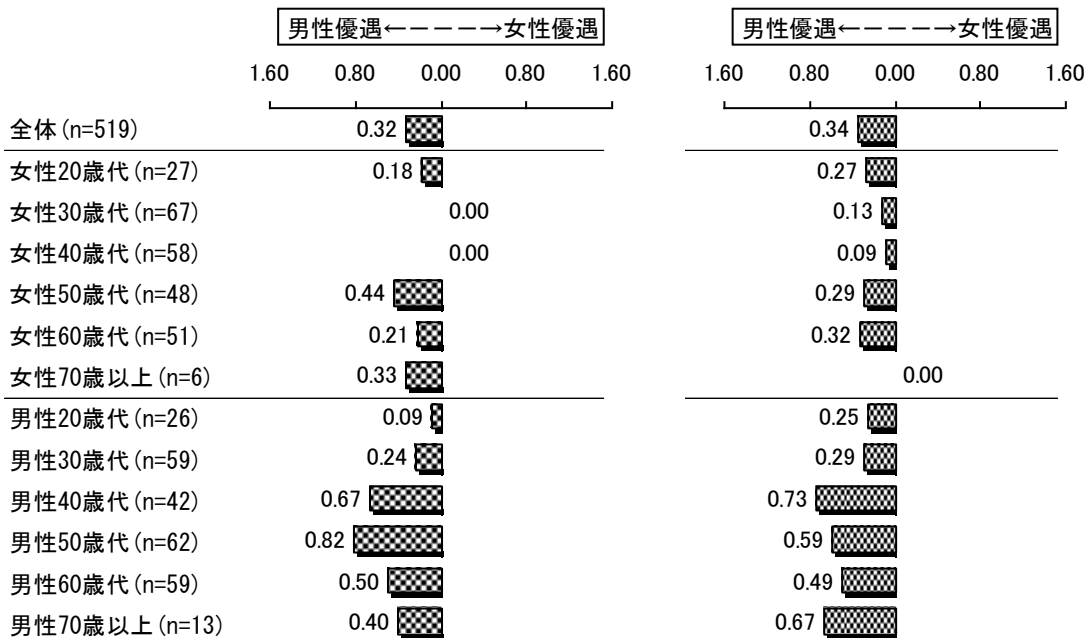
(2) 採用数



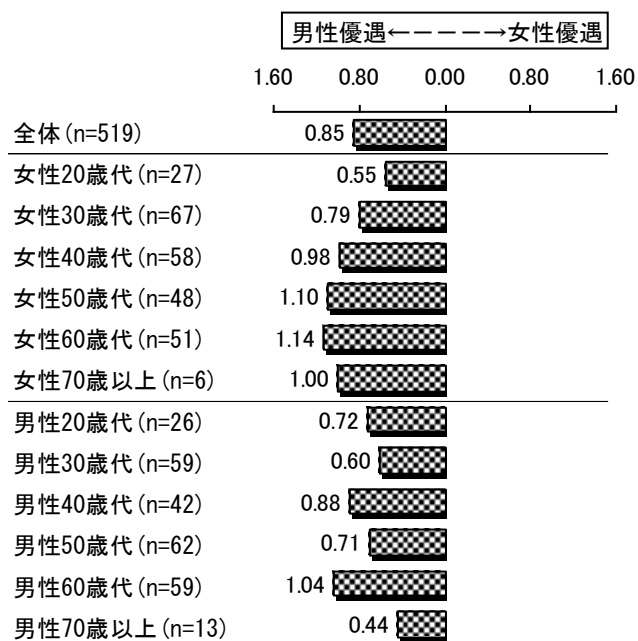
注: 女性70歳以上は該当件数(n)が少ないため、参考値として参照してください(以下同様)。

(3) 配置される職場

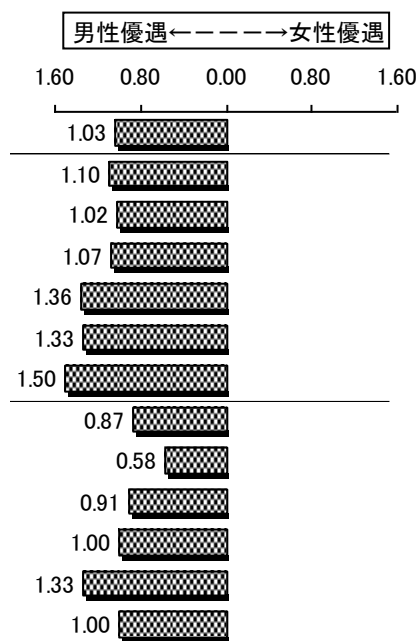
(4) 仕事の内容



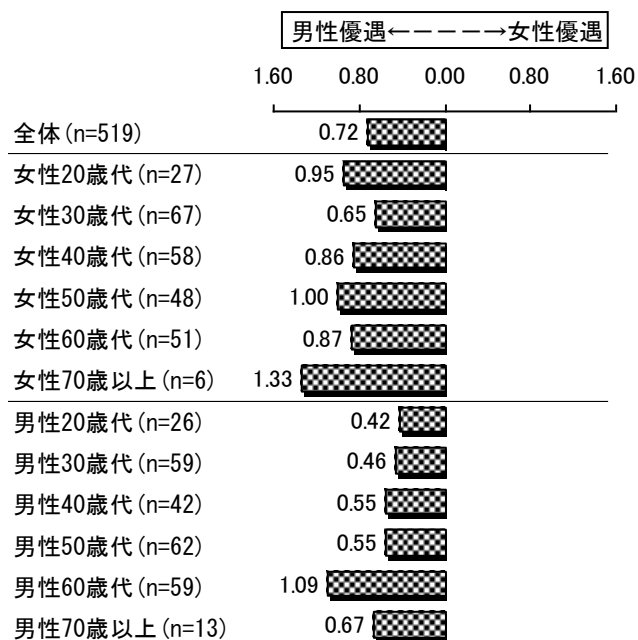
(5) 賃金



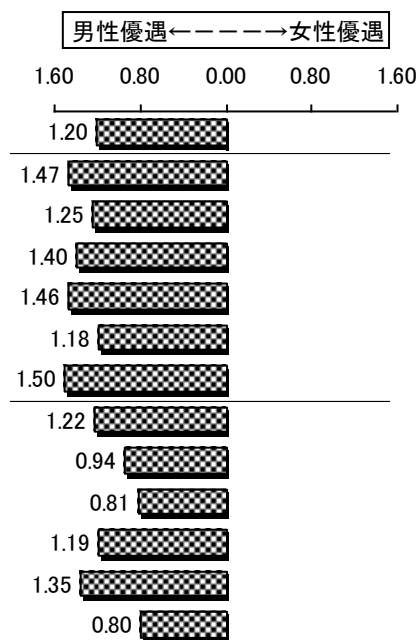
(6) 昇進・昇格



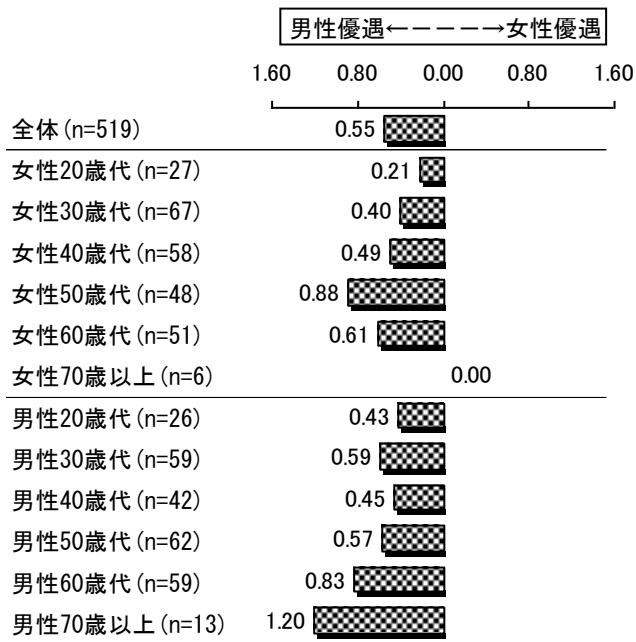
(7) 能力評価 (業績評価・人事考課など)



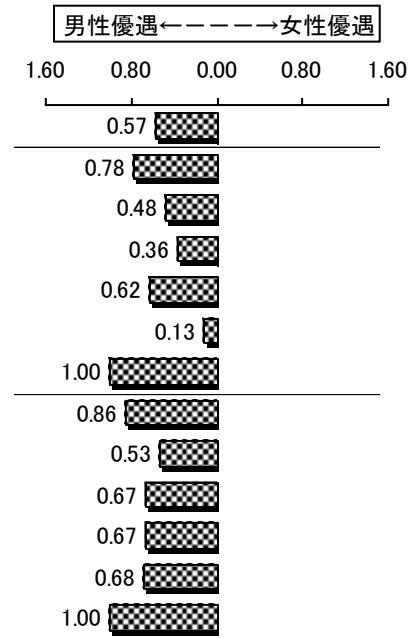
(8) 管理職への登用



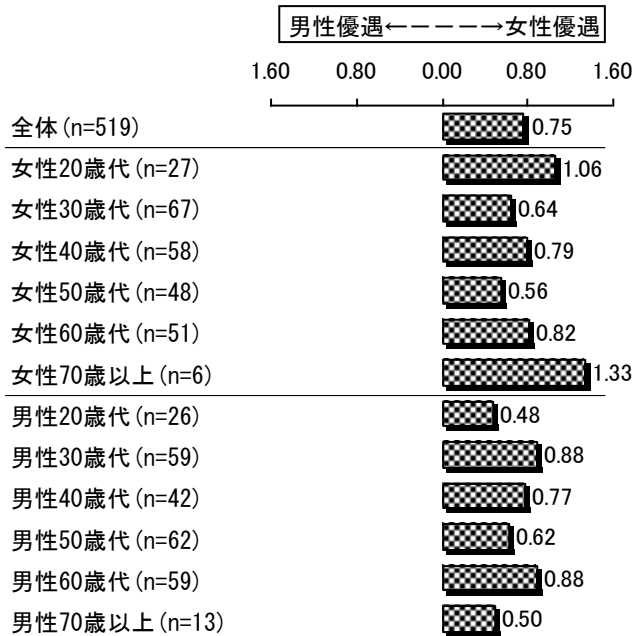
(9) 研修の頻度や内容



(10) 定年まで働き続けやすい雰囲気



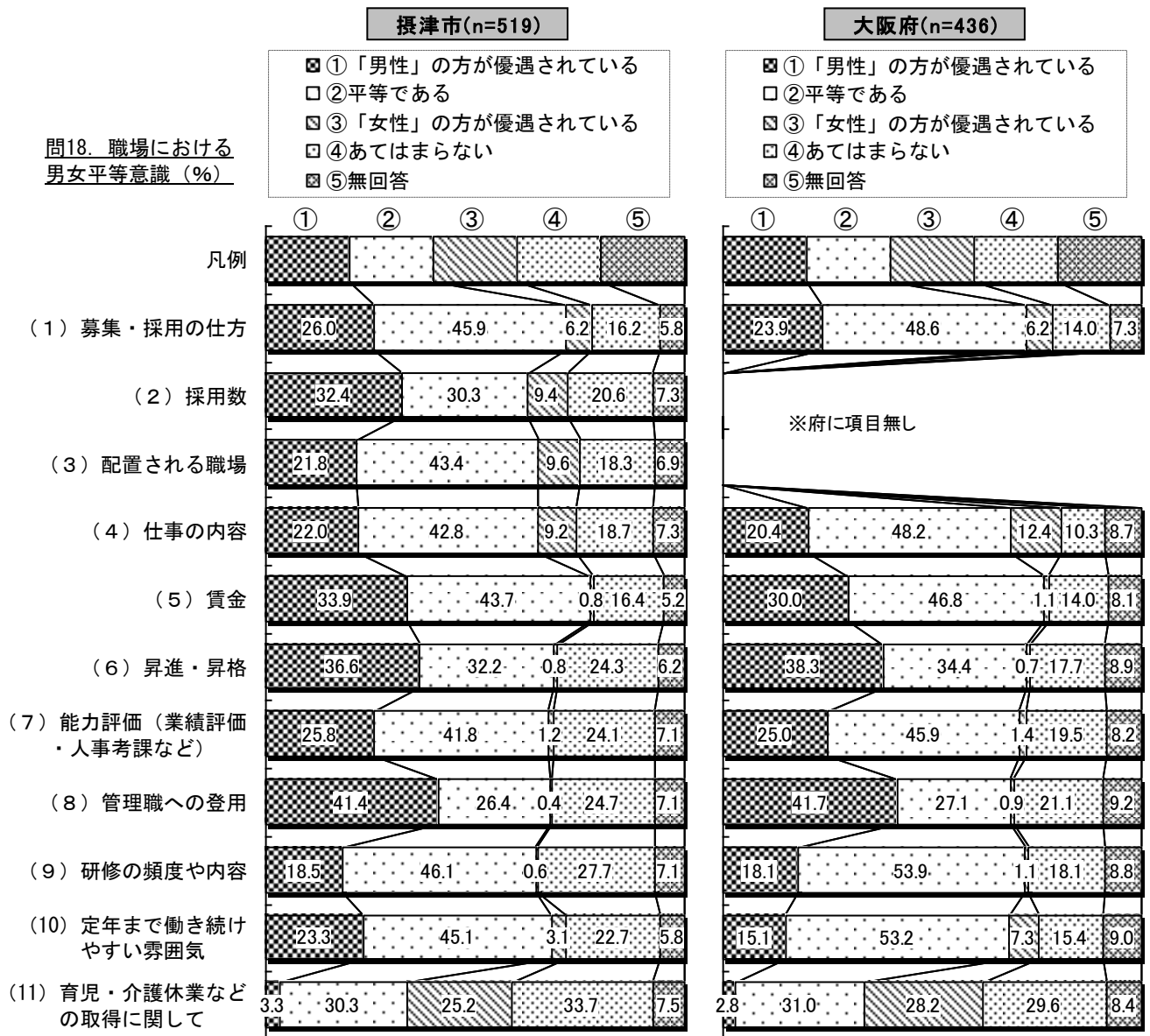
(11) 育児・介護休業などの取得に関して



【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では「男性の方が優遇されている」では「(5) 賃金」「(10) 定年まで働き続けやすい雰囲気」などで摂津市がやや上回っている。「平等である」については「(4) 仕事の内容」「(9) 研修の頻度や内容」「(10) 定年まで働き続けやすい雰囲気」などで、摂津市が大阪府を下回っている。

問18. 職場における男女平等意識 (%)

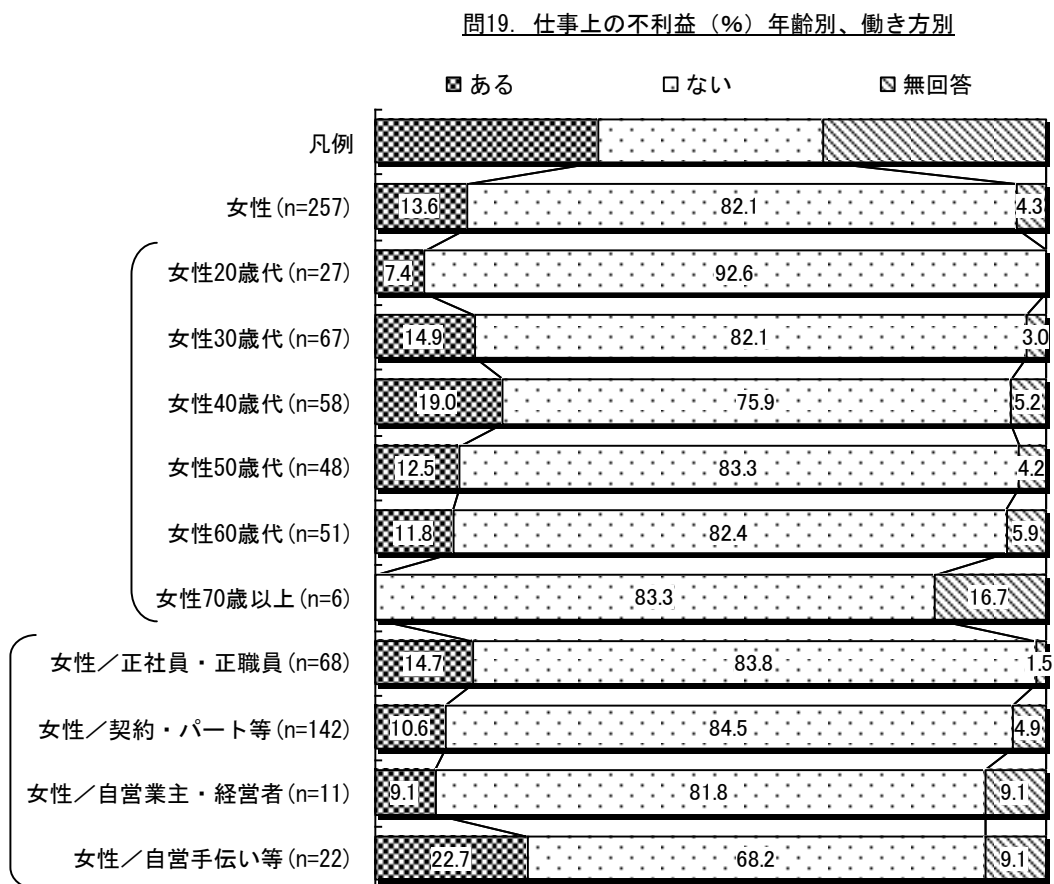


5. 仕事上の不利益

(1) 仕事上の不利益

女性の方のみにうかがいます。男性の方は、次は問 20. へ
 問 19. 女性であることを理由に、仕事上の不利益を被ったことがありますか (○は1つ)

仕事上の不利益については、13.6%が「ある」と回答している。
 年齢別では、40歳代で最も多く、働き方別では女性/自営手伝い等で多くなっている。



注: 「女性70歳以上」は該当件数(n=)が少ないため、参考値として参照してください。

(2) 不利益の内容

問 19 で「1. ある」と答えた方にうかがいます。

問 19-2. それはどんなことですか。(具体的にご記入ください)

仕事上の不利益を受けたことが「ある」回答者に対し、その具体的内容を自由回答によって尋ねたところ、以下のとおりであった。

- ◆同じ仕事をしているのに、賃金が低い。(女性 20 歳代)
- ◆女性だから、ややこしいからとお客に言われた。(女性 20 歳代)
- ◆以前勤めていた会社で、お尻や胸を触られた。抗議をしたが、ほぼ黙殺された。会社にいづらなくなったので自主退社した。(女性 30 歳代)
- ◆お客から、「女性でなく、男性に変われ」と言われ、仕事を受け付けてもらえない。(女性 30 歳代)
- ◆子どもがいると言われ、パート職しかだめだった。(女性 30 歳代)
- ◆社員旅行で、女子社員のみでレンタカーを運転することは禁止された。(女性 30 歳代)
- ◆昇給、ボーナスが男女で差がつけられる。(女性 30 歳代)
- ◆職場のトイレ掃除や灰皿交換は、女性が当番制で実施している。(女性 30 歳代)
- ◆生理で体調が悪くても理解してもらえず、冷たい対応をされた。(女性 30 歳代)
- ◆面接の時に、「子どもの予定は？」と必ず聞かれる。子どもを希望しているが、いつ授かるかわからないので返答に困る。(女性 30 歳代)
- ◆私の職場では、男性しかアルバイトリーダーになれない。(女性 30 歳代)
- ◆アルバイトだと、働く年数に関係なく正社員になれない。男性は、3ヶ月で正社員になっている。(女性 40 歳代)
- ◆育児休暇を取ることによる配置転換。(女性 40 歳代)
- ◆同じ職種の採用でも、契約社員と正社員では時給が違う。労働職なら体力の差等も考えられるが、事務職においては差があってはならないはず。能力給にしてもらいたい。(女性 40 歳代)
- ◆給与面で、男性と差があった。(女性 40 歳代)
- ◆子どもがいるので十分に仕事ができない、とのことで管理職になれない。(女性 40 歳代)
- ◆出産後、10社以上面接を受けたが、子どもが小さいという理由で不採用であった。キャリアがあっても無意味だった。(女性 40 歳代)
- ◆退職の勧奨。(女性 40 歳代)
- ◆男性がやりたくないことを押しつけられる。(女性 40 歳代)
- ◆賃金が平等でない。(女性 40 歳代)
- ◆低賃金。(女性 40 歳代)
- ◆お客様へお茶を出すのは、女性の仕事となっている。(女性 50 歳代)
- ◆家庭のある女性であるというだけで、フルタイムで働けないという先入観で見られる。(女性 50 歳代)
- ◆女性というだけで、サブ的な仕事しかさせてもらえない。(女性 50 歳代)
- ◆能力があっても、女性ということで男性よりも軽視される。(女性 50 歳代)
- ◆40数年前ですが、女性が掃除をして、お茶を入れたりしていた。(女性 60 歳代)
- ◆給与面では、男性が優遇されていた。(女性 60 歳代)

- ◆正社員とパートの違い。正社員と全く同じ仕事をしていても給料に差があること。(女性 60 歳代)
- ◆人が嫌がる仕事を押し付ける。(女性 60 歳代)
- ◆昔は、子どもを産んだら職場を去ることが普通だった。(女性 60 歳代)

6. 今後の育児休業取得希望

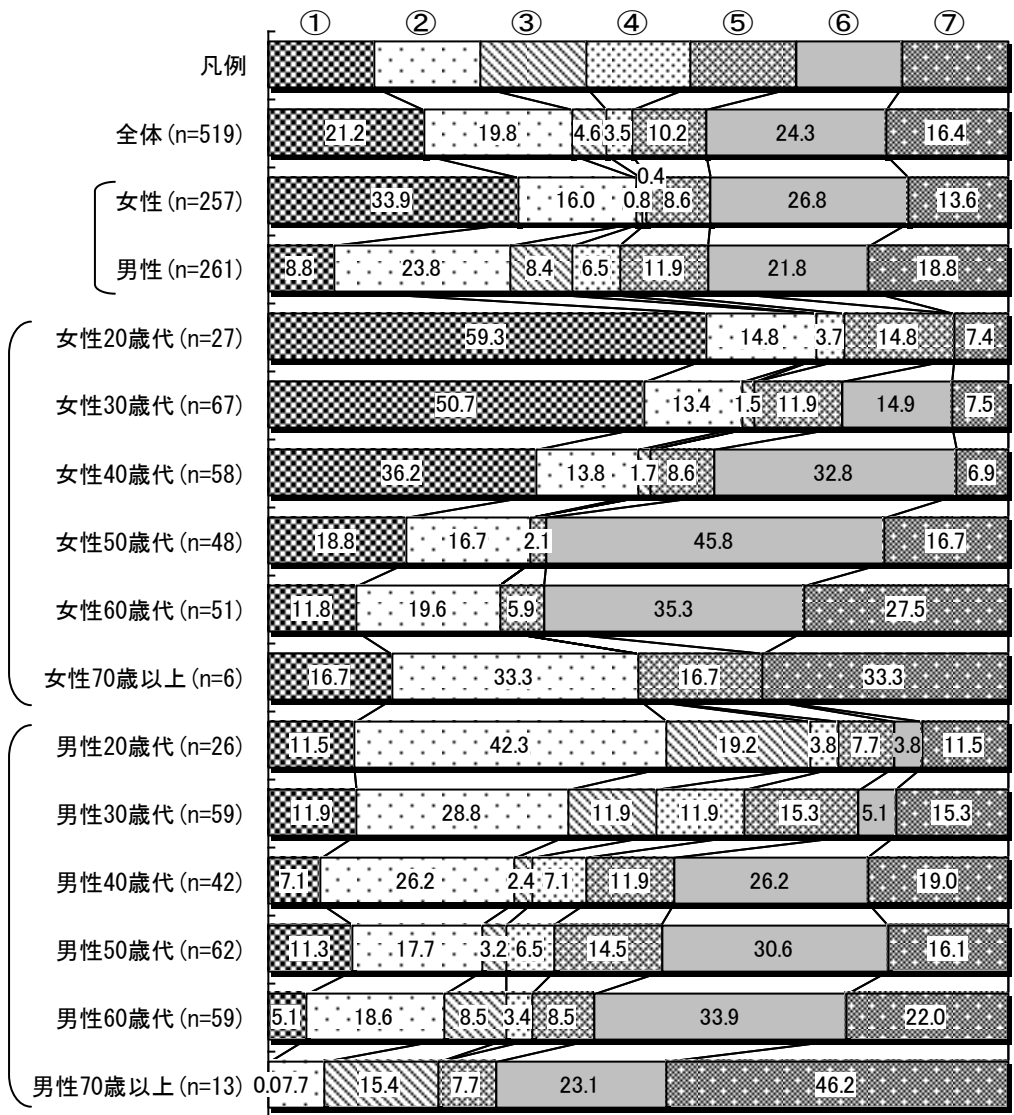
問 20. 今後あなたに子どもが生まれた場合、育児休業を取得したいですか。(○は1つ)

今後の育児休業取得希望については、「①積極的に取得したい」が 21.2%、「②どちらかといえ
ば取得したい」が 19.8%で、合計約 4 割 (41.0%) が『取得したい』と回答している。

「①積極的に取得したい」への回答をみると、性別では女性、性・年齢別では女性で年齢の若
い層ほど多くなっている。男性は女性に比べ「①積極的に取得したい」は少なく、「どちらかとい
えば取得したい」が若い年齢層ほど多い。

問20. 今後の育児休業取得希望 (%)
性別、性・年齢別

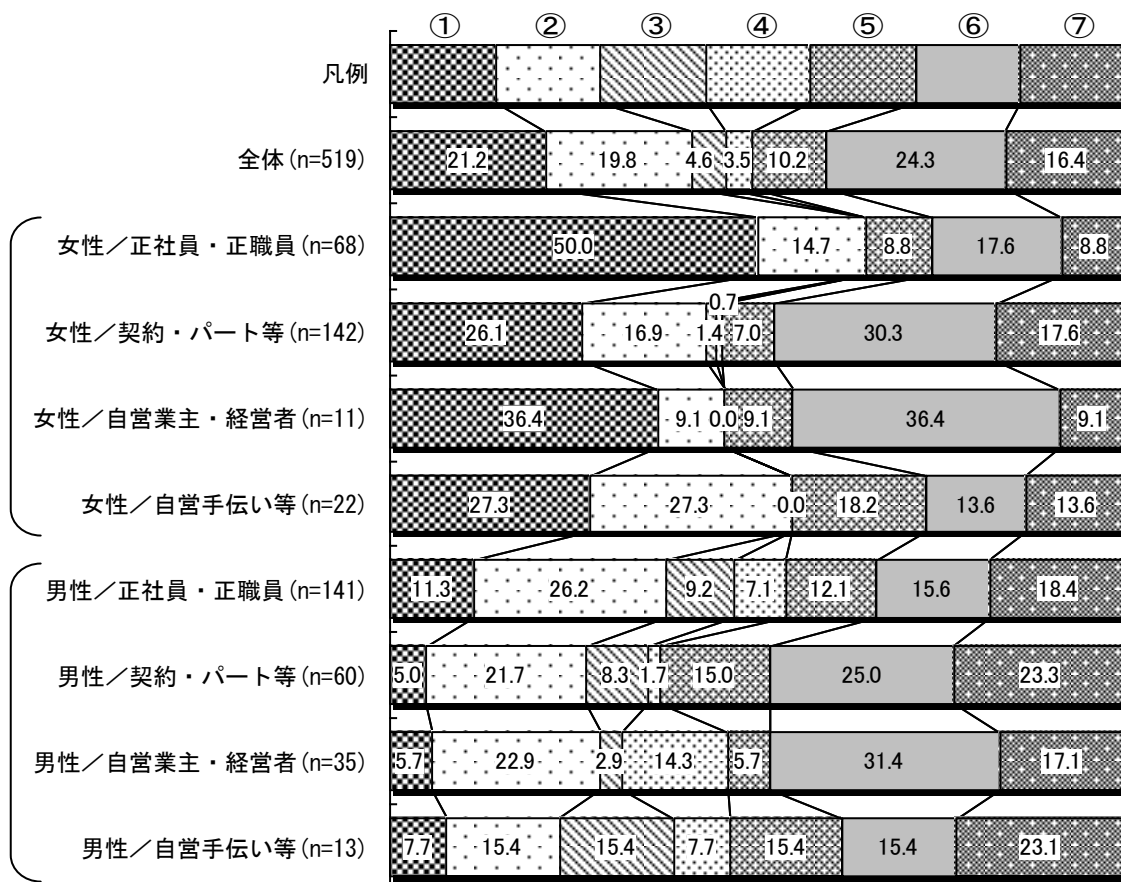
- ①積極的に取得したい
- ②どちらかといえ取得したい
- ▨ ③どちらかといえ取得したくない
- ④取得したくない
- ▨ ⑤わからない
- ⑥今後、子どもを持つ予定はない
- ▨ ⑦無回答



さらに、性・働き方別でみると、「①積極的に取得したい」は、女性／正社員・正職員で最も多く、以下、女性／自営業主・経営者、女性／自営手伝い等、女性／契約・パート等の順に多い。

問20. 今後の育児休業取得希望 (%)
性・働き方別

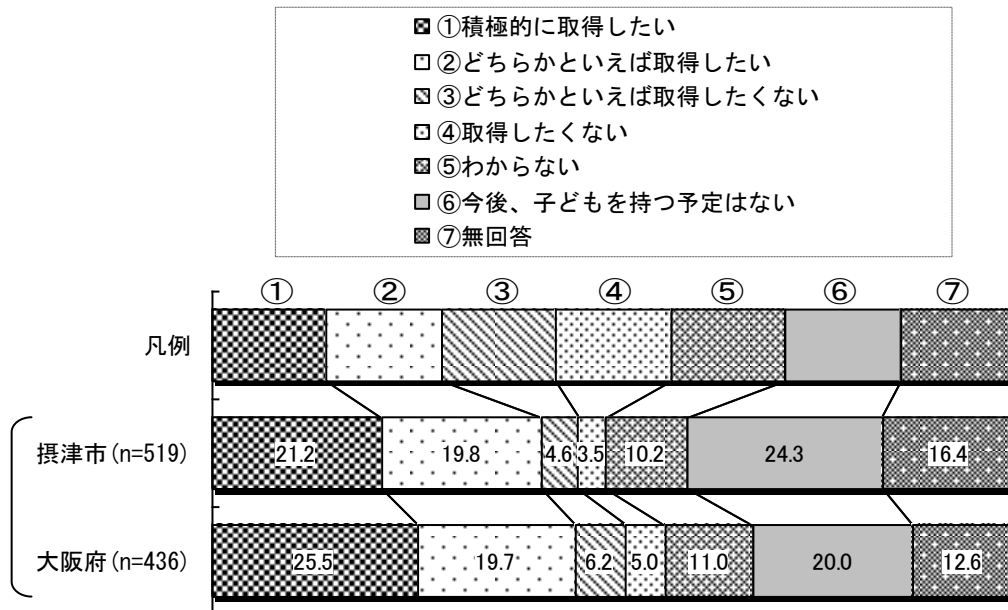
- ①積極的に取得したい
- ②どちらかといえば取得したい
- ▨ ③どちらかといえば取得したくない
- ④取得したくない
- ⑤わからない
- ⑥今後、子どもを持つ予定はない
- ⑦無回答



【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「⑥今後、子どもを持つ予定はない」がやや多く、「①積極的に取得したい」「②どちらかといえば取得したい」を合計した取得希望者がやや少ない。

問20. 今後の育児休業取得希望（％）



7. 女性が働き続けるために必要と思うこと

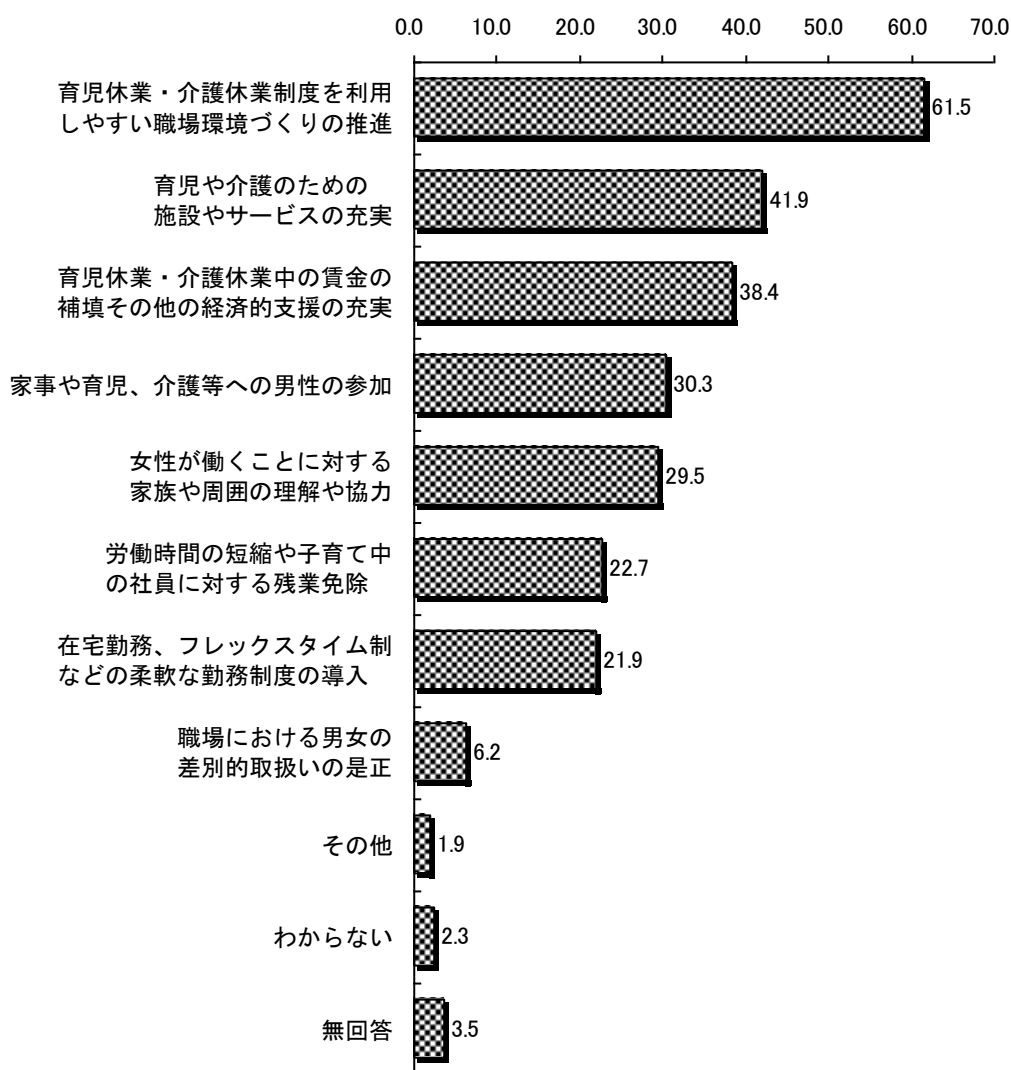
ここから再び全員にうかがいます。

問 21. 出産や子育て、介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

女性が働き続けるために必要と思うことについては、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が61.5%と6割を超え最も多く、次いで「育児や介護のための施設やサービスの充実」(41.9%)、「育児休業・介護休業中の賃金の補填その他の経済的支援の充実」(38.4%)、「家事や育児、介護等への男性の参加」(30.3%)、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」(29.5%)の順となっている。

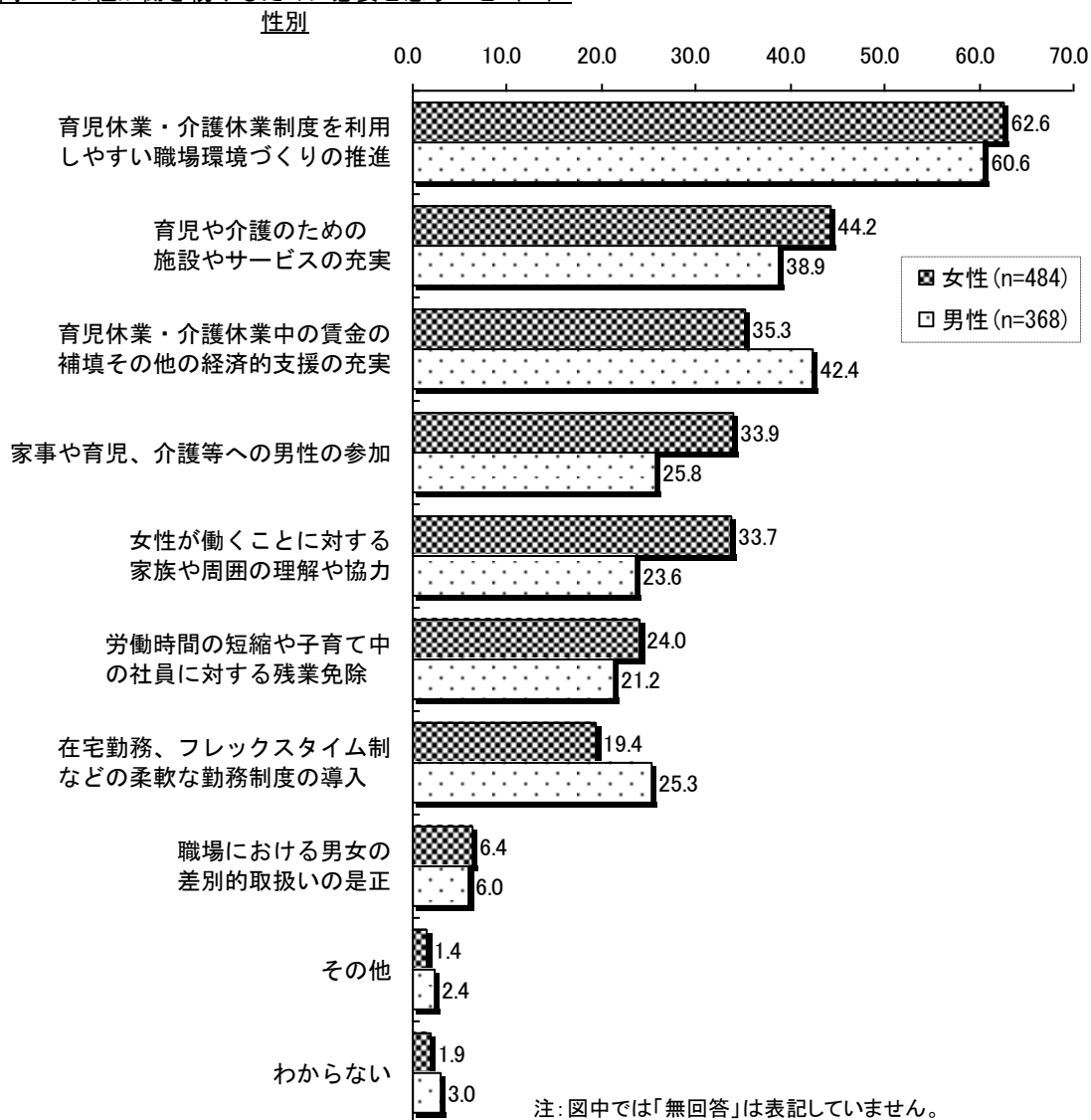
問21. 女性が働き続けるために必要と思うこと (%)

全体(N=855)



性別でみると、女性は男性に比べ「育児や介護のための施設やサービスの充実」「家事や育児、介護等への男性の参加」「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」などで男性を上回っている。男性は「育児休業・介護休業中の賃金の補填その他の経済的支援の充実」「在宅勤務、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」などで女性を上回っている。

問21. 女性が働き続けるために必要と思うこと (%)



性・年齢別では、女性 20 歳代において「育児休業・介護休業中の賃金の補填その他の経済的支援の充実」、女性 30 歳代で「労働時間の短縮や子育て中の社員に対する残業免除」、男性 20 歳代では「職場における男女の差別的取扱いの是正」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

性・働き方別では、女性／正社員・正職員で「労働時間の短縮や子育て中の社員に対する残業免除」、女性／自営業主・経営者で「家事や育児、介護等への男性の参加」などがそれぞれ他の層に比べ多くなっている。

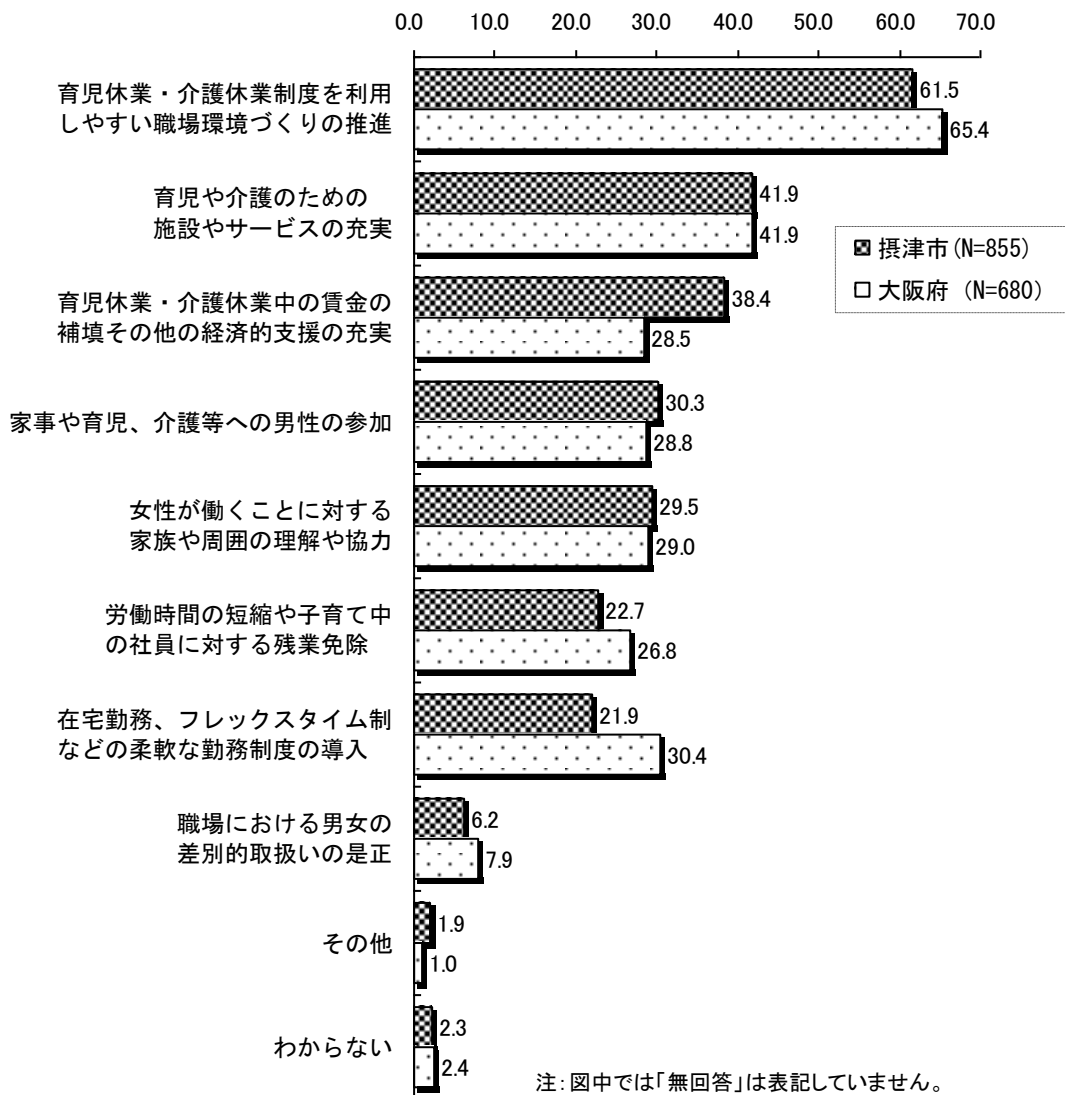
問21. 女性が働き続けるために必要と思うこと (%) 性・年齢別、性・働き方別、性・子ども有無別

	環境を育 境を育 づ利用業 りし・介 のや介 推す休 進い休 職業 場制	業て労 免中の時 除の間の 社員の短 に縮す 対縮する や子 残育	勤タ在 務イ宅 制ム勤 度制務 のな、 導どの 入レ 柔ツ 軟ク なス	経の育 済賃児 的金の休 支支業 援補・介 の填そ護 充そ休 実他業 の中	別職 場的 取に 扱お けい る男 女 の 差	設育 や児 サー ー介 ビ護 スの た 充 め の 施	協る女 力家性 族が や働 周く 困こ のと 理 解 対 やす	の家 男 事 性 の 育 児 、 介 護 等 へ	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=855)	61.5	22.7	21.9	38.4	6.2	41.9	29.5	30.3	1.9	2.3
女性20歳代(n=38)	68.4	34.2	23.7	50.0	10.5	42.1	23.7	39.5	0.0	0.0
女性30歳代(n=113)	65.5	38.1	24.8	33.6	4.4	40.7	33.6	32.7	1.8	0.0
女性40歳代(n=75)	68.0	20.0	26.7	41.3	4.0	44.0	37.3	29.3	2.7	0.0
女性50歳代(n=83)	57.8	16.9	25.3	25.3	13.3	45.8	38.6	36.1	1.2	2.4
女性60歳代(n=117)	59.0	18.8	8.5	41.9	6.0	46.2	29.9	33.3	1.7	3.4
女性70歳以上(n=58)	60.3	15.5	10.3	22.4	1.7	46.6	36.2	36.2	0.0	5.2
男性20歳代(n=33)	57.6	21.2	39.4	33.3	21.2	15.2	39.4	36.4	6.1	0.0
男性30歳代(n=67)	68.7	29.9	32.8	38.8	3.0	41.8	22.4	13.4	1.5	6.0
男性40歳代(n=46)	67.4	28.3	19.6	37.0	6.5	34.8	17.4	23.9	2.2	4.3
男性50歳代(n=65)	52.3	15.4	35.4	43.1	1.5	49.2	15.4	23.1	3.1	0.0
男性60歳代(n=99)	60.6	21.2	21.2	48.5	4.0	46.5	24.2	28.3	1.0	2.0
男性70歳以上(n=58)	56.9	12.1	8.6	44.8	8.6	27.6	29.3	34.5	3.4	5.2
女性／正社員・正職員(n=68)	67.6	42.6	26.5	42.6	7.4	39.7	27.9	32.4	0.0	0.0
女性／契約・パート等(n=142)	62.7	19.0	24.6	46.5	4.2	44.4	31.0	37.3	2.1	0.0
女性／自営業主・経営者(n=11)	27.3	18.2	27.3	0.0	9.1	54.5	36.4	54.5	9.1	0.0
女性／自営手伝い等(n=22)	54.5	22.7	22.7	40.9	9.1	59.1	36.4	27.3	0.0	0.0
女性／無職(n=207)	65.7	21.7	15.5	28.5	7.2	43.0	37.2	32.4	1.4	3.4
男性／正社員・正職員(n=141)	66.0	26.2	28.4	43.3	6.4	42.6	17.7	19.9	2.1	1.4
男性／契約・パート等(n=60)	66.7	25.0	23.3	46.7	3.3	38.3	25.0	26.7	0.0	1.7
男性／自営業主・経営者(n=35)	42.9	22.9	17.1	22.9	5.7	48.6	17.1	28.6	2.9	8.6
男性／自営手伝い等(n=13)	69.2	23.1	30.8	46.2	7.7	30.8	38.5	23.1	7.7	0.0
男性／無職(n=100)	56.0	13.0	22.0	45.0	8.0	35.0	33.0	31.0	2.0	5.0

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「育児休業・介護休業中の賃金の補填その他の経済的支援の充実」が多く、「在宅勤務、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」などが少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。

問21. 女性が働き続けるために必要と思うこと (%)



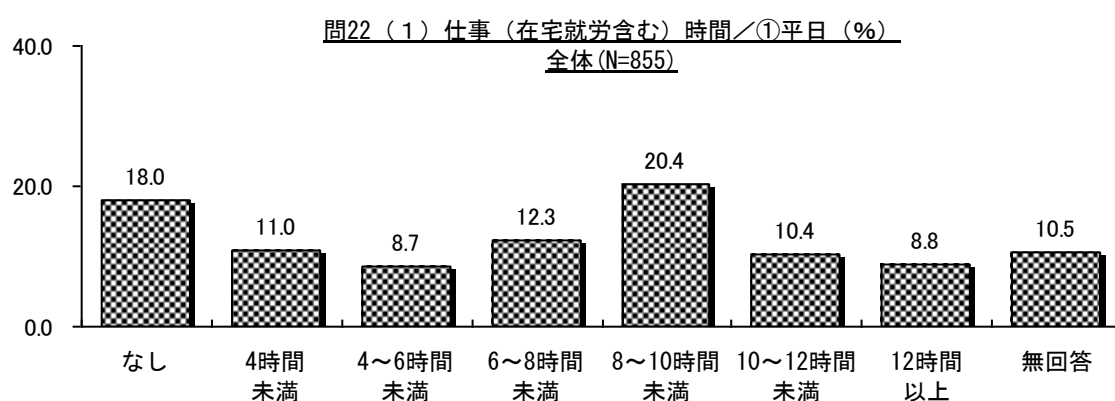
8. 仕事（在宅就労含む）時間

（1）平日の仕事時間

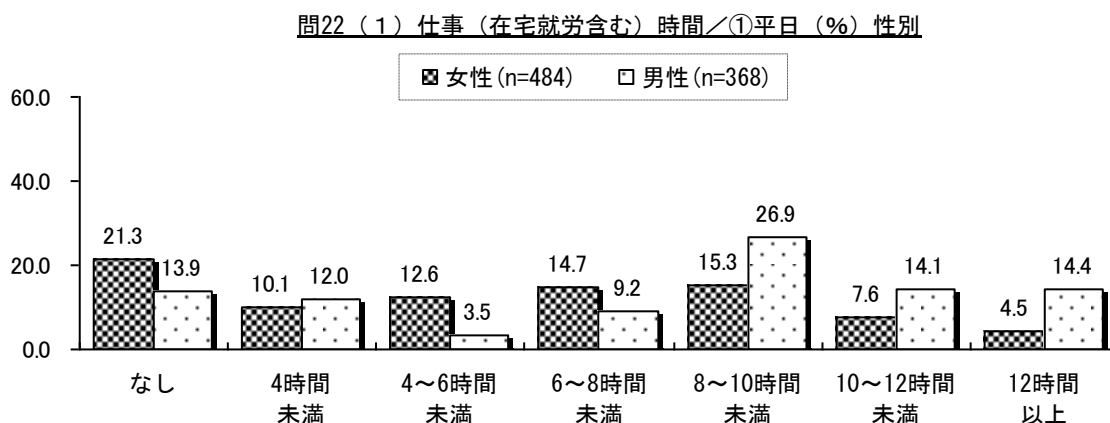
問 22. 1日のうちで、あなたが仕事や家事に要する時間は、通常の場合、平日・休日それぞれのくらいですか。（○はそれぞれ1つずつ）

（1）仕事（在宅就労含む）* 通勤時間を含めた時間を記載してください。

平日の仕事（在宅就労含む）時間については、「なし」が18.0%を占めるが、「8～10時間未満」が20.4%で最も多く、次いで「6～8時間未満」（12.3%）、「4時間未満」（11.0%）、「10～12時間未満」（10.4%）の順となっている。



性別では、男性に比べ女性では「なし」「4～6時間未満」「6～8時間未満」が多く、男性は「8～10時間未満」「10～12時間未満」「12時間以上」で女性を上回り、相対的に男性の仕事時間の方が長い傾向にある。



注：図中では「無回答」は表記していません。

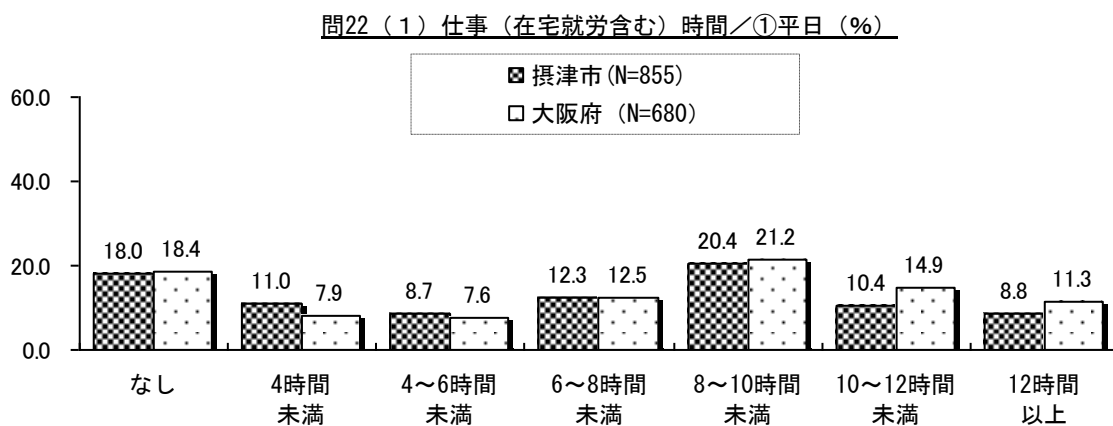
性・年齢別でみると、女性は年齢が上がるほど「4 時間未満」「4～6 時間未満」が多く、女性 40 歳代では「6～8 時間未満」、女性 20 歳代、及び男性 40 歳代では「10～12 時間未満」「12 時間以上」が多くなっている。男性 30 歳代では「8～10 時間未満」が他の年齢層に比べ多くなっている。

問22（1）仕事（在宅就労含む）／平日（％）性・年齢別

	なし	4時間 未満	4～6 時間 未満	6～8 時間 未満	8～10 時間 未満	10～12 時間 未満	12時間 以上
全体 (N=855)	18.0	11.0	8.7	12.3	20.4	10.4	8.8
女性20歳代 (n=38)	26.3	5.3	5.3	7.9	18.4	18.4	15.8
女性30歳代 (n=113)	27.4	6.2	9.7	11.5	23.0	10.6	2.7
女性40歳代 (n=75)	12.0	5.3	12.0	25.3	18.7	12.0	5.3
女性50歳代 (n=83)	24.1	12.0	12.0	16.9	16.9	4.8	3.6
女性60歳代 (n=117)	17.1	12.8	15.4	14.5	10.3	3.4	3.4
女性70歳以上 (n=58)	22.4	19.0	19.0	8.6	1.7	1.7	3.4
男性20歳代 (n=33)	12.1	12.1	3.0	6.1	33.3	18.2	12.1
男性30歳代 (n=67)	4.5	3.0	0.0	7.5	38.8	20.9	22.4
男性40歳代 (n=46)	13.0	4.3	0.0	4.3	21.7	23.9	30.4
男性50歳代 (n=65)	4.6	6.2	3.1	12.3	27.7	20.0	23.1
男性60歳代 (n=99)	22.2	15.2	5.1	11.1	29.3	7.1	5.1
男性70歳以上 (n=58)	22.4	29.3	8.6	10.3	8.6	1.7	0.0

【参考／大阪府調査との比較】

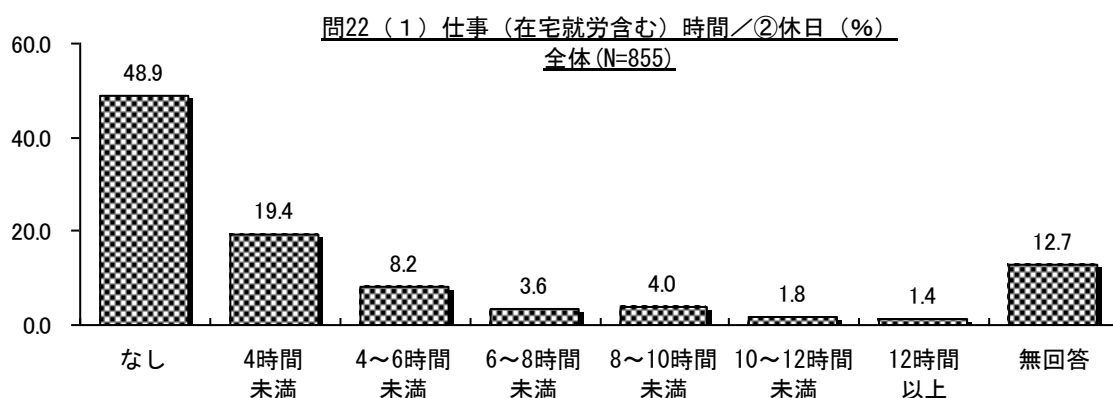
大阪府との比較では、摂津市は「4 時間未満」「4～6 時間未満」がやや多く、「10～12 時間未満」がやや少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。



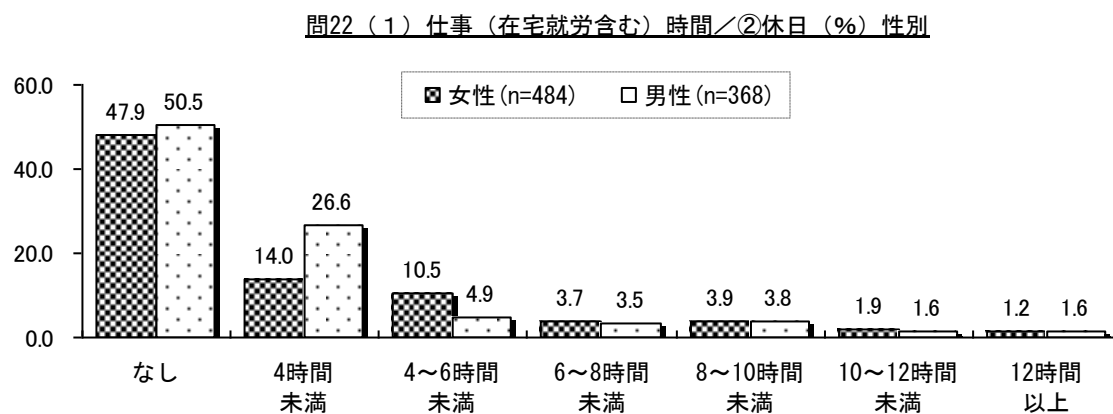
注：図中では「無回答」は表記していません。

(2) 休日の仕事時間

休日の仕事（在宅就労含む）時間については、「なし」が 48.9%と半数近くを占める。仕事時間は「4 時間未満」が 19.4%と最も多く、次いで「4～6 時間未満」（8.2%）が続いている。



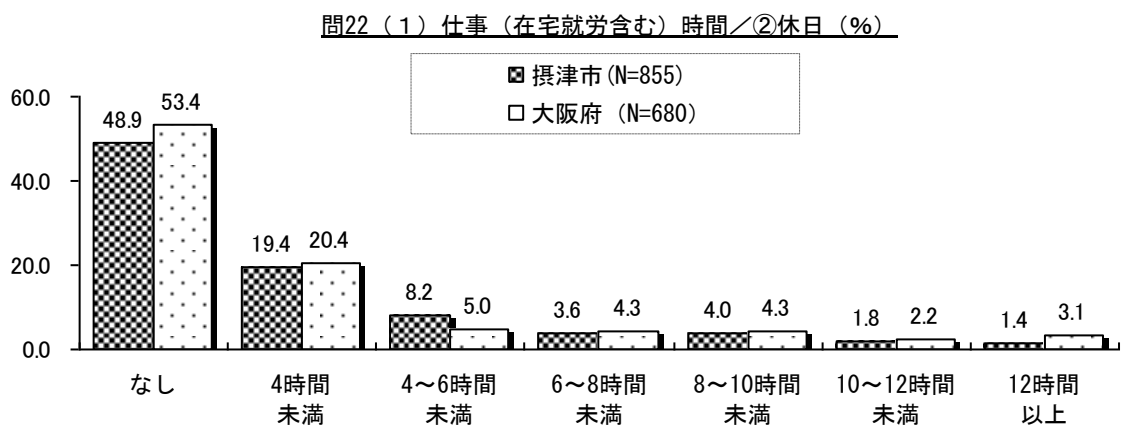
性別では、男女ともに「なし」が半数程度を占めているが、仕事時間は男性で「4 時間未満」が女性を上回り、女性は「4～6 時間未満」などで男性を上回っている。



注：図中では「無回答」は表記していません。

【参考／大阪府調査との比較】

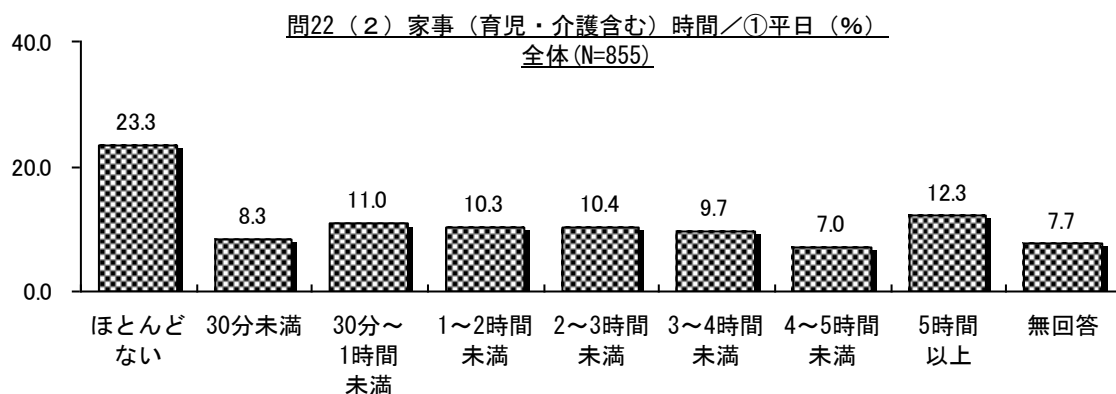
大阪府との比較では、摂津市は「4～6 時間未満」がやや多く、「なし」がやや少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。



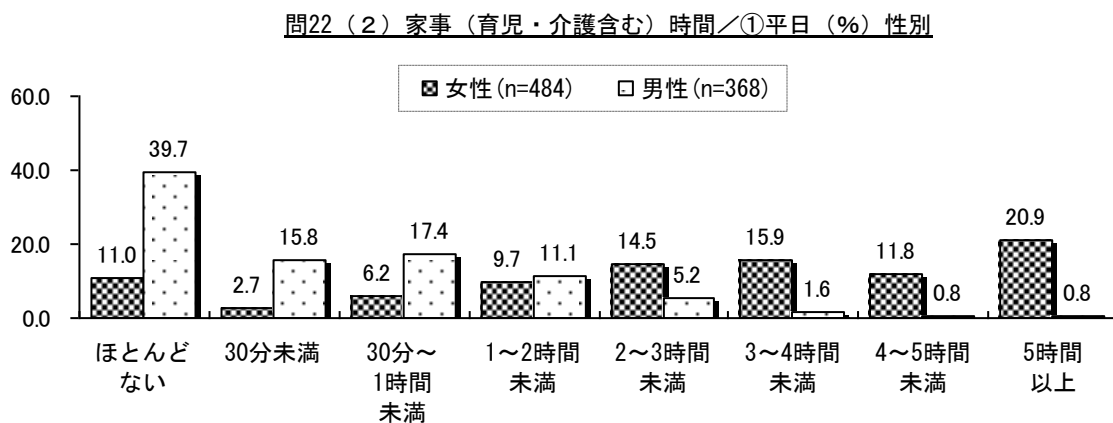
注：図中では「無回答」は表記していません。

(3) 平日の家事時間

家事（育児・介護含む）時間については、「ほとんどない」が23.3%を占める。家事時間は「5時間以上」が12.3%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」（11.0%）、「2～3時間未満」（10.4%）、「1～2時間未満」（10.3%）の順となっている。



性別でみると、女性は「3～4時間未満」「4～5時間未満」「5時間以上」などで男性を大きく上回り、男性は「ほとんどない」「30分未満」「30分～1時間未満」などで女性を上回っている。相対的に女性の家事時間の方が長い傾向にある。



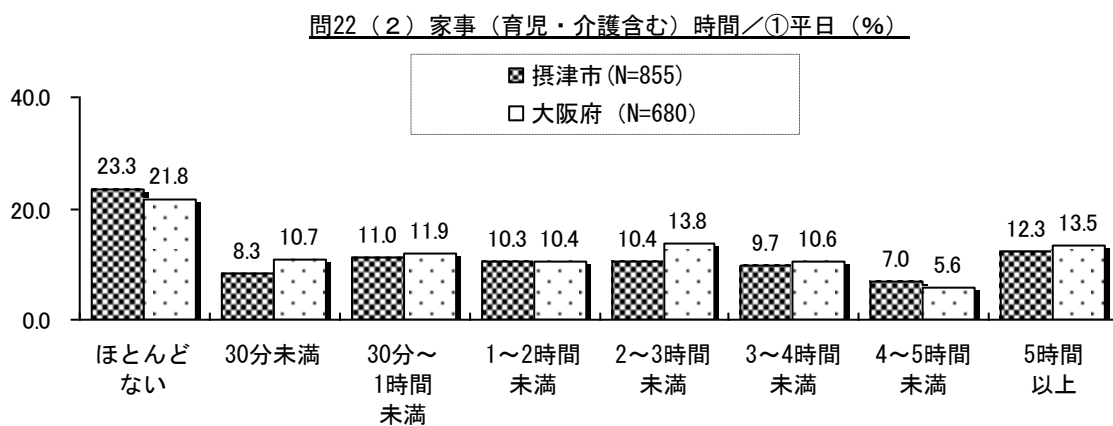
性・年齢別でみると、女性は30歳代において「5時間以上」が多く、男性は30歳代で「30分～1時間未満」、男性40歳代では「ほとんどない」、男性50歳代では「30分～1時間未満」などで、それぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

問22(2) 家事(育児、介護含む)／平日(%) 性・年齢別

	ほとんどない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上
全体(N=855)	23.3	8.3	11.0	10.3	10.4	9.7	7.0	12.3
女性20歳代(n=38)	28.9	13.2	13.2	10.5	7.9	2.6	5.3	18.4
女性30歳代(n=113)	7.1	4.4	4.4	11.5	9.7	9.7	12.4	39.8
女性40歳代(n=75)	4.0	0.0	10.7	5.3	14.7	26.7	17.3	21.3
女性50歳代(n=83)	7.2	1.2	8.4	15.7	15.7	18.1	14.5	15.7
女性60歳代(n=117)	14.5	1.7	1.7	8.5	15.4	19.7	12.8	14.5
女性70歳以上(n=58)	13.8	0.0	5.2	5.2	24.1	12.1	1.7	5.2
男性20歳代(n=33)	45.5	18.2	12.1	9.1	6.1	3.0	3.0	0.0
男性30歳代(n=67)	35.8	16.4	20.9	10.4	6.0	1.5	1.5	1.5
男性40歳代(n=46)	54.3	15.2	15.2	6.5	4.3	2.2	0.0	0.0
男性50歳代(n=65)	43.1	24.6	20.0	4.6	1.5	1.5	0.0	0.0
男性60歳代(n=99)	33.3	15.2	16.2	19.2	8.1	1.0	0.0	0.0
男性70歳以上(n=58)	36.2	5.2	17.2	10.3	3.4	1.7	1.7	3.4

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「30分未満」「2～3時間未満」がやや少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。

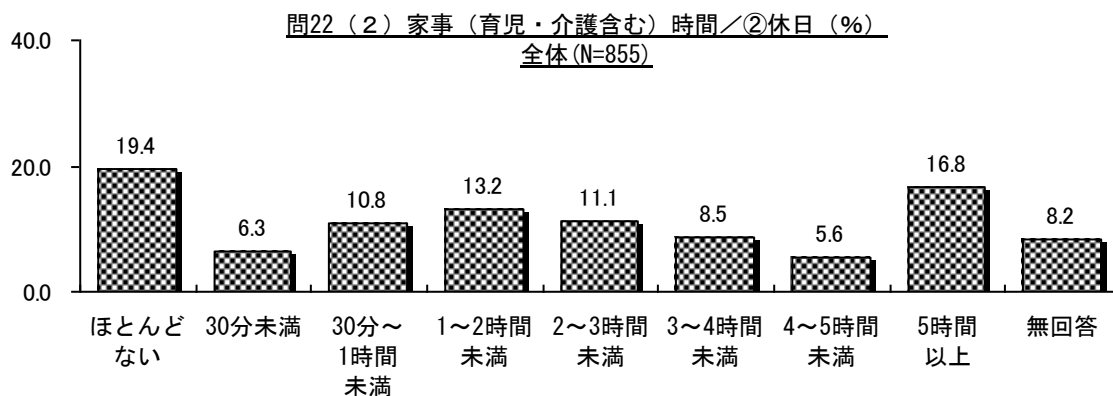


注：図中では「無回答」は表記していません。

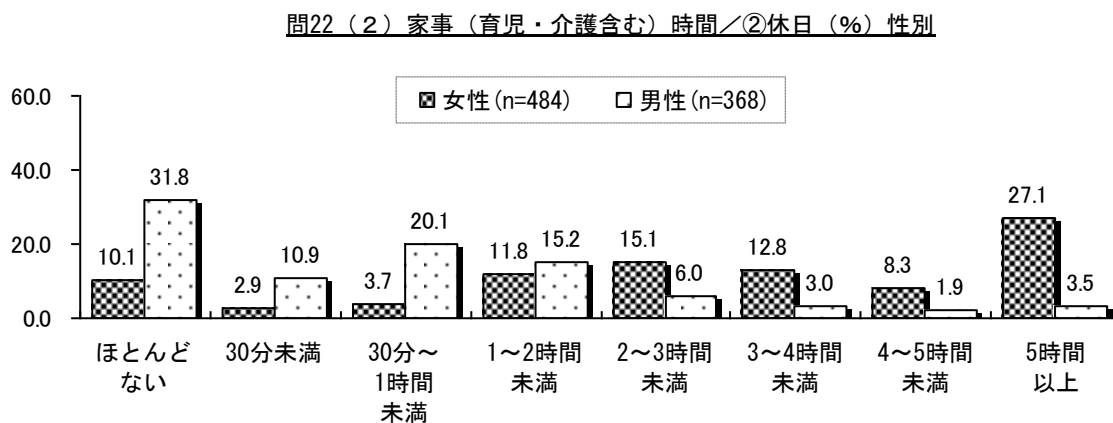
(4) 休日の家事時間

休日の家事（育児・介護含む）時間については、「ほとんどない」が19.4%を占める。

家事時間は「5時間以上」が16.8%と最も多く、次いで「1～2時間未満」（13.2%）、「2～3時間未満」（11.1%）、「30分～1時間未満」（10.8%）の順となっている。



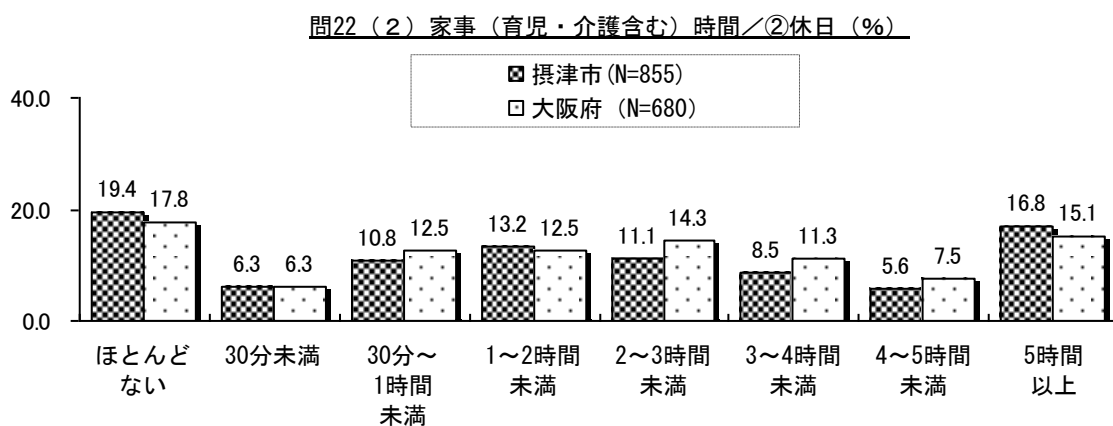
性別でみると、女性は「2～3時間未満」「3～4時間未満」「5時間以上」などで男性を大きく上回り、男性は「ほとんどない」「30分未満」「30分～1時間未満」などで女性を上回っている。休日にも相対的に女性の家事時間の方が長い傾向にある。



注：図中では「無回答」は表記していません。

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「30分～1時間未満」「2～3時間未満」などがやや少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。



注: 図中では「無回答」は表記していません。

9. 暮らし方の希望と実際

問 23. あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。

(1)希望として一番近いものを選んでください。(○は1つ)

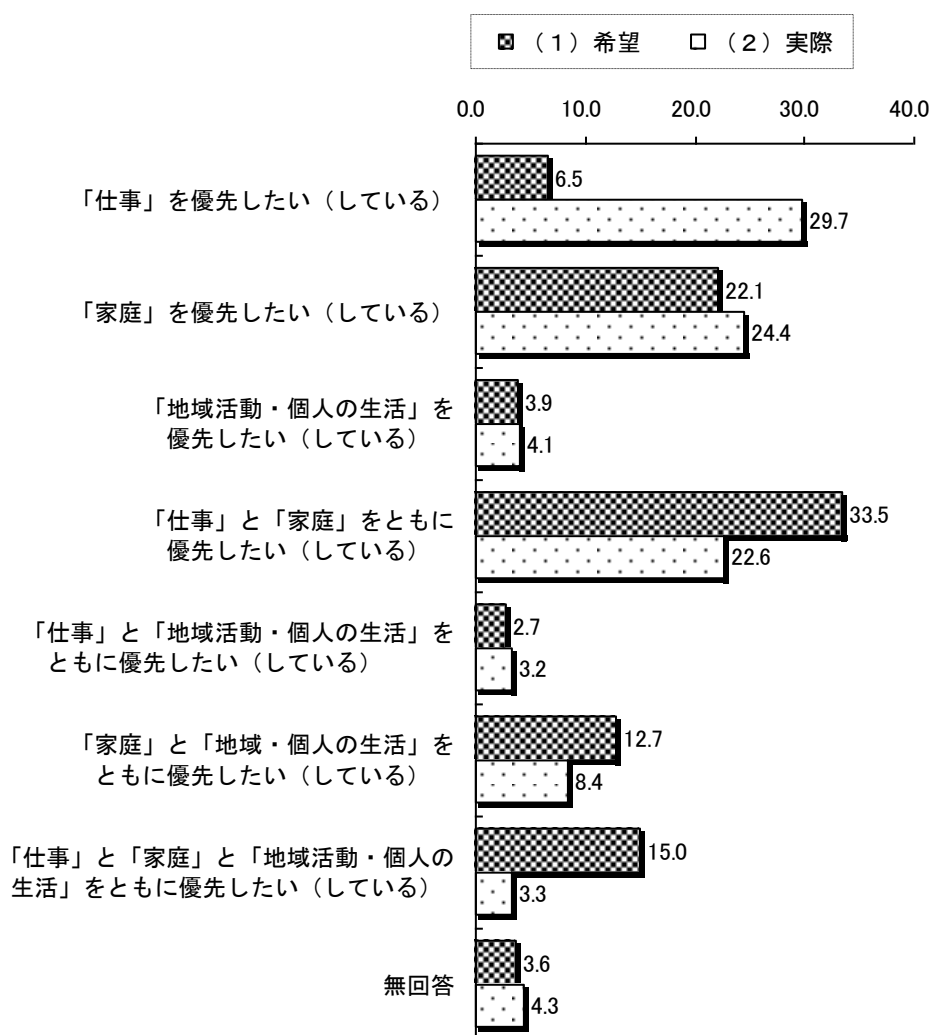
(2)実際のあなたの生活に最も近いのはどれでしょうか。最も近いものを選んでください。
(○は1つ)

暮らし方の希望については、「仕事と家庭をともに優先したい」が 33.5%と最も多く、次いで「家庭を優先したい」(22.1%)、「仕事と家庭と地域活動・個人の生活をともに優先したい」(15.0%)、「家庭と地域・個人の生活をともに優先したい」(12.7%)の順となっている。

一方、暮らし方の実際については、「仕事を優先している」が 29.7%と最も多く、「家庭を優先している」が 24.4%で続いている。

希望と実際にギャップが大きいのは「仕事を優先したい(している)」「仕事と家庭と地域活動・個人の生活をともに優先したい(している)」「仕事と家庭をともに優先したい(している)」などがあげられる。

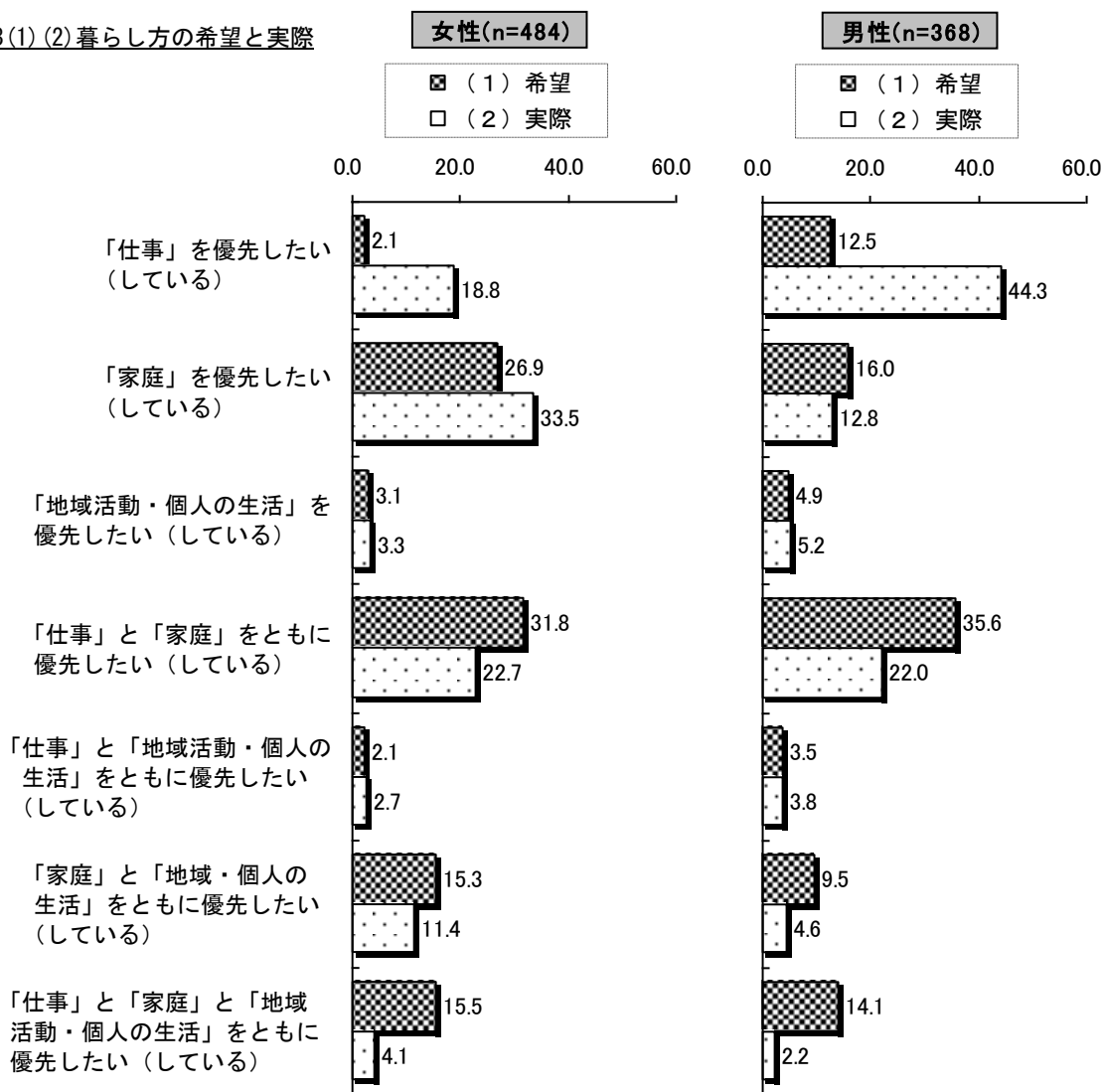
問23(1)(2)暮らし方の希望と実際 (%)
全体(N=855)



性別でみると、女性は「仕事と家庭をともに優先したい」「家庭を優先したい」と希望しているが、実際は「家庭を優先している」「仕事と家庭をともに優先している」「仕事を優先している」が多く、特に「仕事を優先している」でギャップが大きい。

男性は「仕事と家庭をともに優先したい」「家庭を優先したい」「仕事と家庭と地域活動・個人の生活をともに優先したい」と希望しているが、実際は「仕事を優先している」が多く、ギャップも非常に大きい。

問23(1)(2)暮らし方の希望と実際

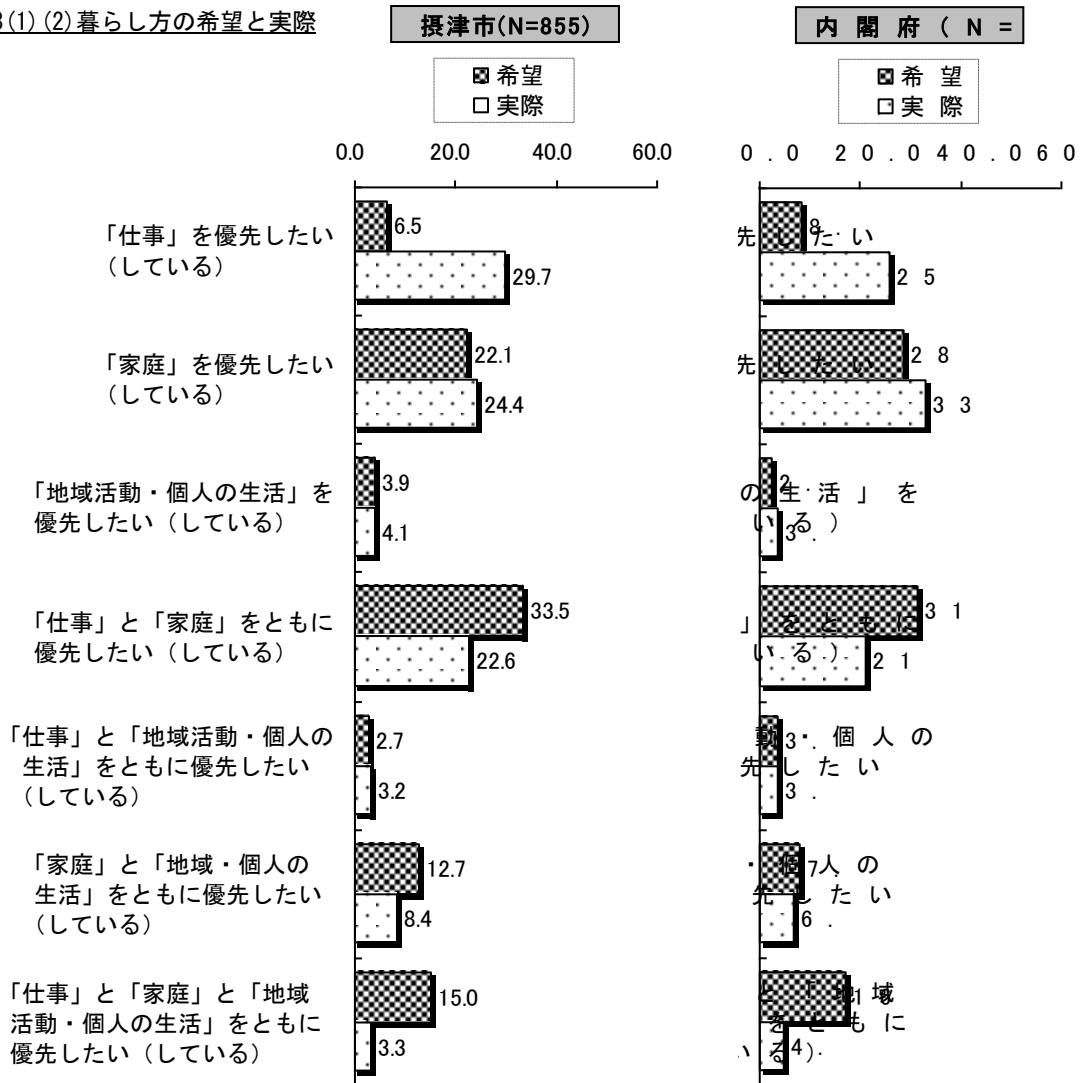


注: 図中では「無回答」は表記していません。

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

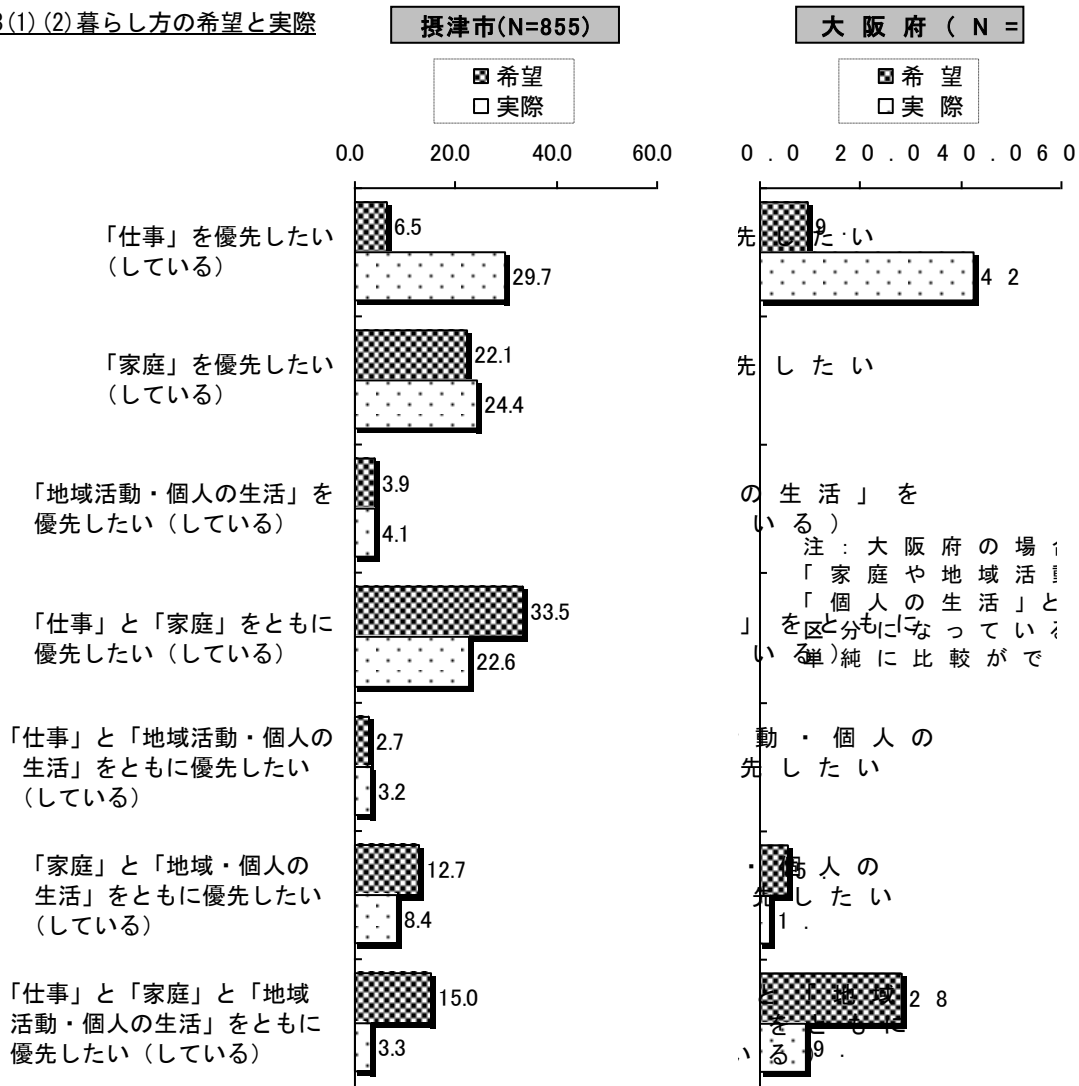
内閣府との比較では、摂津市は「仕事と家庭をともに優先したい（している）」「家庭と地域・個人の生活をともに優先したい（している）」の希望がやや多く、「家庭を優先したい（している）」の希望がやや少ない。「実際」については「仕事を優先したい（している）」「家庭と地域・個人の生活をともに優先したい（している）」などで内閣府よりもやや多くなっている。

問23(1)(2)暮らし方の希望と実際



大阪府との比較については、選択肢が異なるため参考にとどめるが、「実際」が「仕事優先」であり、「希望」とのギャップが大きな点では同傾向である。

問23(1)(2)暮らし方の希望と実際



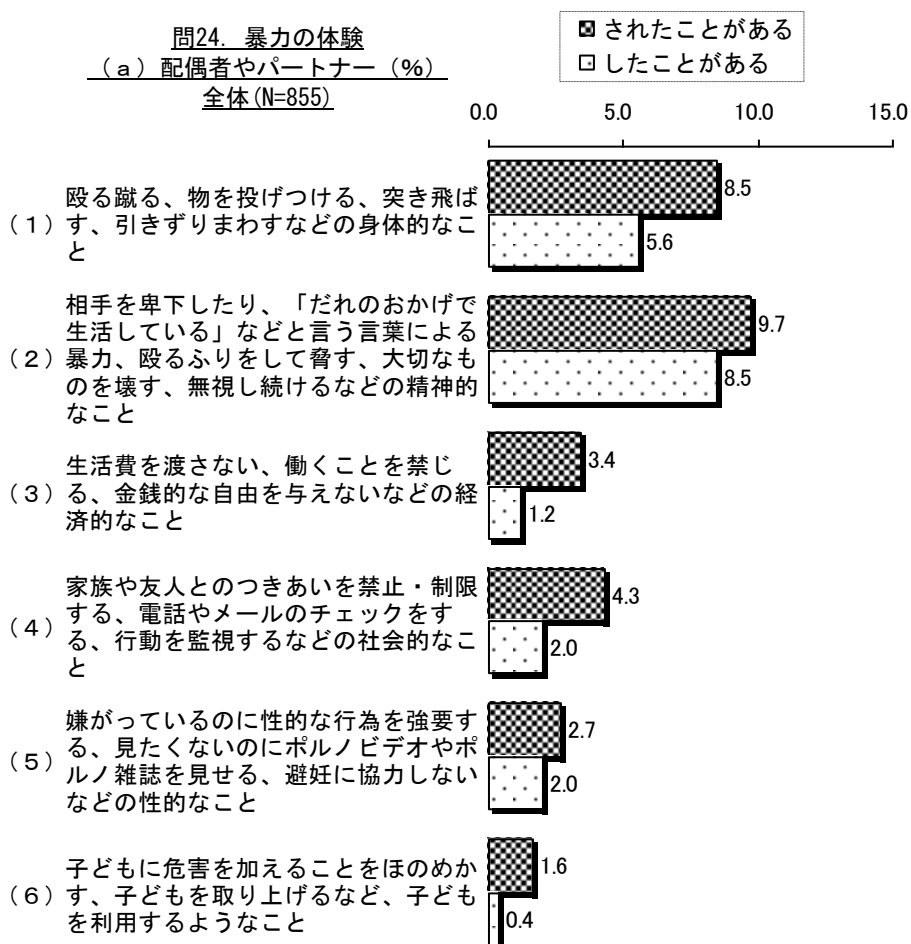
【4】男女の人権について

1. 暴力の体験

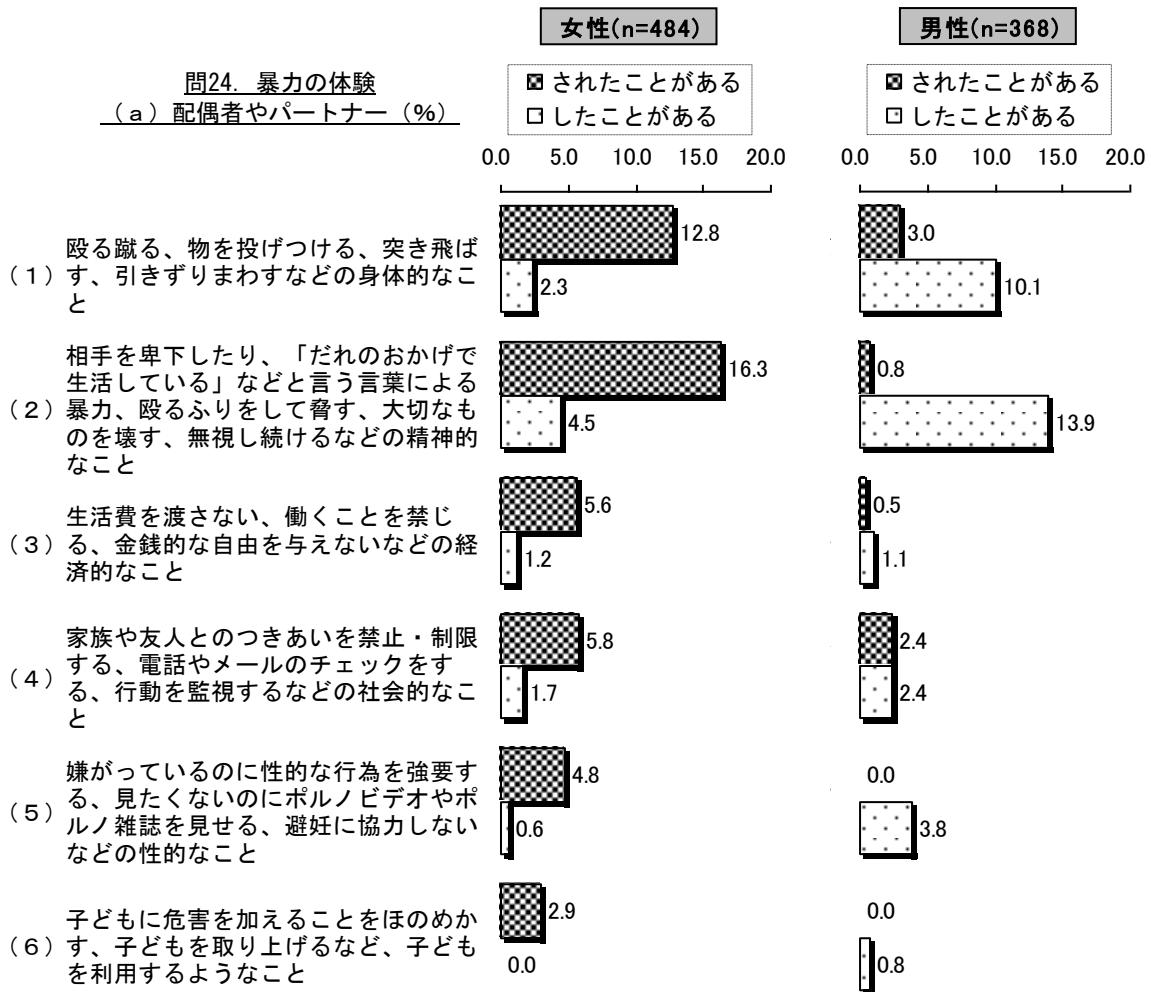
問 24. あなたはこれまでに、配偶者やパートナー、もしくは恋人など交際相手に次のような暴力をしたり、されたりしたことがありますか。(a) 配偶者やパートナー (b) 恋人など交際相手（それぞれにあてはまるものに○をつけてください。）

(1) 配偶者やパートナー

配偶者やパートナーから「されたことがある」行為についてみると、「(2) 相手を卑下したり、「だれのおかげで生活している」などと言う言葉による暴力、殴るふりをして脅す、大切なものを壊す、無視し続けるなどの精神的なこと」が 9.7%と最も多く、次いで「(1) 殴る蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、引きずりまわすなどの身体的なこと」(8.5%)、「(4) 家族や友人とのつきあいを禁止・制限する、電話やメールのチェックをする、行動を監視するなどの社会的なこと」(4.3%)、「(3) 生活費を渡さない、働くことを禁じる、金銭的な自由を与えないなどの経済的なこと」(3.4%)の順となっている。いずれも回答割合は少ないが「(2) 精神的なこと」については、1割近い回答があがっている。

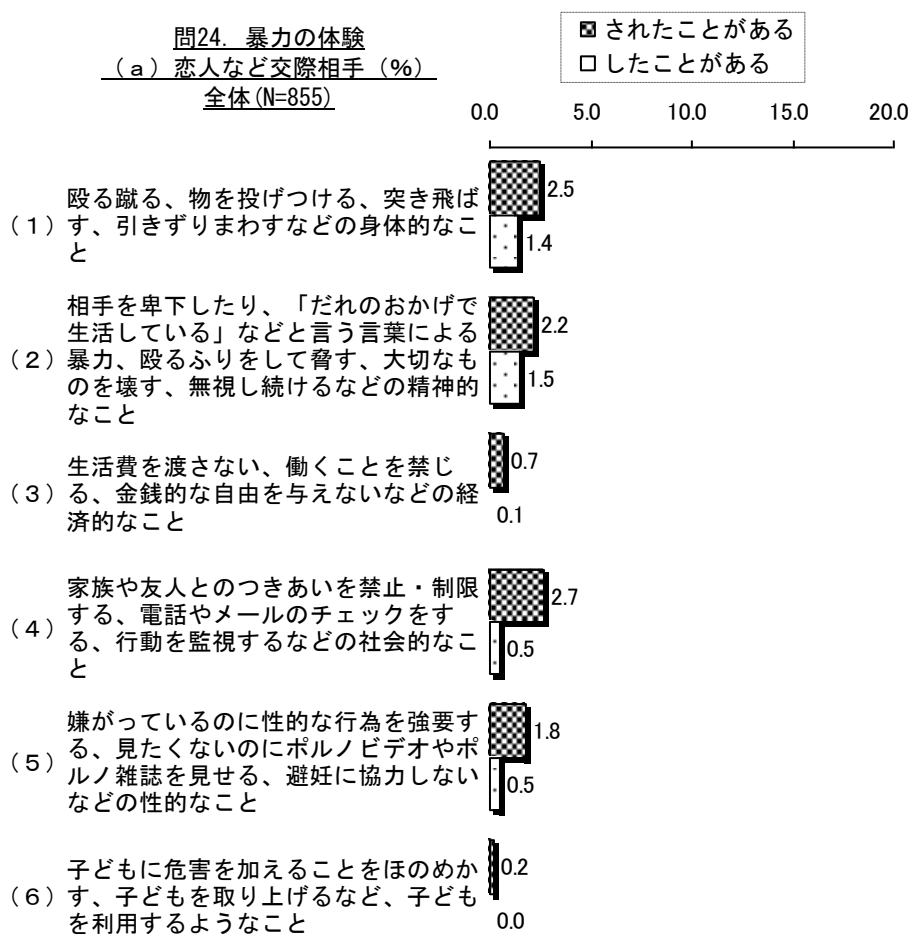


性別でみると、女性は、ほとんどが「されたことがある」への回答で、特に「(1) 殴る蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、引きずりまわすなどの身体的なこと」「(2) 相手を卑下したり、「だれのおかげで生活している」などと言う言葉による暴力、殴るふりをして脅す、大切なものを壊す、無視し続けるなどの精神的なこと」が多い。一方で、男性は同じ項目で「したことがある」の方が多くなっている。

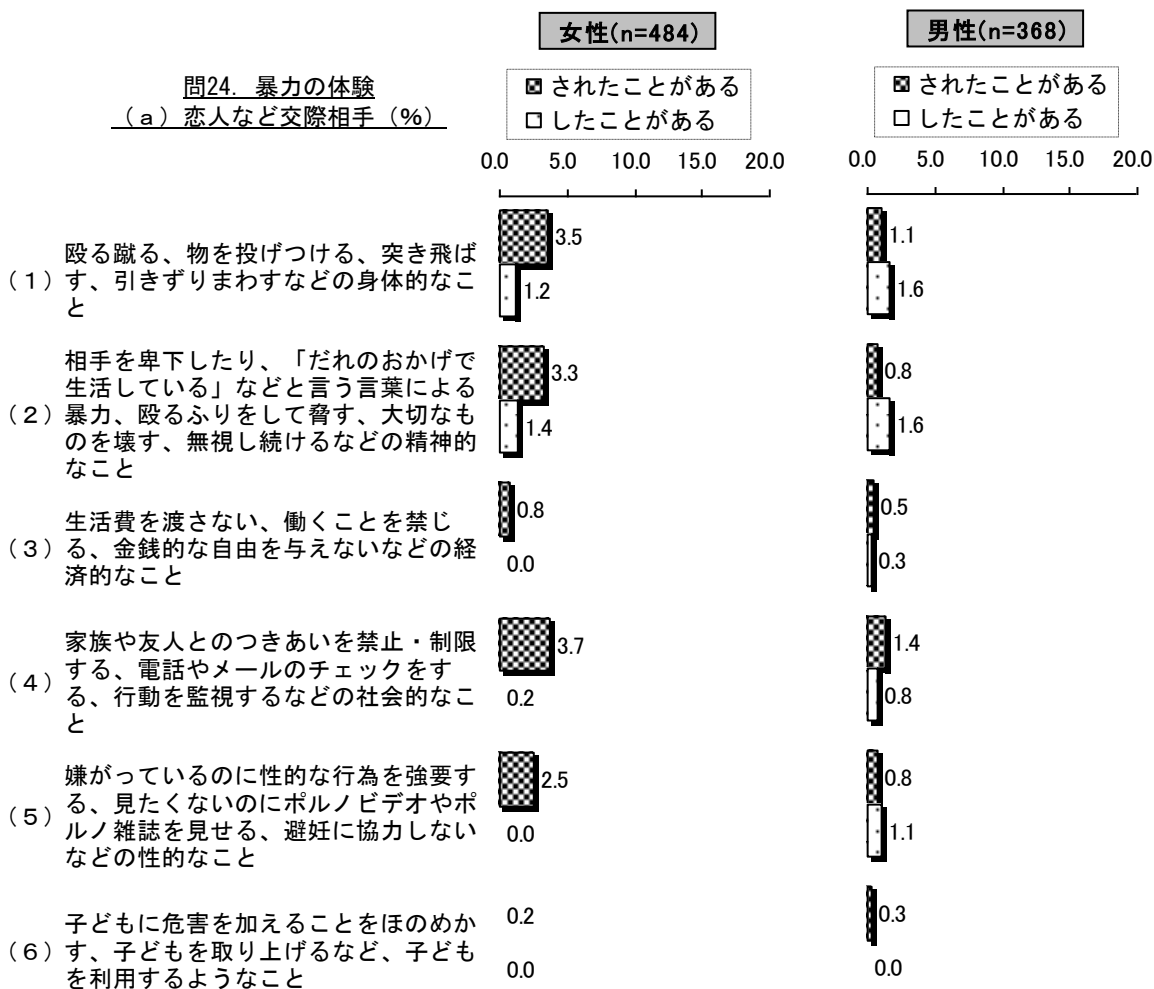


(2) 恋人など交際相手（デートDV）

恋人など交際相手から「されたことがある」行為についてみると、「(4) 家族や友人とのつきあいを禁止・制限する、電話やメールのチェックをする、行動を監視するなどの社会的なこと」が2.7%、「(1) 殴る蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、引きずりまわすなどの身体的なこと」(2.5%)、「(2) 相手を卑下したり、「だれのおかげで生活している」などと言う言葉による暴力、殴るふりをして脅す、大切なものを壊す、無視し続けるなどの精神的なこと」(2.2%) などがある。



性別でみると、女性は、ほとんどが「されたことがある」への回答で、特に「(4) 家族や友人とのつきあいを禁止・制限する、電話やメールのチェックをする、行動を監視するなどの社会的なこと」「(1) 殴る蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、引きずりまわすなどの身体的なこと」「(2) 相手を卑下したり、「だれのおかげで生活している」などと言う言葉による暴力、殴るふりをして脅す、大切なものを壊す、無視し続けるなどの精神的なこと」が相対的に多い。一方で、男性は「したことがある」項目があがっているが、全体的に回答割合は少ない。

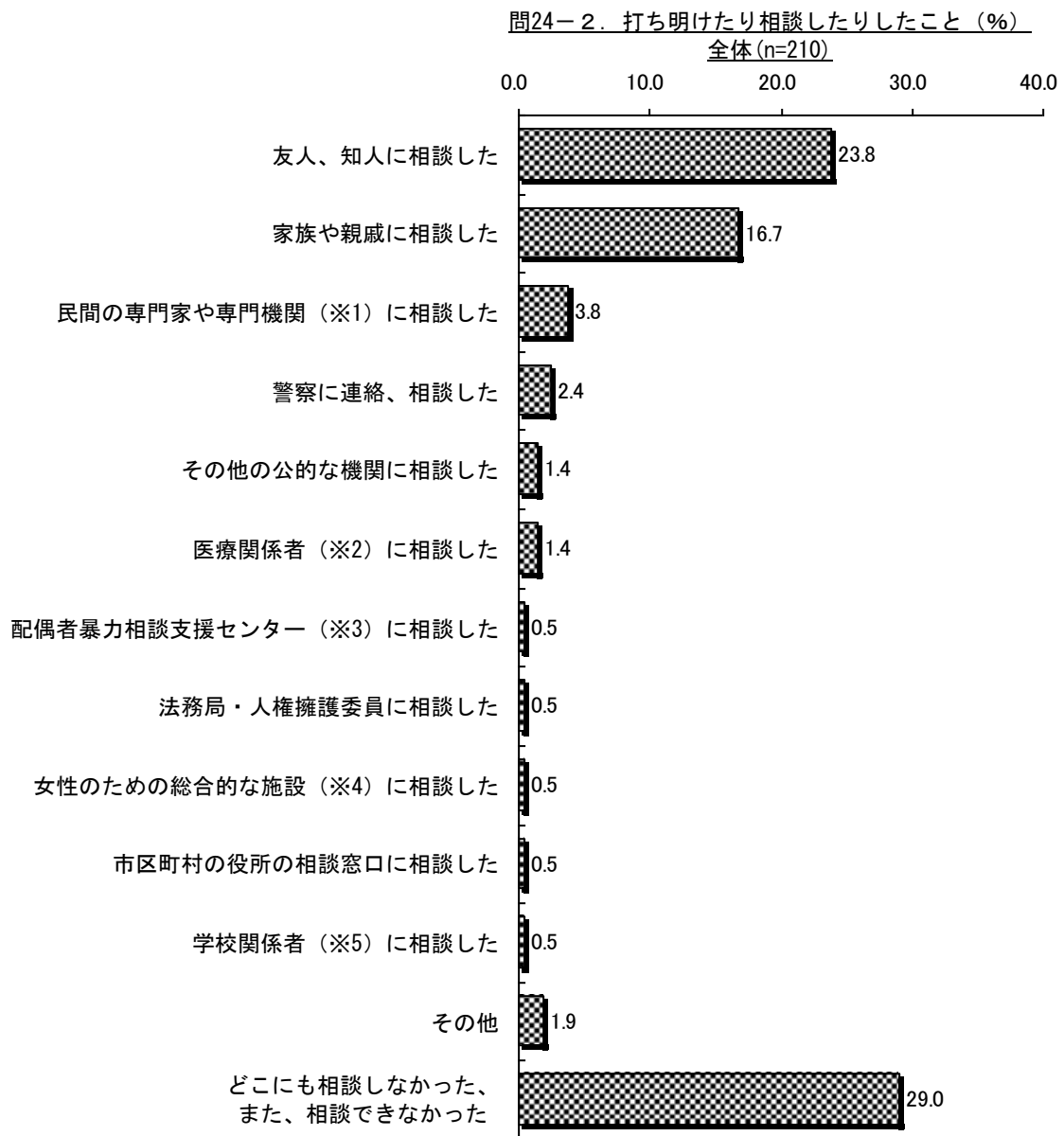


2. 打ち明けたり相談したりしたこと

問 24 でひとつでも(1)～(6)のようなことをしたり、されたりしたことがある方にうかがいます。

問 24-2. その後、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

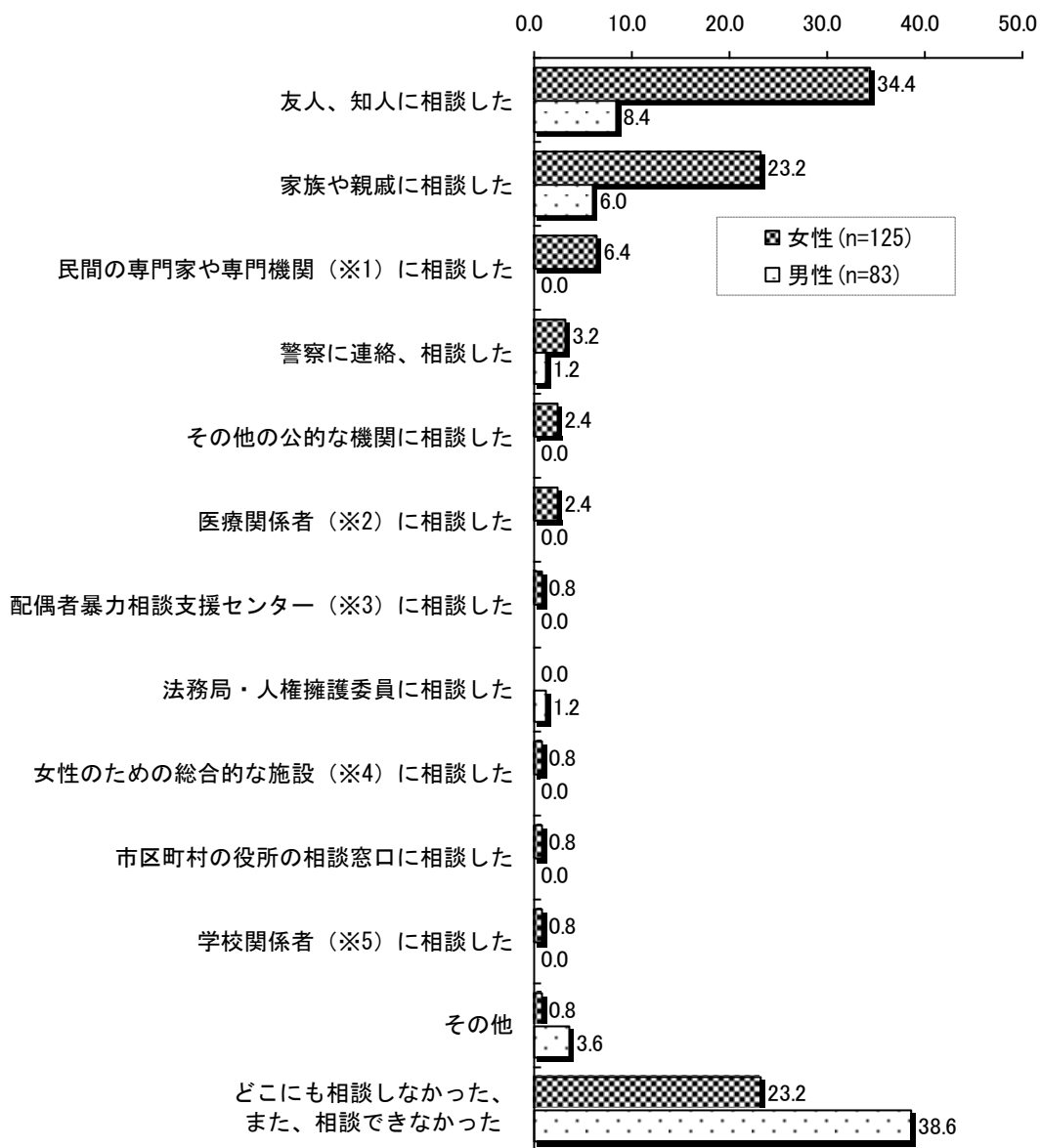
打ち明けたり相談したりしたことについては、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が 29.0%で最も多いが、相談先としては「友人、知人に相談した」が 23.8%、「家族や親戚に相談した」が 16.7%で続いている。この他の相手への相談は全体的に回答が少ない。



- ※1 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど
- ※2 医師、看護師など
- ※3 女性相談センターなど
- ※4 男女共同参画センター、女性センターなど
- ※5 教員、スクールカウンセラーなど

性別でみると、女性は「友人、知人に相談した」「家族や親戚に相談した」が多く、男性との差が非常に大きい。一方、男性は「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が女性を大きく上回っている。

問24-2. 打ち明けたり相談したりしたこと (%) 性別



※1 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど

※2 医師、看護師など

※3 女性相談センターなど

※4 男女共同参画センター、女性センターなど

※5 教員、スクールカウンセラーなど

注：図中では「無回答」は表記していません。

性・年齢別では、女性は年齢が若い層ほど「友人、知人に相談した」が多く、40～50歳代では「家族や親戚に相談した」が多い点が特徴的である。

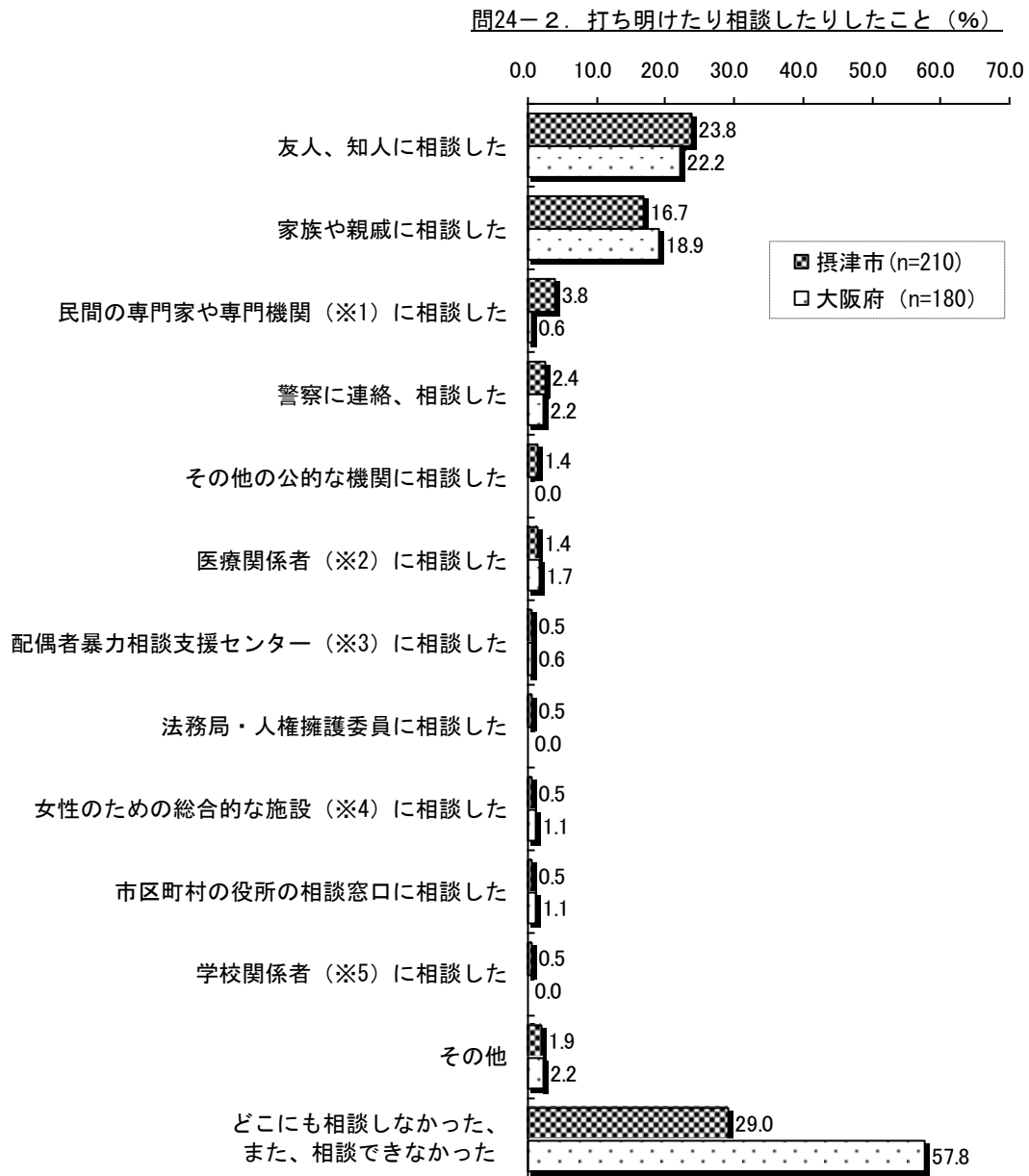
問24-2. 打ち明けたり相談したりしたこと(%) 性・年齢別

	ターゲット(女性)に相談した	配偶者暴力相談支援センターに相談した	警察に連絡、相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	女性センター(男女共同参画的な施設)に相談した	市区町村の役所の相談窓口	その他の公的な機関に相談した	民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)に相談した
全体(n=210)	0.5	2.4	0.5	0.5	0.5	1.4	3.8	
女性20歳代(n=8)	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
女性30歳代(n=19)	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	5.3	5.3	
女性40歳代(n=18)	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	
女性50歳代(n=24)	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	
女性60歳代(n=35)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	8.6	
女性70歳以上(n=21)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	
男性20歳代(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性30歳代(n=15)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性40歳代(n=11)	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性50歳代(n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性60歳代(n=20)	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
男性70歳以上(n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

	医療関係者(医師、看護師など)に相談した	学校関係者(教員、学生など)に相談した	家族や親戚に相談した	友人、知人に相談した	その他	かたまたま相談できなかった
全体(n=210)	1.4	0.5	16.7	23.8	1.9	29.0
女性20歳代(n=8)	12.5	0.0	0.0	62.5	12.5	12.5
女性30歳代(n=19)	0.0	0.0	21.1	63.2	0.0	26.3
女性40歳代(n=18)	5.6	5.6	33.3	50.0	0.0	27.8
女性50歳代(n=24)	4.2	0.0	33.3	37.5	0.0	25.0
女性60歳代(n=35)	0.0	0.0	25.7	20.0	0.0	28.6
女性70歳以上(n=21)	0.0	0.0	9.5	4.8	0.0	9.5
男性20歳代(n=6)	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0
男性30歳代(n=15)	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	66.7
男性40歳代(n=11)	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	36.4
男性50歳代(n=17)	0.0	0.0	0.0	17.6	11.8	58.8
男性60歳代(n=20)	0.0	0.0	10.0	5.0	0.0	25.0
男性70歳以上(n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が少ないが、全体的にはおおむね同傾向を示している。



※1 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど

※2 医師、看護師など

※3 女性相談センターなど

※4 男女共同参画センター、女性センターなど

※5 教員、スクールカウンセラーなど

注：図中では「無回答」は表記していません。

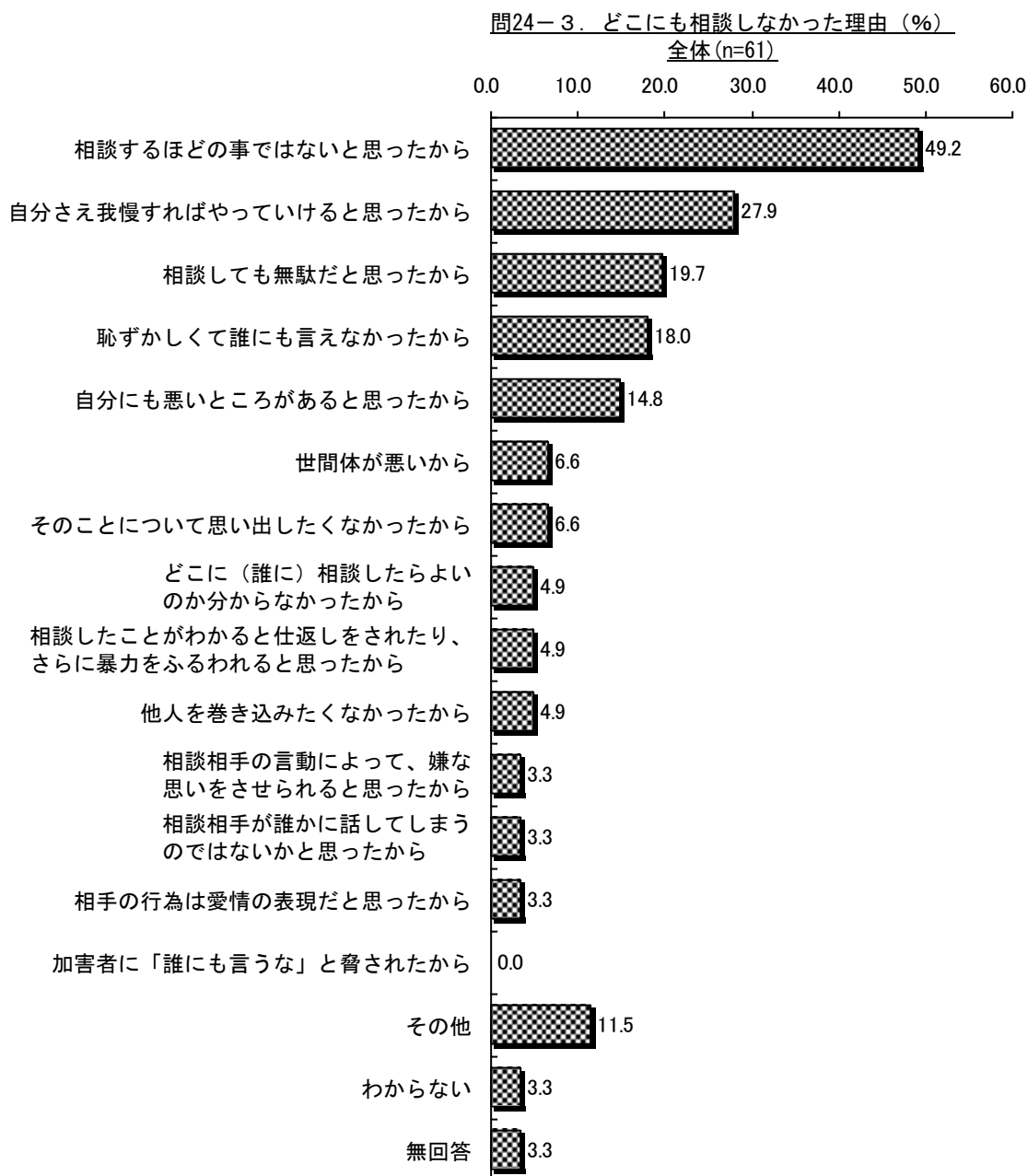
3. どこにも相談しなかった理由

問 24-2 で「13.」と答えられた方のみにうかがいます。

問 24-3. どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。

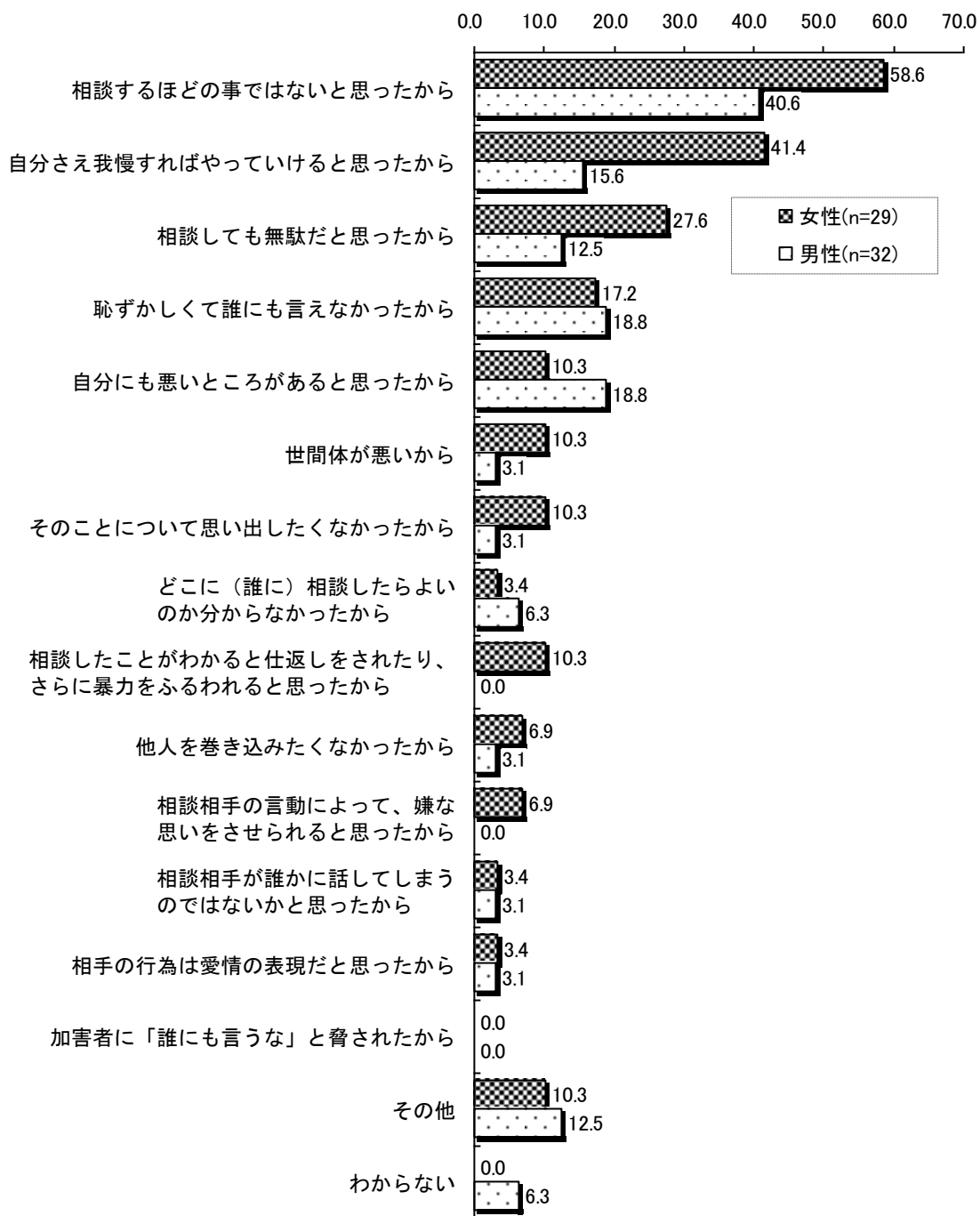
(○はいくつでも)

どこにも相談しなかった理由については、「相談するほどの事ではないと思ったから」が 49.2% で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」(27.9%)、「相談しても無駄だと思ったから」(19.7%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(18.0%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(14.8%) の順となっている。



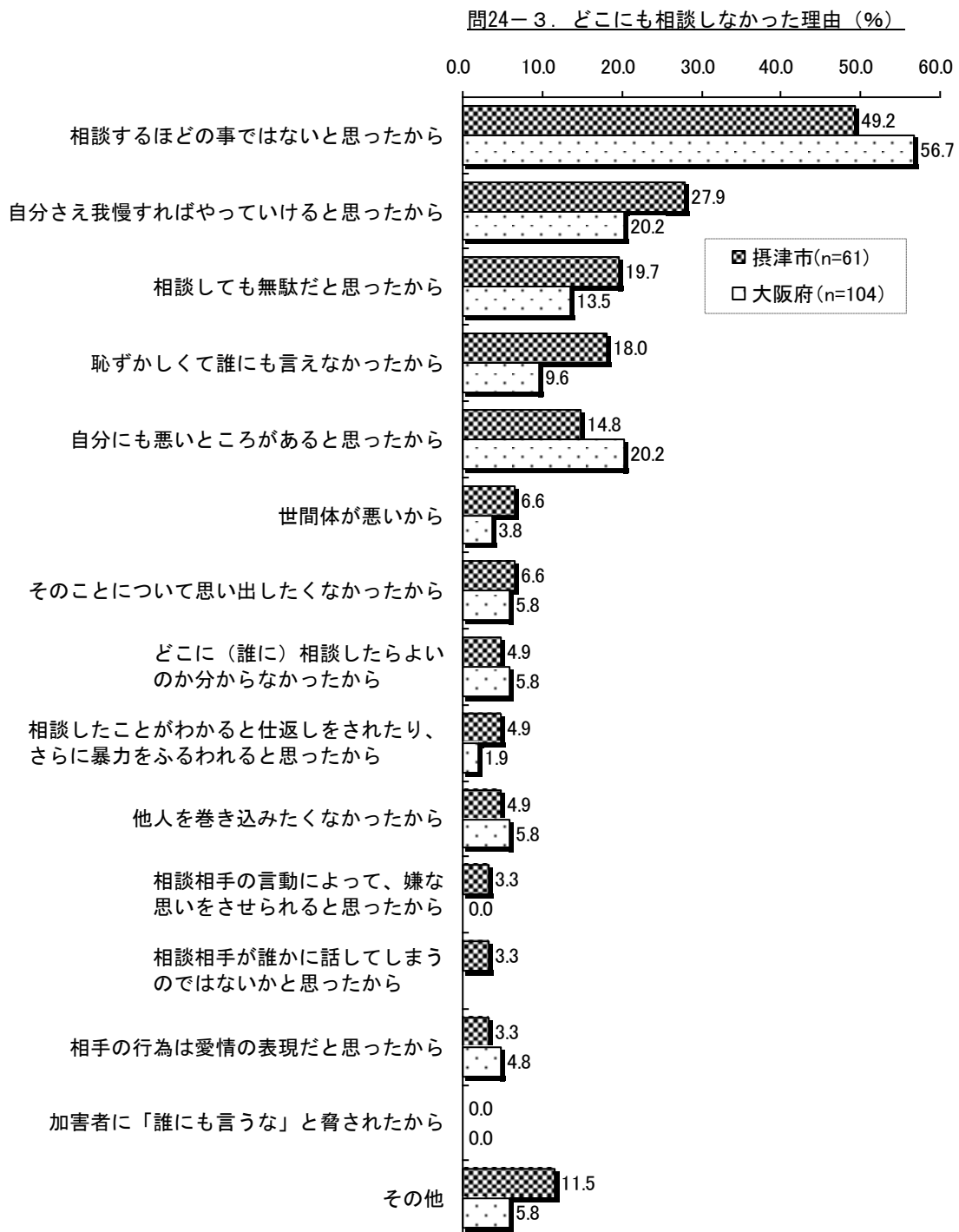
性別では、女性の場合「相談するほどの事ではないと思ったから」「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」などが多く、いずれも男性を大きく上回っている。

問24-3. どこにも相談しなかった理由(%) 性別



【参考／大阪府調査との比較】

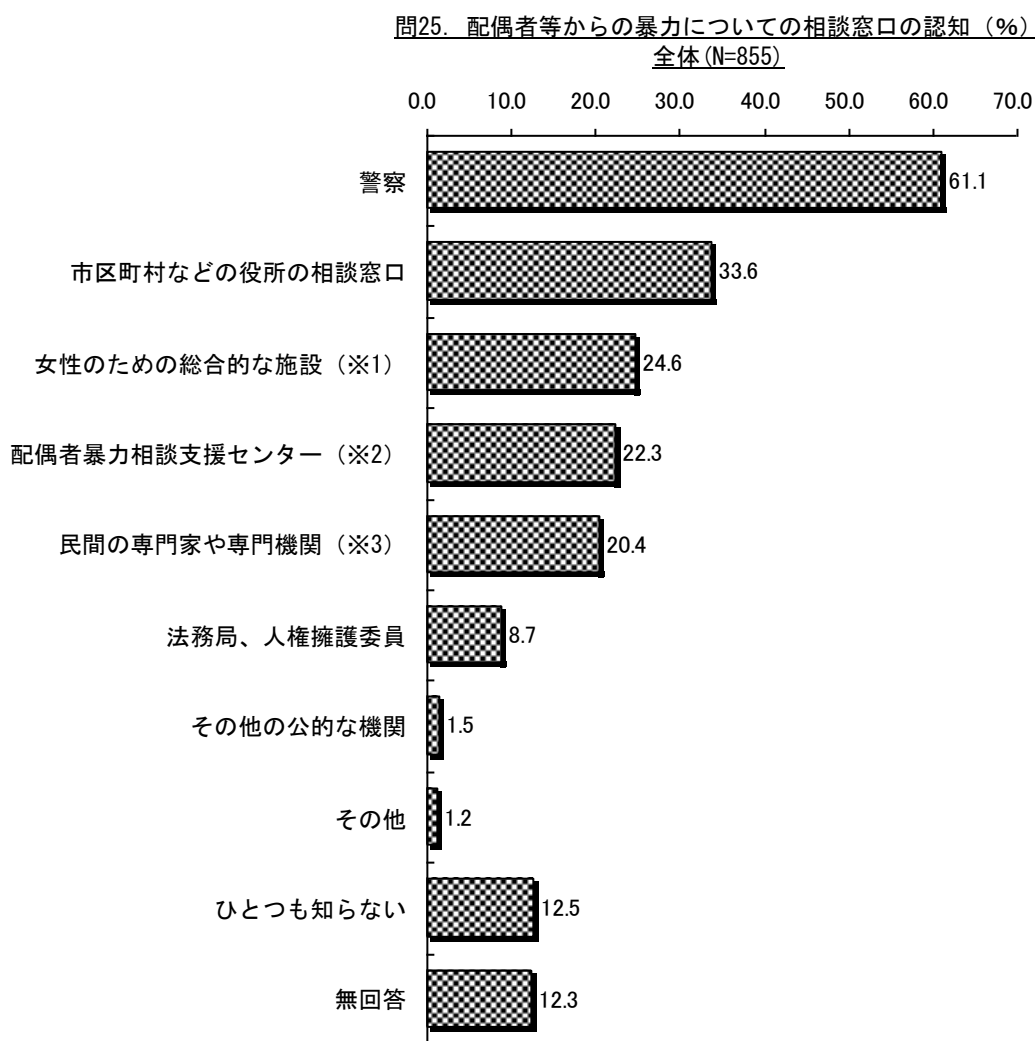
大阪府との比較では、摂津市は「自分さえ我慢すればやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」といった点で大阪府を上回っており、「相談するほどの事ではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」などで下回っている。



4. 配偶者等からの暴力についての相談窓口の認知

問 25. あなたは、配偶者などからの暴力（問 24 など）について相談窓口としてどのようなものを知っていますか？（〇はいくつでも）

配偶者等からの暴力についての相談窓口の認知については、「警察」が 61.1%と最も多く、次いで「市区町村などの役所の相談窓口」（33.6%）、「女性のための総合的な施設（※1）」（24.6%）、「配偶者暴力相談支援センター（※2）」（22.3%）、「民間の専門家や専門機関（※3）」（20.4%）の順となっている。また「ひとつも知らない」は 12.5%みられた。



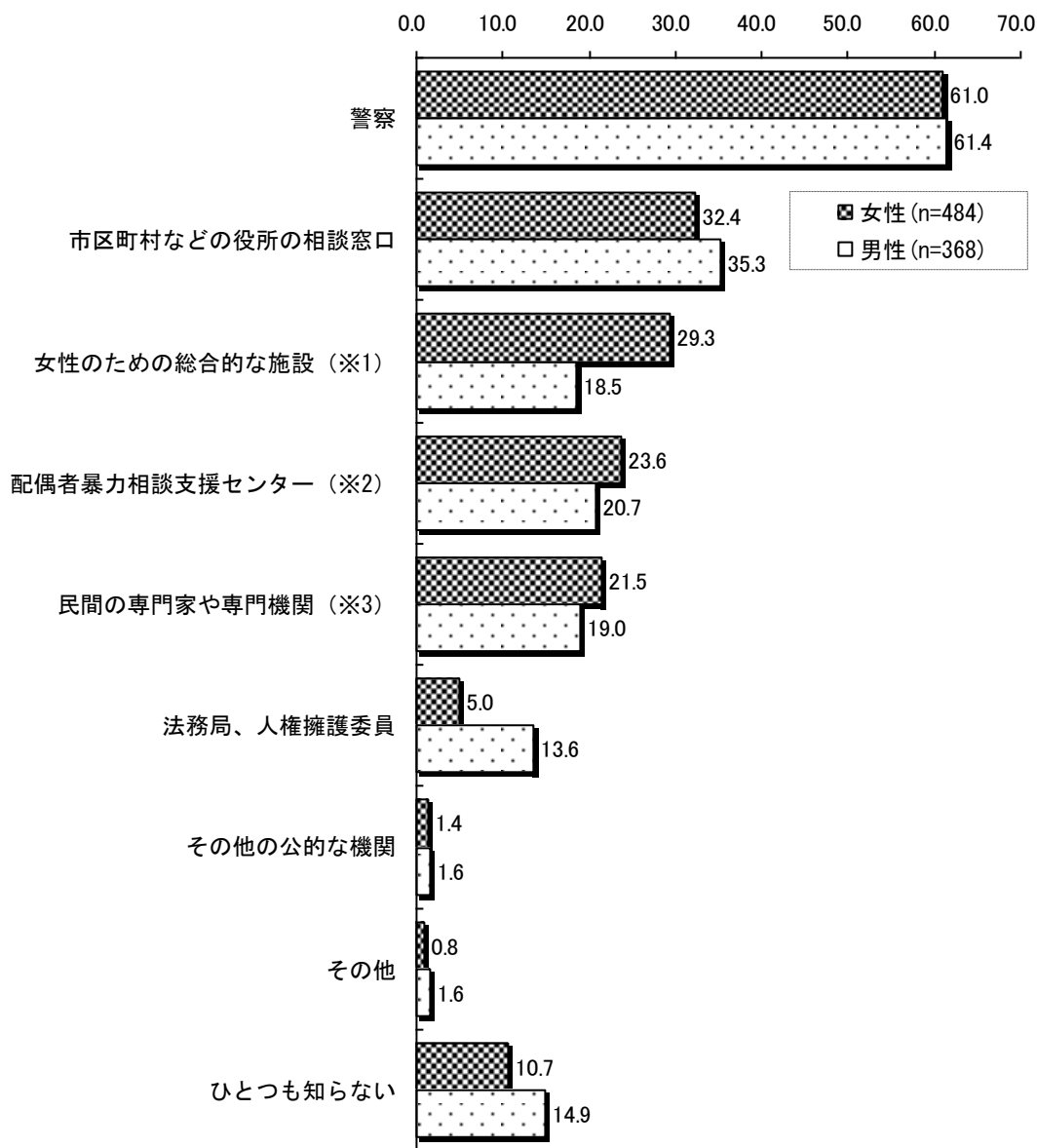
※1 男女共同参画センター、女性センターなど

※2 女性相談センター、子ども家庭センターなど

※3 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど

性別では、女性で「女性のための総合的な施設（※1）」が男性を大きく上回り、男性は「法務局、人権擁護委員」で女性を上回っているが、この他では大きな男女差はみられない。

問25. 配偶者等からの暴力についての相談窓口の認知（%）性別



※1 男女共同参画センター、女性センターなど

※2 女性相談センター、子ども家庭センターなど

※3 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど

注：図中では「無回答」は表記していません。

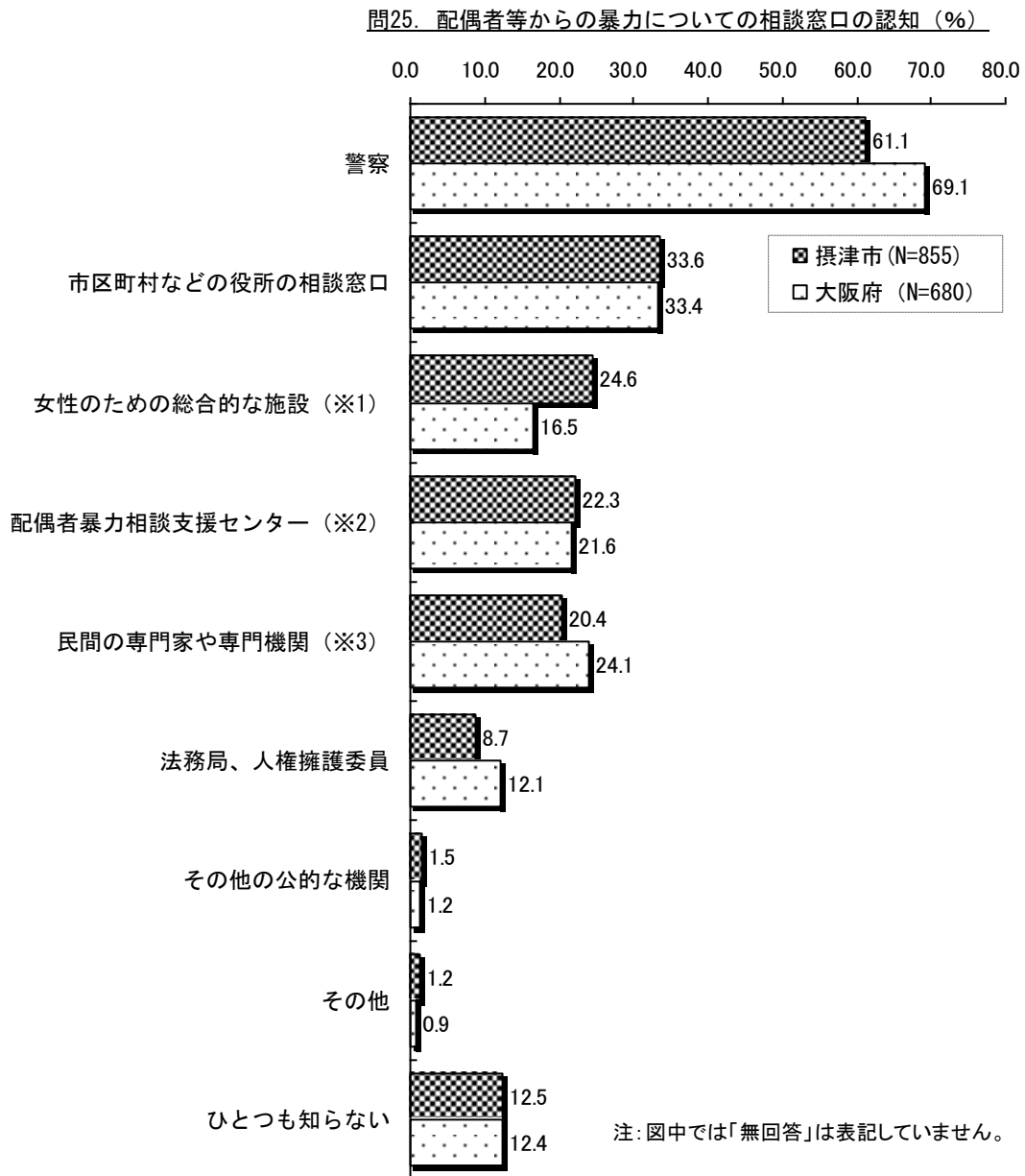
性・年齢別では、女性の20～40歳代で「警察」「女性のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）」などが他の年齢層に比べ多い。男性の20歳代では「ひとつも知らない」が多い。

問25. 配偶者等からの暴力についての相談窓口の認知（%）性・年齢別

	家庭（女性相 センターなど）	配偶者暴力相 談センター、 子ども	性（女性 センターなど）	男性のための 総合的な施設、 女性	警察	法務局、 人権擁護委員	市区町村などの 役所の相談窓 口	その他の公的 な機関	民間の専門家 や専門機関（ 弁護士会、 カウンセラ ンタリング センター、 民間シェル ターなど）	その他	ひとつも 知らない
全体 (N=855)	22.3	24.6	61.1	8.7	33.6	1.5	20.4	1.2	12.5		
女性20歳代 (n=38)	21.1	34.2	76.3	2.6	34.2	0.0	23.7	2.6	5.3		
女性30歳代 (n=113)	23.9	38.1	70.8	3.5	30.1	0.0	29.2	0.9	9.7		
女性40歳代 (n=75)	26.7	32.0	74.7	2.7	33.3	2.7	32.0	1.3	12.0		
女性50歳代 (n=83)	22.9	26.5	54.2	3.6	34.9	0.0	14.5	0.0	9.6		
女性60歳代 (n=117)	26.5	26.5	53.8	8.5	36.8	4.3	18.8	0.9	12.8		
女性70歳以上 (n=58)	15.5	15.5	37.9	6.9	22.4	0.0	6.9	0.0	12.1		
男性20歳代 (n=33)	15.2	6.1	60.6	0.0	27.3	0.0	6.1	0.0	30.3		
男性30歳代 (n=67)	13.4	14.9	71.6	3.0	23.9	3.0	16.4	3.0	9.0		
男性40歳代 (n=46)	10.9	15.2	63.0	6.5	41.3	2.2	23.9	0.0	19.6		
男性50歳代 (n=65)	30.8	21.5	72.3	18.5	33.8	1.5	24.6	1.5	15.4		
男性60歳代 (n=99)	23.2	23.2	55.6	22.2	39.4	1.0	20.2	1.0	12.1		
男性70歳以上 (n=58)	24.1	20.7	46.6	19.0	43.1	1.7	17.2	3.4	13.8		

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府との比較では、摂津市は「女性のための総合的な施設（※1）」が多く、「警察」や「民間の専門家や専門機関（※3）」がやや下回っている。



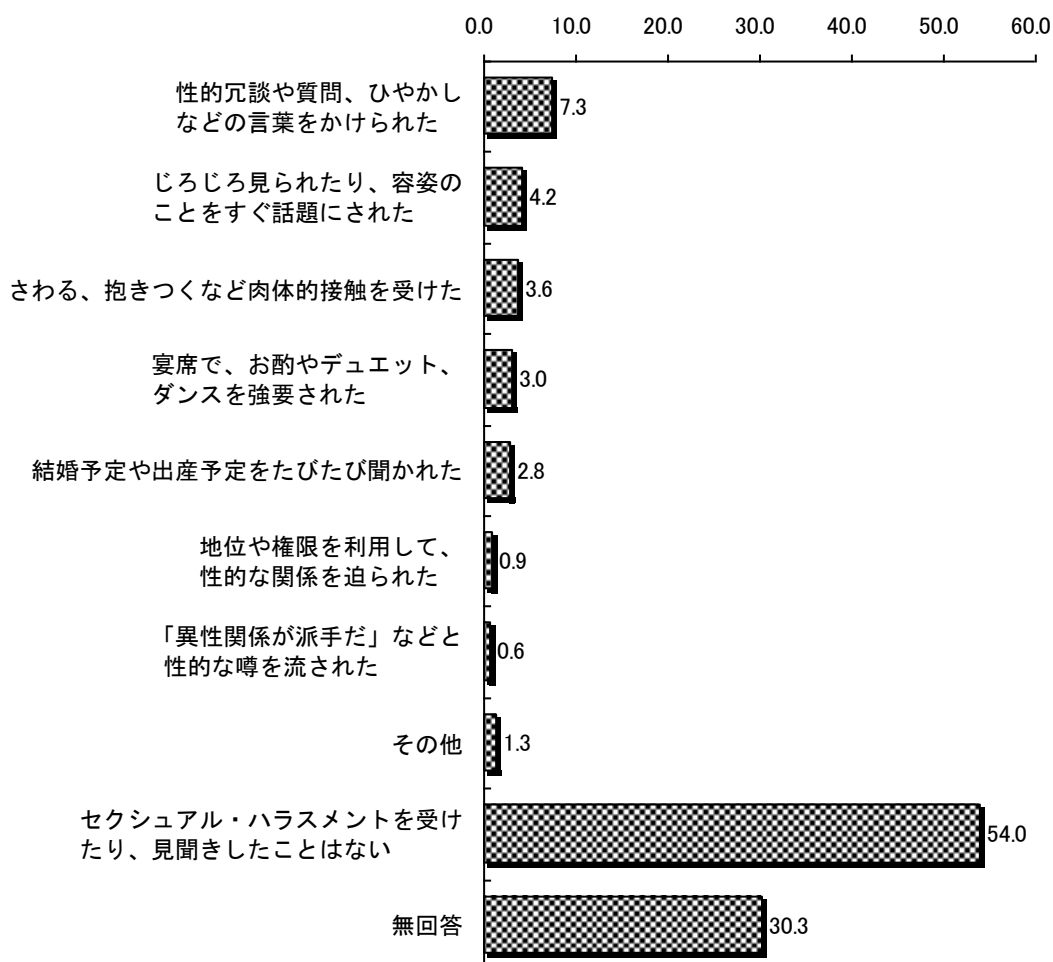
※1 男女共同参画センター、女性センターなど
 ※2 女性相談センター、子ども家庭センターなど
 ※3 弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど

5. セクシュアル・ハラスメントの経験

問 26. あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域活動の場などで、次の1～7のような「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」を受けたり、あるいは、見聞きしたりしたことがありますか。（○はいくつでも）

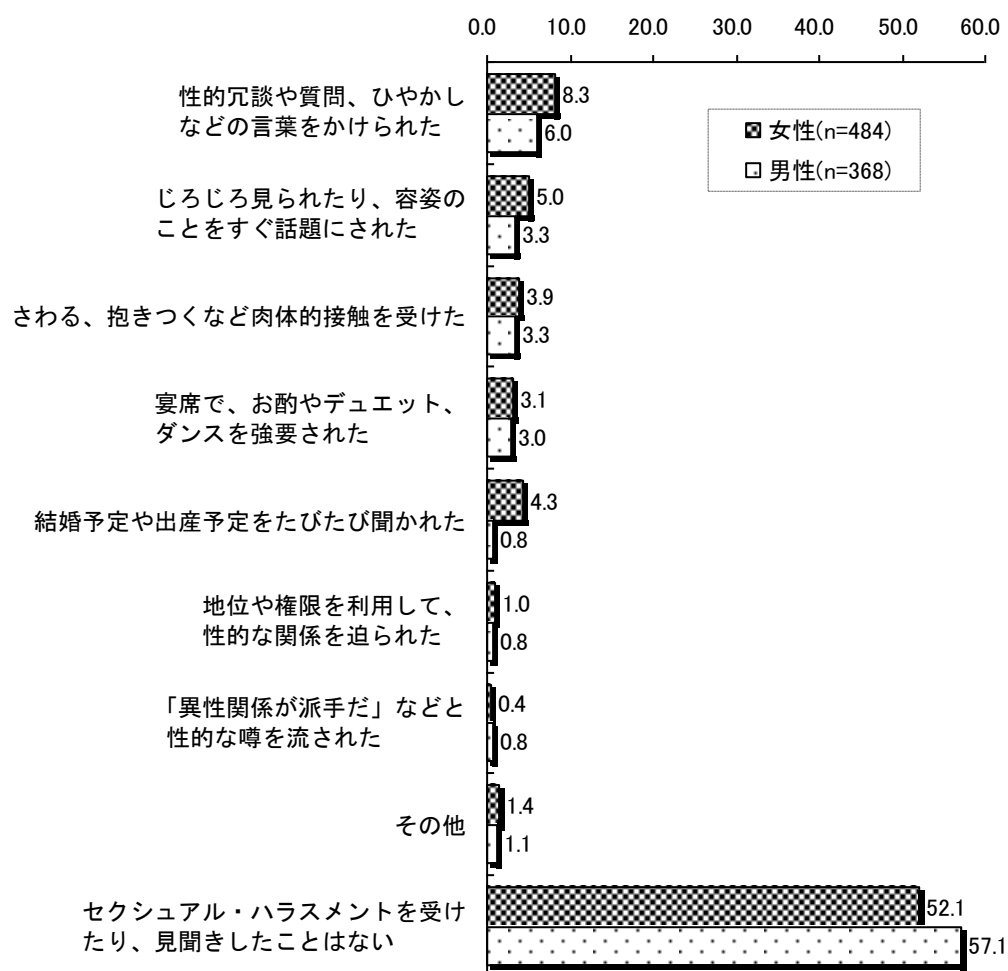
セクシュアル・ハラスメントの経験については、「セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはない」が54.0%と過半数を占めるが、受けたことがある人では「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた」が7.3%、以下「じろじろ見られたり、容姿のことをすぐ話題にされた」（4.2%）、「さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた」（3.6%）、「宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要された」（3.0%）の順となっている。

問26. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）の経験（%）
全体(N=855)



性別では、特に女性において「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた」「じろじろ見られたり、容姿のことをすぐ話題にされた」「結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた」などで男性を上回っている。

問26. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）の経験（%）性別



性・年齢別では、男女ともに 20 歳代で「セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはない」が多いが、女性 30 歳代では「性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた」「結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた」などが他の年齢層に比べ多くなっている。

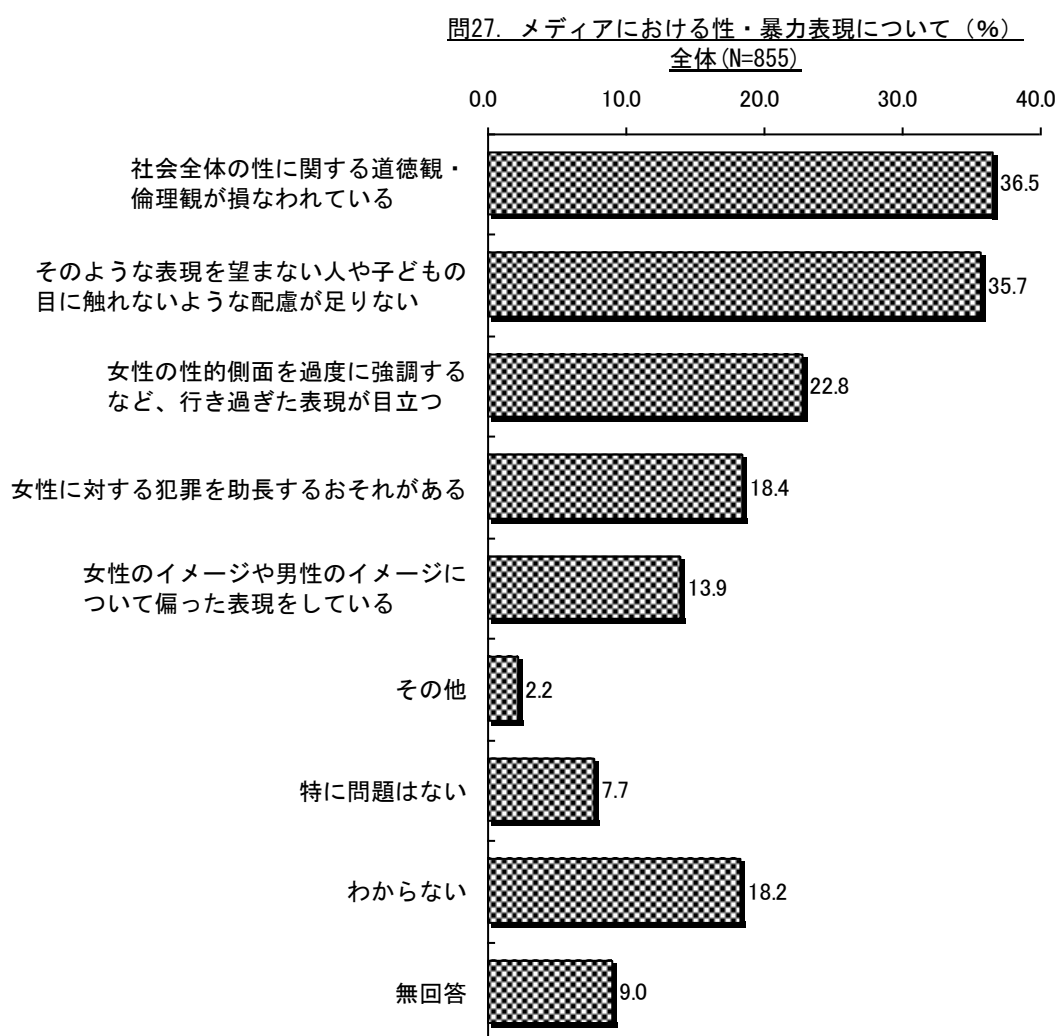
問26. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）の経験（%）性・年齢別

	らて地 れ、位 た性や 的権 な限 関を 係利 を用 迫し	たどさ 肉わ 体的 、抱 接触 きをつ くけ な	かや性 けかの らし冗 れた談 たどの 質問、 をひ	要工宴 されッ た席で た、お ダン酌 スをデ 強ユ	を結 た婚 び予 びや 聞出 か産 れ予 た定	ぐりじ 話、ろ 題容じ に姿ろ にの見 されこ れた す	をだ「 流さな されど た性 的派 手噂	そ の 他	はりス ない、 い見メ 聞シ きト しア たハ とラ
全体 (N=855)	0.9	3.6	7.3	3.0	2.8	4.2	0.6	1.3	54.0
女性20歳代 (n=38)	0.0	0.0	10.5	5.3	10.5	5.3	2.6	2.6	60.5
女性30歳代 (n=113)	1.8	6.2	13.3	4.4	12.4	6.2	0.0	0.9	56.6
女性40歳代 (n=75)	0.0	6.7	8.0	2.7	2.7	2.7	0.0	4.0	56.0
女性50歳代 (n=83)	1.2	6.0	10.8	3.6	1.2	8.4	1.2	1.2	44.6
女性60歳代 (n=117)	1.7	1.7	5.1	1.7	0.0	4.3	0.0	0.9	53.8
女性70歳以上 (n=58)	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	39.7
男性20歳代 (n=33)	0.0	6.1	6.1	3.0	0.0	6.1	3.0	0.0	75.8
男性30歳代 (n=67)	1.5	9.0	11.9	4.5	1.5	4.5	1.5	1.5	67.2
男性40歳代 (n=46)	0.0	2.2	4.3	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	52.2
男性50歳代 (n=65)	0.0	1.5	6.2	4.6	0.0	1.5	0.0	1.5	58.5
男性60歳代 (n=99)	2.0	2.0	4.0	3.0	1.0	4.0	0.0	1.0	53.5
男性70歳以上 (n=58)	0.0	0.0	3.4	1.7	0.0	3.4	1.7	1.7	43.1

6. メディアにおける性・暴力表現について

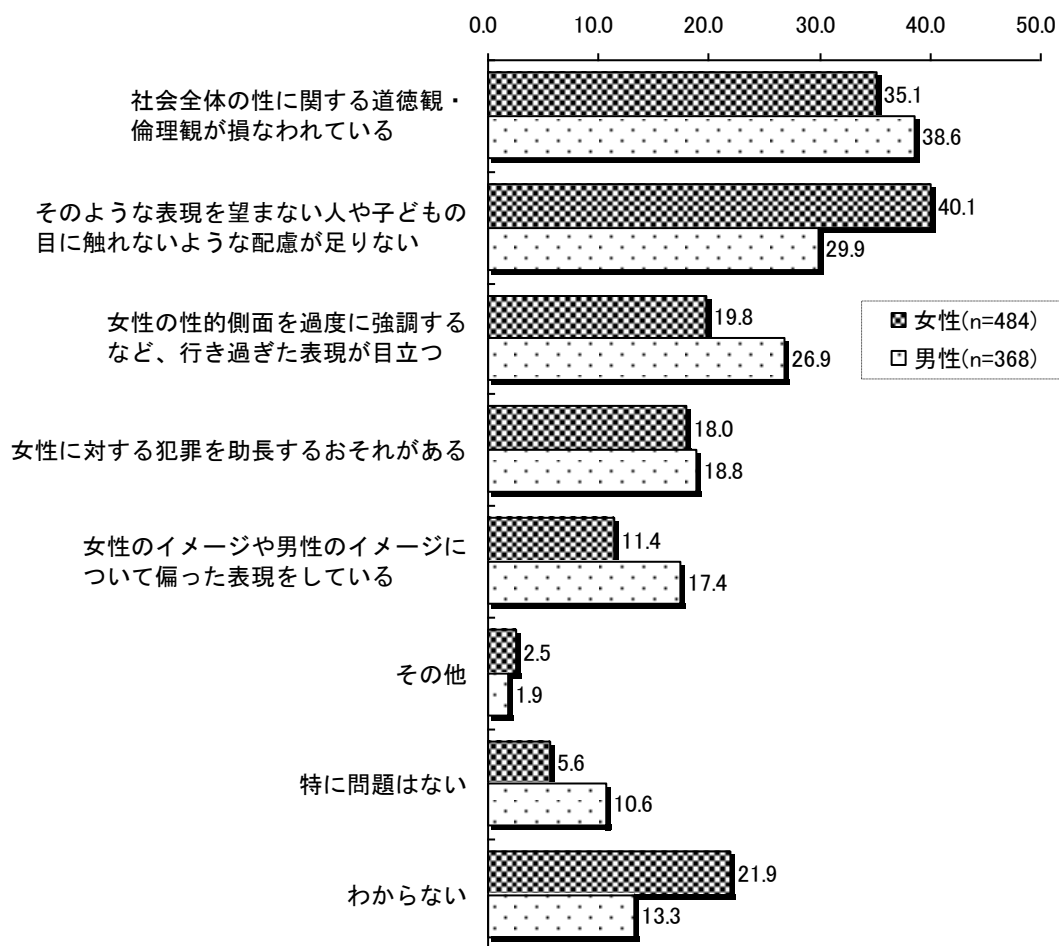
問 27. メディア（テレビ、ラジオ、インターネット、新聞、雑誌など）における性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。（〇はいくつでも）

メディアにおける性・暴力表現については、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 36.5%と最も多く、ほぼ並んで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が 35.7%で続いている。以下「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（22.8%）、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」（18.4%）、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」（13.9%）の順となっている。また、「わからない」も 18.2%みられた。



性別では、女性において「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が男性を大きく上回っている。男性は「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」などで女性を上回る。

問27. メディアにおける性・暴力表現について (%) 性別



性・年齢別では、特に女性は年齢が若い層において「わからない」が多い。女性 40 歳代では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」、女性 60 歳代では「社会全体の性に関する道德観・倫理観が損なわれている」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。

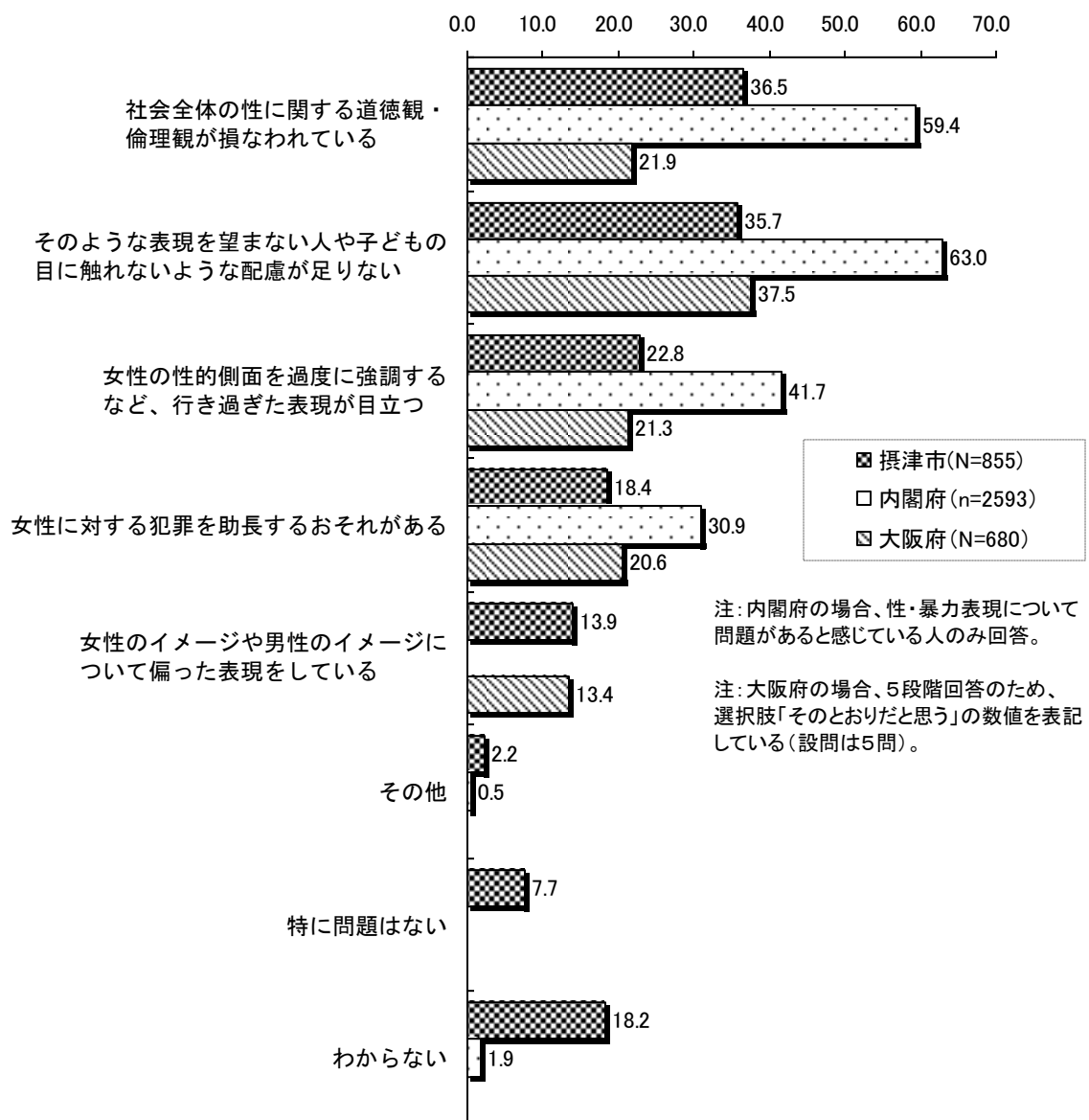
問27. メディアにおける性・暴力表現について (%) 性・年齢別

	現調女 性が目 立な つ	る観社 ・性全 倫理体 観の性 が損に 関する 過度に 強い徳	る女 性お それ が有 る犯 罪を 助長 す	よ人そ うやの な子よ 配慮も がどの 足りな い触れ ない	をメ女 して性の いいにイ づいてメ てジや 偏つ男 た性の 表の現 イ	その他	特に 問題 はない	わ から ない
全体 (N=855)	22.8	36.5	18.4	35.7	13.9	2.2	7.7	18.2
女性20歳代 (n=38)	13.2	10.5	18.4	28.9	7.9	0.0	13.2	31.6
女性30歳代 (n=113)	14.2	24.8	17.7	42.5	15.0	5.3	6.2	24.8
女性40歳代 (n=75)	16.0	28.0	24.0	46.7	8.0	2.7	6.7	25.3
女性50歳代 (n=83)	19.3	44.6	15.7	31.3	12.0	1.2	2.4	20.5
女性60歳代 (n=117)	27.4	50.4	17.1	44.4	12.8	1.7	3.4	15.4
女性70歳以上 (n=58)	25.9	36.2	15.5	37.9	6.9	1.7	6.9	20.7
男性20歳代 (n=33)	24.2	18.2	18.2	12.1	15.2	3.0	24.2	21.2
男性30歳代 (n=67)	16.4	23.9	17.9	28.4	17.9	0.0	13.4	22.4
男性40歳代 (n=46)	19.6	34.8	6.5	32.6	17.4	0.0	8.7	15.2
男性50歳代 (n=65)	30.8	46.2	20.0	33.8	23.1	3.1	7.7	7.7
男性60歳代 (n=99)	30.3	47.5	21.2	29.3	15.2	2.0	10.1	9.1
男性70歳以上 (n=58)	36.2	46.6	24.1	36.2	15.5	3.4	5.2	10.3

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

内閣府調査では、『性・暴力表現について問題があると感じている』人のみへの限定質問であり、大阪府調査では5段階回答のため、選択肢「そのとおりだと思う」の数値を表記しているため、いずれも比較は参考にとどめるが、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」などが上位にある点では同傾向を示している。

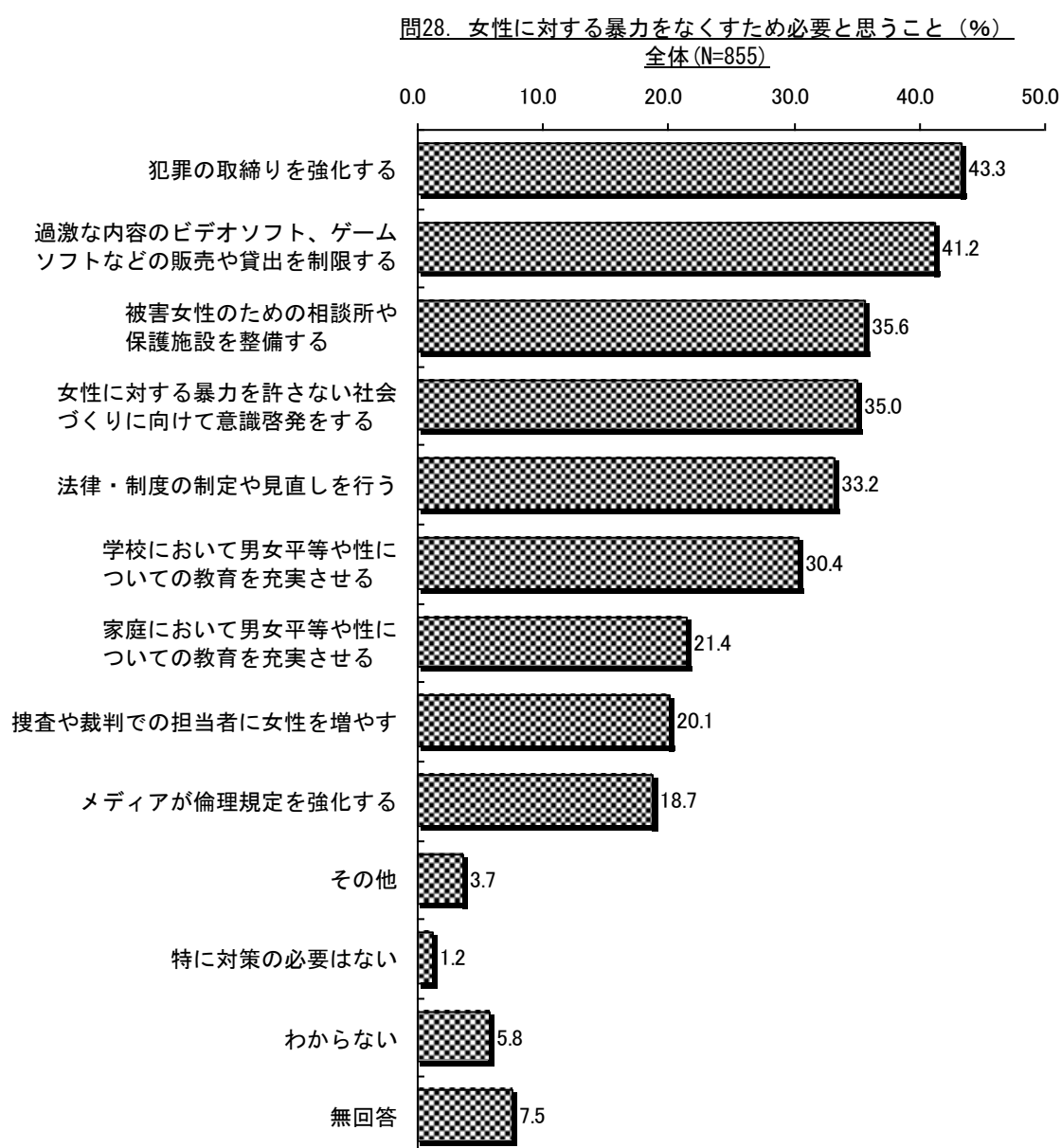
問27. メディアにおける性・暴力表現について (%)



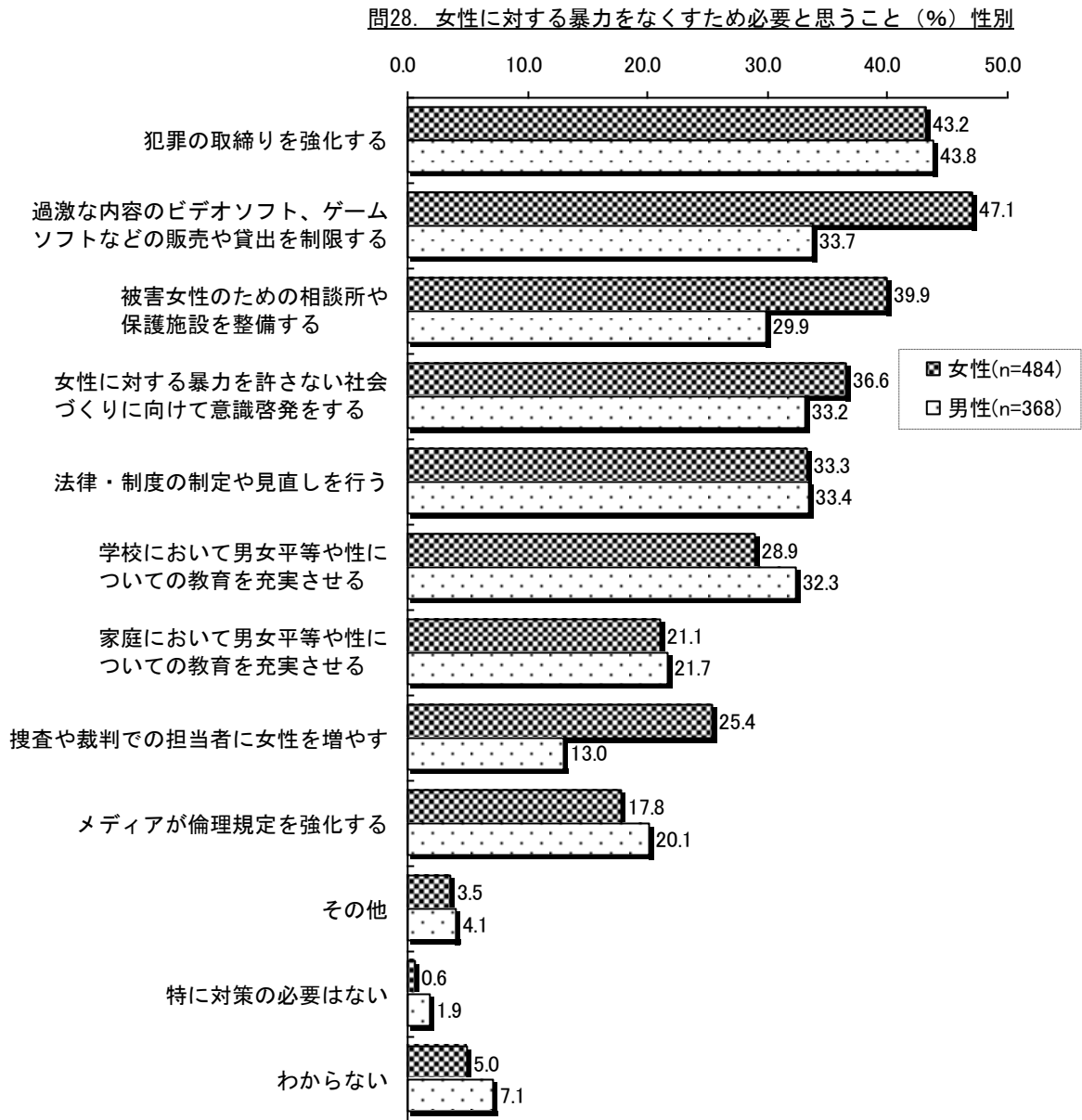
7. 女性に対する暴力をなくすため必要と思うこと

問 28. 女性に対する暴力をなくすために、もっと取組みを進める必要があるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

女性に対する暴力をなくすため必要と思うことについては、「犯罪の取締りを強化する」が43.3%と最も多く、次いで「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」(41.2%)、「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」(35.6%)、「女性に対する暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」(35.0%)、「法律・制度の制定や見直しを行う」(33.2%)の順となっている。



性別では、「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」「被害女性のための相談所や保護施設を整備する」「捜査や裁判での担当者に女性を増やす」などにおいて女性が男性を上回って差が大きい。



女性は年齢の若い層ほど「犯罪の取締りを強化する」が多くなっている。女性の30歳代では「捜査や裁判での担当者に女性を増やす」、女性40歳代では「メディアが倫理規定を強化する」、女性60歳代では「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」などがそれぞれ他の年齢層に比べ多くなっている。男性は年齢が上がるほど「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」が多い。

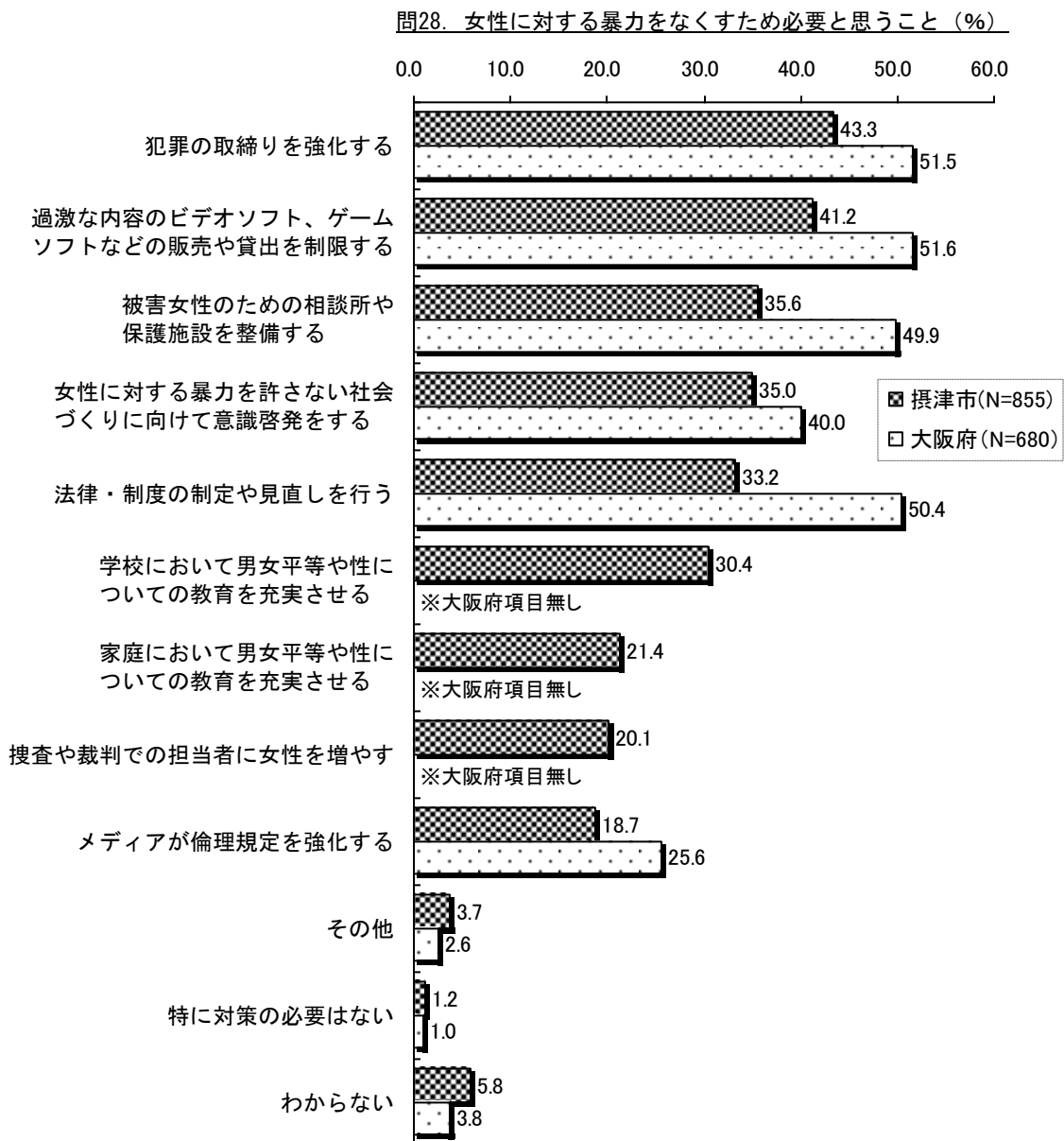
問28. 女性に対する暴力をなくすため必要と思うこと (%) 性・年齢別

	直法律 し・行 を・制 う・度 の制 定や 見	る犯 罪の 取締 りを 強化 す	けさ女 てなに 意いに 識社 啓会 発づ をく する に	る所被 や害 保女 護性 施の 設た をめ の整 備相 す談	に捜 査や 女性 を裁 判や すの 担 当 者	充や学 実性校 さに させ るお いて の男 教女 育平 を等
全体 (N=855)	33.2	43.3	35.0	35.6	20.1	30.4
女性20歳代 (n=38)	39.5	60.5	31.6	39.5	26.3	26.3
女性30歳代 (n=113)	43.4	51.3	34.5	44.2	38.1	28.3
女性40歳代 (n=75)	40.0	45.3	36.0	44.0	25.3	28.0
女性50歳代 (n=83)	28.9	39.8	48.2	43.4	26.5	22.9
女性60歳代 (n=117)	21.4	37.6	35.0	35.0	17.1	33.3
女性70歳以上 (n=58)	31.0	29.3	31.0	31.0	15.5	32.8
男性20歳代 (n=33)	27.3	42.4	27.3	21.2	12.1	24.2
男性30歳代 (n=67)	34.3	49.3	25.4	26.9	23.9	29.9
男性40歳代 (n=46)	39.1	43.5	39.1	26.1	10.9	19.6
男性50歳代 (n=65)	33.8	38.5	30.8	35.4	10.8	23.1
男性60歳代 (n=99)	34.3	44.4	42.4	35.4	13.1	43.4
男性70歳以上 (n=58)	29.3	43.1	27.6	25.9	5.2	41.4

	充や家 実性庭 さに させ るお いて の男 教女 育平 を等	強メ 化デ すィ ア が倫 理規 定を	すどフ過 るのト激 販の 売な やゲ やー 貸出 をの 制限 ない	そ の 他	特 に 対 策 の 必 要 は な い	わ か ら な い
全体 (N=855)	21.4	18.7	41.2	3.7	1.2	5.8
女性20歳代 (n=38)	21.1	5.3	26.3	0.0	2.6	5.3
女性30歳代 (n=113)	23.9	15.9	42.5	9.7	0.0	4.4
女性40歳代 (n=75)	21.3	28.0	53.3	2.7	0.0	5.3
女性50歳代 (n=83)	20.5	19.3	45.8	1.2	0.0	4.8
女性60歳代 (n=117)	20.5	21.4	59.0	1.7	0.9	6.0
女性70歳以上 (n=58)	17.2	6.9	39.7	1.7	1.7	3.4
男性20歳代 (n=33)	27.3	12.1	12.1	12.1	0.0	15.2
男性30歳代 (n=67)	20.9	13.4	20.9	9.0	6.0	9.0
男性40歳代 (n=46)	8.7	17.4	30.4	2.2	0.0	6.5
男性50歳代 (n=65)	21.5	26.2	35.4	3.1	0.0	7.7
男性60歳代 (n=99)	22.2	20.2	43.4	1.0	3.0	3.0
男性70歳以上 (n=58)	29.3	27.6	44.8	1.7	0.0	6.9

【参考／大阪府調査との比較】

大阪府調査との比較では、選択の構成が異なるため参考にとどめるが、上位項目として「犯罪の取締りを強化する」「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」などがあがっている点では同傾向である。



【5】女性政策について

1. 言葉や施設等の認知状況

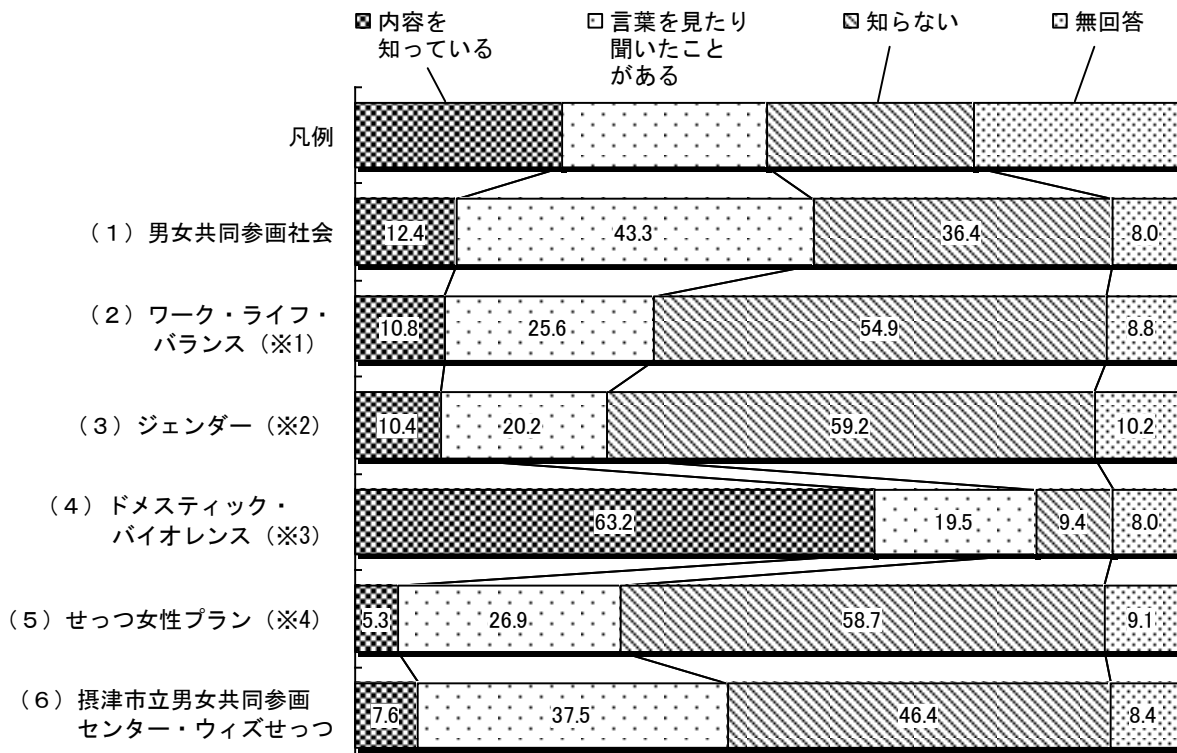
問 29. 次の事項について、当てはまるものを1～3の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

言葉や施設等の認知状況について「内容を知っている」の回答をみると、最も多いのが「(4) ドメスティック・バイオレンス(※3)」で63.2%であった。以下「(1) 男女共同参画社会」(12.4%)、「(2) ワーク・ライフ・バランス(※1)」(10.8%)、「(3) ジェンダー(※2)」(10.4%)の順となっている。一方「知らない」については、「(3) ジェンダー(※2)」が59.2%、「(5) せつつ女性プラン(※4)」が58.7%、「(2) ワーク・ライフ・バランス(※1)」が54.9%と、半数を超えている。

「内容を知っている」「言葉を見たり聞いたことがある」の合計でみると、性別では女性で認知が多い項目として「(1) 男女共同参画社会」「(4) ドメスティック・バイオレンス(※3)」「(5) せつつ女性プラン(※4)」「(6) 摂津市立男女共同参画センター・ウィズせつつ」があげられる。

性・年齢別では、は男女ともに「(4) ドメスティック・バイオレンス(※3)」は30歳代で最も認知者が多く、年齢が上がるにつれ少ない傾向にある。女性の30～40歳代では「(6) 摂津市立男女共同参画センター・ウィズせつつ」が多く、男性は年齢が上がるほど認知者が多い項目として「(1) 男女共同参画社会」「(5) せつつ女性プラン(※4)」「(6) 摂津市立男女共同参画センター・ウィズせつつ」があげられる。また、男性の20～30歳代では、他の年齢層に比べ「(3) ジェンダー(※2)」の認知者が多い。

問29. 言葉や施設等の認知状況 (%)
全体(N=855)



※1 仕事と生活の調和

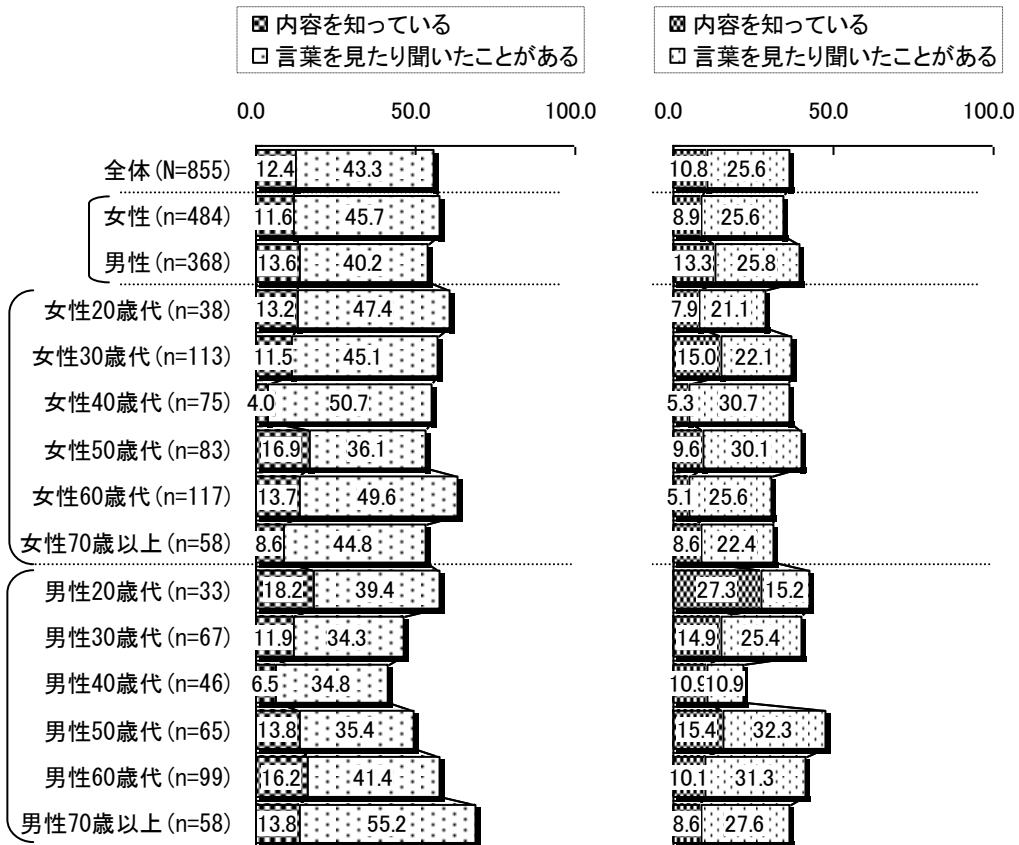
※2 社会的性別

※3 配偶者や恋人など交際相手からの暴力

※4 摂津市男女共同参画計画

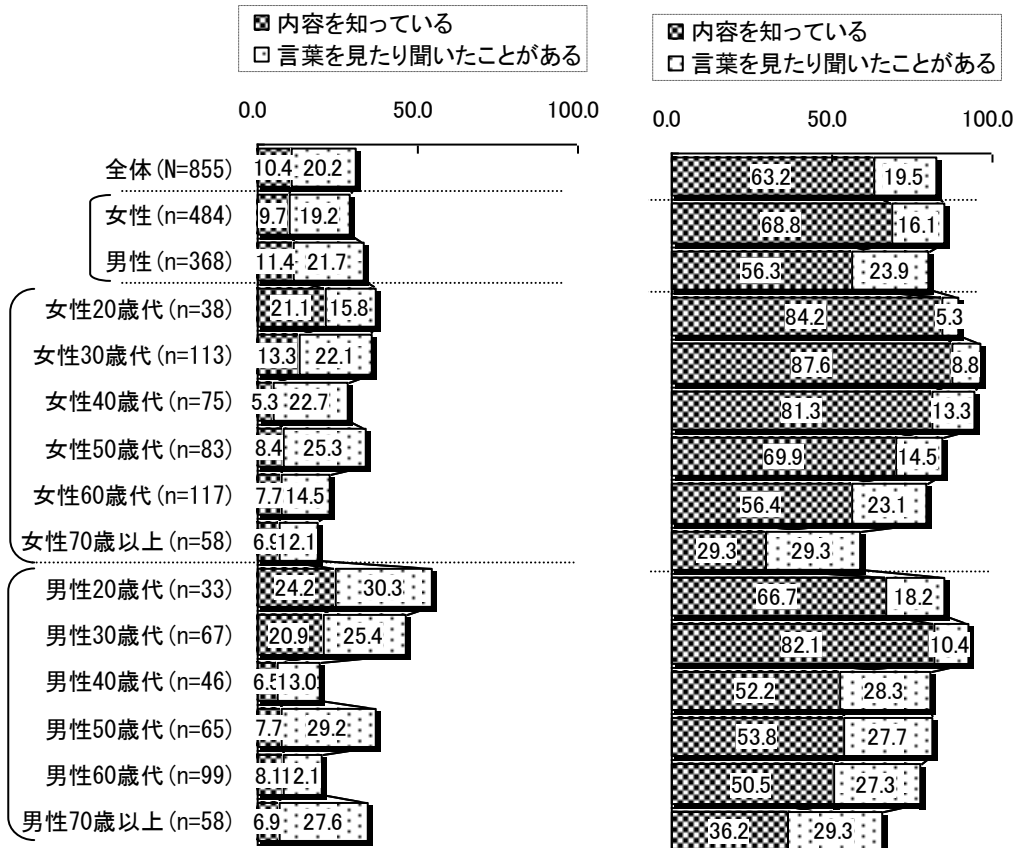
(1) 男女共同参画社会

(2) ワーク・ライフ・バランス
(仕事と生活の調和)



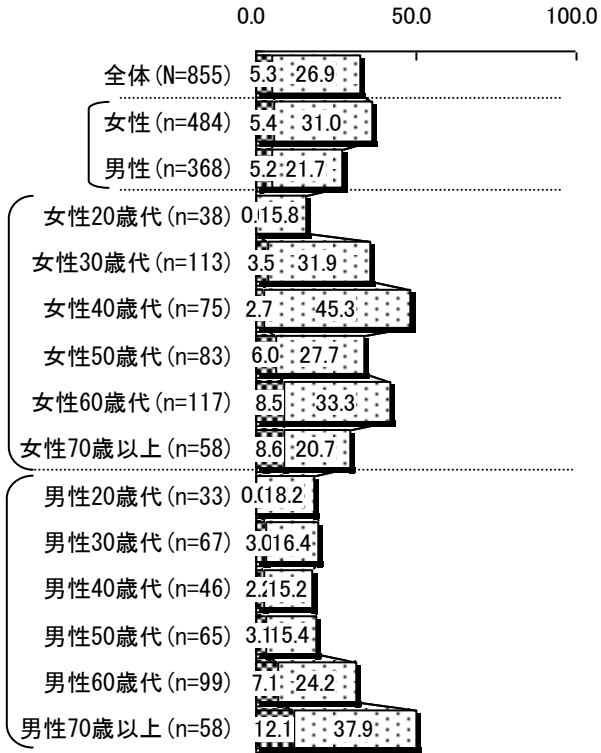
(3) ジェンダー
(社会的性別)

(4) ドメスティック・
バイオレンス



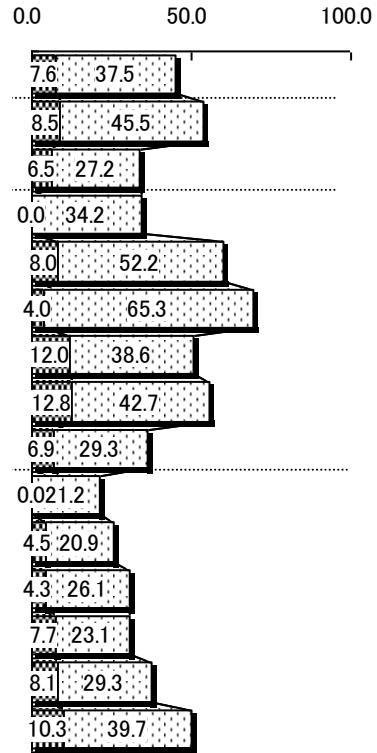
(5) せつ女性プラン
(摂津市男女共同参画計画)

■ 内容を知っている
□ 言葉を見たり聞いたことがある



(6) 摂津市立男女共同参画
センター・ウィズせつ

■ 内容を知っている
□ 言葉を見たり聞いたことがある



2. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等

問 30. あなたは、男女共同参画社会の実現をめざして、摂津市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

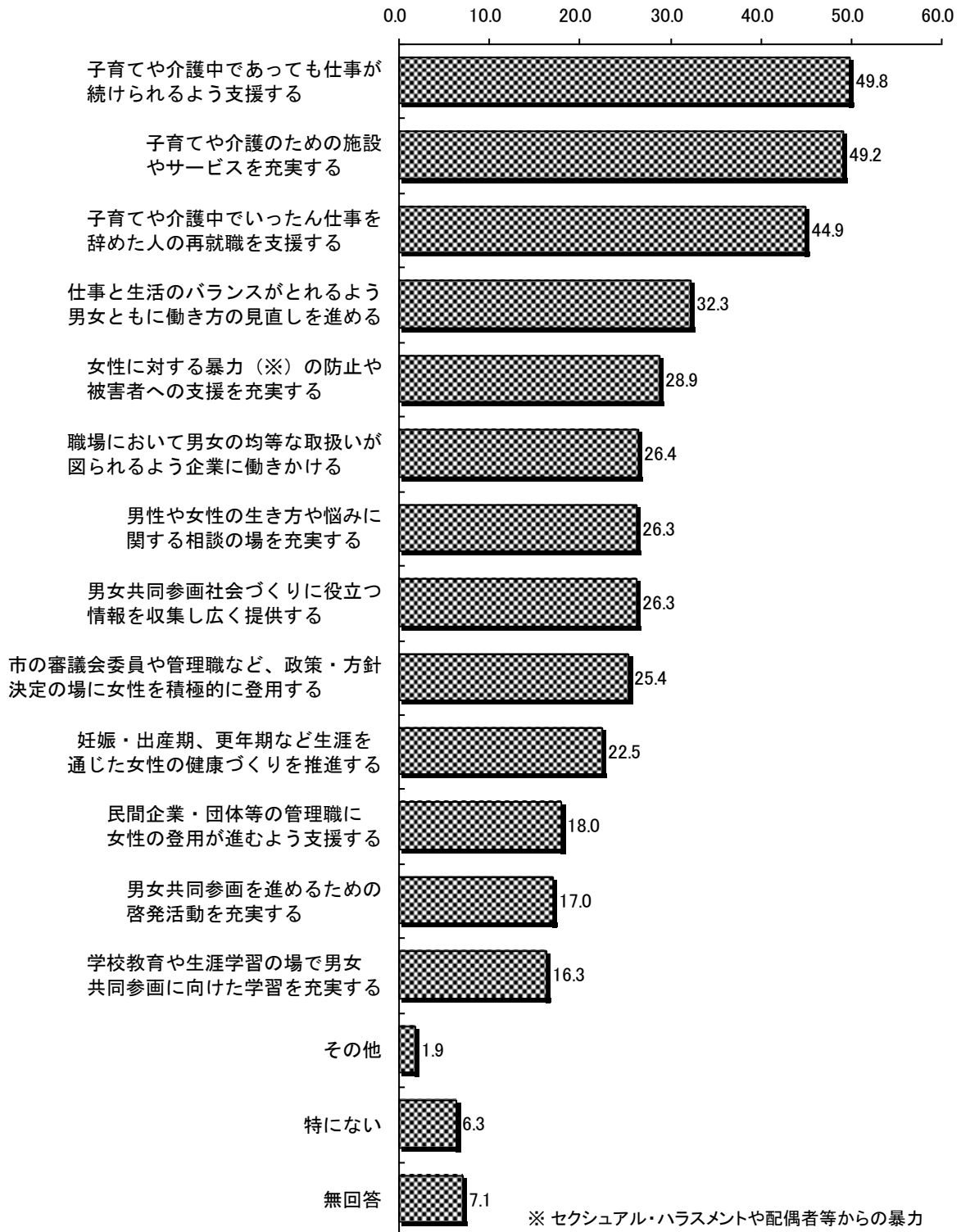
摂津市が今後力を入れていくべき施策等については、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 49.8%と半数近くで最も多く、ほぼ並んで「子育てや介護のための施設やサービスを充実する」(49.2%)が続いている。以下「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(44.9%)、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」(32.3%)、「女性に対する暴力(セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力)の防止や被害者への支援を充実する」(28.9%)、「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業に働きかける」(26.4%)の順となっている。

性別では、大きな男女差は目立たないものの、「子育てや介護のための施設やサービスを充実する」「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する」などで女性が男性を上回り、「男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する」は男性で多くなっている。

性・年齢別では、女性 20～30 歳代において「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する」などが他の年齢層に比べ多くなっている。女性 40 歳代では「子育てや介護のための施設やサービスを充実する」「男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する」、また、男女ともに 70 歳以上で「市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」が多い。

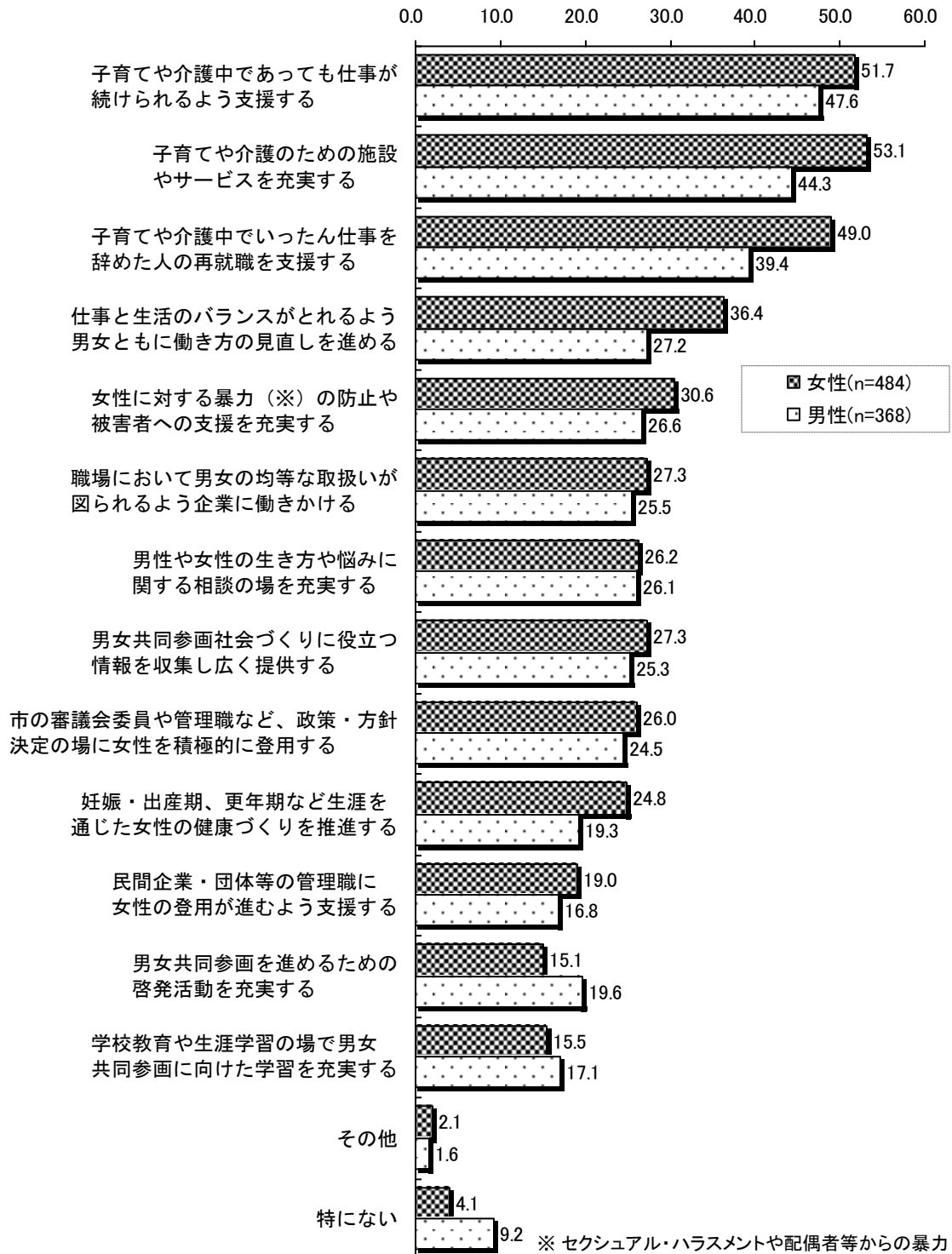
問30. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等 (%)

全体 (N=855)



※ セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力

問30. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等（%）性別



問30. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等（％）性・年齢別

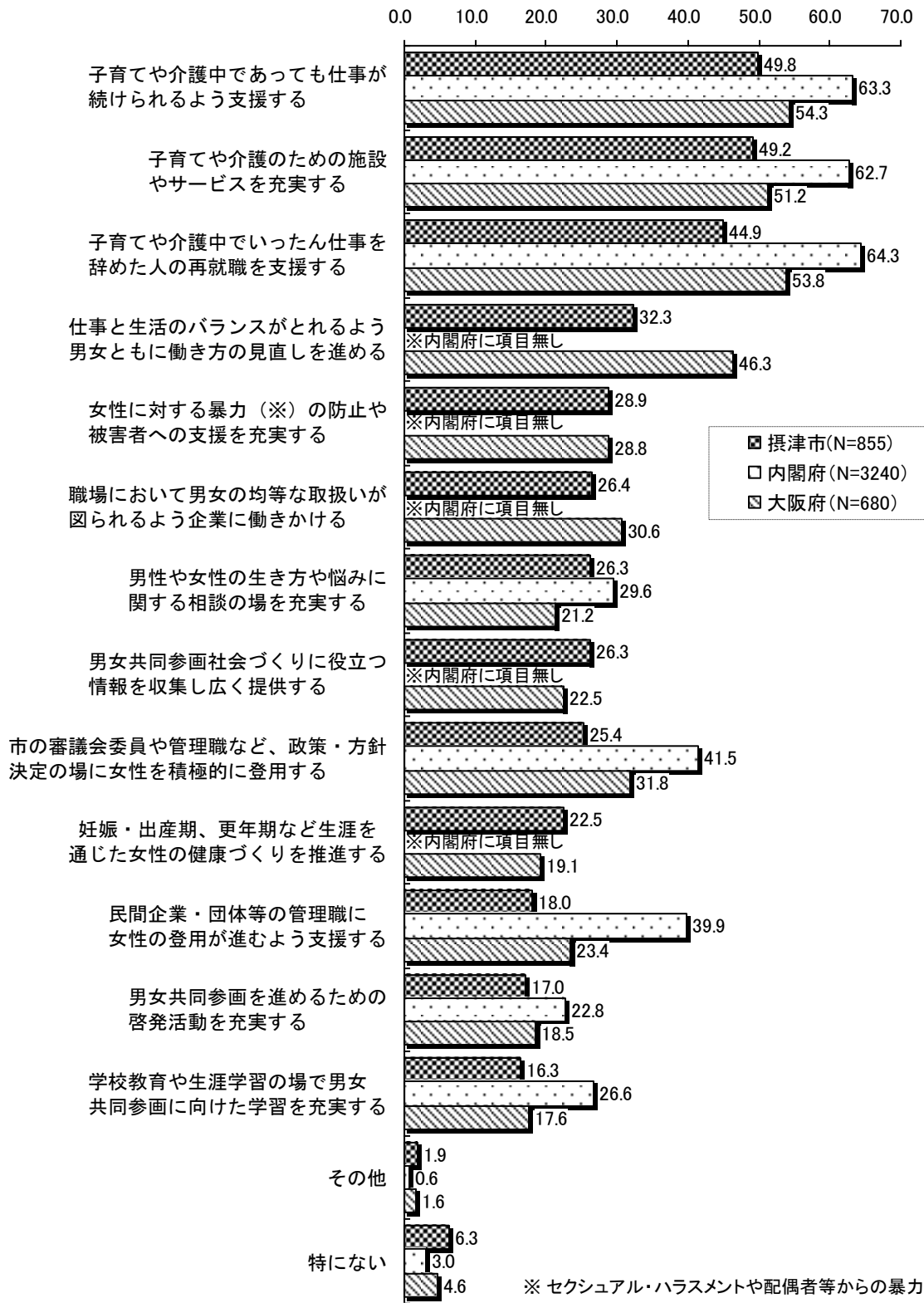
	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実	子育て支援の充実
全体 (N=855)	49.8	49.2	44.9	32.3	28.9	26.4	26.3	26.3	26.3
女性20歳代 (n=38)	63.2	44.7	65.8	44.7	34.2	36.8	18.4	15.8	15.8
女性30歳代 (n=113)	64.6	56.6	64.6	45.1	38.9	26.5	27.4	27.4	27.4
女性40歳代 (n=75)	62.7	60.0	45.3	38.7	28.0	26.7	20.0	32.0	32.0
女性50歳代 (n=83)	41.0	53.0	38.6	25.3	26.5	25.3	32.5	26.5	26.5
女性60歳代 (n=117)	42.7	52.1	43.6	36.8	24.8	26.5	23.1	27.4	27.4
女性70歳以上 (n=58)	37.9	44.8	37.9	25.9	32.8	27.6	34.5	29.3	29.3
男性20歳代 (n=33)	54.5	21.2	45.5	33.3	36.4	30.3	12.1	21.2	21.2
男性30歳代 (n=67)	55.2	47.8	41.8	31.3	22.4	29.9	25.4	14.9	14.9
男性40歳代 (n=46)	47.8	45.7	41.3	21.7	23.9	17.4	32.6	28.3	28.3
男性50歳代 (n=65)	32.3	40.0	26.2	30.8	27.7	15.4	26.2	24.6	24.6
男性60歳代 (n=99)	53.5	48.5	41.4	23.2	27.3	29.3	31.3	31.3	31.3
男性70歳以上 (n=58)	41.4	50.0	43.1	25.9	25.9	29.3	20.7	27.6	27.6

	積極的な取り組み	女性の健康	民間企業	男女共同参画	学校での教育	その他	特になし
全体 (N=855)	25.4	22.5	18.0	17.0	16.3	1.9	6.3
女性20歳代 (n=38)	23.7	39.5	18.4	5.3	10.5	0.0	7.9
女性30歳代 (n=113)	29.2	31.0	18.6	11.5	9.7	1.8	1.8
女性40歳代 (n=75)	14.7	21.3	17.3	18.7	17.3	0.0	2.7
女性50歳代 (n=83)	24.1	24.1	19.3	16.9	18.1	2.4	2.4
女性60歳代 (n=117)	26.5	22.2	20.5	14.5	18.8	2.6	5.1
女性70歳以上 (n=58)	37.9	13.8	19.0	22.4	17.2	5.2	8.6
男性20歳代 (n=33)	18.2	27.3	18.2	9.1	12.1	3.0	12.1
男性30歳代 (n=67)	14.9	25.4	19.4	11.9	11.9	1.5	13.4
男性40歳代 (n=46)	8.7	15.2	8.7	8.7	17.4	2.2	4.3
男性50歳代 (n=65)	18.5	12.3	10.8	21.5	12.3	4.6	12.3
男性60歳代 (n=99)	36.4	17.2	17.2	27.3	26.3	0.0	5.1
男性70歳以上 (n=58)	37.9	22.4	25.9	27.6	15.5	0.0	10.3

【参考／内閣府・大阪府調査との比較】

内閣府調査との比較では、選択肢の構成が異なるため参考にとどめる。大阪府調査との比較では、「男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する」「男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する」「妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する」などで大阪府を上回っており、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」などで下回っている。

問30. 摂津市が今後力を入れていくべき施策等 (%)



男女平等に関する市民意識調査

調査ご協力のお願い

平素は、市政の推進にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、摂津市男女共同参画計画『せつつ女性プラン』を策定し、男女共同参画社会の実現をめざす取組みをすすめております。

このたび、平成 23 年度に計画の目標年次を迎えるにあたり、「男女平等に関する市民意識調査」を実施することになりました。

この調査は、計画の改定にあたって、望ましい施策のあり方や具体的な事業など、女性政策についての基礎資料となるものです。

今回の調査は、市民の中から無作為に 2,000 名の方にお問い合わせいたしました。

調査は無記名です。お答えをいただいたことにつきましては、計画の見直し、また、今後の女性政策の推進にのみ使用し、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

* 調査期日は 11 月 1 日現在でお願いします。

平成 22 年 11 月

摂 津 市

■■ご記入にあたってのお願い■■

- ① 回答は、必ず宛名のご本人がご記入ください。
- ② 回答は特に指定がない場合、あてはまる項目や番号を○で囲んでください。
- ③ 回答が「その他」にあてはまる場合、() 内にその内容をご記入ください。
- ④ 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印やことわり書きにご注意ください。
- ⑤ ご記入の際、不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。
- ⑥ ご記入いただきました調査票は、11 月 30 日（火）までに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご返送ください。

* この調査についてのお問い合わせ

摂津市 市長公室 人権室 女性政策課

〒566-8555 摂津市三島一丁目 1 番 1 号

TEL 06-6383-1324（直通）

FAX 06-6319-5970

1. あなた自身のことについてうかがいます。

問1. あなたの性別は。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|---------------|------------|
| 1. 女性 (56.6%) | 2. 男性 (43.0%) | 無回答 (0.4%) |
|---------------|---------------|------------|

※ () 内のパーセンテージの母数は、特記がなければ (N=855) です。

問2. あなたの年代は。(○は1つ) *記入日時点

- | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 20歳代 (8.3%) | 2. 30歳代 (21.1%) | 3. 40歳代 (14.2%) |
| 4. 50歳代 (17.3%) | 5. 60歳代 (25.3%) | |
| 6. 70歳代以上 (13.8%) | 無回答 (0.1%) | |

問3. あなたは結婚していらっしゃいますか (事実婚を含む)。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 結婚している (71.5%) | 2. 離別 (6.8%) | |
| 3. 死別 (5.8%) | 4. 未婚 (15.8%) | 無回答 (0.1%) |

問4. あなたはお子さんがいらっしゃいますか (別居を含む)。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------------|---------------------|------------|
| 1. 子どもはいない (24.2%) | → 問5.へ | 無回答 (2.2%) |
| ----- | | |
| 2. 女の子だけがいる (16.1%) | 3. 男の子だけがいる (22.8%) | |
| ----- | | |
| 4. 女の子と男の子がいる (34.6%) | | |

お子さんがいらっしゃる方にうかがいます

問4-2. 同居しているお子さんの中で、一番下のお子さんは。(○は1つ) (n=629)

- | | | |
|---------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 3歳未満 (11.1%) | 2. 3歳以上就学前 (8.3%) | 3. 小学生 (8.9%) |
| 4. 中学生 (4.8%) | 5. 高校生 (3.5%) | 6. それ以上 (32.0%) |
| 7. 同居の子はいない (26.9%) | | 無回答 (4.6%) |

問5. あなたの同居の家族構成は。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 1人世帯 (14.3%) | 2. 一世代家族 (夫婦のみ) (25.8%) |
| 3. 二世代家族 (親と子ども) (47.5%) | 4. 三世代家族 (親と子どもと孫) (6.9%) |
| 5. その他 (2.1%) | 無回答 (3.4%) |

問6. あなたの昨年の年収は (税込で)。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 0円 (15.0%) | 2. 103万円未満 (20.8%) |
| 3. 103万円以上 200万円未満 (14.5%) | 4. 200万円以上 400万円未満 (27.1%) |
| 5. 400万円~600万円未満 (11.3%) | 6. 600万円以上 800万円未満 (4.1%) |
| 7. 800万円以上 1,000万円未満 (2.8%) | 8. 1,000万円以上 (0.8%) |
| 9. わからない (2.0%) | 無回答 (1.5%) |

問7. 現在お住まいの地域は。(○は1つ)

- | | | |
|------------------|------------------|-------------|
| 1. 安威川以南 (43.5%) | 2. 安威川以北 (44.8%) | 無回答 (11.7%) |
|------------------|------------------|-------------|

2. 男女の地位に関する意識についてうかがいます。

問8. あなたは次にあげる各分野において、男女は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	男性が優遇 されている	どちらかとい えれば男性が優 遇されている	平等である	どちらかとい えれば女性が優 遇されている	女性が優遇 されている	わからない	無回答
(1) 家庭生活の場で	11.7%	36.5%	34.7%	5.8%	2.6%	7.0%	2.2%
(2) 職場(賃金や待遇など)で	16.5%	29.8%	23.3%	7.4%	2.0%	14.0%	7.0%
(3) 地域活動の場で	6.3%	22.5%	34.4%	6.4%	1.9%	24.9%	3.6%
(4) 学校教育の場で	2.3%	9.8%	44.2%	3.2%	1.3%	34.2%	5.0%
(5) 政治の場で	21.9%	35.7%	19.2%	2.3%	0.9%	17.0%	3.0%
(6) 法律や制度の上で	9.5%	25.5%	32.4%	6.8%	2.9%	18.8%	4.1%
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	22.8%	46.3%	14.2%	2.6%	1.5%	10.2%	2.5%
(8) 全体として	12.4%	47.1%	20.7%	4.3%	1.8%	11.3%	2.3%

問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. そのとおりだと思う (7.6%) | 2. どちらかといえばそう思う (40.2%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない (18.7%) | 4. そうは思わない (32.7%) |
| 無回答 (0.7%) | |



問9-2. 上記を選んだ理由はなぜですか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 子どもの頃からそのような教育を受けたから (5.7%) |
| 2. 自分の育ってきた家庭がそうだったから (16.4%) |
| 3. 現実問題としてそうならざるを得ないから (26.5%) |
| 4. いろいろな家族の形があるから (20.9%) |
| 5. 性別にかかわらず、一人ひとりの個性と能力を發揮できる方がいいから (20.5%) |
| 6. その他 (3.6%) |
| 無回答 (6.3%) |

問 10. 家庭における役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者がいない方も、仮に
いると想定してお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	夫の 主として 役割	い えど ちら かど ち の 役 割	両 方 同 じ 程 度 の 役 割	い えど ちら かど ち の 役 割	妻の 主として 役割	該 当 し な い い ず れ に も	無 回 答
(1) 生活費をかせぐ	40.8%	37.7%	15.9%	0.2%	0.4%	2.1%	2.9%
(2) 日々の家計の管理をする	0.8%	1.3%	21.2%	37.2%	34.6%	2.1%	2.8%
(3) 日常の家事	0.0%	0.1%	20.1%	42.6%	32.7%	1.8%	2.7%
(4) 老親や病身者の介護や看護	0.0%	0.6%	50.6%	26.4%	9.7%	8.4%	4.2%
(5) 子どもの教育やしつけ	0.6%	1.3%	65.3%	18.1%	7.0%	4.3%	3.4%
(6) 育児（乳幼児の世話）	0.0%	0.0%	25.4%	37.1%	28.8%	5.3%	3.5%
(7) 自治会、町内会など地域活動への参加	2.8%	12.7%	52.5%	15.0%	7.8%	6.2%	2.9%



男性の方のみにうかがいます。女性の方は、次は問 12. へ

問 11. あなたは「男はしんどい、つらい」と感じたことはありますか。(〇は1つ) (n=368)

1. ある (49.5%) → 問 11-2. へ 2. ない (47.0%) → 問 12. へ 無回答 (3.5%)



問 11 で「1. ある」と答えた方にうかがいます

問 11-2. それはどんなことですか。(〇はいくつでも) (n=182)

1. 何かにつけ「男のくせに」と言われる (17.0%)
 2. 妻子を養うのは男の責任だと言われるから (40.7%)
 3. リーダーシップ (決断力) を求められるから (32.4%)
 4. 常に「強さ」を求められ、「弱さ」を見せられないから (29.1%)
 5. その他 (11.5%)
- 無回答 (1.1%)



次は問 12. へ

3. 子どもの教育についてうかがいます。

問 12. あなたは自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。子供がいない方も、仮に子どもがいると想定してお答えください。(○はそれぞれ2つずつ)

(1) 女の子の場合	(2) 男の子の場合
1. 社会的な地位を得る (0.5%)	1. 社会的な地位を得る (4.9%)
2. 経済的に自立した生活をする (24.9%)	2. 経済的に自立した生活をする (54.7%)
3. 人間性豊かな生活をする (33.6%)	3. 人間性豊かな生活をする (22.0%)
4. 家族や周りの人たちと円満に暮らす (42.1%)	4. 家族や周りの人たちと円満に暮らす (23.2%)
5. 社会に貢献する (4.2%)	5. 社会に貢献する (8.5%)
6. 本人の個性や才能を生かした生活をする (20.7%)	6. 本人の個性や才能を生かした生活をする (17.8%)
7. 本人の意思に任せる (29.8%)	7. 本人の意思に任せる (26.2%)
8. その他 (0.6%)	8. その他 (0.6%)
9. わからない (0.1%)	9. わからない (0.5%)
無回答 (13.2%)	無回答 (12.7%)

問 13. あなたの子どもには、どの程度の教育を受けさせたいと思いますか。女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方も、仮にいと想定してお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 女の子の場合	(2) 男の子の場合
1. 中学校 (0.5%)	1. 中学校 (0.6%)
2. 高等学校 (12.4%)	2. 高等学校 (9.9%)
3. 専門・専修学校 (10.4%)	3. 専門・専修学校 (5.3%)
4. 短期大学・高等専門学校 (21.4%)	4. 短期大学・高等専門学校 (3.7%)
5. 大学 (39.4%)	5. 大学 (61.6%)
6. 大学院 (1.6%)	6. 大学院 (4.6%)
7. その他 (2.8%)	7. その他 (3.4%)
無回答 (11.5%)	無回答 (10.9%)

問 14. 子育てについて、あなたのご意見をおたずねします。次の各項目について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	賛成	いどちらか えば賛成と	いどちらか えば反対と	反対	わからない	無回答
(1) 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい	70.2%	22.8%	0.9%	0.7%	1.6%	3.7%
(2) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのがよい	28.2%	45.8%	9.7%	5.0%	6.5%	4.7%
(3) 性別にこだわらず、身の回りの家事ができるように育てるのがよい	57.8%	35.0%	1.1%	0.4%	2.1%	3.7%
(4) 性別にこだわらず、経済的に自立できるように育てるのがよい	63.0%	29.7%	1.4%	0.2%	1.8%	3.9%

問 15. 男女平等を進めるために、小中学校でどのような取組みが重要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 学校生活の中で性別による役割分担をなくす (30.6%)
2. 男女平等の意識を育てる授業をする (33.1%)
3. 進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする (64.7%)
4. 小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える (25.8%)
5. 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する (23.0%)
6. 校長や教頭に女性を増やしていく (16.4%)
7. 家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える (47.5%)
8. メディア(新聞やテレビなど)の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める (31.2%)
9. 保護者に対して、様々な機会を通じて男女平等に対する理解を促す (17.3%)
10. その他 (3.9%)
11. わからない (3.5%)
無回答 (3.7%)

4. 働き方についてうかがいます。

問 16. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい (27.1%)
 2. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい (6.9%)
 3. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい (14.6%)
 4. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい (12.2%)
 5. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい (26.2%)
 6. 仕事には就かない方がよい (0.4%)
 7. その他 (6.4%)
 8. わからない (3.9%)
- 無回答 (2.3%)

問 16-2. **女性の方** → あなたの場合、実際には、どれにあたりますか。又はどのようにされるつもりですか。(○は1つ)

男性の方 → あなたの配偶者の場合、実際には、どれにあたりますか。またはどのようにされると思いますか。(○は1つ)

*未婚の方は8をお選びください。

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) (16.0%)
 2. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念している(専念していた/専念するつもり) (12.4%)
 3. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念している(専念していた/専念するつもり) (9.8%)
 4. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) (9.6%)
 5. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) (22.7%)
 6. 仕事に就いたことはない(就くつもりはない) (2.0%)
 7. その他 (3.6%)
 8. わからない (18.7%)
- 無回答 (5.1%)

問 17. あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか (○は1つ)

1. している (60.7%) → **問 17-2. へ**
 2. していない (36.0%) → **問 21. へ**
- 無回答 (3.3%)



問 17 で「1. している」と答えた方にうかがいます

問 17-2. どのような働き方をしていますか。(〇は1つ)

(n=519)

1. 会社・団体・官公庁などの正社員・正職員 (40.3%)
2. 会社・団体・官公庁などの契約社員や派遣社員 (11.6%)
3. パートやアルバイト(学生アルバイトを除く) (27.4%)
4. 自営業主・経営者(農林業を含む) (8.9%)
5. 自営業の手伝い、家族従業 (6.2%)
6. 内職など家庭でできる仕事 (0.8%)
7. その他 (4.2%)
- 無回答 (0.8%)



次は問 18. へ

問 18. あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	「男性」の方が 優遇される	平等である	「女性」の方が 優遇される	あてはまらない	無回答
(1) 募集・採用の仕方	26.0%	45.9%	6.2%	16.2%	5.8%
(2) 採用数	32.4%	30.3%	9.4%	20.6%	7.3%
(3) 配置される職場	21.8%	43.4%	9.6%	18.3%	6.9%
(4) 仕事の内容	22.0%	42.8%	9.2%	18.7%	7.3%
(5) 賃金	33.9%	43.7%	0.8%	16.4%	5.2%
(6) 昇進・昇格	36.6%	32.2%	0.8%	24.3%	6.2%
(7) 能力評価(業績評価・人事考課など)	25.8%	41.8%	1.2%	24.1%	7.1%
(8) 管理職への登用	41.4%	26.4%	0.4%	24.7%	7.1%
(9) 研修の頻度や内容	18.5%	46.1%	0.6%	27.7%	7.1%
(10) 定年まで働き続けやすい雰囲気	23.3%	45.1%	3.1%	22.7%	5.8%
(11) 育児・介護休業などの取得に関して	3.3%	30.3%	25.2%	33.7%	7.5%
(12) その他(具体的に)	0.8%	4.6%	0.2%	16.8%	77.6%

女性の方のみにうかがいます。男性の方は、次は問 20. へ

問 19. 女性であることを理由に、仕事上の不利益を被ったことがありますか(〇は1つ)(n=257)

1. ある (13.6%) → 問 19-2. へ
2. ない (82.1%) → 問 20. へ
- 無回答 (4.3%)



問 19 で「1. ある」と答えた方にうかがいます

問 19-2. それはどんなことですか。(具体的にご記入ください)



次は問 20. へ

問 20. 今後あなたに子どもが生まれた場合、育児休業を取得したいですか。(○は1つ) (n=519)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 積極的に取得したい (21.2%) | 2. どちらかといえば取得したい (19.8%) |
| 3. どちらかといえば取得したくない (4.6%) | |
| 4. 取得したくない (3.5%) | 5. わからない (10.2%) |
| 6. 今後、子どもを持つ予定はない (24.3%) | 無回答 (16.4%) |

ここから再び全員にうかがいます

問 21. 出産や子育て、介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくりの推進 (61.5%) |
| 2. 労働時間の短縮や子育て中の社員に対する残業免除 (22.7%) |
| 3. 在宅勤務、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入 (21.9%) |
| 4. 育児休業・介護休業中の賃金の補填その他の経済的支援の充実 (38.4%) |
| 5. 職場における男女の差別的取扱いの是正 (6.2%) |
| 6. 育児や介護のための施設やサービスの充実 (41.9%) |
| 7. 女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力 (29.5%) |
| 8. 家事や育児、介護等への男性の参加 (30.3%) |
| 9. その他 (1.9%) |
| 10. わからない (2.3%) |
| 無回答 (3.5%) |

問 22. 1日のうちで、あなたが仕事や家事に要する時間は、通常の場合、平日・休日それぞれのくらいですか。(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 仕事(在宅就労含む) * 通勤時間を含めた時間を記載してください。

①平日	②休日
1. なし (18.0%)	1. なし (48.9%)
2. 4時間未満 (11.0%)	2. 4時間未満 (19.4%)
3. 4時間以上6時間未満 (8.7%)	3. 4時間以上6時間未満 (8.2%)
4. 6時間以上8時間未満 (12.3%)	4. 6時間以上8時間未満 (3.6%)
5. 8時間以上10時間未満 (20.4%)	5. 8時間以上10時間未満 (4.0%)
6. 10時間以上12時間未満 (10.4%)	6. 10時間以上12時間未満 (1.8%)
7. 12時間以上 (8.8%)	7. 12時間以上 (1.4%)
無回答 (10.5%)	無回答 (12.7%)

(2) 家事（育児、介護含む）

①平日	②休日
1. ほとんどない（23.3%）	1. ほとんどない（19.4%）
2. 30分未満（8.3%）	2. 30分未満（6.3%）
3. 30分以上1時間未満（11.0%）	3. 30分以上1時間未満（10.8%）
4. 1時間以上2時間未満（10.3%）	4. 1時間以上2時間未満（13.2%）
5. 2時間以上3時間未満（10.4%）	5. 2時間以上3時間未満（11.1%）
6. 3時間以上4時間未満（9.7%）	6. 3時間以上4時間未満（8.5%）
7. 4時間以上5時間未満（7.0%）	7. 4時間以上5時間未満（5.6%）
8. 5時間以上（12.3%）	8. 5時間以上（16.8%）
無回答（7.7%）	無回答（8.2%）

問23. あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。

(1) 希望として一番近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい（6.5%）
2. 「家庭」を優先したい（22.1%）
3. 「地域活動・個人の生活」を優先したい（3.9%）
4. 「仕事」と「家庭」をともに優先したい（33.5%）
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい（2.7%）
6. 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（12.7%）
7. 「仕事」と「家庭」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい（15.0%）
無回答（3.6%）

(2) 実際のあなたの生活に最も近いのはどれでしょうか。最も近いものを選んでください。

(○は1つ)

1. 「仕事」を優先している（29.7%）
2. 「家庭」を優先している（24.4%）
3. 「地域活動・個人の生活」を優先している（4.1%）
4. 「仕事」と「家庭」をともに優先している（22.6%）
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している（3.2%）
6. 「家庭」と「地域・個人の生活」をともに優先している（8.4%）
7. 「仕事」と「家庭」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している（3.3%）
無回答（4.3%）

5. 男女の人権についてうかがいます。

問 24. あなたはこれまでに、配偶者やパートナー、もしくは恋人など交際相手に次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。(a) 配偶者やパートナー (b) 恋人など交際相手 (それぞれにあてはまるものに○をつけてください。)

	(a) 配偶者やパートナー				(b) 恋人など交際相手			
	されたことがある	したことがある	いずれもない	無回答	されたことがある	したことがある	いずれもない	無回答
(1) 殴る蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、引きずりまわすなどの身体的暴力	8.5%	5.6%	73.8%	13.5%	2.5%	1.4%	46.4%	50.4%
(2) 相手を卑下したり、「だれのおかげで生活している」などと言う言葉による暴力、殴るふりをして脅す、大切なものを壊す、無視し続けるなどの精神的暴力	9.7%	8.5%	69.7%	13.3%	2.2%	1.5%	45.5%	51.3%
(3) 生活費を渡さない、働くことを禁じる、金銭的な自由を与えないなどの経済的暴力	3.4%	1.2%	81.1%	14.4%	0.7%	0.1%	48.0%	51.2%
(4) 家族や友人とのつきあいを禁止・制限する、電話やメールのチェックをする、行動を監視するなどの社会的暴力	4.3%	2.0%	79.5%	14.6%	2.7%	0.5%	45.6%	51.5%
(5) 嫌がっているのに性的な行為を強要する、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる、避妊に協力しないなどの性的暴力	2.7%	2.0%	80.6%	14.7%	1.8%	0.5%	46.4%	51.3%
(6) 子どもに危害を加えることをほのめかす、子どもを取り上げるなど、子どもを利用した暴力	1.6%	0.4%	83.4%	14.6%	0.2%	0.0%	47.8%	51.9%

すべて「3」か「6」と回答された方は、次は問 25.へ

問 24 で(1)～(6)のようなことをしたり、されたりしたことがある方にうかがいます。

問 24-2. その後、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも) (n=210)

1. 配偶者暴力相談支援センター(女性相談センターなど)に相談した(0.5%)
 2. 警察に連絡、相談した(2.4%)
 3. 法務局・人権擁護委員に相談した(0.5%)
 4. 女性のための総合的な施設(男女共同参画センター、女性センターなど)に相談した(0.5%)
 5. 市区町村の役所の相談窓口で相談した(0.5%)
 6. 上記1～5以外の公的な機関に相談した(1.4%)
 7. 民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した(3.8%)
 8. 医療関係者(医師、看護師など)に相談した(1.4%)
 9. 学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)に相談した(0.5%)
 10. 家族や親戚に相談した(16.7%)
 11. 友人、知人に相談した(23.8%)
 12. その他(1.9%)
 13. どこにも相談しなかった、また、相談できなかった(29.0%) → **問 24-3 へ**
- 無回答(32.4%)



問 24-2 で「13.」と答えられた方のみにもうかがいます。

問 24-3. どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。

(○はいくつでも)

(n=61)

1. どこに(誰に)相談したらよいのか分からなかったから(4.9%)
 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから(18.0%)
 3. 相談しても無駄だと思ったから(19.7%)
 4. 相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思ったから(4.9%)
 5. 加害者に「誰にも言うな」と脅されたから(0.0%)
 6. 相談相手の言動によって、嫌な思いをさせられると思ったから(3.3%)
 7. 自分さえ我慢すればやっていけると思ったから(27.9%)
 8. 世間体が悪いから(6.6%)
 9. 他人を巻き込みたくなかったから(4.9%)
 10. 相談相手が誰かに話してしまうのではないかと思ったから(3.3%)
 11. そのことについて思い出したくなかったから(6.6%)
 12. 自分にも悪いところがあると思ったから(14.8%)
 13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから(3.3%)
 14. 相談するほどの事ではないと思ったから(49.2%)
 15. その他(11.5%)
 16. わからない(3.3%)
- 無回答(3.3%)



次は問 25. へ

問 25. あなたは、配偶者等からの暴力（問 24 など）について相談窓口としてどのようなものを知っていますか？（〇はいくつでも）

1. 配偶者暴力相談支援センター（女性相談センター、子ども家庭センターなど）（22.3%）
2. 女性のための総合的な施設（男女共同参画センター、女性センターなど）（24.6%）
3. 警察（61.1%）
4. 法務局、人権擁護委員（8.7%）
5. 市区町村などの役所の相談窓口（33.6%）
6. 上記 1～5 以外の公的な機関（1.5%）
7. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）（20.4%）
8. その他（1.2%）
9. ひとつも知らない（12.5%）
無回答（12.3%）

問 26. あなたは、最近 3 年の間に、職場や学校、地域活動の場などで、次の 1～7 のような「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」を受けたり、あるいは、見聞きしたことがありますか。（〇はいくつでも）

1. 地位や権限を利用して、性的な関係を迫られた（0.9%）
2. さわる、抱きつくなど肉体的接触を受けた（3.6%）
3. 性的冗談や質問、ひやかしなどの言葉をかけられた（7.3%）
4. 宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要された（3.0%）
5. 結婚予定や出産予定をたびたび聞かれた（2.8%）
6. じろじろ見られたり、容姿のことをすぐ話題にされた（4.2%）
7. 「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流された（0.6%）
8. その他（1.3%）
9. セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたことはない（54.0%）
無回答（30.3%）

問 27. メディア（テレビ、ラジオ、インターネット、新聞、雑誌など）における性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。（○はいくつでも）

1. 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ（22.8%）
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている（36.5%）
3. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある（18.4%）
4. そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない（35.7%）
5. 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている（13.9%）
6. その他（2.2%）
7. 特に問題はない（7.7%）
8. わからない（18.2%）
- 無回答（9.0%）

問 28. 女性に対する暴力をなくすために、もっと取組みを進める必要があるのはどのようなことですか。（○はいくつでも）

1. 法律・制度の制定や見直しを行う（33.2%）
2. 犯罪の取締りを強化する（43.3%）
3. 女性に対する暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする（35.0%）
4. 被害女性のための相談所や保護施設を整備する（35.6%）
5. 捜査や裁判での担当者に女性を増やす（20.1%）
6. 学校において男女平等や性についての教育を充実させる（30.4%）
7. 家庭において男女平等や性についての教育を充実させる（21.4%）
8. メディアが倫理規定を強化する（18.7%）
9. 過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する（41.2%）
10. その他（3.7%）
11. 特に対策の必要はない（1.2%）
12. わからない（5.8%）
- 無回答（7.5%）

6. 女性政策について

問 29. 次の事項について、当てはまるものを1～3の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	て 内 容 を 知 っ て い る	と り 言 葉 を 見 た こ た え が あ る	知 ら な い	無 回 答
(1) 男女共同参画社会	12.4%	43.3%	36.4%	8.0%
(2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	10.8%	25.6%	59.2%	10.2%
(3) ジェンダー（社会的、文化的に形成された性別）	10.4%	25.6%	54.9%	8.8%
(4) ドメスティック・バイオレンス （配偶者や恋人など親しい人からの暴力）	63.2%	19.5%	9.4%	8.0%
(5) せつつ女性プラン（摂津市男女共同参画計画）	5.3%	26.9%	58.7%	9.1%
(6) 摂津市立男女共同参画センター・ウィズせつつ	7.6%	37.5%	46.4%	8.4%

「男女共同参画社会」とは、男女が、お互いにその人権を尊重しながら、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる社会をいいます。

問 30. あなたは、男女共同参画社会の実現をめざして、摂津市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 市の審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する (25.4%)
 2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する (18.0%)
 3. 男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する (26.3%)
 4. 男女共同参画社会づくりに役立つ情報を収集し広く提供する (26.3%)
 5. 職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業に働きかける (26.4%)
 6. 仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める (32.3%)
 7. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する (49.8%)
 8. 子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する (44.9%)
 9. 子育てや介護のための施設やサービスを充実する (49.2%)
 10. 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画に向けた学習を充実する (16.3%)
 11. 妊娠・出産期、更年期など生涯を通じた女性の健康づくりを推進する (22.5%)
 12. 女性に対する暴力(セクシュアル・ハラスメントや配偶者等からの暴力)の防止や被害者への支援を充実する (28.9%)
 13. 男女共同参画を進めるための啓発活動を充実する (17.0%)
 14. その他 (1.9%)
 15. 特にない (6.3%)
- 無回答 (7.1%)

●最後に、男女共同参画社会を実現するために、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒で、**11月30日(火)**までにご返送くださいますようお願いいたします。

男女平等に関する市民意識調査 報告書

発行年月 平成23年5月

発行 摂津市市長公室 人権女性政策課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1番1号

TEL (06)6383-1111 (大代表)

(072)638-0007 (代表)